第39回県政世論調査結果報告書

平成28年7月実施

岐阜県

目　　次

Ⅰ　調査概要……1

１．１　調査の目的……1
１．２　調査の経緯……1
１．３　調査項目……1
１．４　調査の設計……1
１．５　回収結果……1
１．６　標本誤差……2
１．７　報告書の見方……2
１．８　対象者の属性……3

Ⅱ　調査結果……8

２．１　くらしについて……8
問１　くらしの前年比較……8
問１-2　くらしが苦しくなったと感じる理由……13
問２　くらしの満足度……19
問３　生活面での不安……24
問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと……33
問５　生活に必要な情報の入手媒体……42
問６　現在住んでいる地域は住みやすいか……49
問６-2　住んでいる地域が住みやすいと感じる点……53
問６-3　住んでいる地域が住みにくいと感じる点……60
問７　今後も岐阜県に住み続けたいか……67

２．２　県の取り組み全般について……71
問８　施策や事業についての情報の入手方法……71
問９　特に重要だと思う県の施策……76
問１０　県事業への関心の有無……83
問１０-2　県事業に関心がない理由……88
問１１　県の取り組みでよくやっていると思う分野……92
問１２　県の取り組みで努力が足りないと思う分野……100
問１３　「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み……108

２．３　生活を取り巻くさまざまな課題について……111
問１４　「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスの不足……111
問１４-2　不足している「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス……117
問１５　地域全体で子育てを支える環境の整備……123
問１６　過去１年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無……126
問１７　社会貢献活動への参加……130
問１８　在住外国人との共生……134
問１９　スポーツやレクリエーションをする頻度……138
問１９-2　スポーツやレクリエーションをしなかった理由……142
問２０　興味のあるスポーツやレクリエーション……146
問２１　スポーツやレクリエーションに期待する効果……151
問２２　雇用対策の取り組み……154
問２３　農産物購入時の「県内産」の意識……158
問２４　「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度……162
問２５　災害や緊急時の備え……165
問２６　防災対策や避難行動の情報源……168
問２７　避難情報に対する行動について……173
問２８　災害や緊急時の現在できている備え……177

Ⅰ　調査概要

１．１　調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政の各施策に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

１．２　調査の経緯

昭和４２年から実施、今回３９回目

※昭和 42 年～昭和 61 年：毎年実施　昭和 63 年～平成 18 年：隔年実施　平成 20 年～：毎年実施

１．３　調査項目

（１）くらしについて
（２）県の取り組み全般について
（３）生活を取り巻くさまざまな課題について

１．４　調査の設計

（１）調査地域　岐阜県全域
（２）調査対象　県内に居住する満１８歳以上の男女個人
（３）標本数　３，０００人
（４）抽出方法　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　郵送法
（６）調査時期　平成２８年６月２９日～７月１５日
（７）調査実施機関　株式会社　テイコク

１．５　回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B／A)	有効回答率 (C／A)
第３９回 (平成２８年度)	平成２８年 7月	3,０００	1,５３３	1,５３３	５１．１%	５１.１%
第３８回 (平成２７年度)	平成２７年 7月	3,０００	1,５１２	1,５０７	５０.４%	５０.２%
第３７回 (平成２６年度)	平成２６年 7月	3,０００	1,６５０	1,６４８	５５.０%	５４.９%

１．６　標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$標本誤差＝\pm 1.96\sqrt{\frac{P\ (100-P)}{n}}$$

（ただし、P：回答比率　n：回答者数）

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数（n）及び②回答比率（P）によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P（回答比率　%）									
n（回答者数　人）		5 又は 95	10 又は 90	15 又は 85	20 又は 80	25 又は 75	30 又は 70	35 又は 65	40 又は 60	45 又は 55	50
総数	1,533	1.1	1.5	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5

（注）1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。
2. この表の見方は以下のとおりである。
「ある設問の回答者数が 1,533 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.5%である。」

１．７　報告書の見方

(1)　今回の調査から対象者の年齢を 18 歳以上に引き下げているため、20 歳以上を対象としていた前回までの調査との単純な比較には注意を要する。

(2)　比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。

(3)　基数となるべき実数は「n」（件数）として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。

(4)　複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。

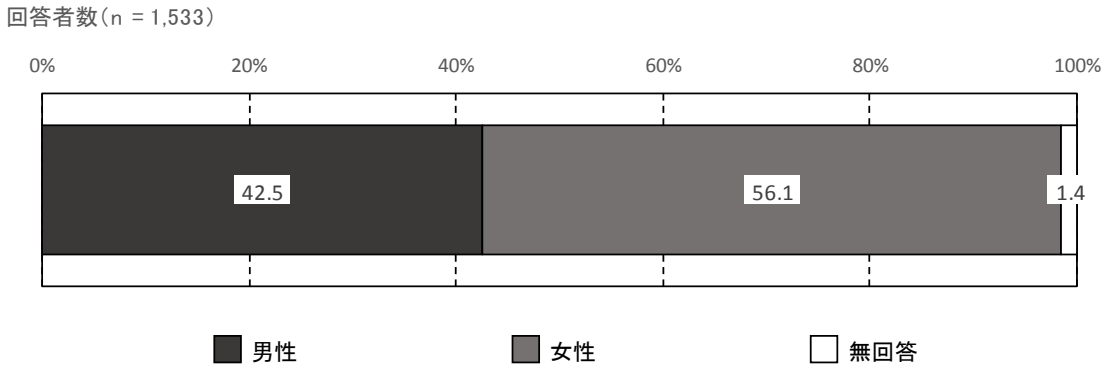
(5)　本報告書中の表、グラフ、及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。

(6)　クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことからグラフへの表示及び分析を行っていない。

１．８　対象者の属性

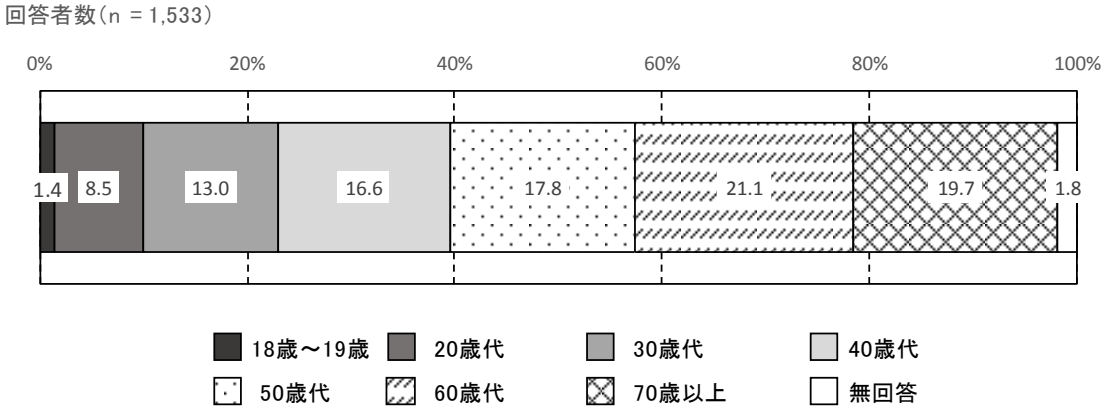
Ｆ－１　性別

図 F-1　性別



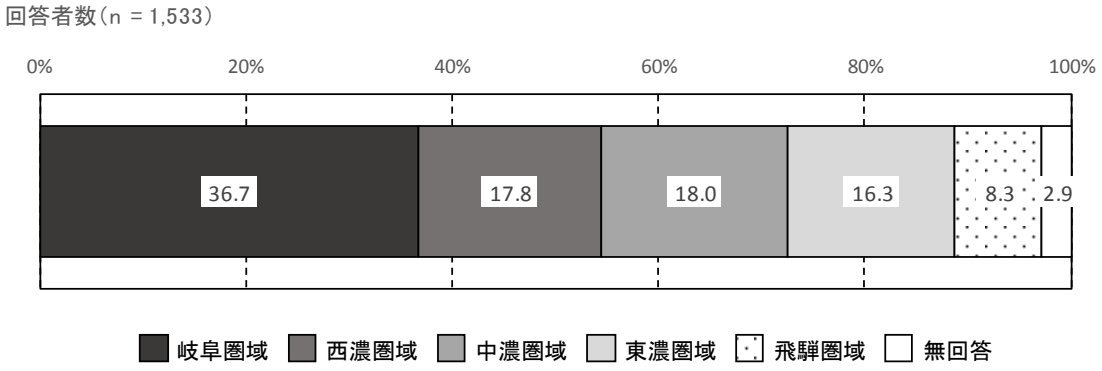
Ｆ－２　年代

図 F-2　年代



Ｆ－３　居住圏域（５分類）

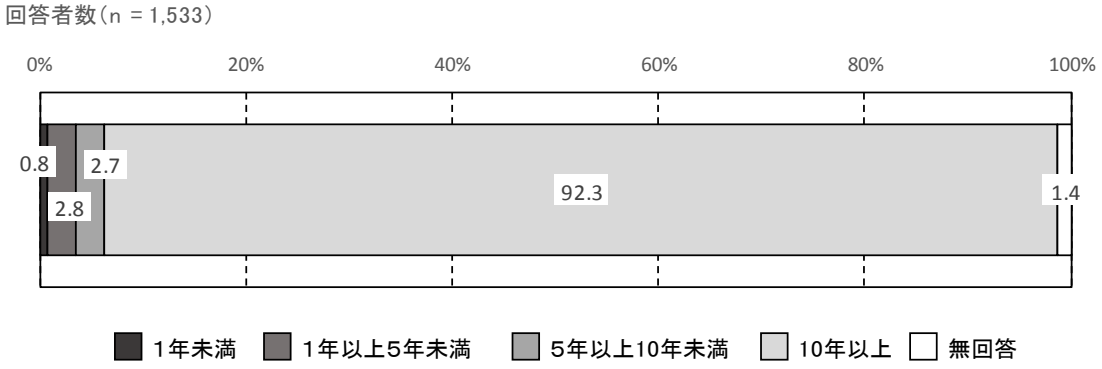
図 F-3　居住圏域（５分類）



岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）
中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

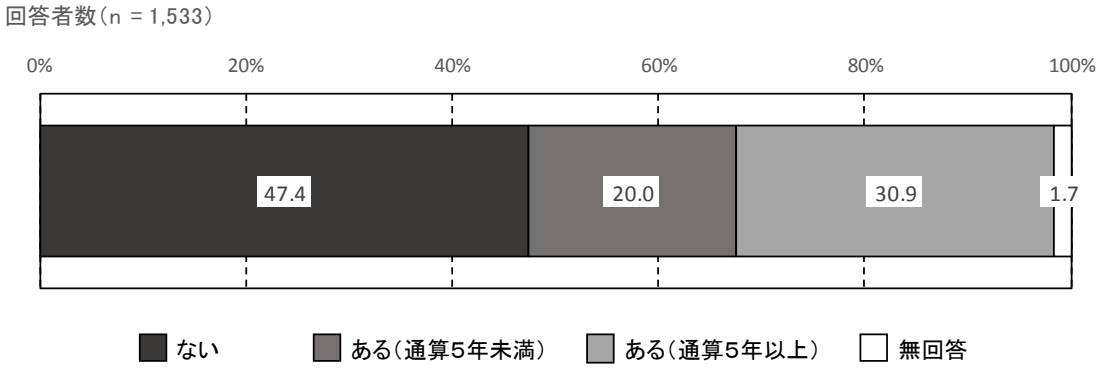
Ｆ－４　居住年数

図 F-4　居住年数



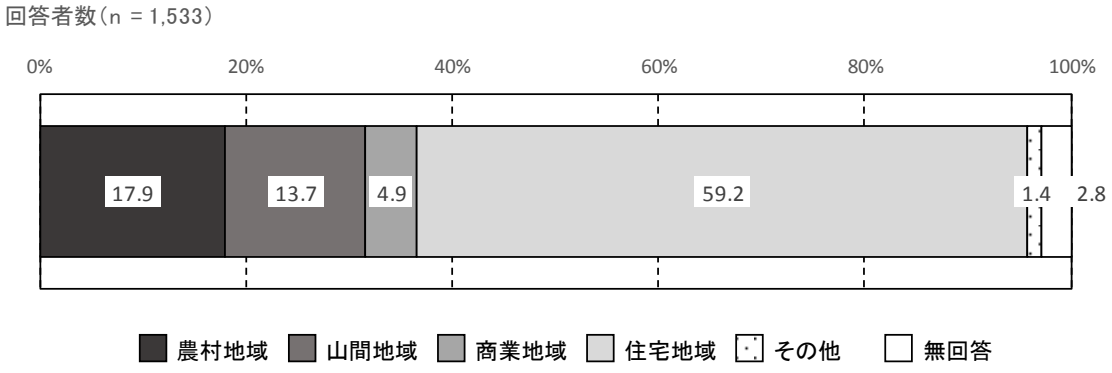
Ｆ－５　県外居住経験の有無

図 F-5　県外居住経験の有無



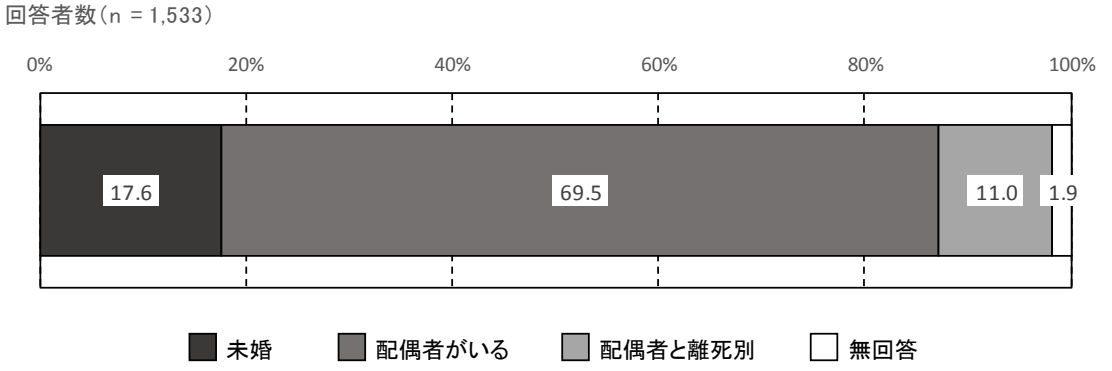
Ｆ－６　居住地周囲の環境

図 F-6　居住地周囲の環境



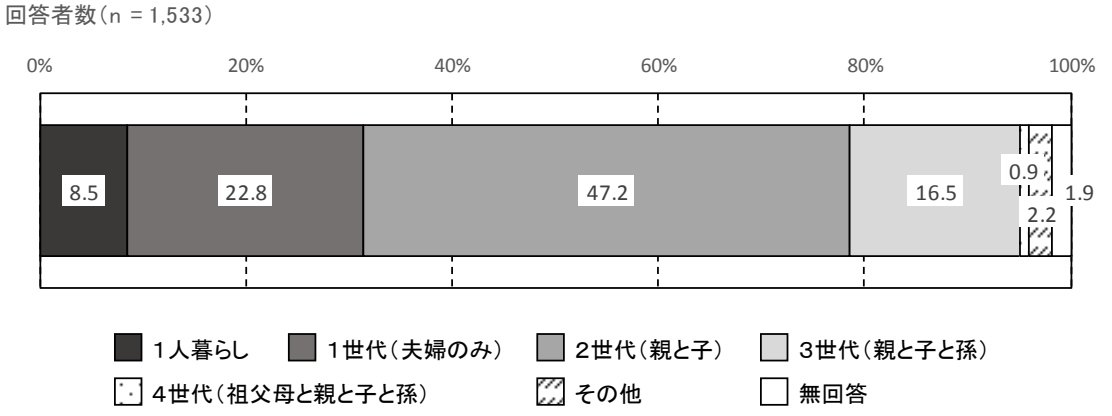
Ｆ－７　配偶者の有無

図 F-7　配偶者の有無



Ｆ－８　家族形態

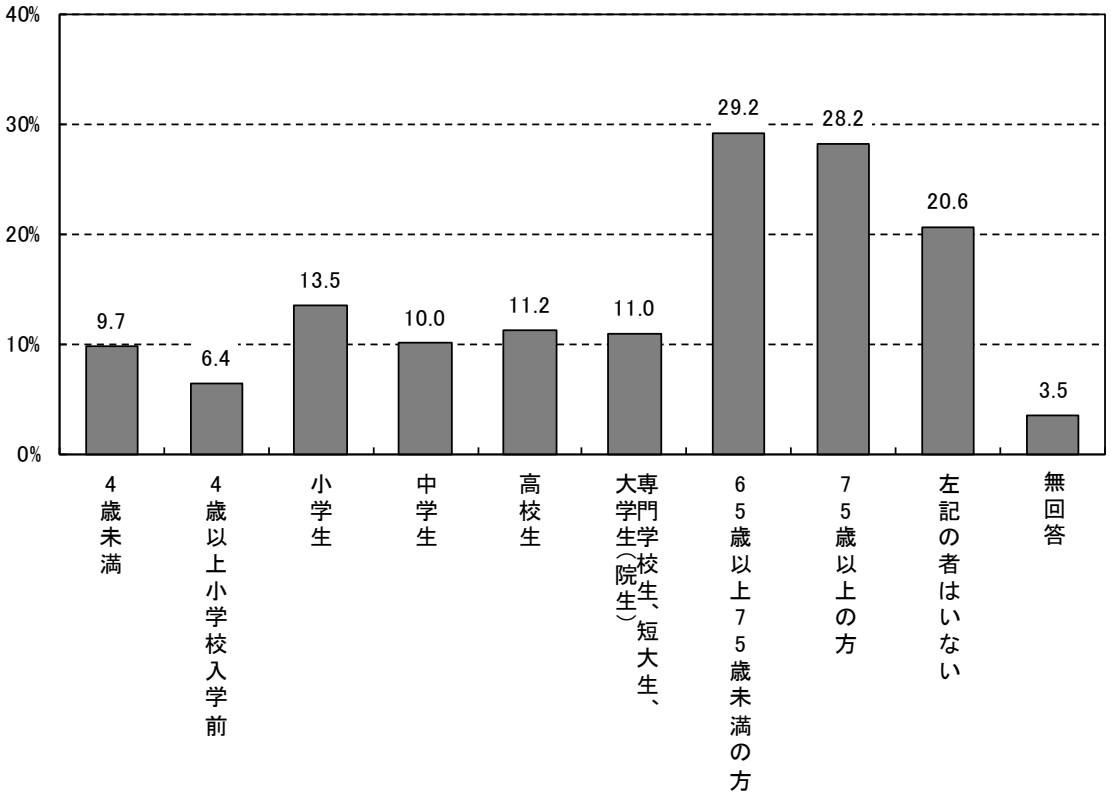
図 F-8　家族形態



Ｆ－９　家族構成

図 F-9　家族構成

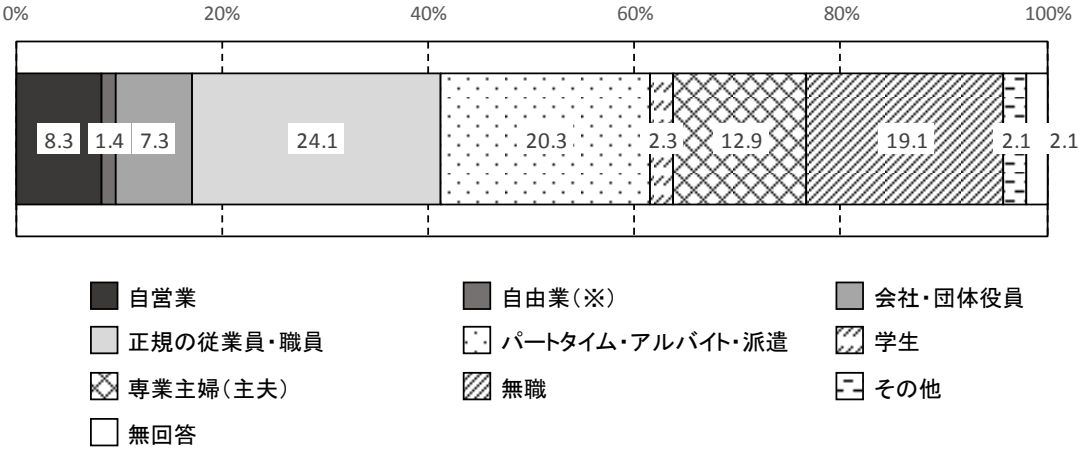
回答者数（n ＝1,533）
総回答数（N ＝2,198）



Ｆ－１０　職業

図 F-10　職業

回答者数（n ＝1,533）

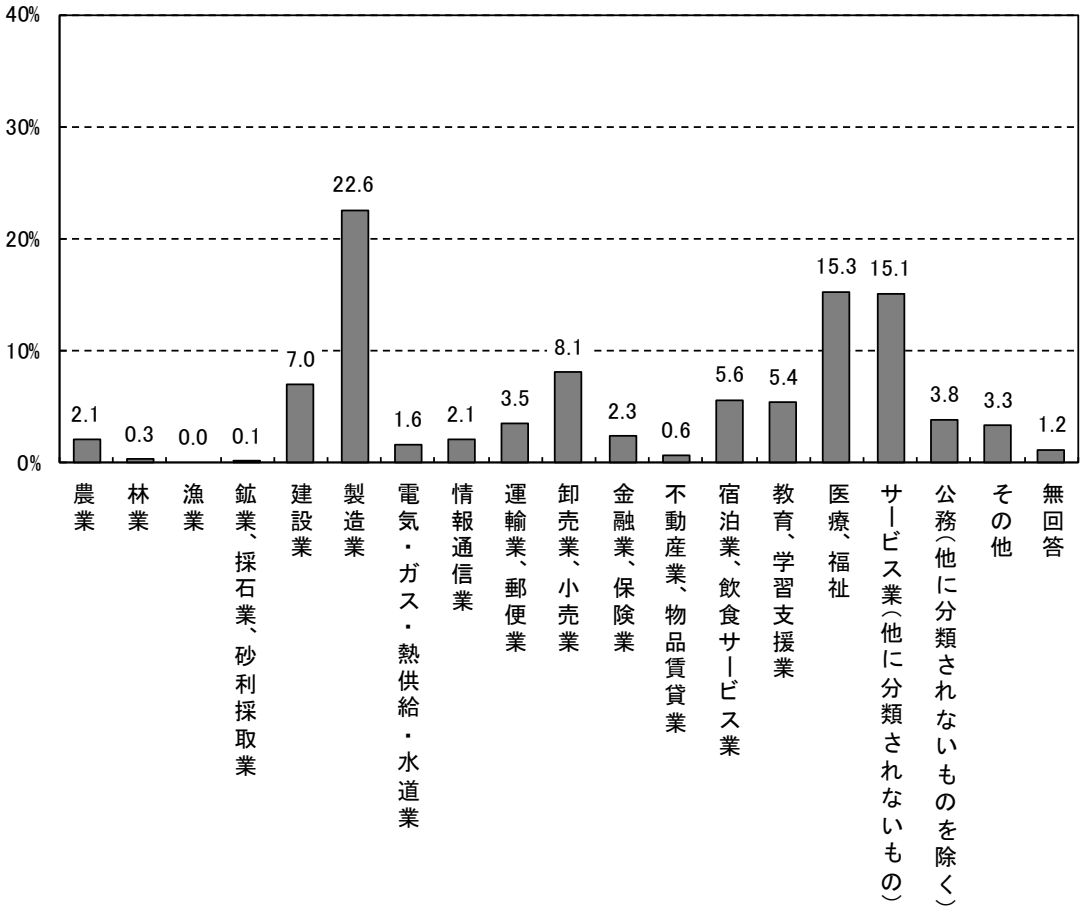


※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

Ｆ－１１　業種

図Ｆ－11　業種

回答者数（n ＝943）（※）

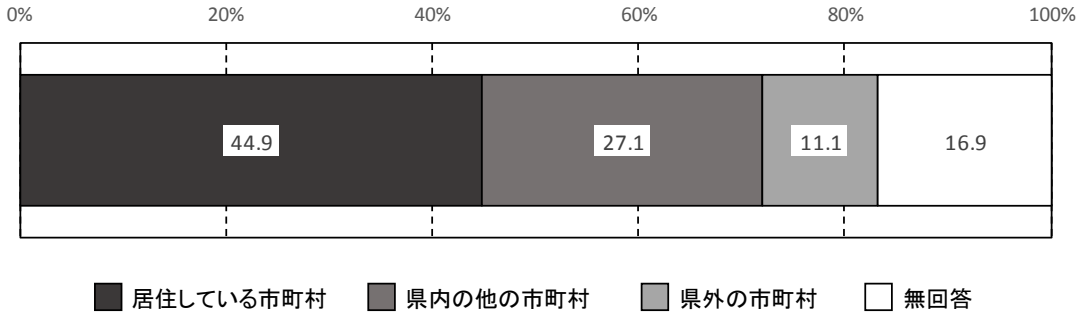


※「F10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

Ｆ－１２　通勤、通学先

図 F-12　通勤、通学先

回答者数（n ＝978）（※）



※「F10　職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

Ⅱ　調査結果

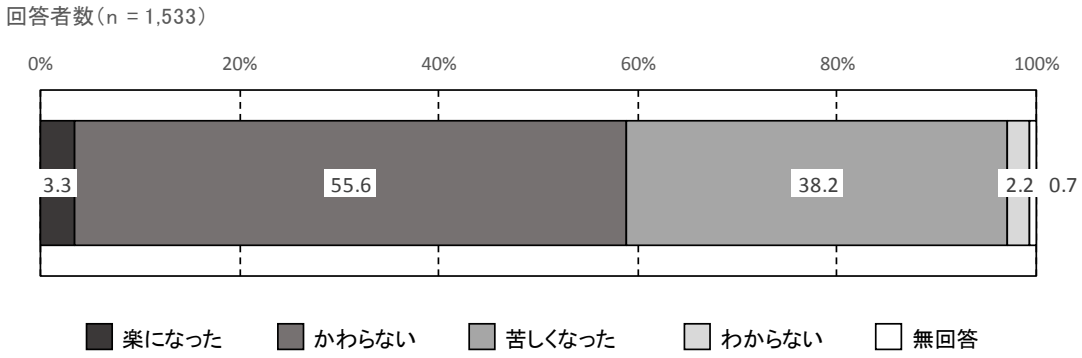
２．１　くらしについて

問１　くらしの前年比較

問１　あなたやあなたの家庭のくらし向きは、去年の今頃と比べてどうですか。 （１つだけ）

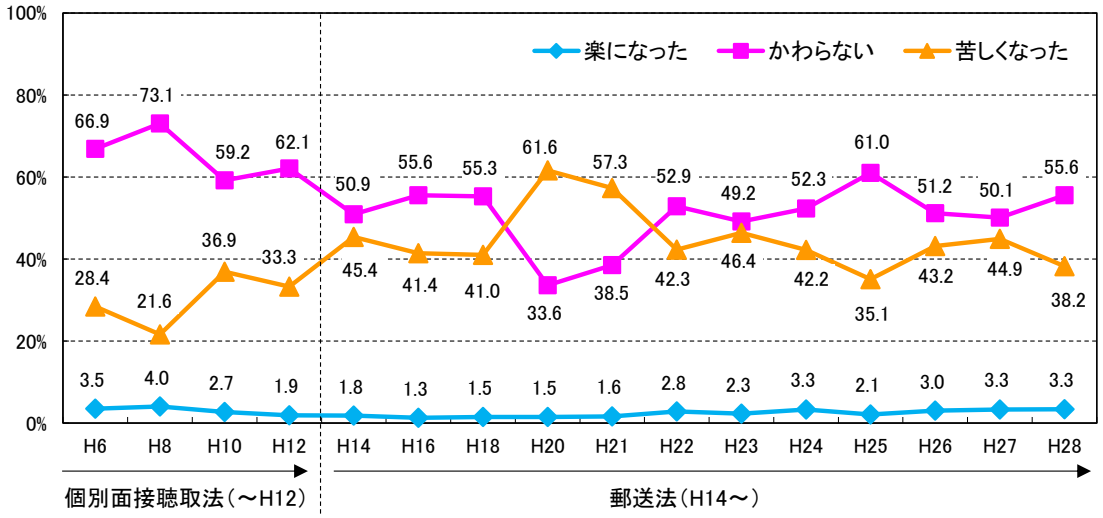
全体（図 1-1）でみると、「かわらない」が 55.6%と最も高く、次いで「苦しくなった」(38.2%)、「楽になった」(3.3%) の順となっている。

図 1-1　くらしの前年比較



経年変化（図 1-2）でみると、平成 18 年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成 20 年から平成 21 年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成 22 年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。平成 28 年は、平成 27 年より「かわらない」が 5.5 ポイント高くなっており、また「苦しくなった」が 6.7 ポイント低くなっている。

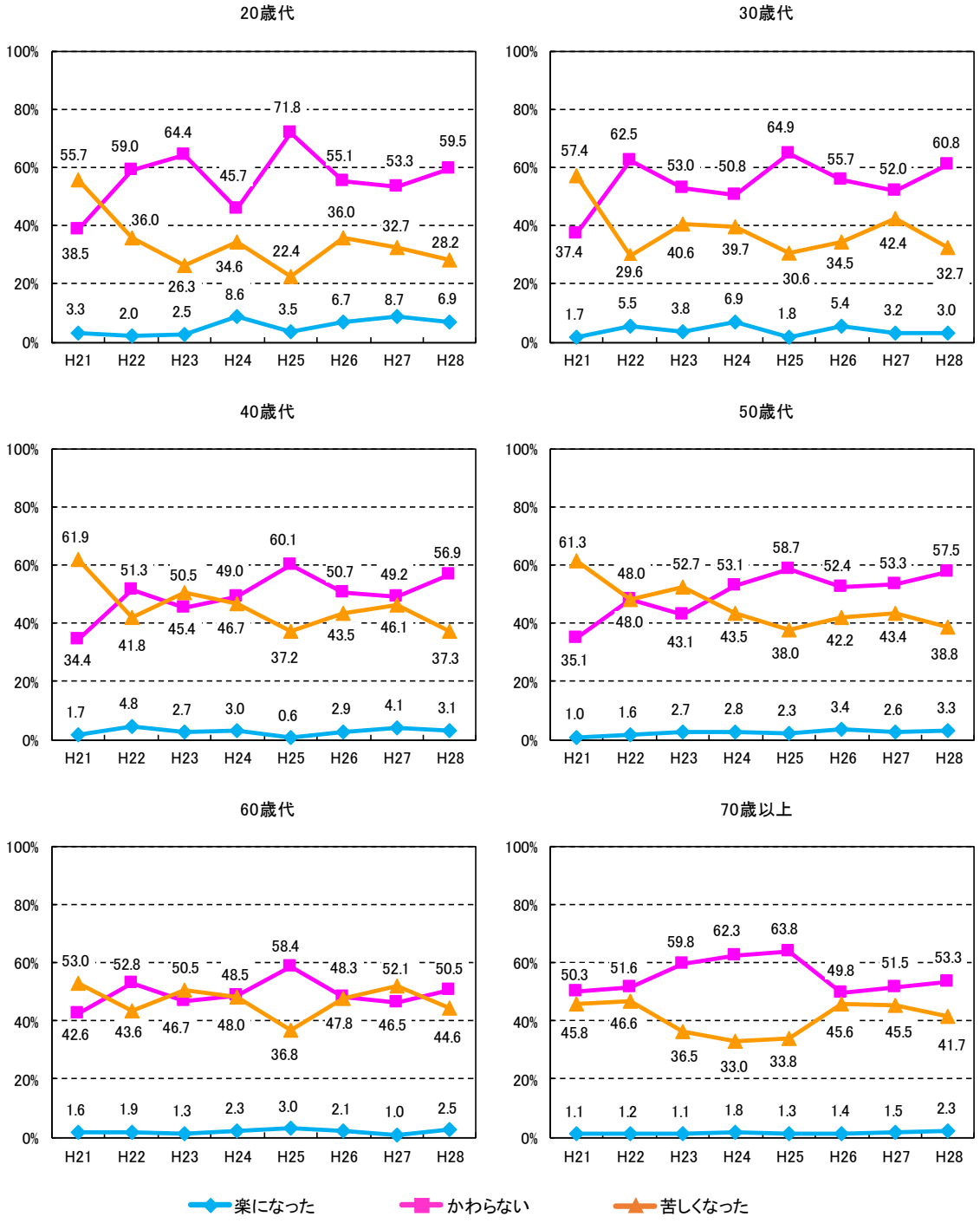
図 1-2 【経年変化】くらしの前年比較



※ 調査方法：平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

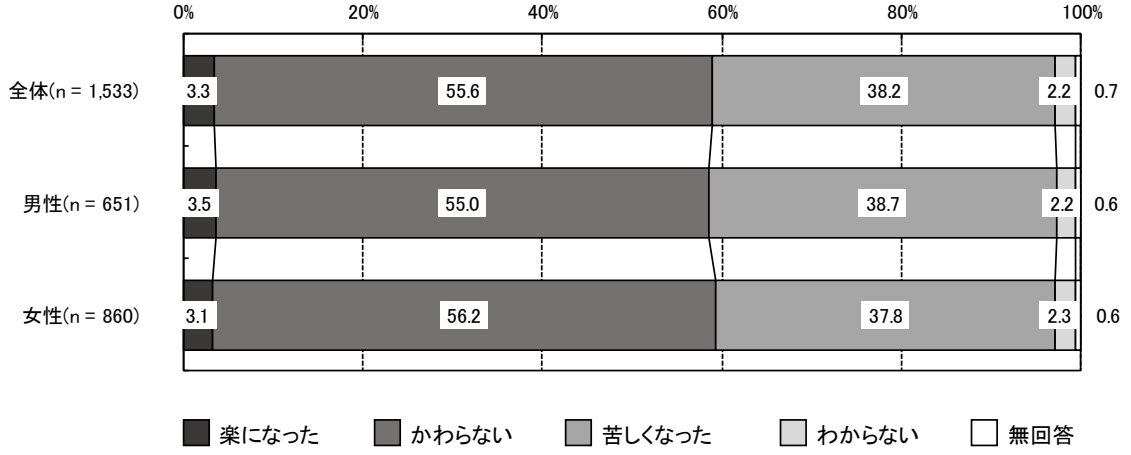
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、平成 28 年では平成 27 年に比べ、いずれの年代においても「かわらない」のポイントが高くなっており、「苦しくなった」のポイントが低くなっている。60 歳代では、平成 27 年に「苦しくなった」が「かわらない」より高くなっていたが、平成 28 年では逆転している。

図 1-3 【経年変化（年代別）】くらしの前年比較



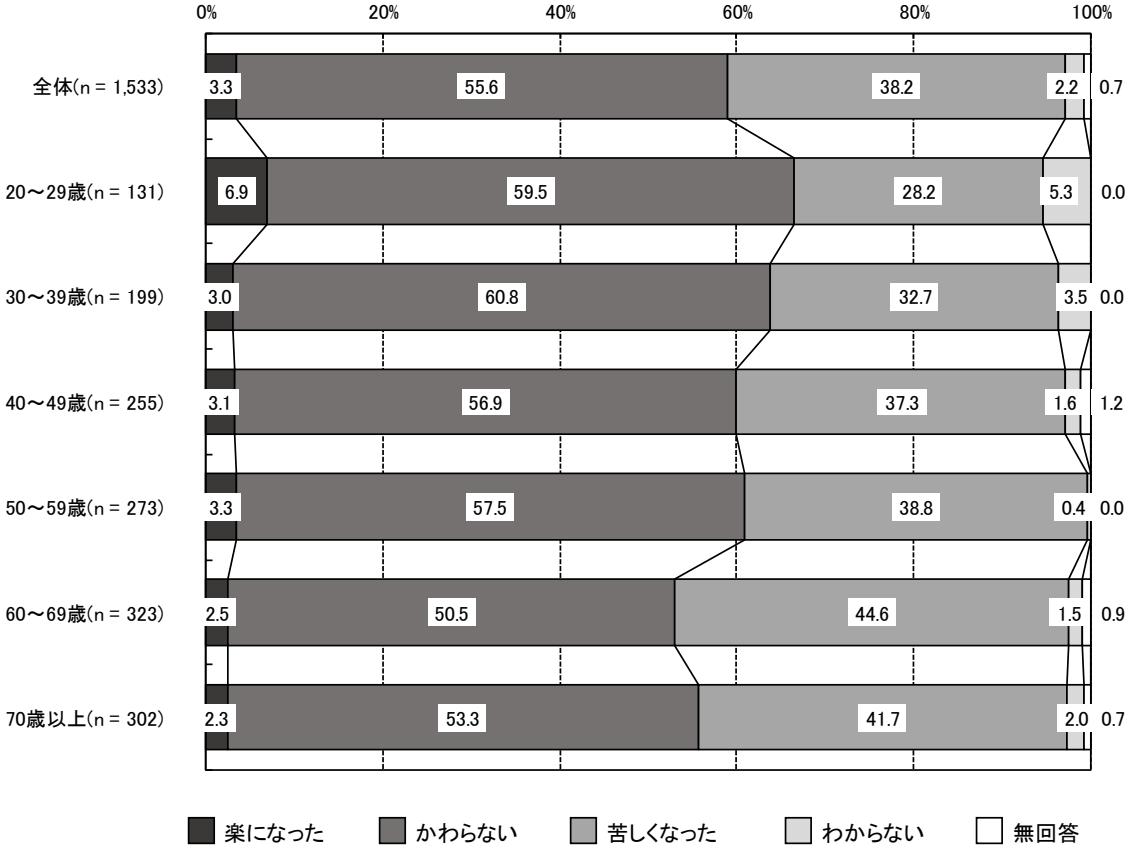
性別（図 1-4）でみると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 55.0%、女性が 56.2%と、女性が男性より 1.2 ポイント高くなっている。

図 1-4【性別】くらしの前年比較



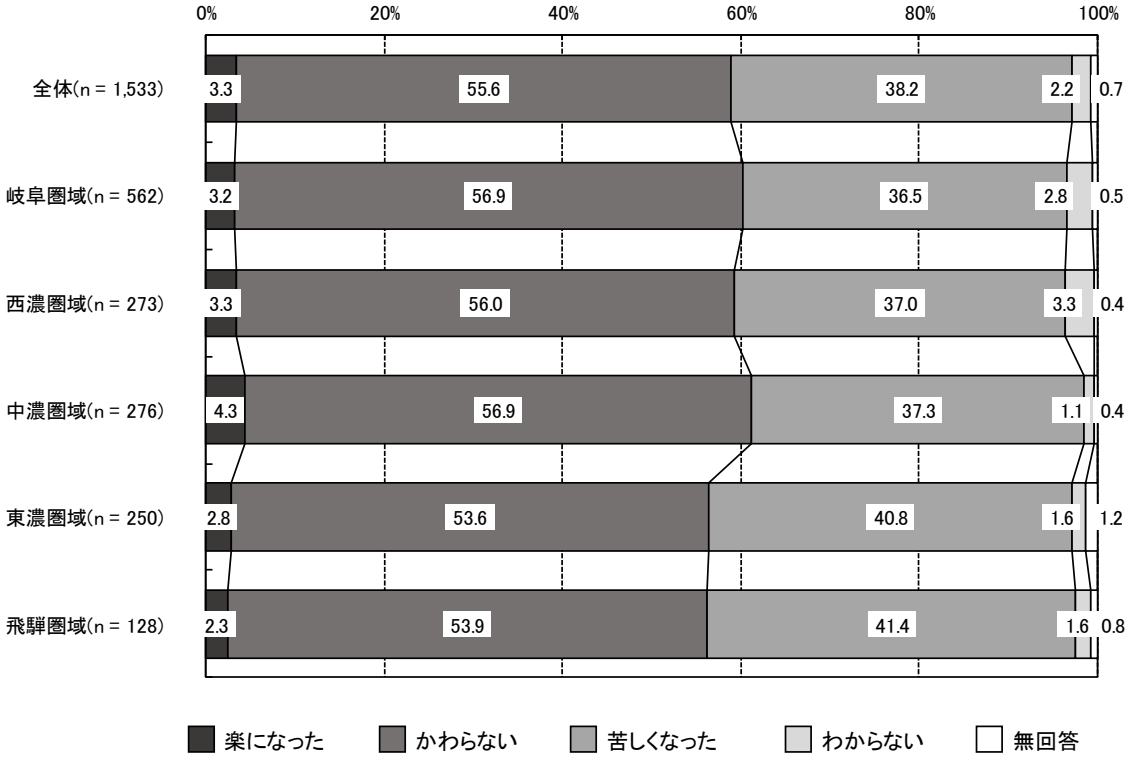
年代別（図 1-5）でみると、いずれの年代においても「かわらない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 60.8%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、60 歳代が 44.6%と最も高く、次いで 70 歳以上（41.7%）、50 歳代（38.8%）の順となっている。

図 1-5【年代別】くらしの前年比較



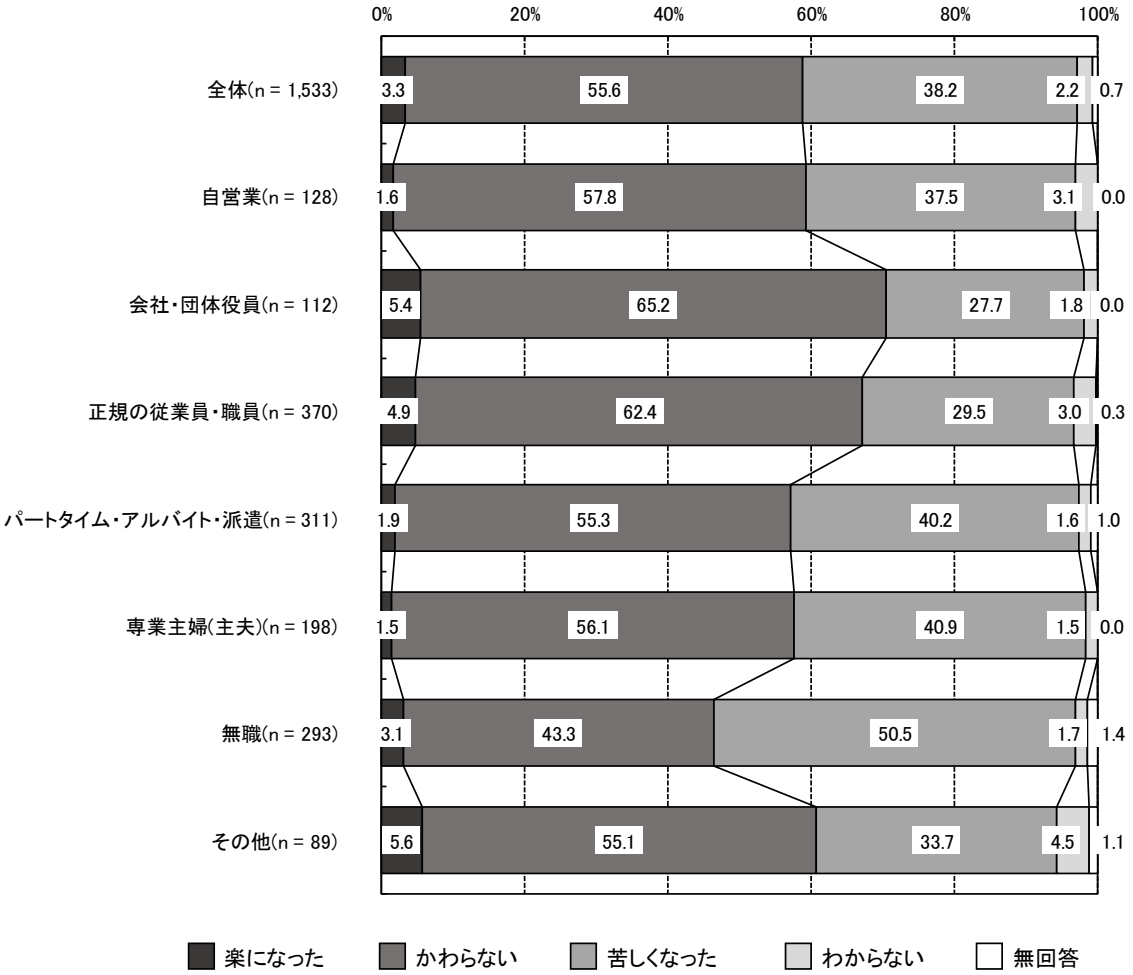
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの圏域においても「かわらない」が最も高く、そのうち岐阜圏域と中濃圏域が 56.9％と最も高くなっている。「苦しくなった」は飛騨圏域が 41.4％と最も高く、次いで東濃圏域（40.8％）、中濃圏域（37.3％）の順となっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）でみると、「かわらない」は会社・団体役員が 65.2%と最も高く、次いで正規の従業員・職員（62.4%）、自営業（57.8%）の順となっている。「苦しくなった」では無職が 50.5%と最も高く、次いで専業主婦（主夫）（40.9%）、パートタイム・アルバイト・派遣（40.2%）の順となっている。

図 1-7【職業別】くらしの前年比較



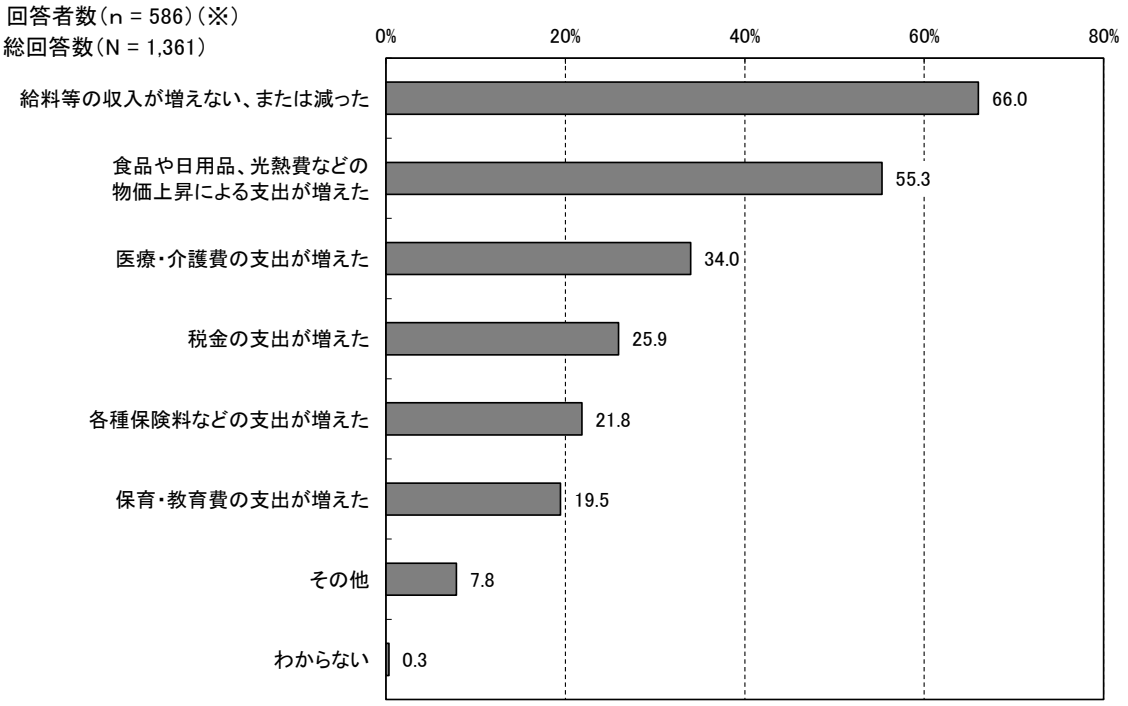
※ その他には、自由業、学生を含む

問１-２　くらしが苦しくなったと感じる理由

問１－２　「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、くらしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。
（３つまで）

全体（図 1-2-1）でみると、「給料等の収入が増えない、または減った」が 66.0％と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」（55.3％）、「医療・介護費の支出が増えた」（34.0％）の順となっている。

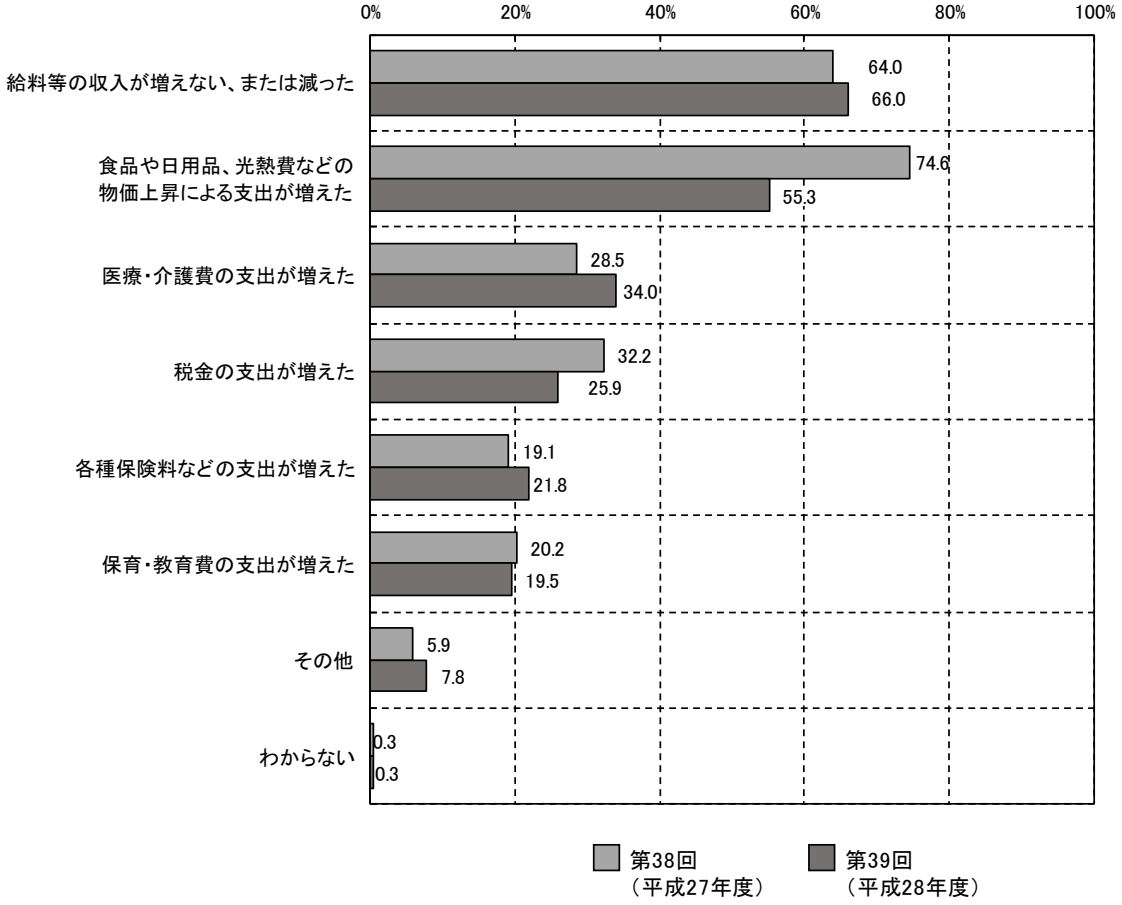
図 1-2-1　くらしが苦しくなったと感じる理由



※ 問１で「苦しくなった」と答えた方のみ

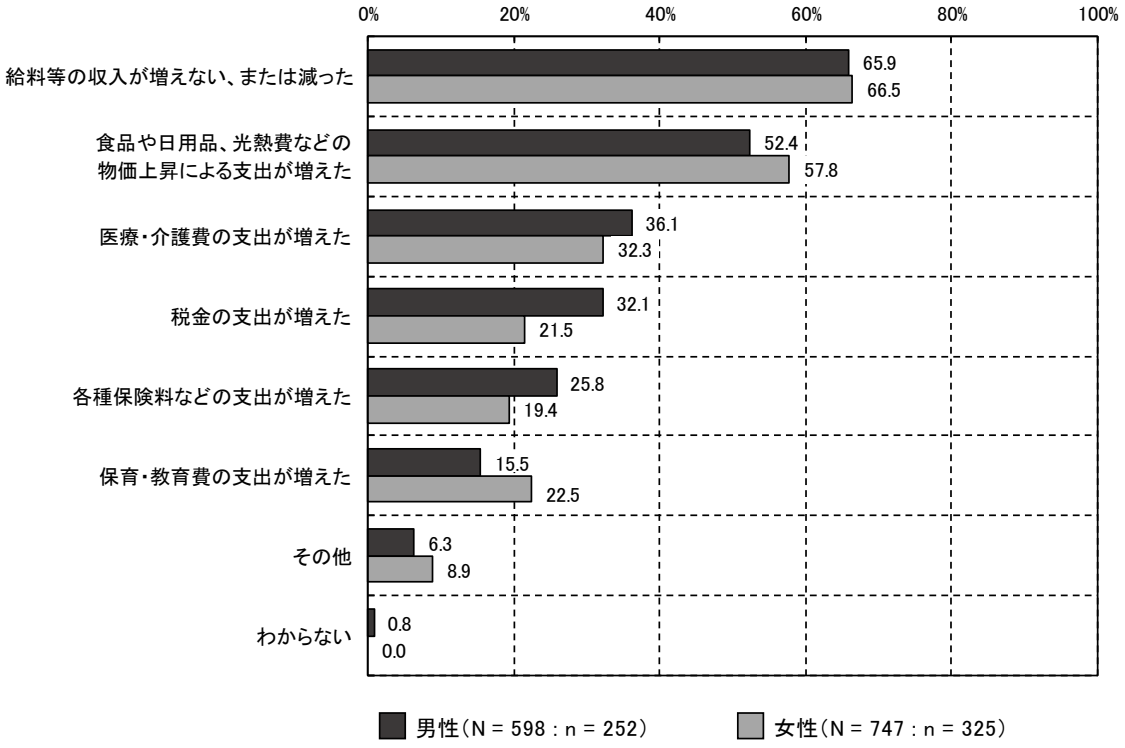
前回比較（図 1-2-2）でみると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は 55.3%となっており、前回に比べて 19.3 ポイント減少している。「医療・介護費の支出が増えた」は 34.0%となっており、前回に比べて 5.5 ポイント増加している。「税金の支出が増えた」は 25.9%となっており、前回に比べて 6.3 ポイント減少している。

図 1-2-2 【前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっている。「税金の支出が増えた」は男性が 32.1%となっており、男性が女性より 10.6 ポイント高くなっている。

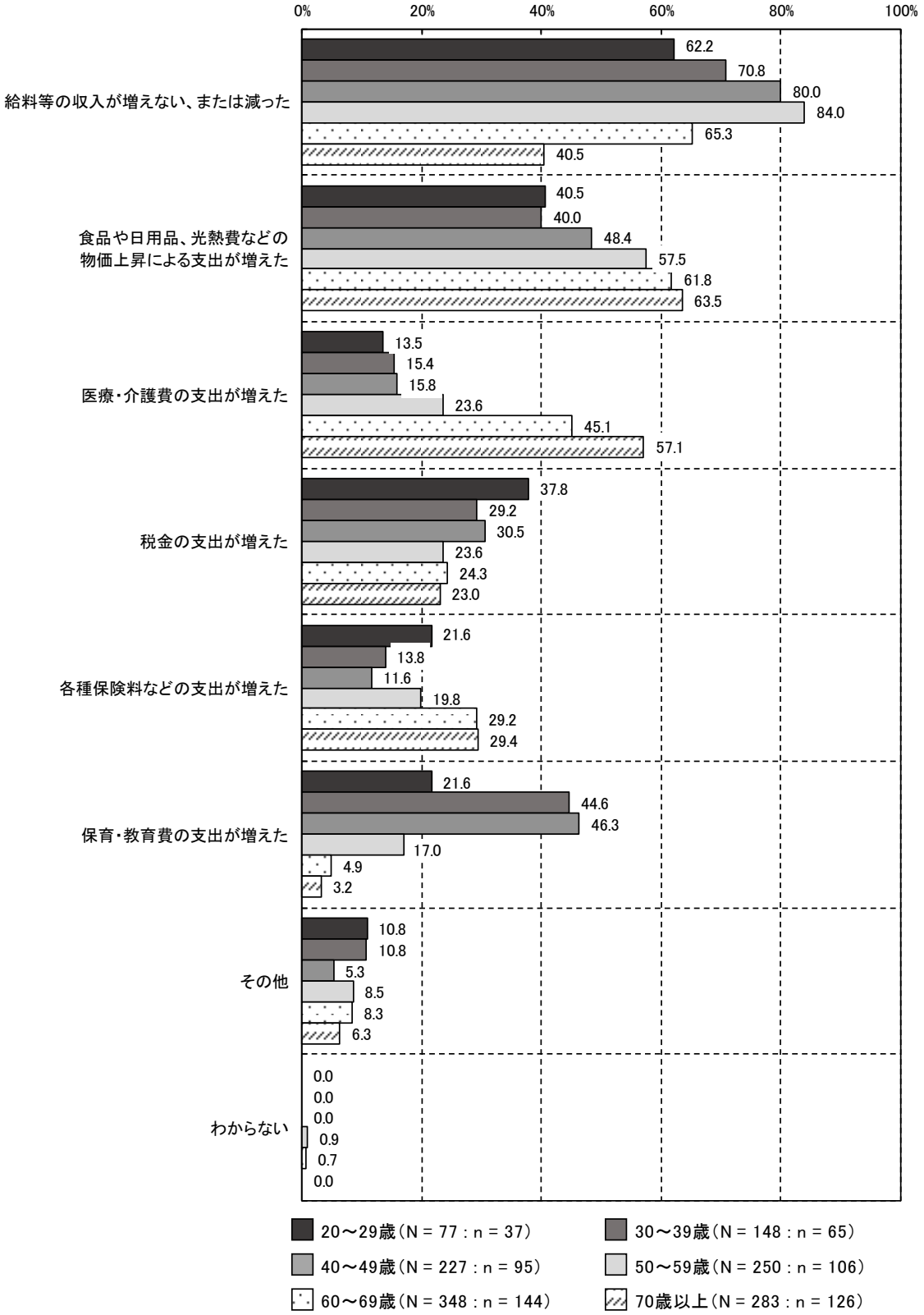
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち 50 歳代が 84.0%と最も高くなっている。70 歳以上では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が 63.5%と最も高くなっている。

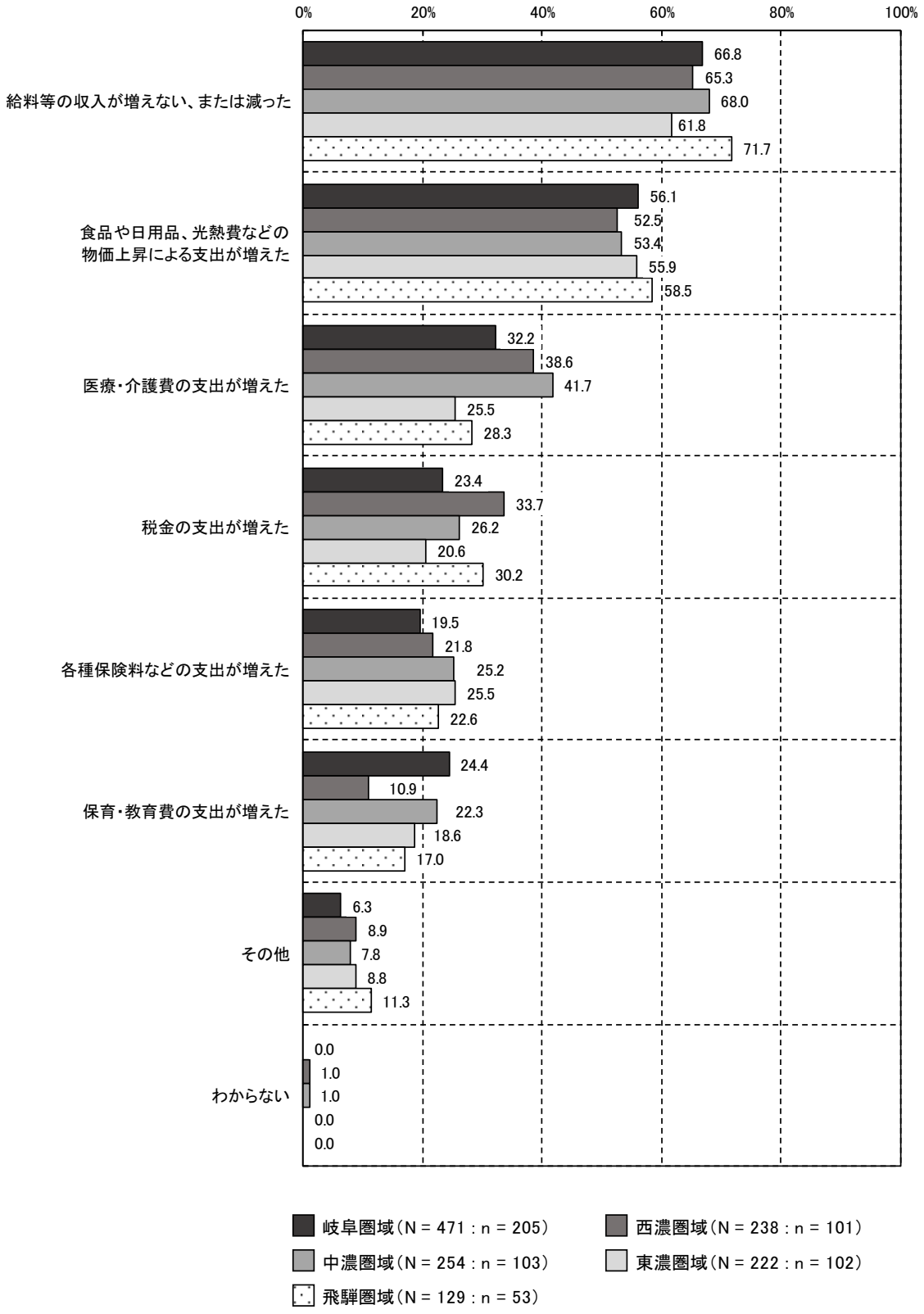
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 71.7%と最も高くなっている。

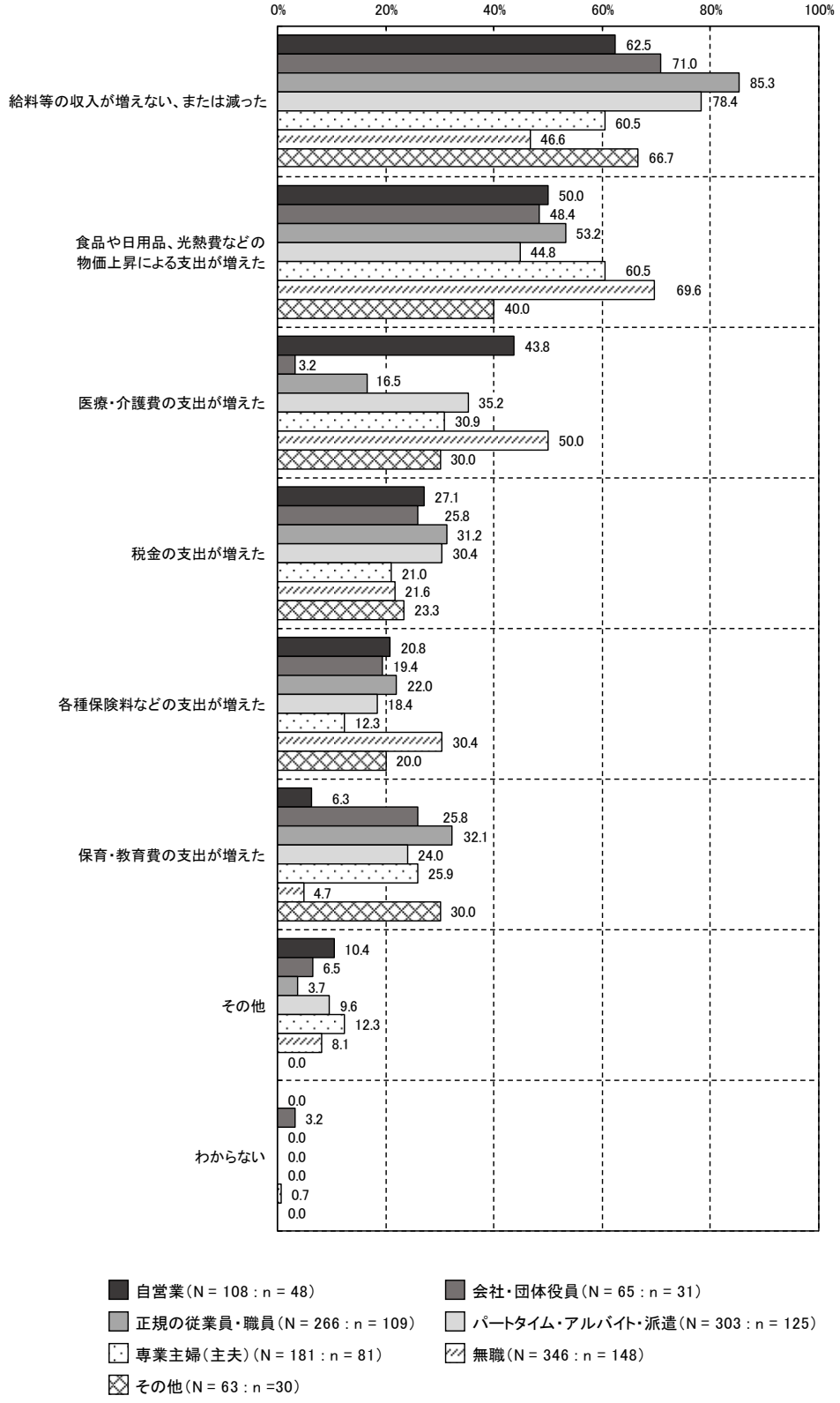
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち正規の従業員・職員が 85.3%と最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ その他には、自由業、学生を含む

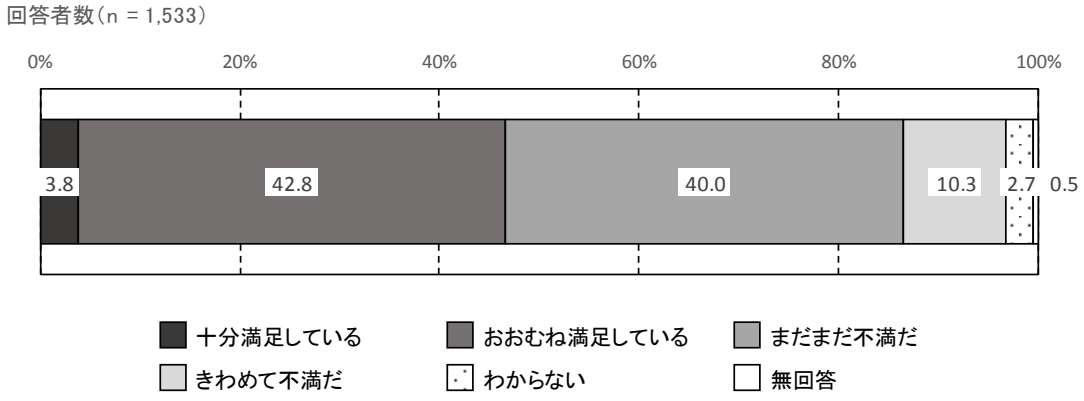
※ N＝総回答数　n＝回答者数

問２　くらしの満足度

問２　あなたは、現在のくらし全般についてどう思いますか。（１つだけ）

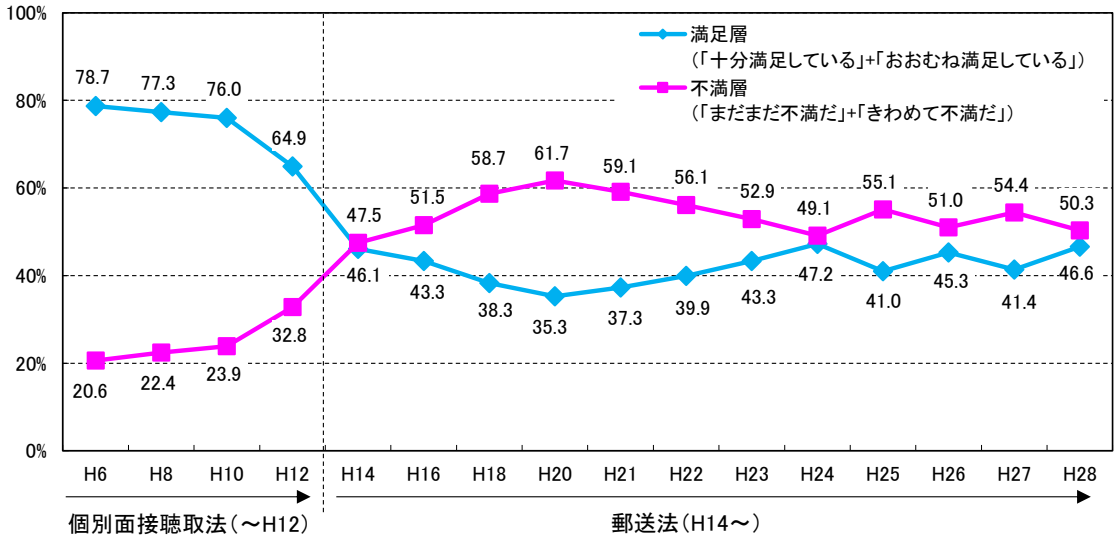
全体（図 2-1）でみると、「おおむね満足している」が 42.8%と最も高く、次いで、「まだまだ不満だ」（40.0%）、「きわめて不満だ」（10.3%）の順となっている。

図 2-1　くらしの満足度



経年変化（図 2-2）でみると、平成 27 年から平成 28 年では、満足層（「十分満足している」+「おおむね満足している」は 5.2 ポイント増加し、不満層（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）は 4.1 ポイント減少している。

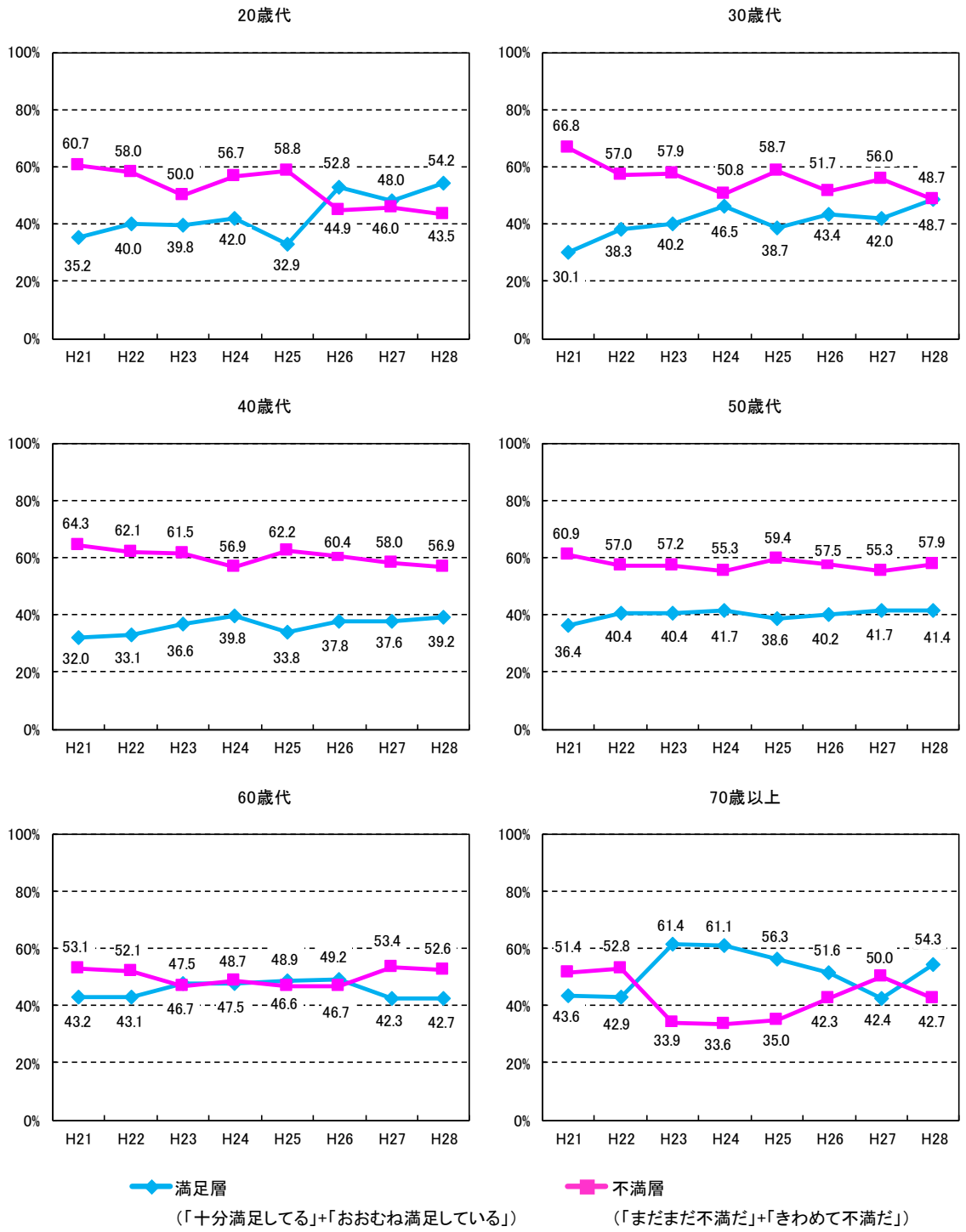
図 2-2　【経年変化】　くらしの満足度



※ 調査方法：平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

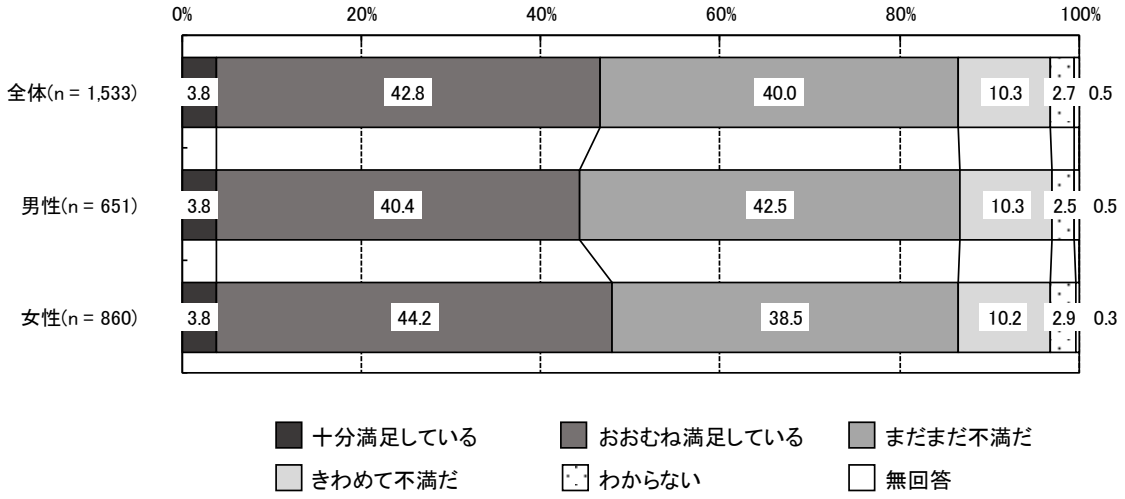
経年変化（年代別）（図 2-3）でみると、50 歳代を除くいずれの年代においても満足層が増加しており、そのうち 70 歳以上では、満足層が 11.9 ポイント増加しており、満足層が不満層を逆転している。

図 2-3 【経年変化（年代別）】くらしの満足度



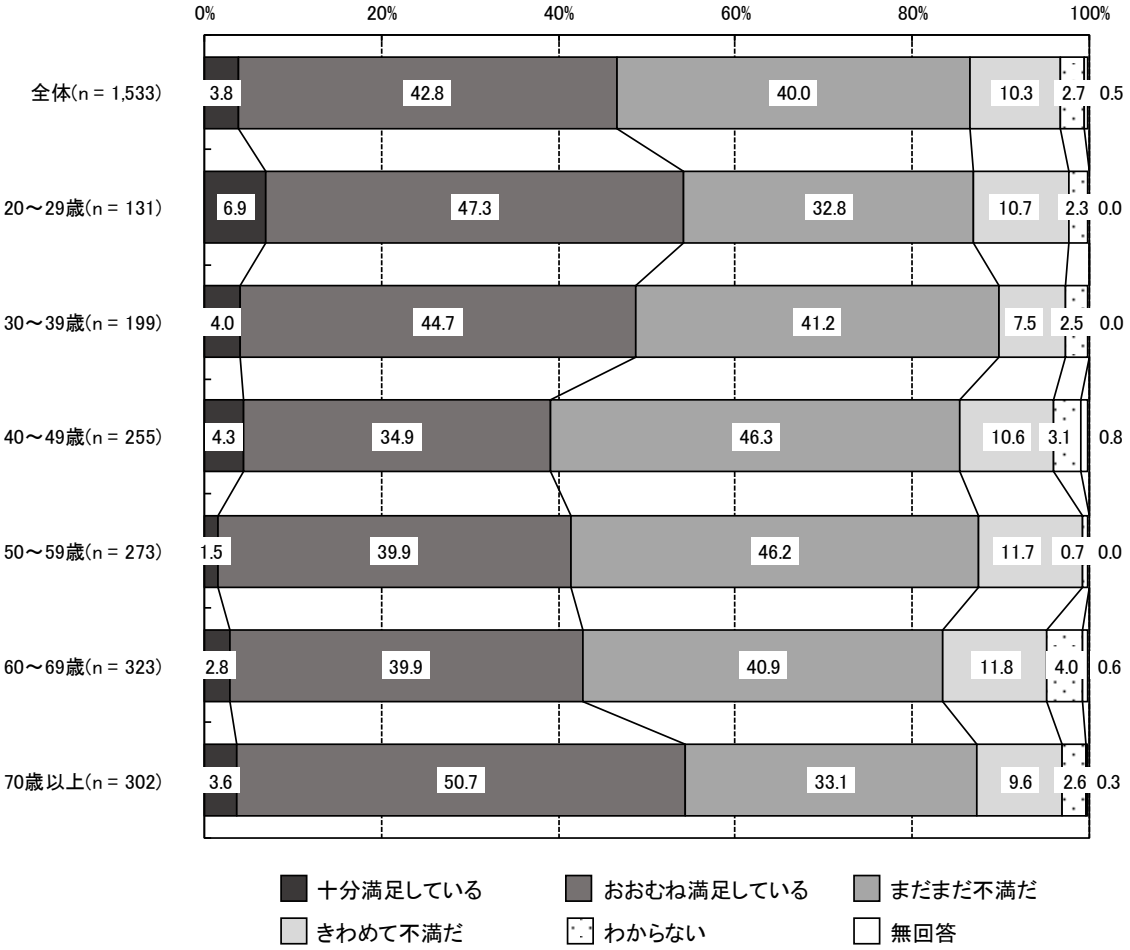
性別（図 2-4）でみると、男性は「まだまだ不満だ」が 42.5%と最も高く、女性は「おおむね満足している」が 44.2%と最も高くなっている。

図 2-4【性別】くらしの満足度



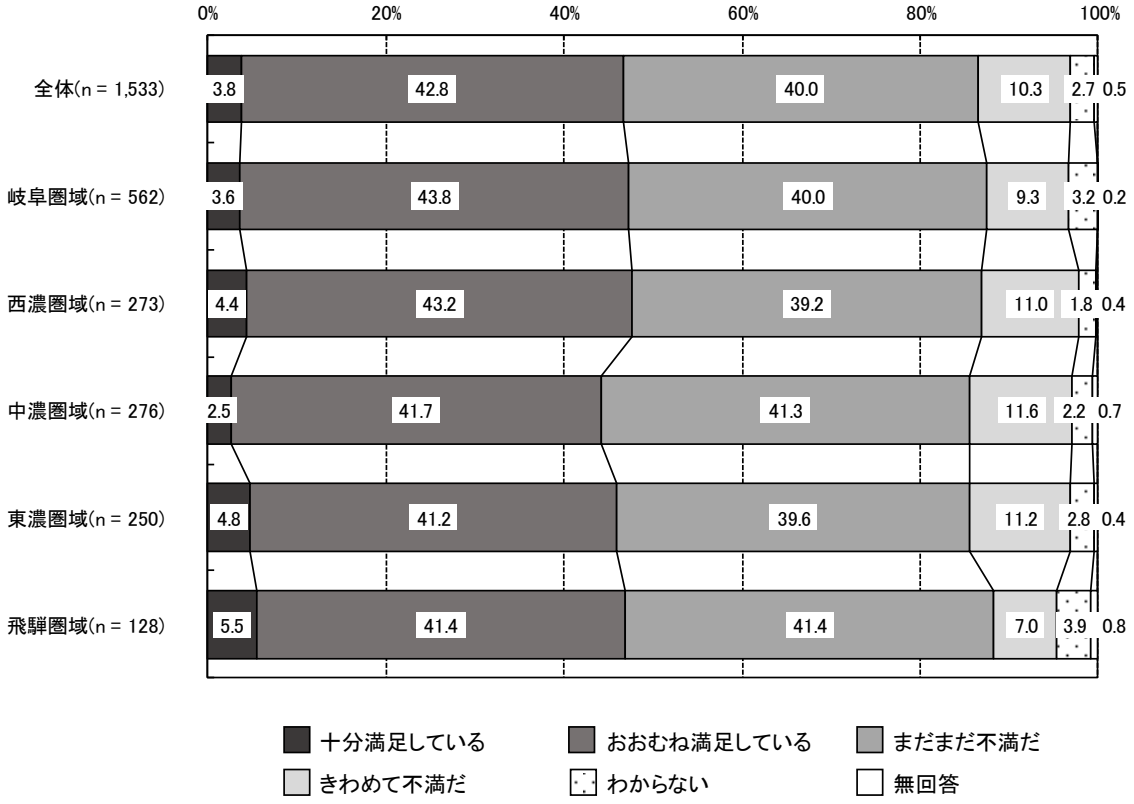
年代別（図 2-5）でみると、20 歳代、30 歳代、70 歳以上で「おおむね満足している」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 50.7%と最も高くなっている。40 歳代、50 歳代、60 歳代で「まだまだ不満だ」が最も高く、そのうち 40 歳代が 46.3%と最も高くなっている。

図 2-5【年代別】くらしの満足度



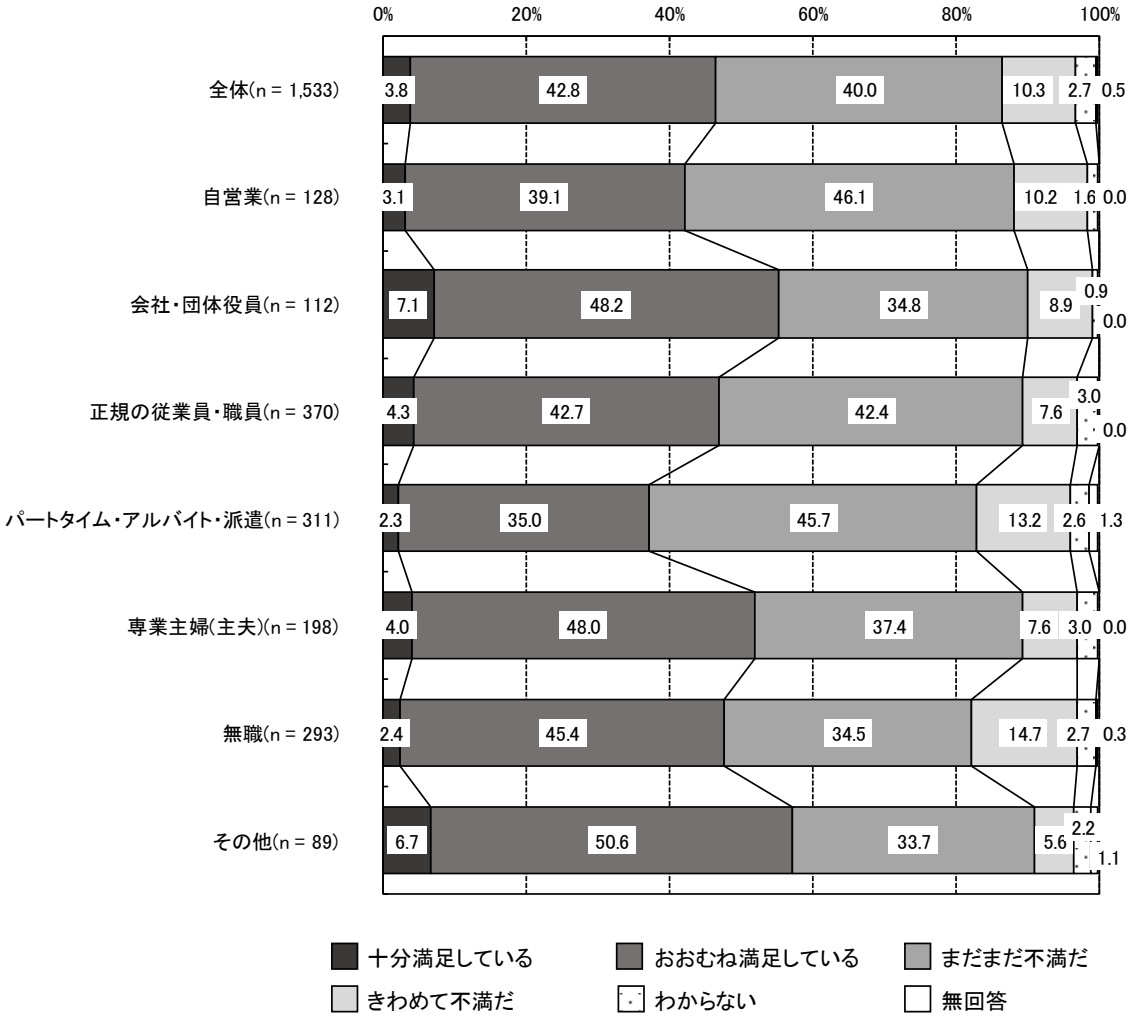
居住圏域別（図 2-6）でみると、飛騨圏域を除くすべての県域において、「おおむね満足している」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 43.8%と最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】くらしの満足度



職業別（図 2-7）でみると、自営業、パートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「おおむね満足している」が最も高く、そのうちその他が 50.6%と最も高く、次いで会社・団体役員が 48.2%となっている。自営業、パートタイム・アルバイト・派遣では「まだまだ不満だ」が最も高く、それぞれ 46.1%、45.7%となっている。

図 2-7 【職業別】くらしの満足度



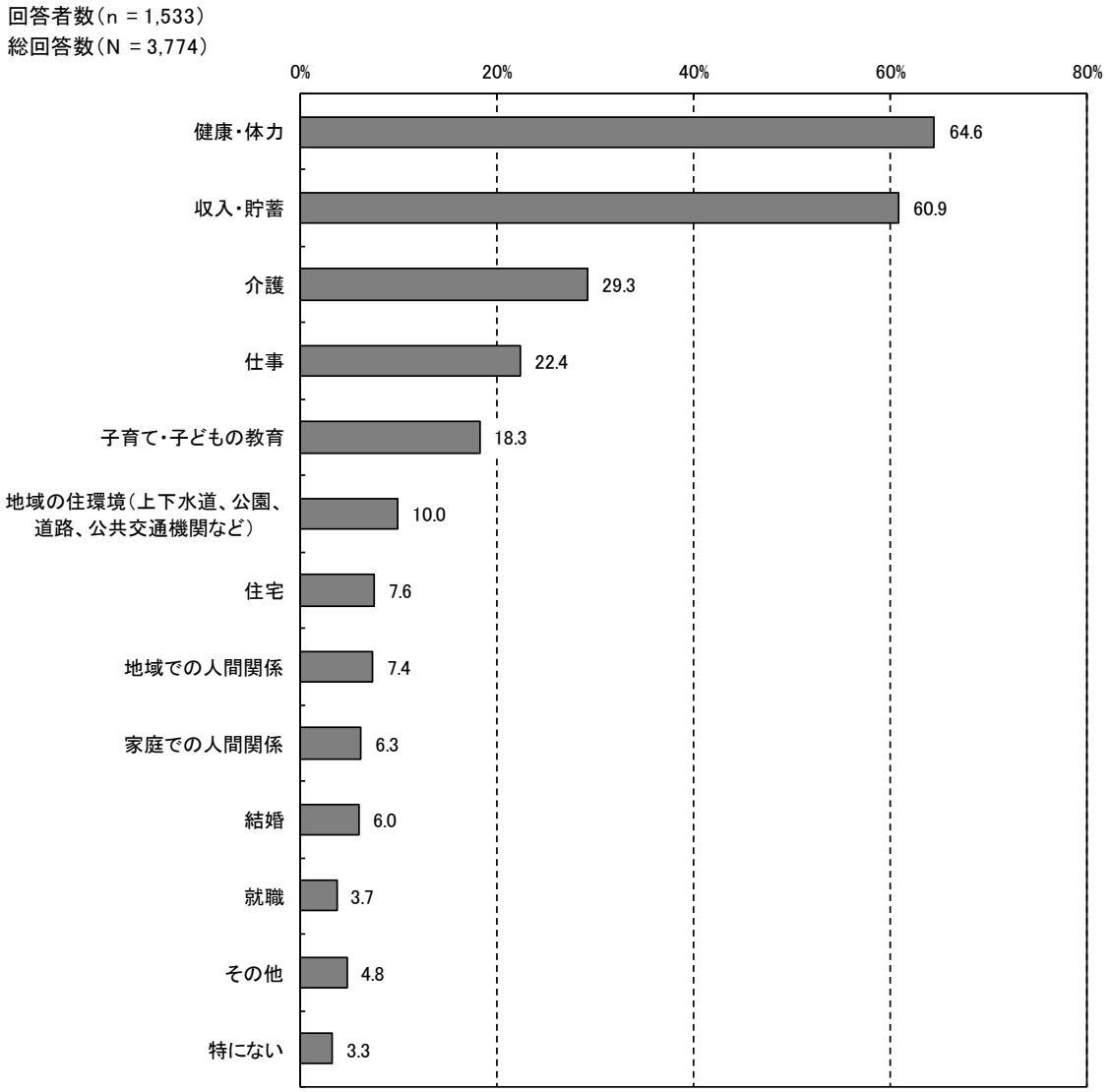
※ その他には、自由業、学生を含む

問３　生活面での不安

問３　あなたは、日頃のくらしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。（３つまで）

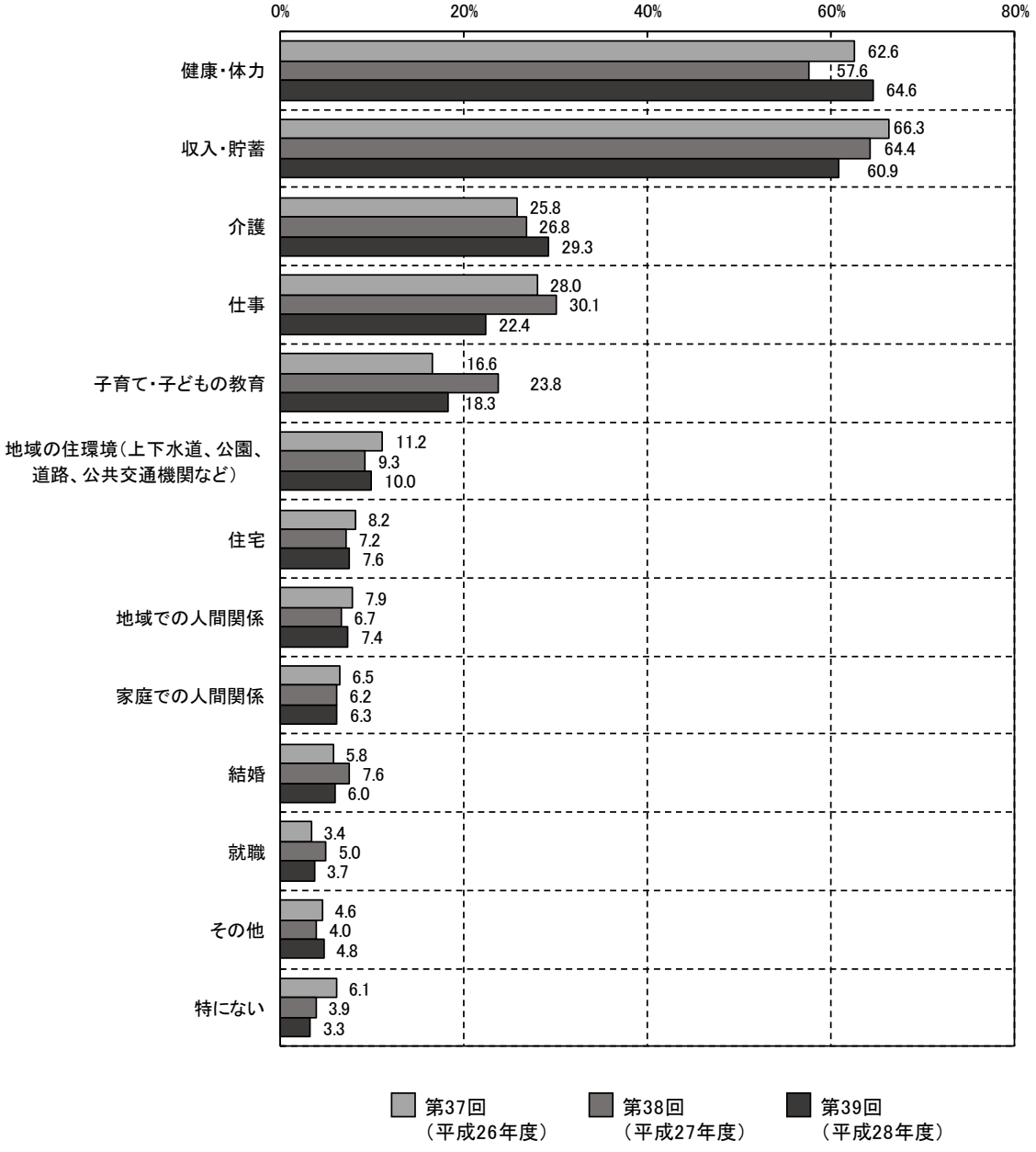
全体（図 3-1）でみると、「健康・体力」が 64.6％と最も高く、次いで「収入・貯蓄」（60.9％）、「介護」（29.3％）の順となっている。

図 3-1　生活面での不安



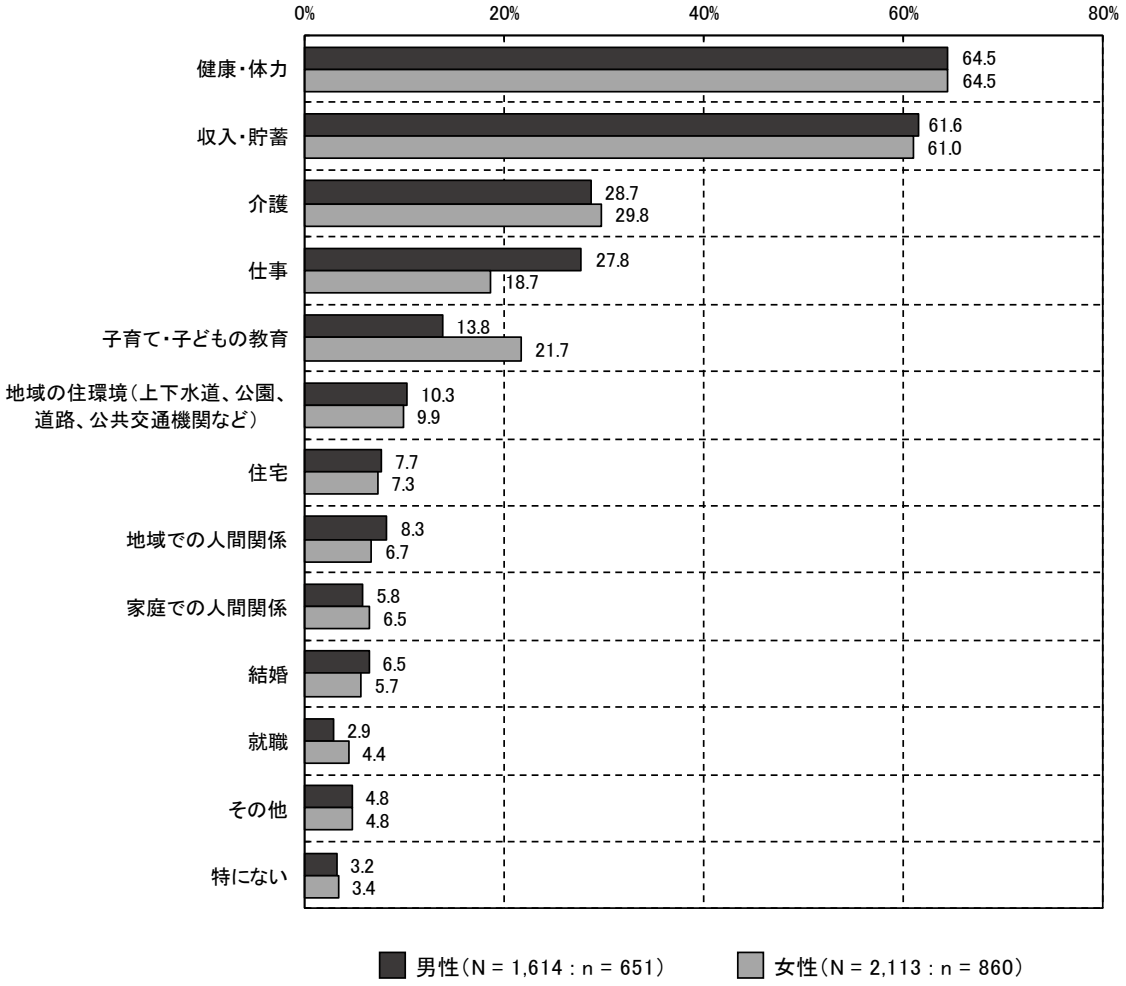
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「健康・体力」は前回に比べて 7.0 ポイント増加している。「仕事」は前回に比べて 7.7 ポイント減少している。

図 3-2 【前々回・前回比較】 生活面での不安



性別（図 3-3）でみると、男女ともに「健康・体力」が 64.5%と最も高くなっている。「仕事」では男性が女性より 9.1 ポイント、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 7.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

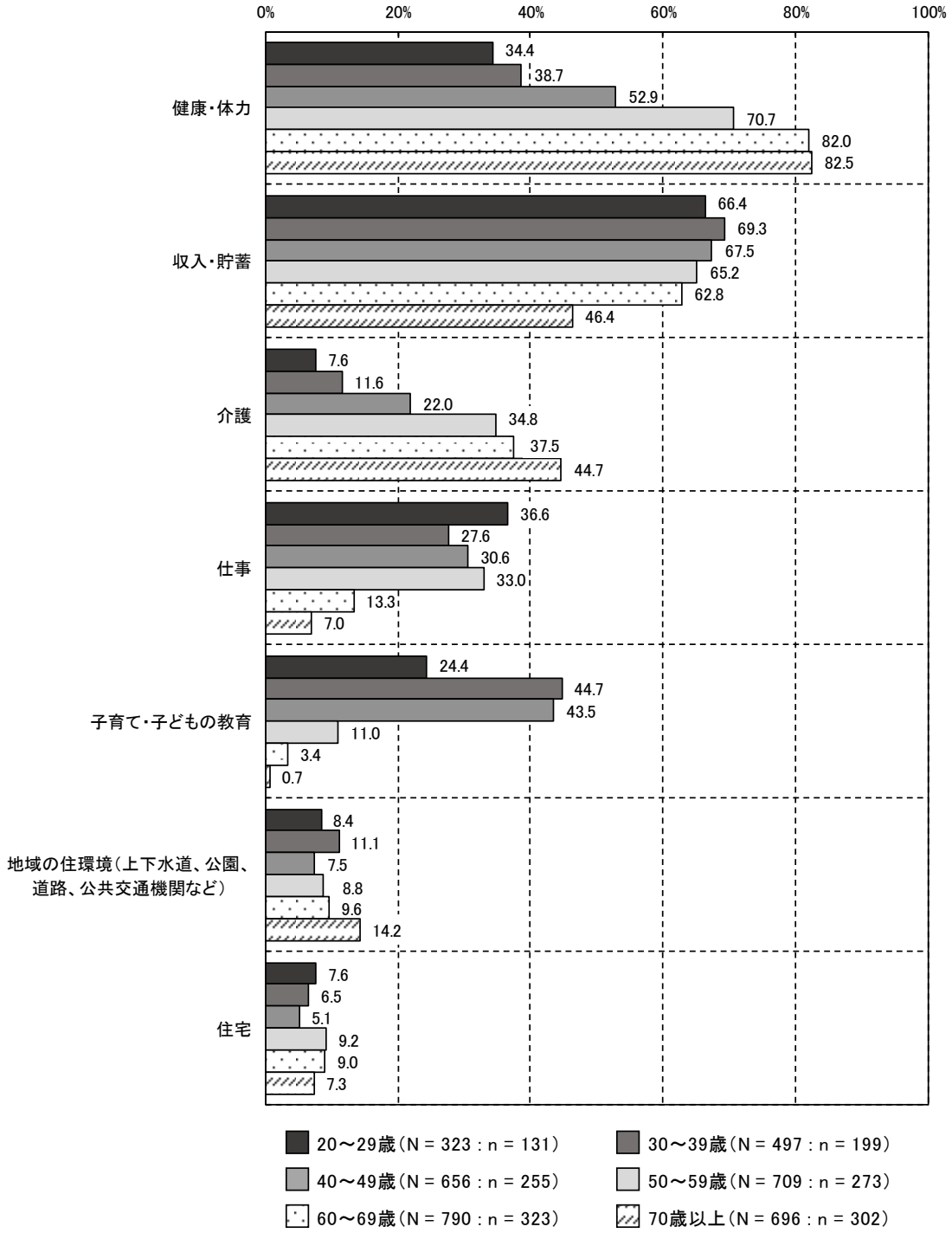
図 3-3 【性別】 生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

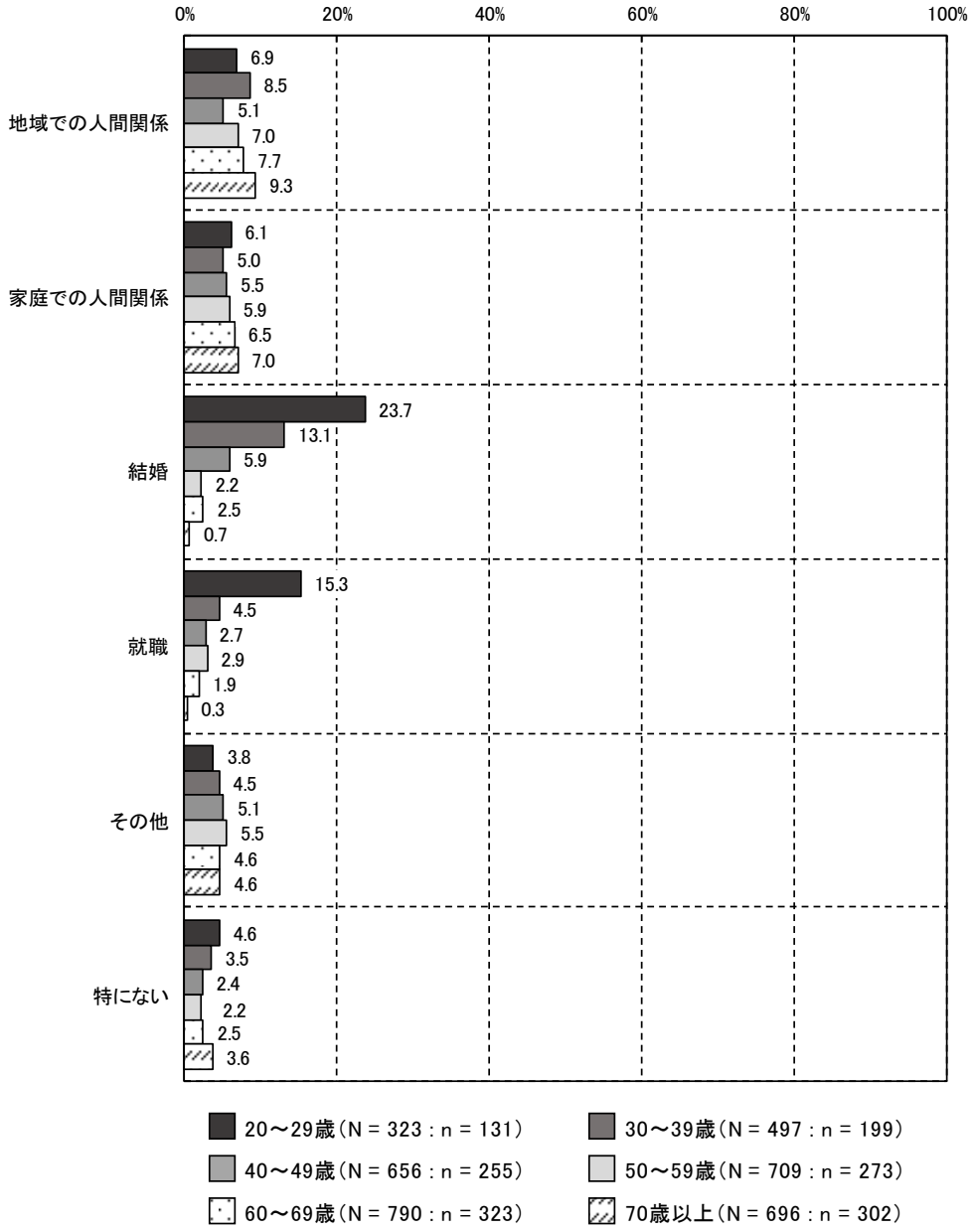
年代別（図 3-4）でみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 82.5%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代、40 歳代では「収入・貯蓄」が最も高く、そのうち 30 歳代が 69.3%と最も高くなっている。

図 3-4【年代別】生活面での不安



※ N＝総回答数　n＝回答者数

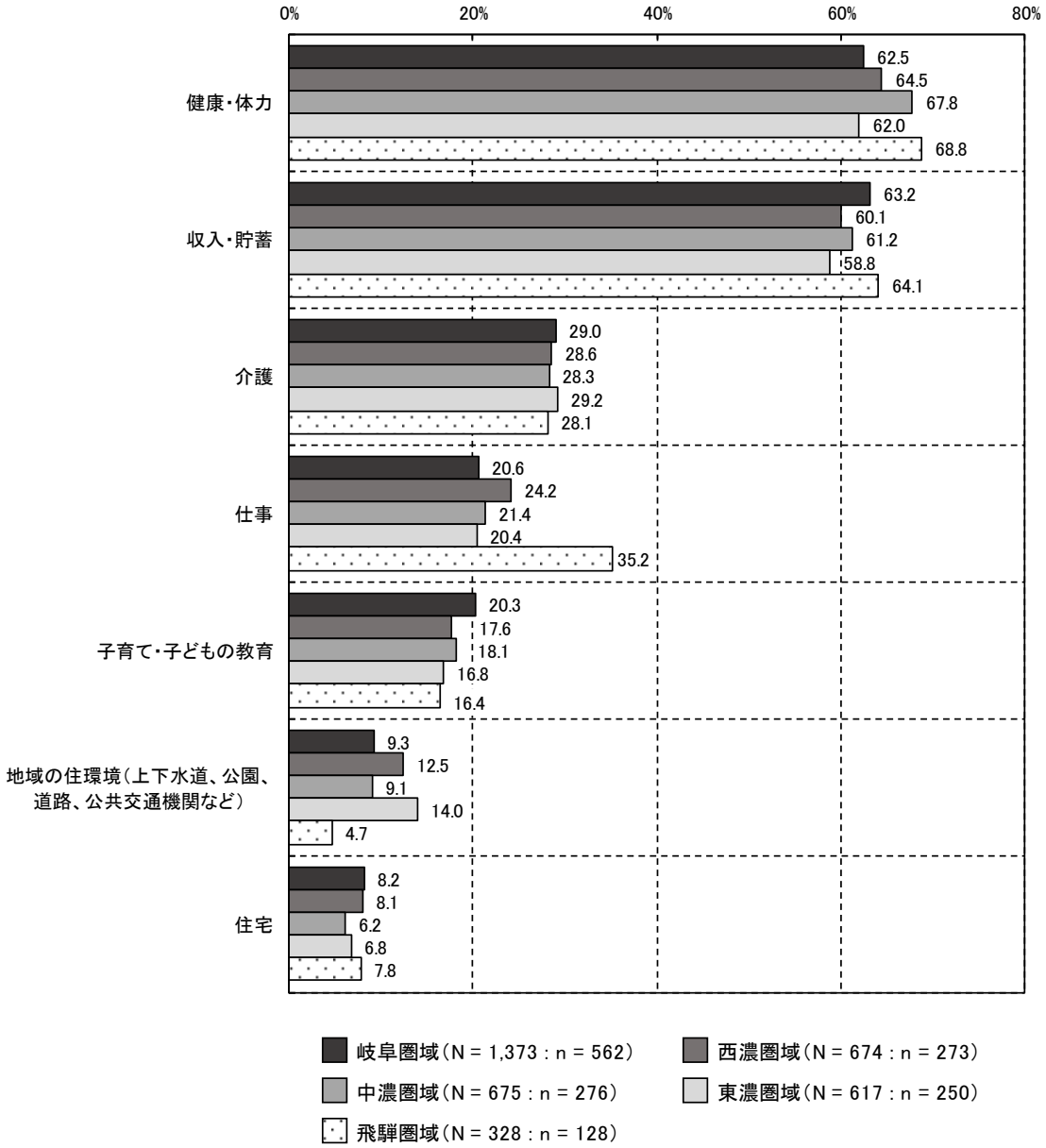
図 3-4【年代別】生活面での不安（続き）



※ N＝総回答数　n＝回答者数

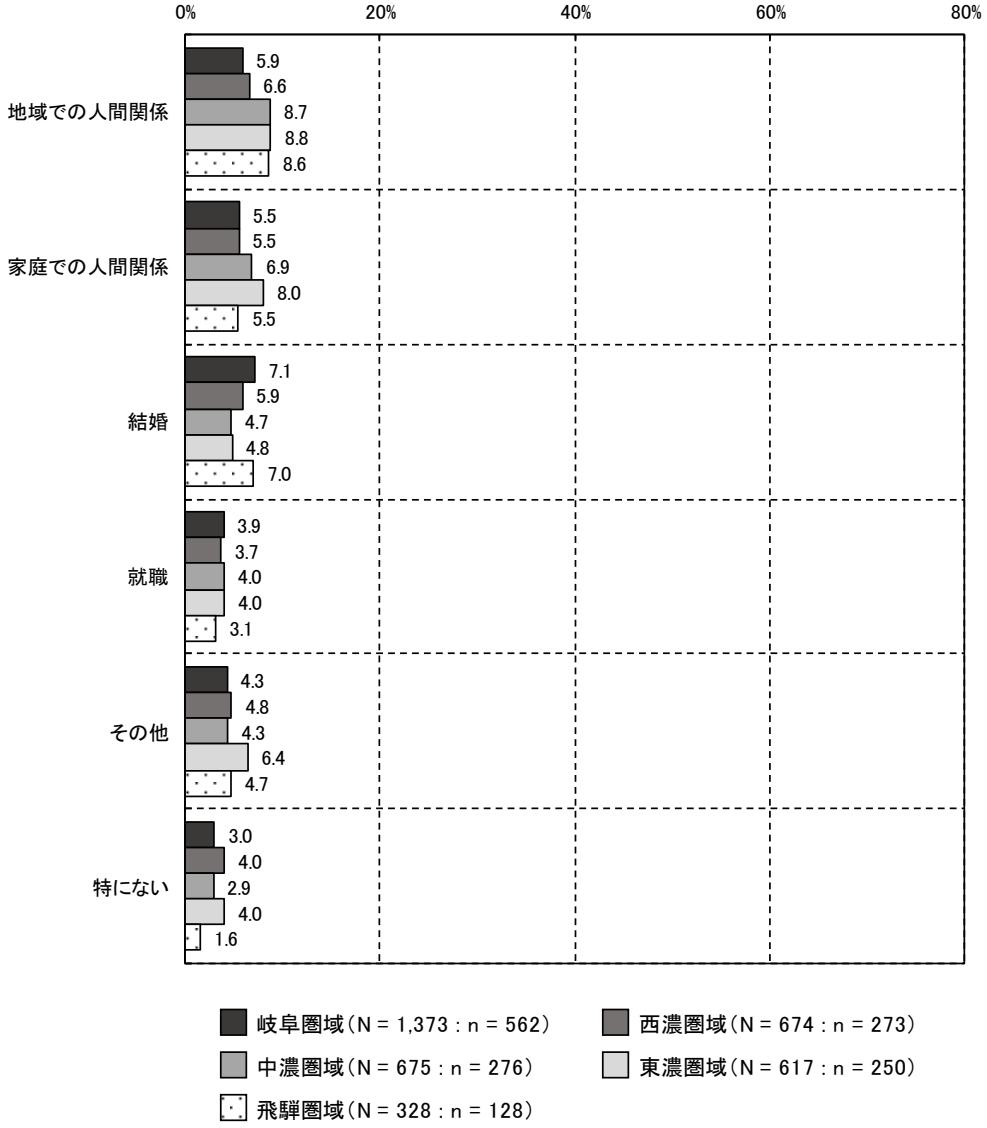
居住圏域別（図 3-5）でみると、岐阜圏域を除く、いずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 68.8%と最も高くなっている。岐阜圏域では「収入・貯蓄」が 63.2%と最も高くなっている。「仕事」について、飛騨圏域がその他の圏域に比べて 10 ポイント以上高くなっている。

図 3-5【居住圏域別】生活面での不安



※ N＝総回答数　n＝回答者数

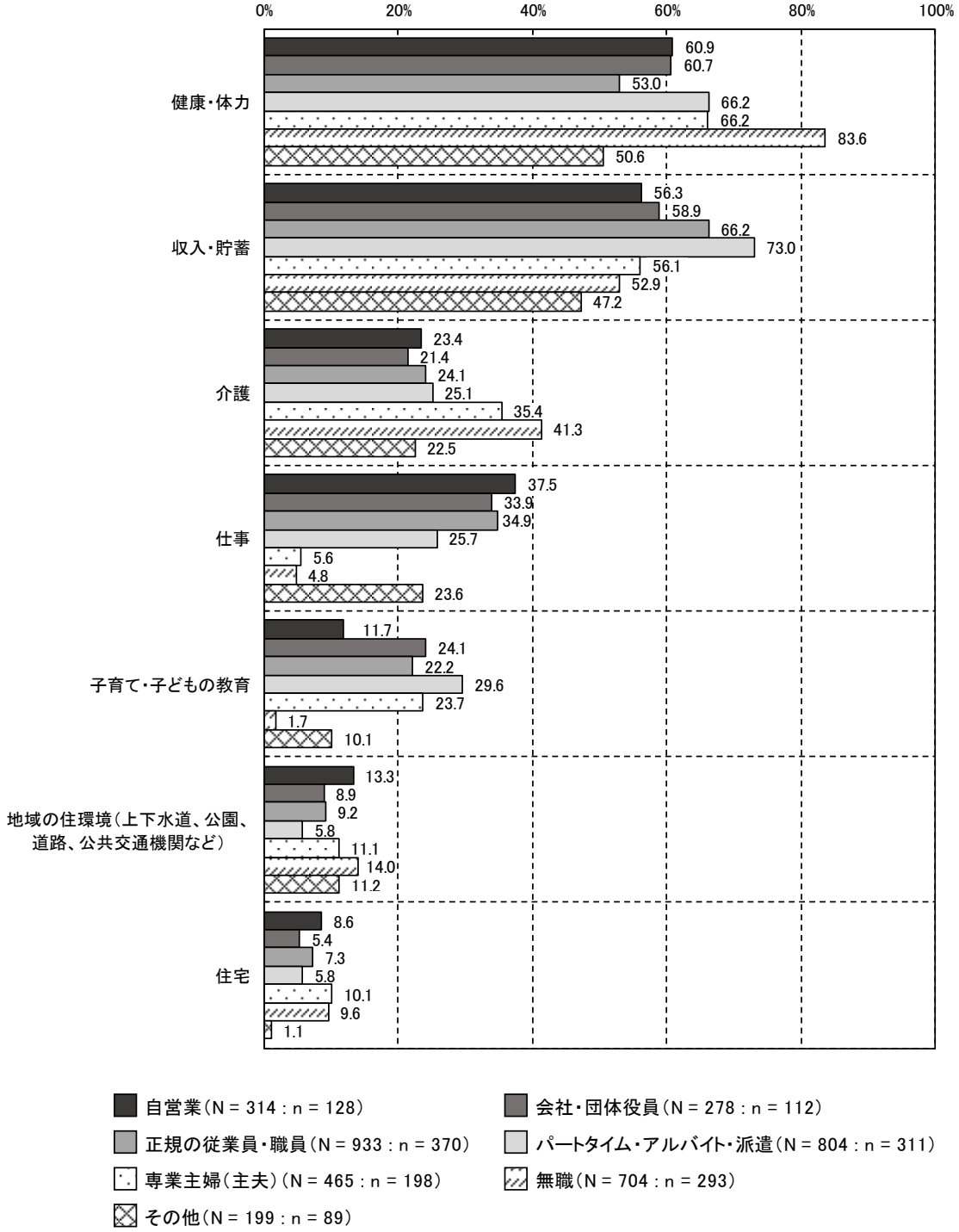
図 3-5 【居住圏域別】 生活面での不安 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 3-6）でみると、自営業、会社・団体役員、専業主婦（主夫）、無職では、「健康・体力」が最も高く、そのうち無職が 83.6%と最も高くなっている。正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では、「収入・貯蓄」が最も高く、特にパートタイム・アルバイト・派遣が 73.0%と最も高くなっている。

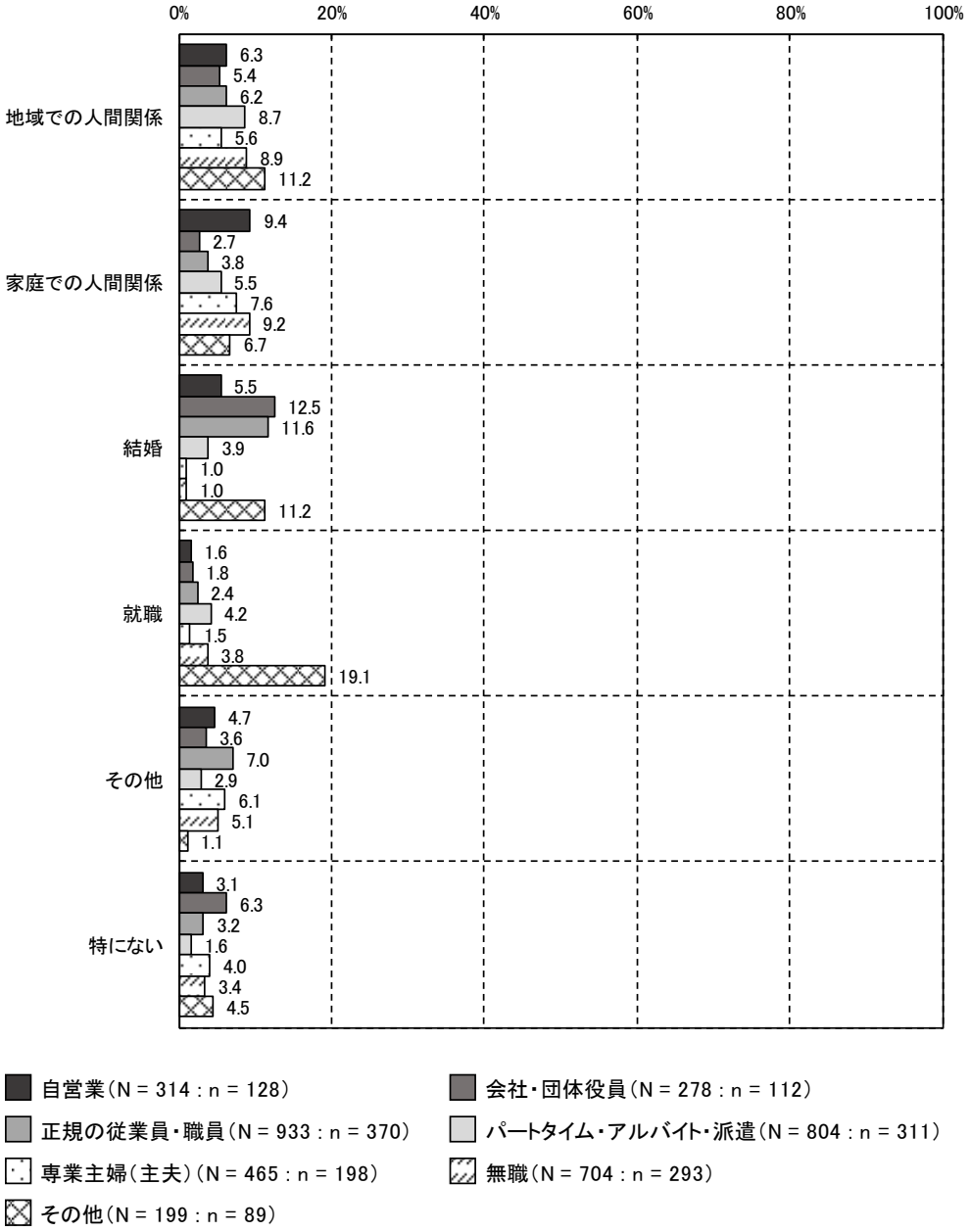
図 3-6【職業別】生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 3-6 【職業別】 生活面での不安 （続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

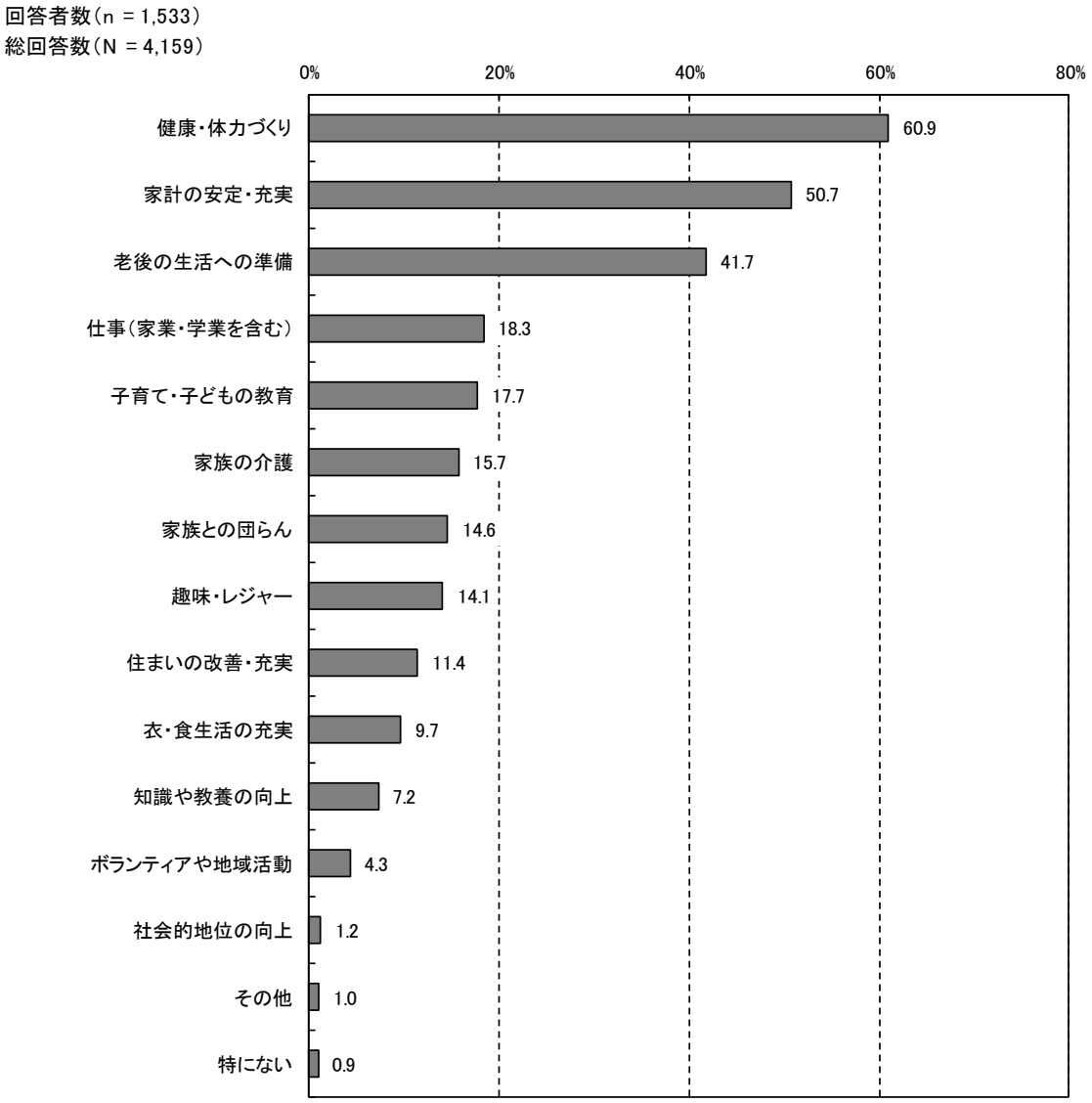
※ N＝総回答数　n＝回答者数

問４　今後のくらしの中で重視していきたいこと

問４　あなたが、今後のくらしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。 （３つまで）

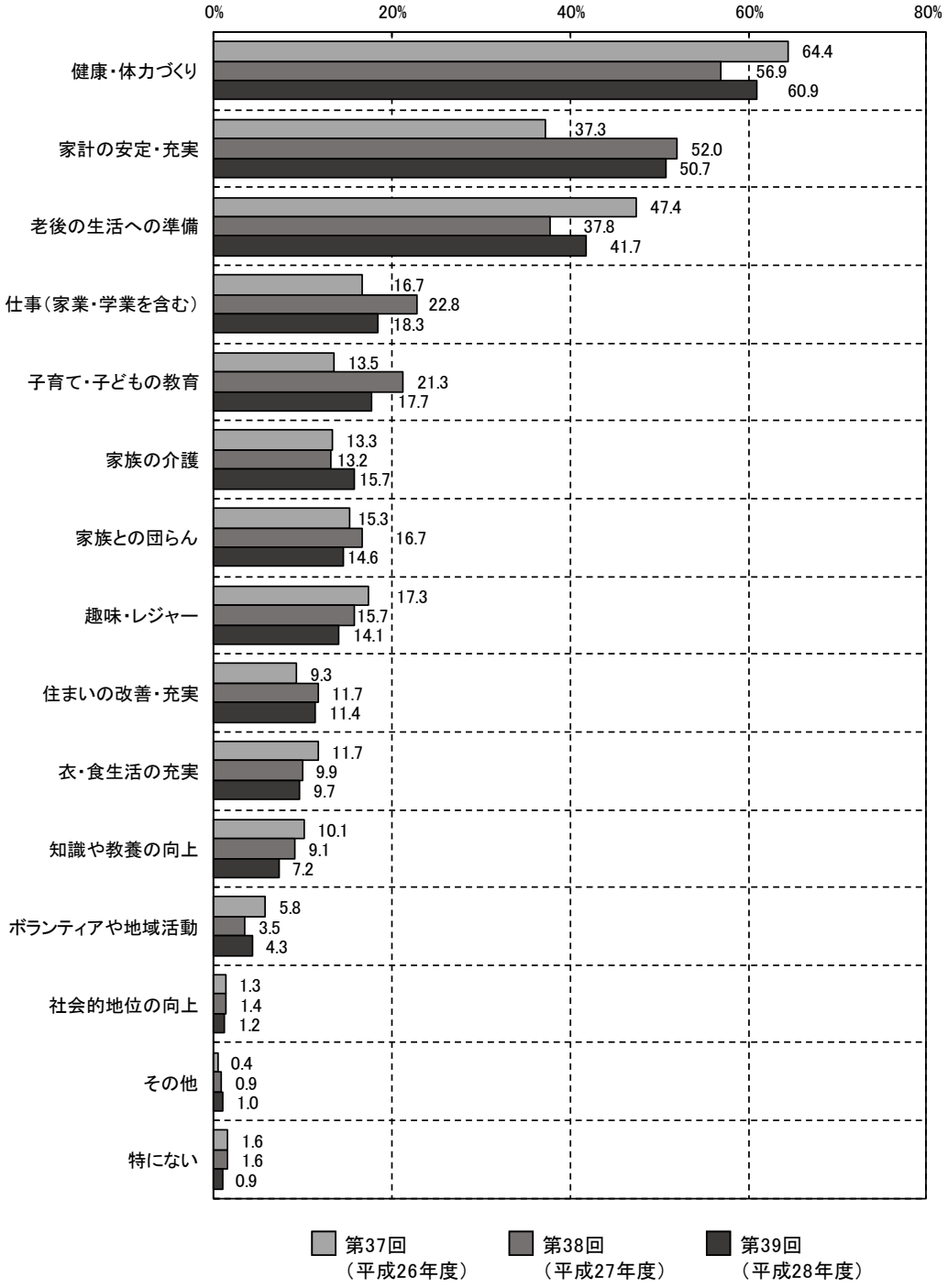
全体（図 4-1）でみると、「健康・体力づくり」が 60.9%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（50.7%）、「老後の生活への準備」（41.7%）の順となっている。

図 4-1　今後のくらしの中で重視していきたいこと



前々回・前回比較（図 4-2）でみると、今回も「健康・体力づくり」が最も高くなっており、前回から 4.0 ポイント増加している。「老後の生活への準備」は、前回から 3.9 ポイント増加している。

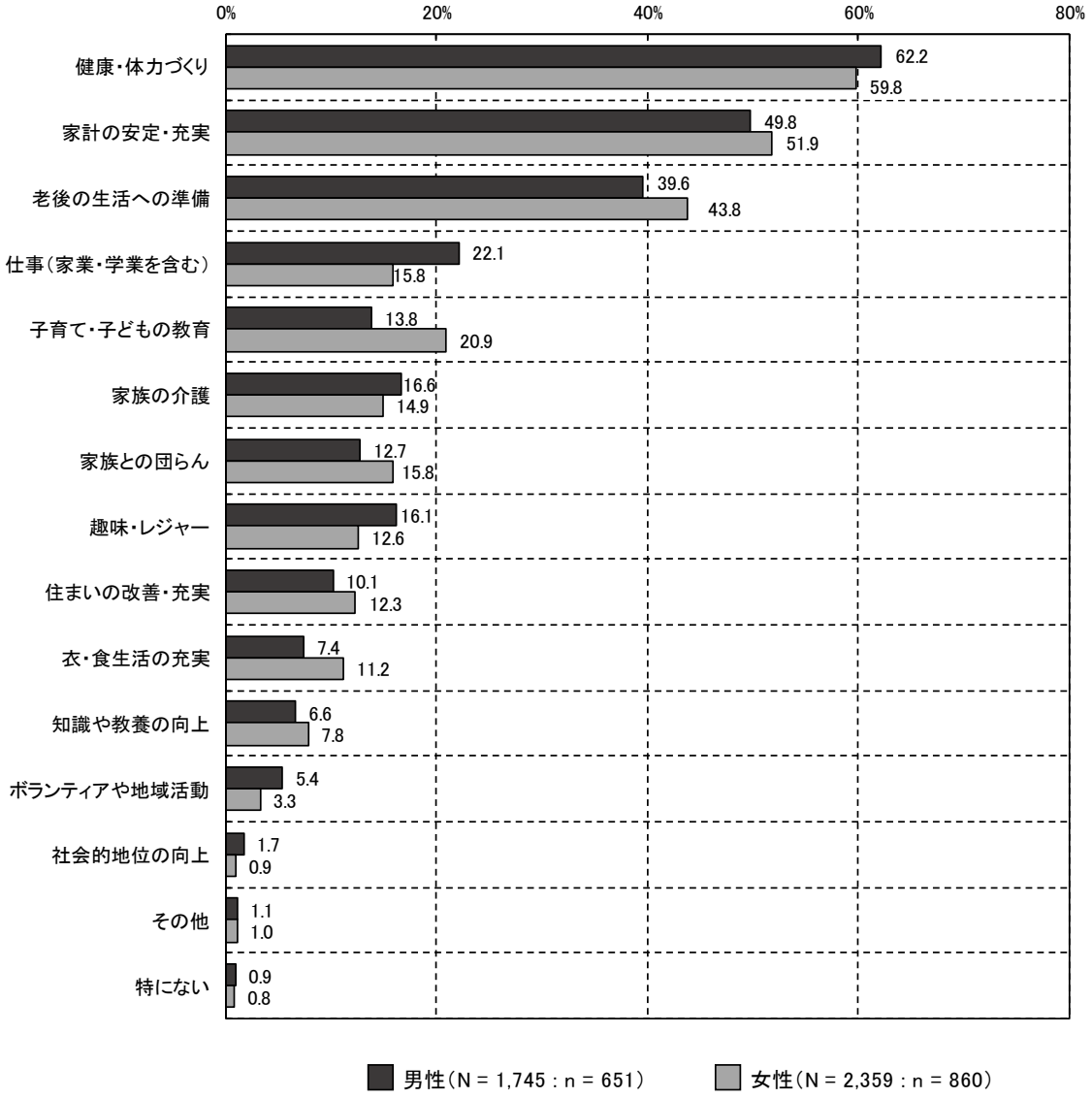
図 4-2 【前々回・前回比較】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ 選択肢、「家計の安定・充実」は、第 37 回調査では「経済的基盤の安定・充実」
※ 選択肢、「住まいの改善・充実」は、第 37 回調査では「住環境の改善・充実」

性別（図 4-3）でみると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、男性が 62.2%、女性が 59.8%となっている。「仕事（家業・学業を含む)」では男性が女性より 6.3 ポイント、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 7.1 ポイント、それぞれ高くなっている。

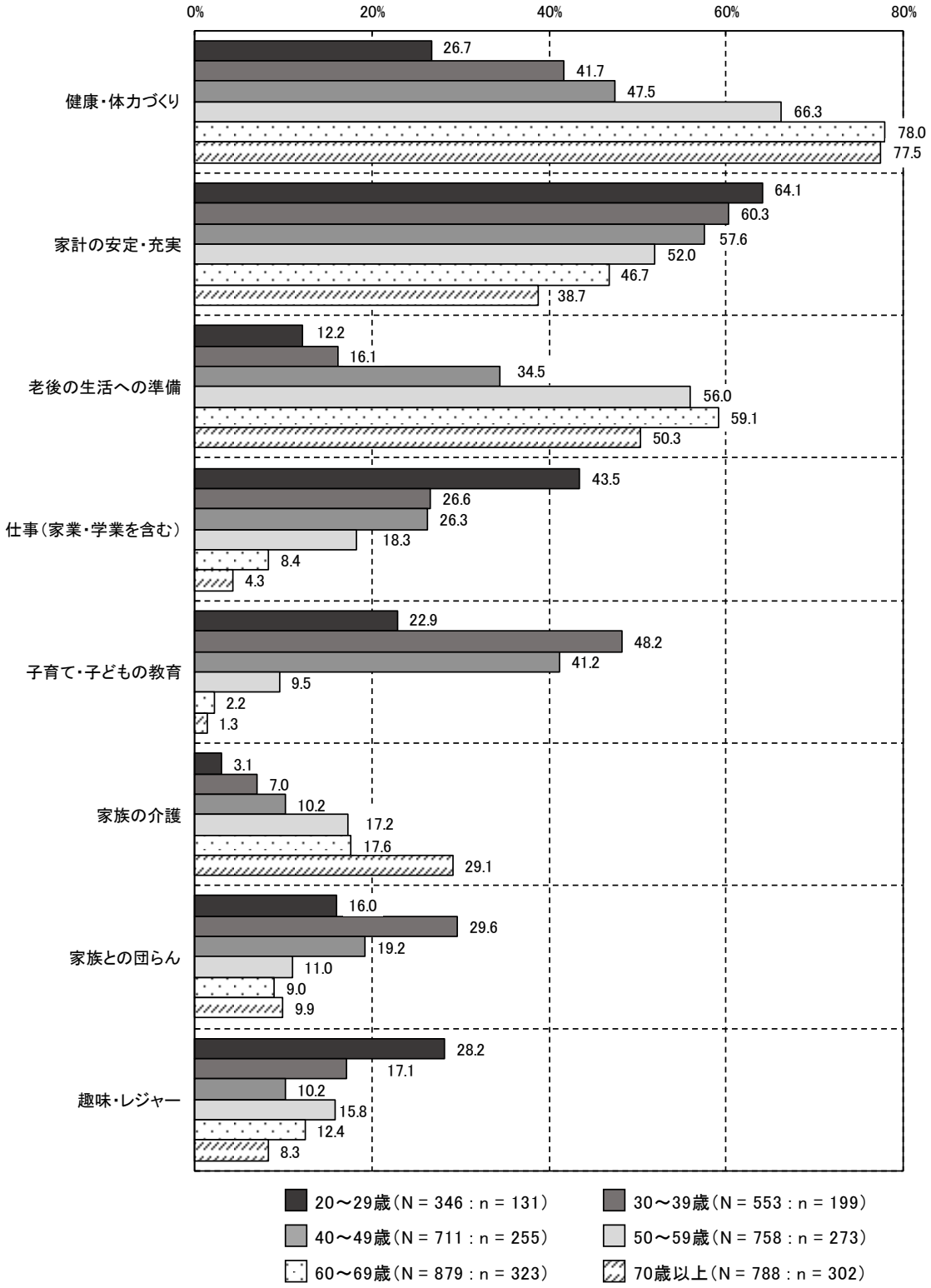
図 4-3 【性別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

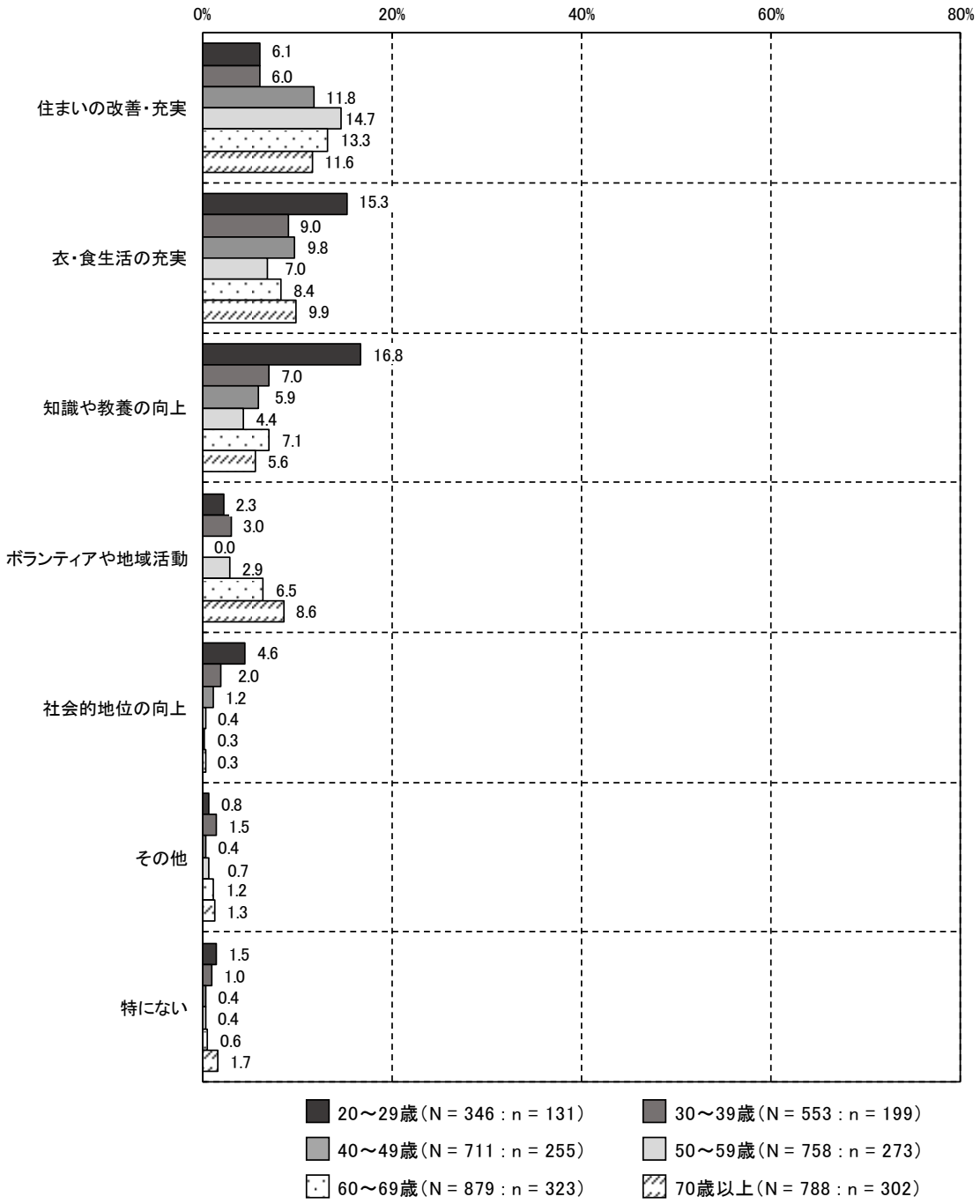
年代別（図 4-4）でみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上において「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち 60 歳代が 78.0%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代、40 歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、そのうち 20 歳代が 64.1%と最も高くなっている。

図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

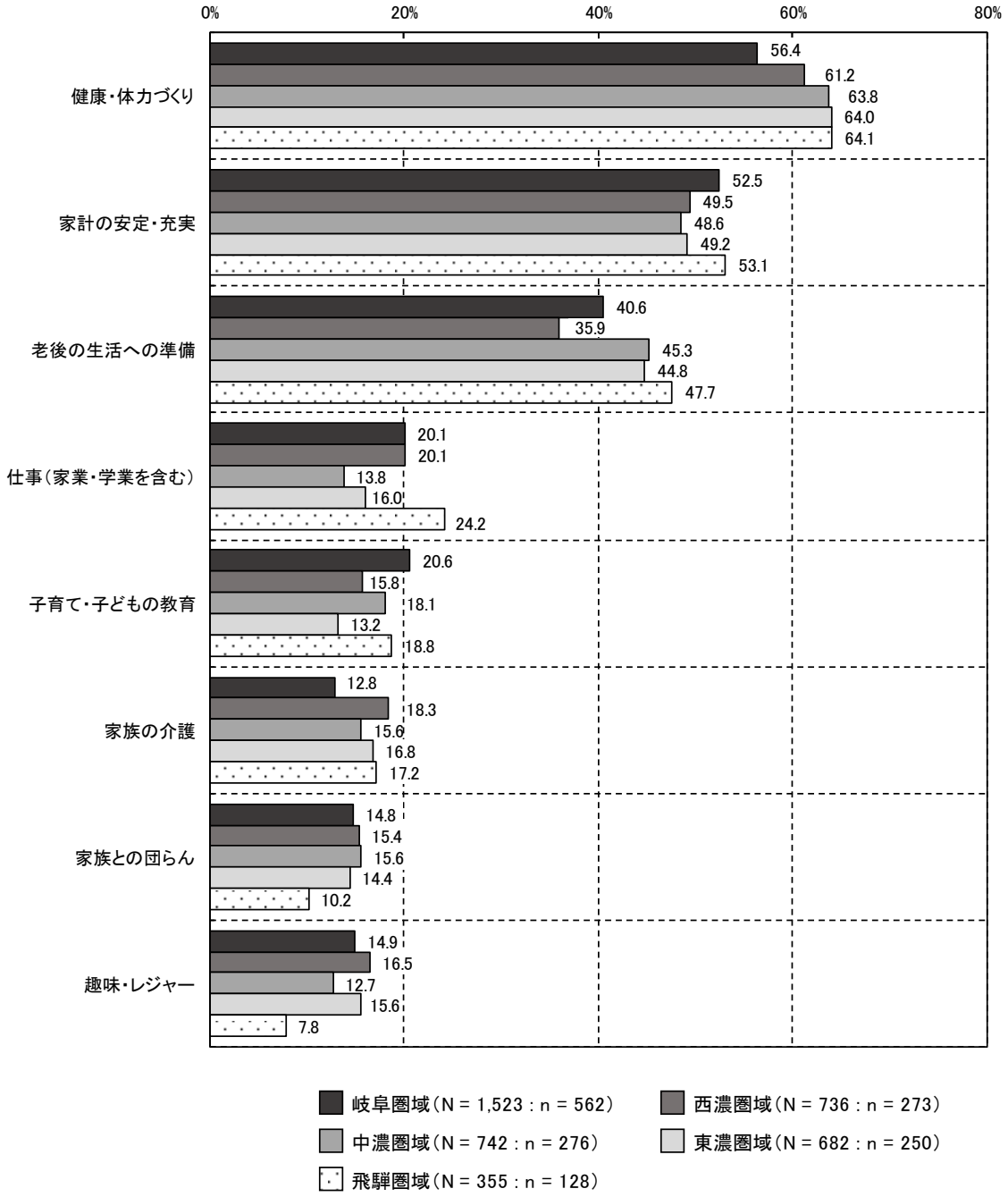
図 4-4 【年代別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

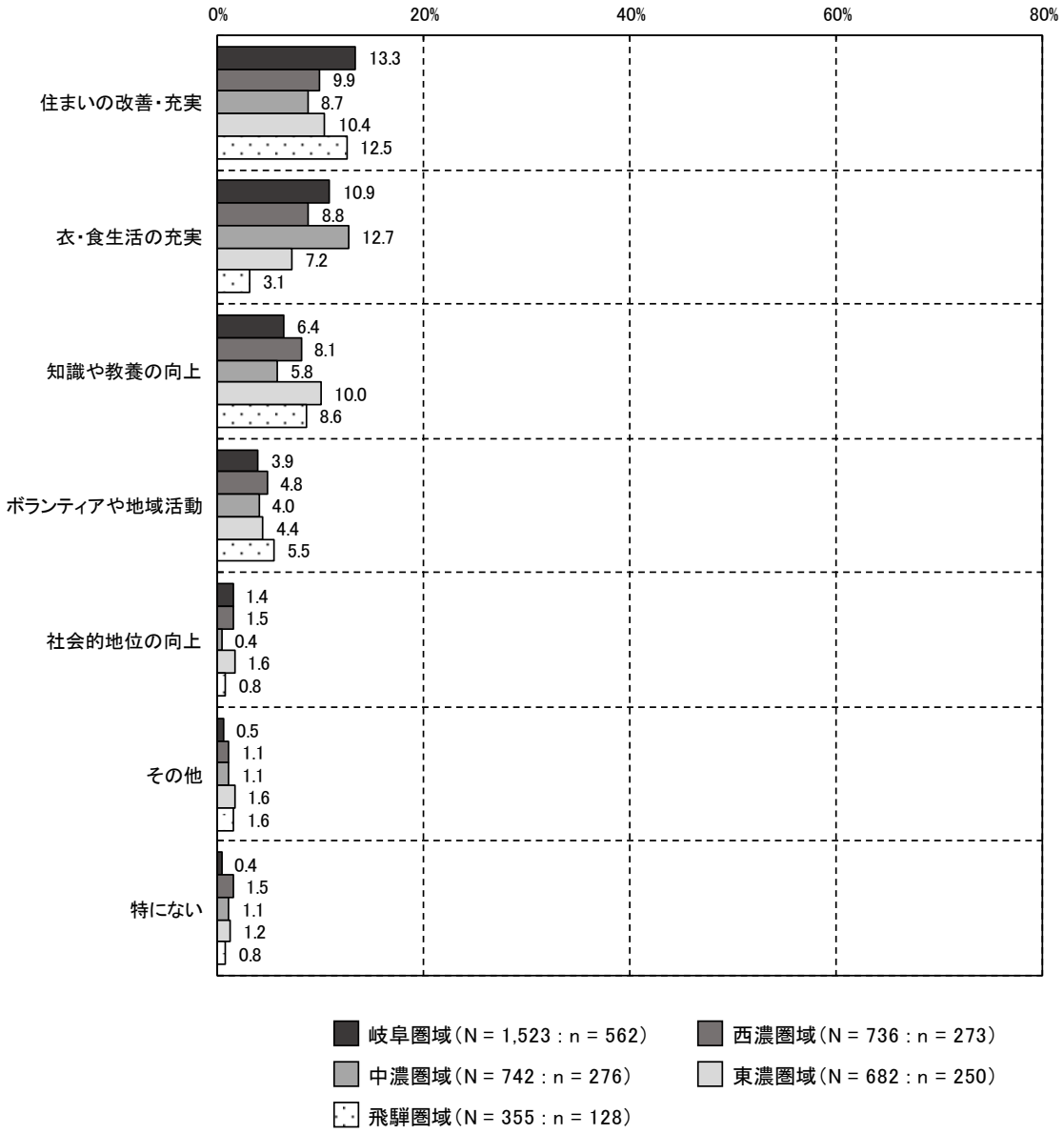
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 64.1%と最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数　n＝回答者数

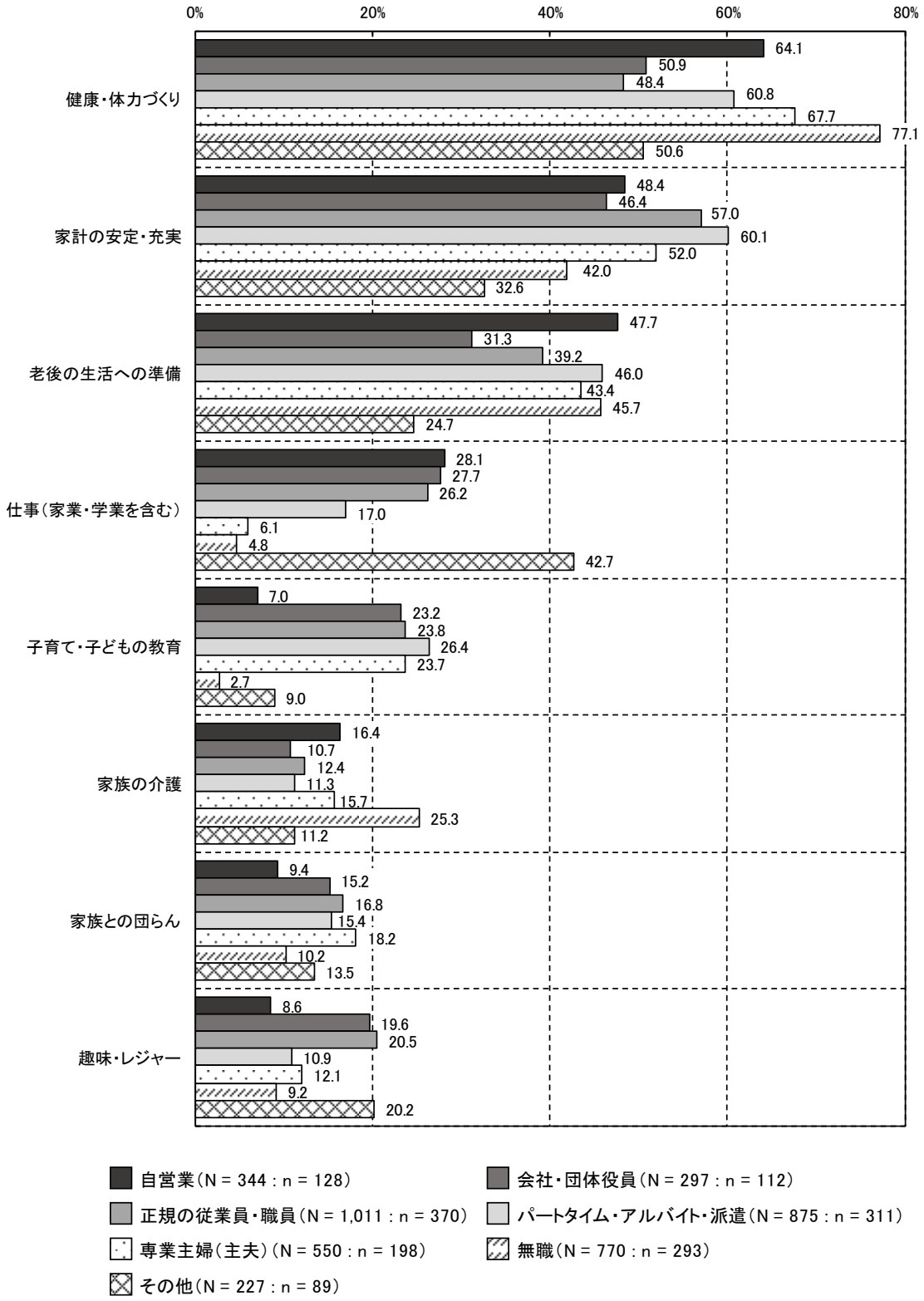
図 4-5 【居住圏域別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 4-6）でみると、正規の従業員・職員を除くいずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち無職が 77.1%と最も高くなっている。正規の従業員・職員では「家計の安定・充実」が 57.0%と最も高くなっている。

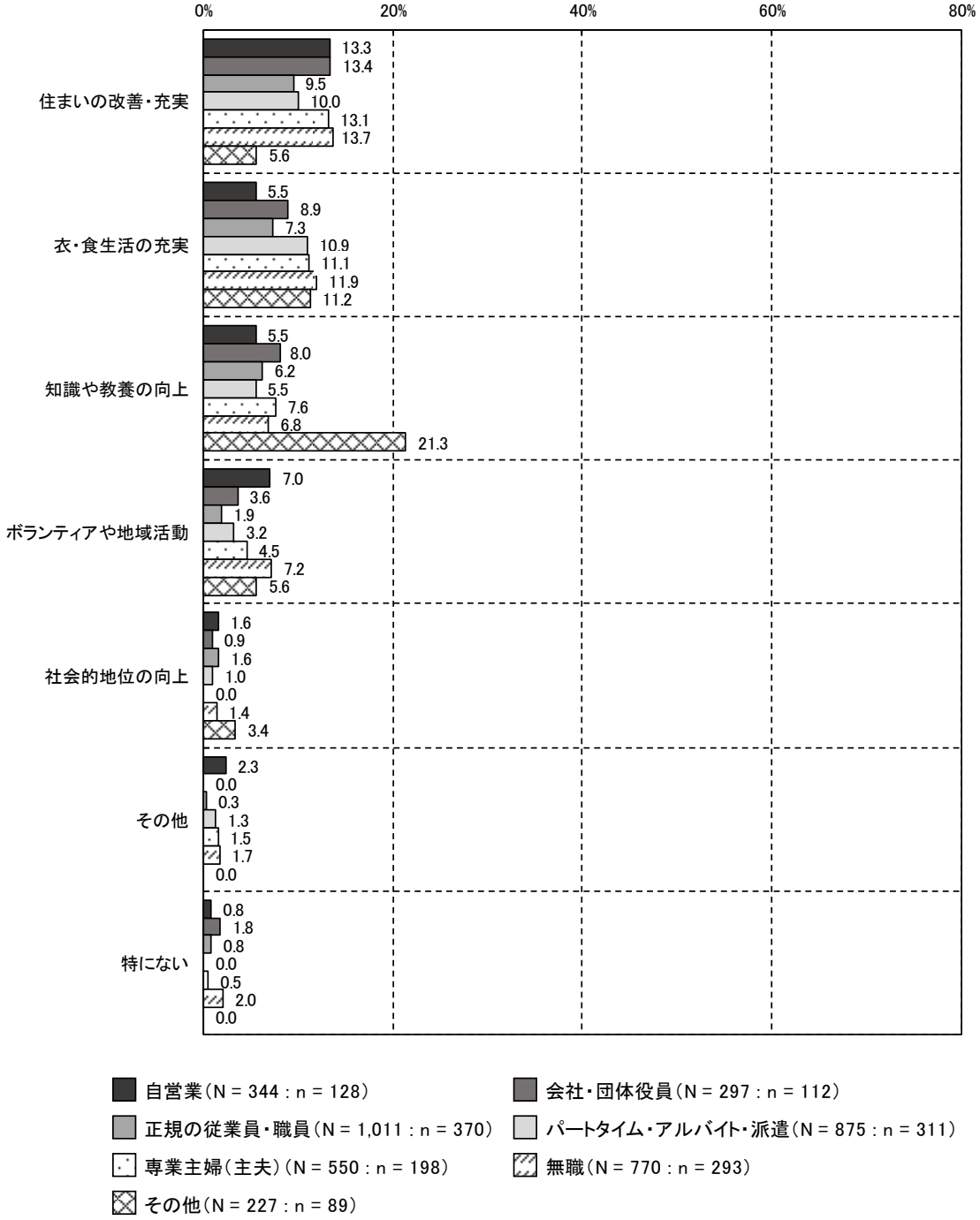
図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 4-6 【職業別】 今後のくらしの中で重視していきたいこと （続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

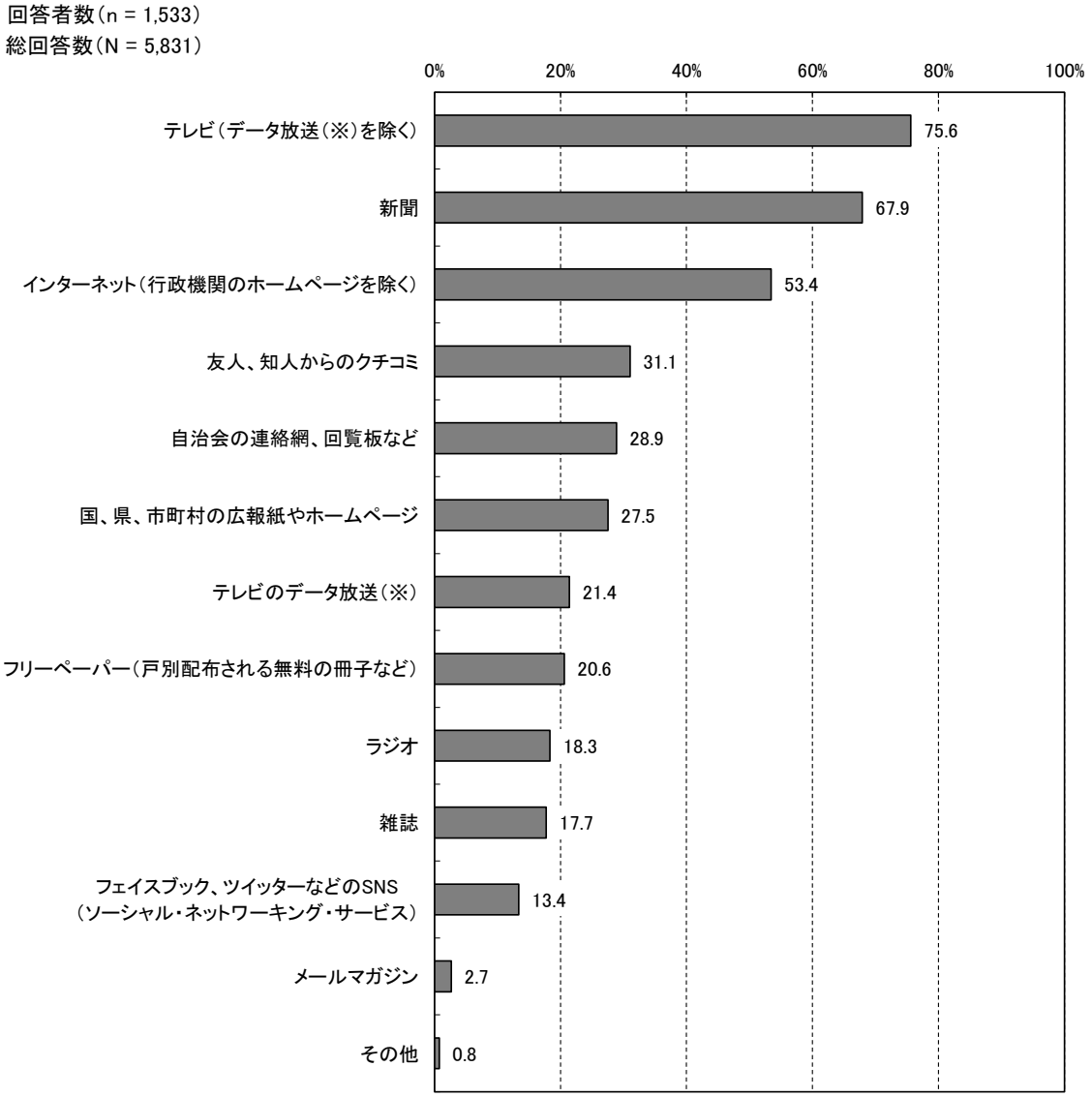
※ N＝総回答数　n＝回答者数

問５　生活に必要な情報の入手媒体

問５　あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。（いくつでも）

全体（図 5-1）でみると、「テレビ（データ放送を除く）」が 75.6%と最も高く、次いで「新聞」（67.9%）、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」（53.4%）の順となっている。

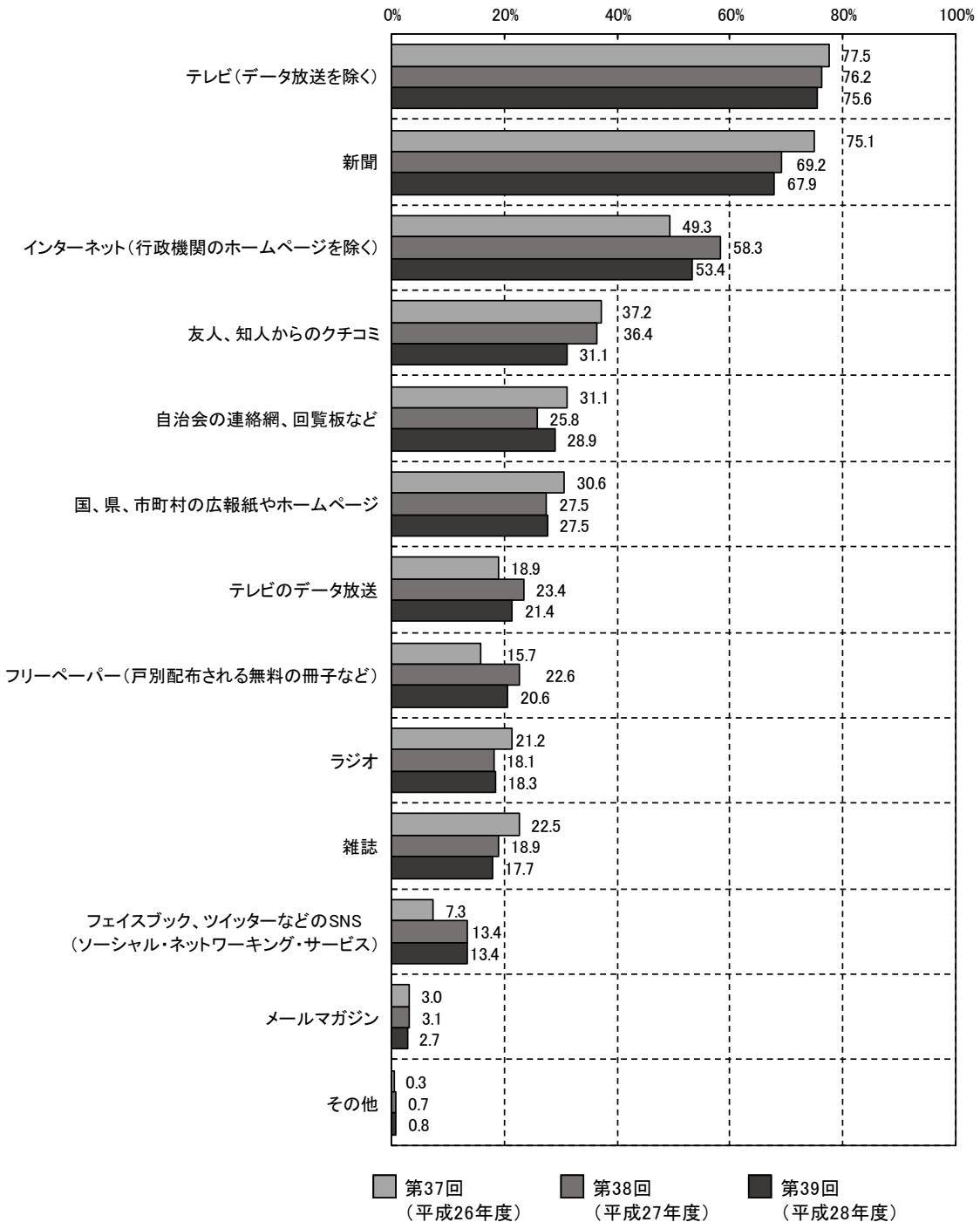
図 5-1　生活に必要な情報の入手媒体



※ データ放送：リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

前々回・前回比較（図 5-2）でみると、前々回、前回と同様に「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。「インターネット（行政機関のホームページを除く）」は、前回から 4.9 ポイント減少している。

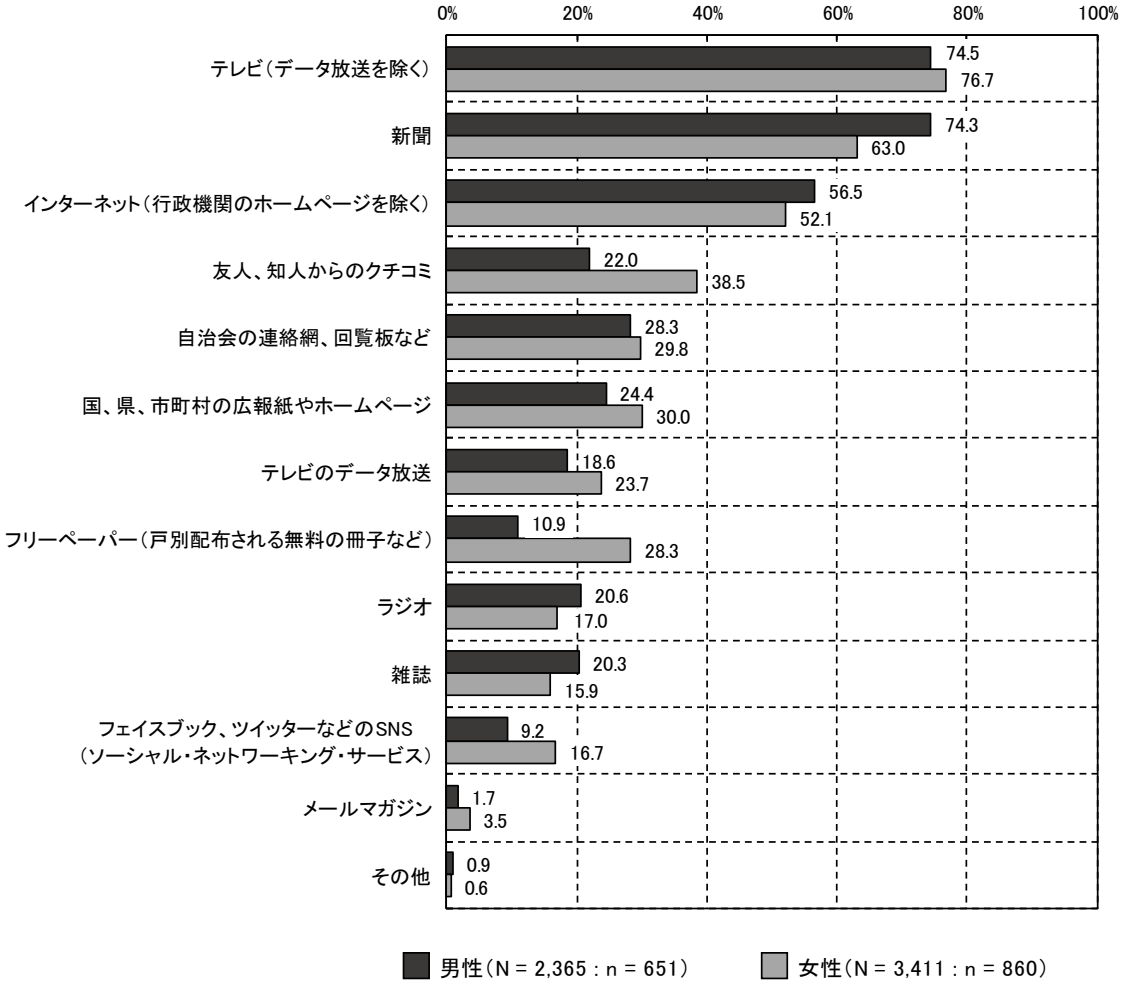
図 5-2 【前々回・前回比較】 生活に必要な情報の入手媒体



※ 選択肢、「フリーペーパー」は、第 37 回調査では「フリーペーパー・フリーマガジン」

性別（図 5-3）でみると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、男性が 74.5%、女性が 76.7%となっている。差が最も大きいのは「フリーペーパー（戸別配布される無料の冊子など）」で、女性が男性より 17.4 ポイント高くなっている。

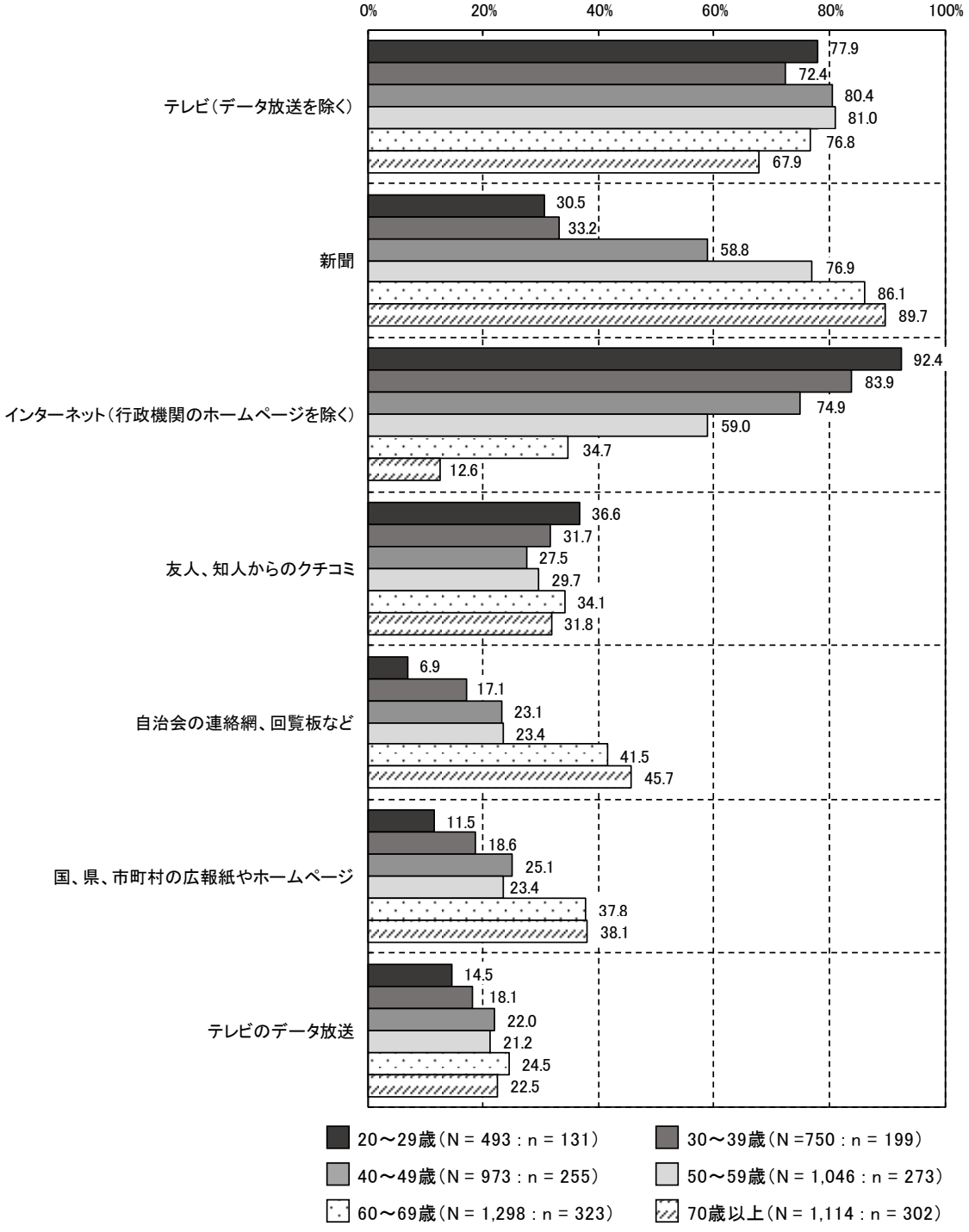
図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

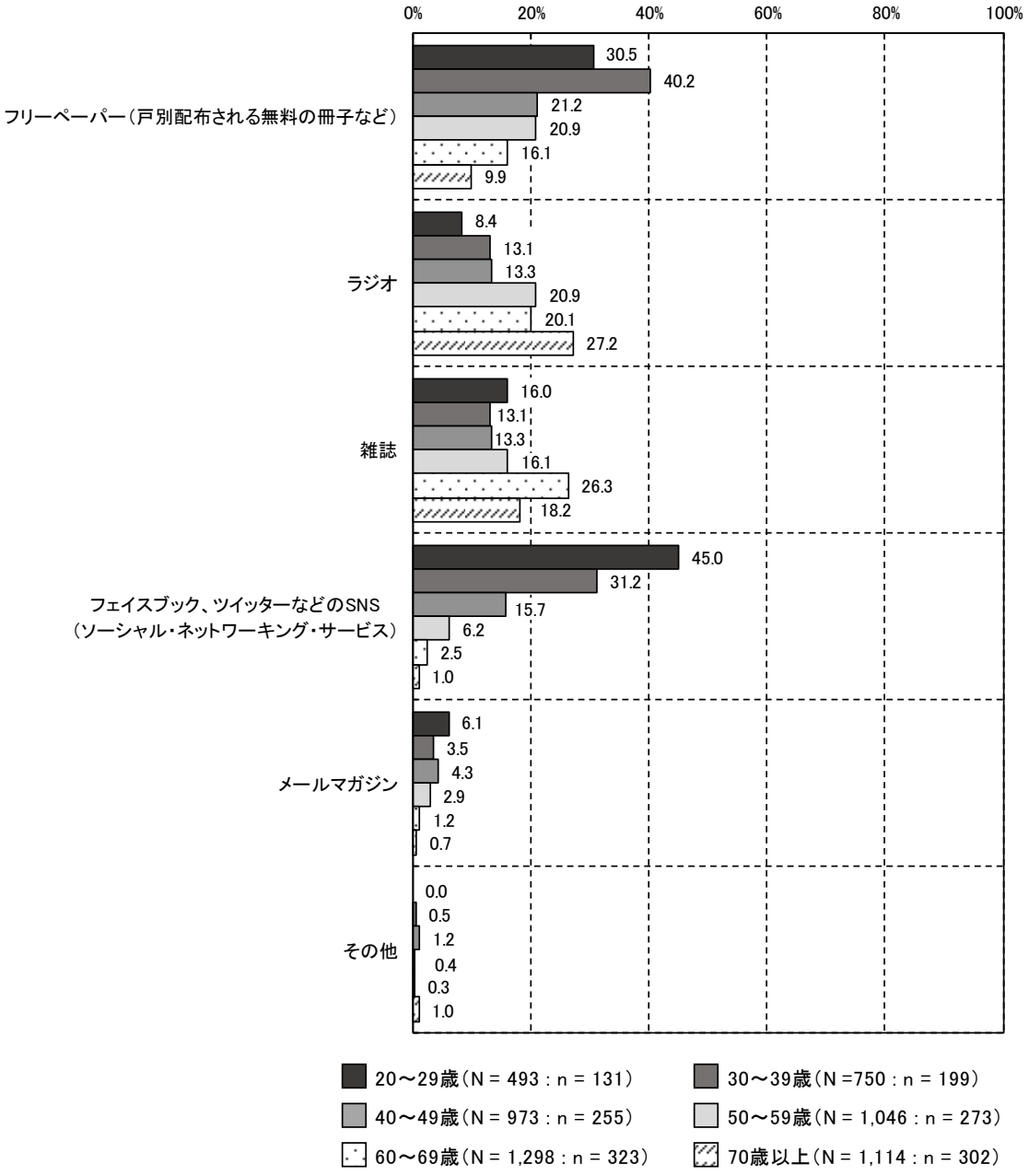
年代別（図 5-4）でみると、20 歳代、30 歳代においては「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、40 歳代、50 歳代においては「テレビ（データ放送を除く）」、60 歳代、70 歳以上においては「新聞」がそれぞれ最も高くなっている。

図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数　n＝回答者数

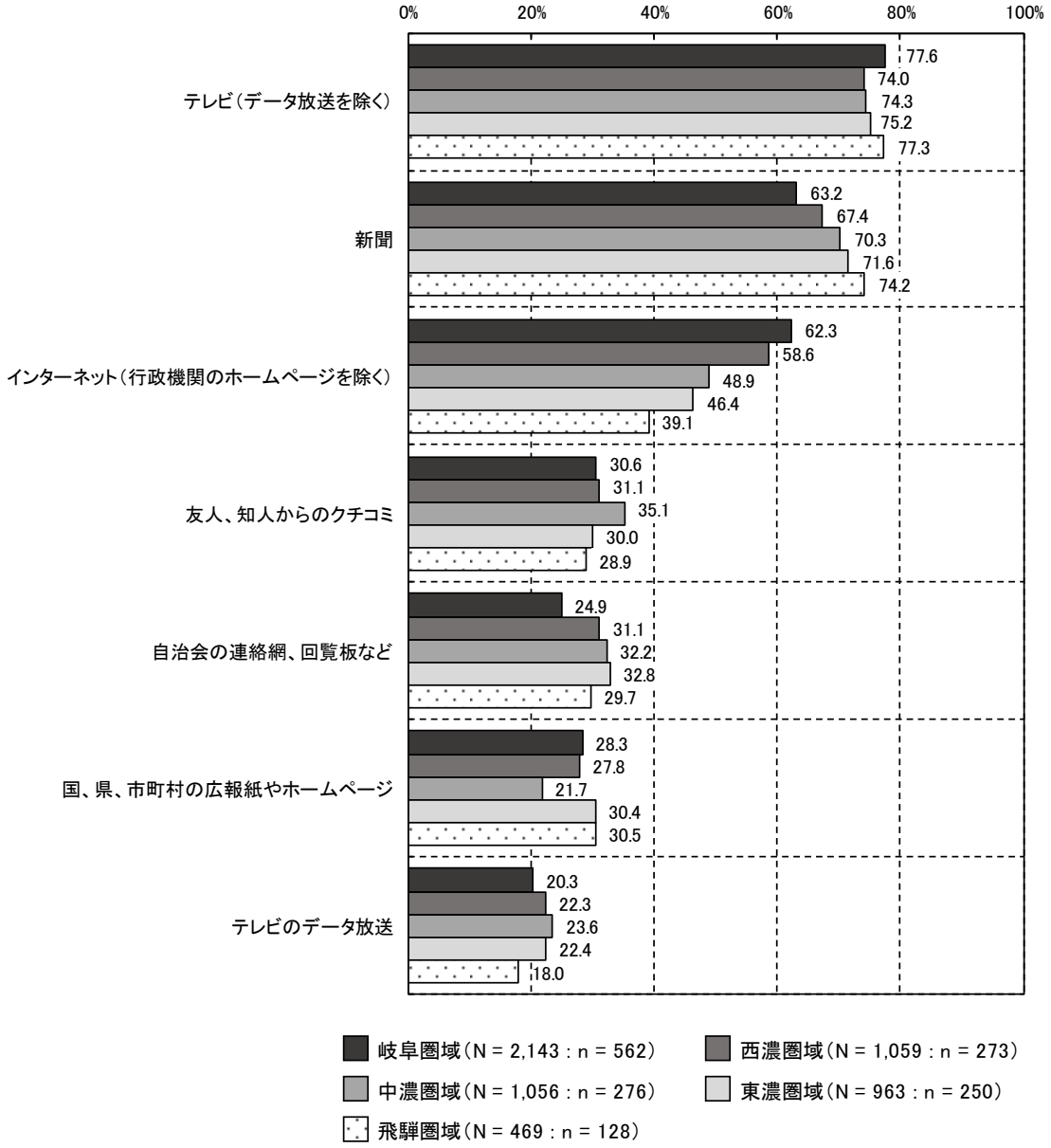
図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

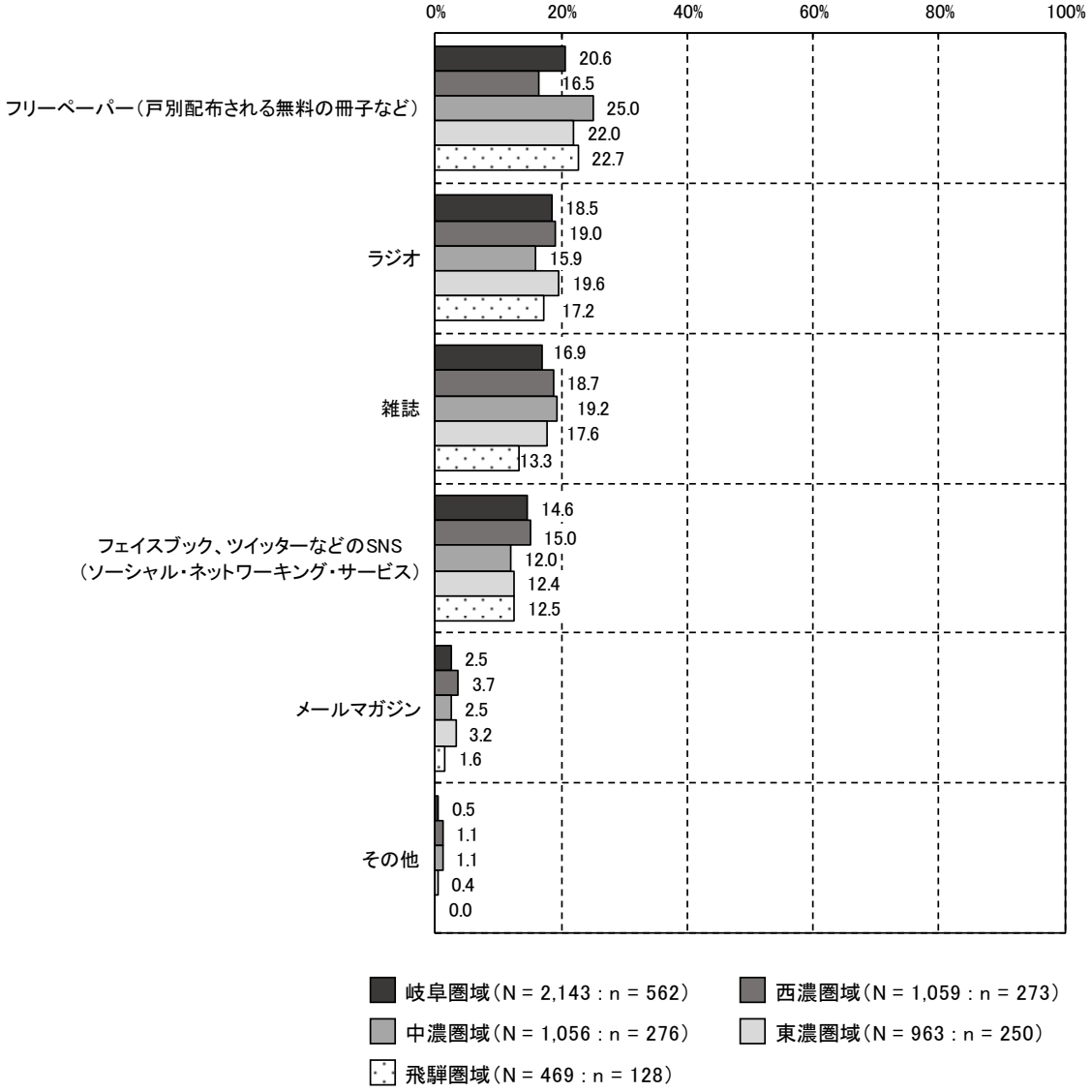
居住圏域別（図 5-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 77.6%と最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 5-5 【居住圏域別】 生活に必要な情報の入手媒体 （続き）



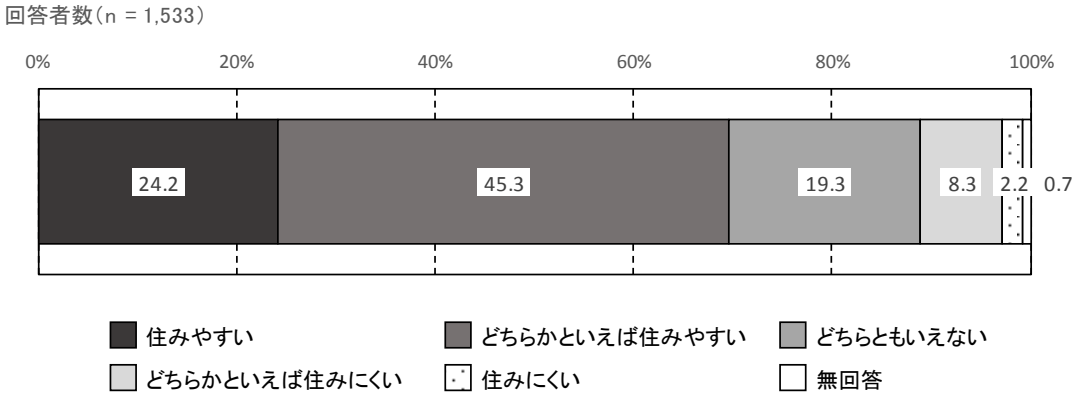
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問６　現在住んでいる地域は住みやすいか

問６　あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（１つだけ）

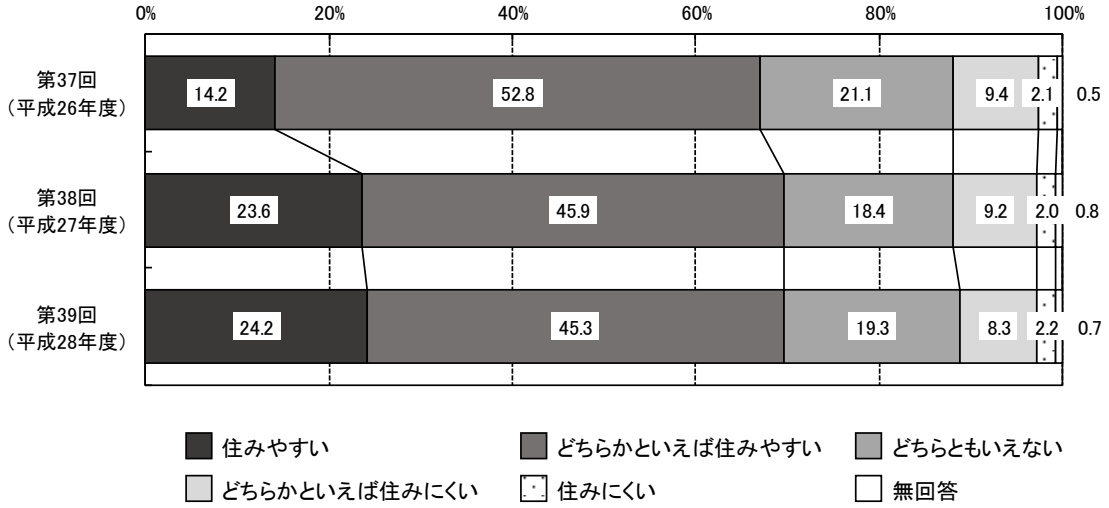
全体（図 6-1）でみると、「どちらかといえば住みやすい」が 45.3%と最も高くなっており、次いで「住みやすい」（24.2%）、「どちらともいえない」（19.3%）となっている。

図 6-1　現在住んでいる地域は住みやすいか



前々回・前回比較（図 6-2）でみると、「住みやすい」は前回に比べて 0.6 ポイント増加している。「どちらかといえば住みにくい」は前回に比べて 0.9 ポイント減少している。

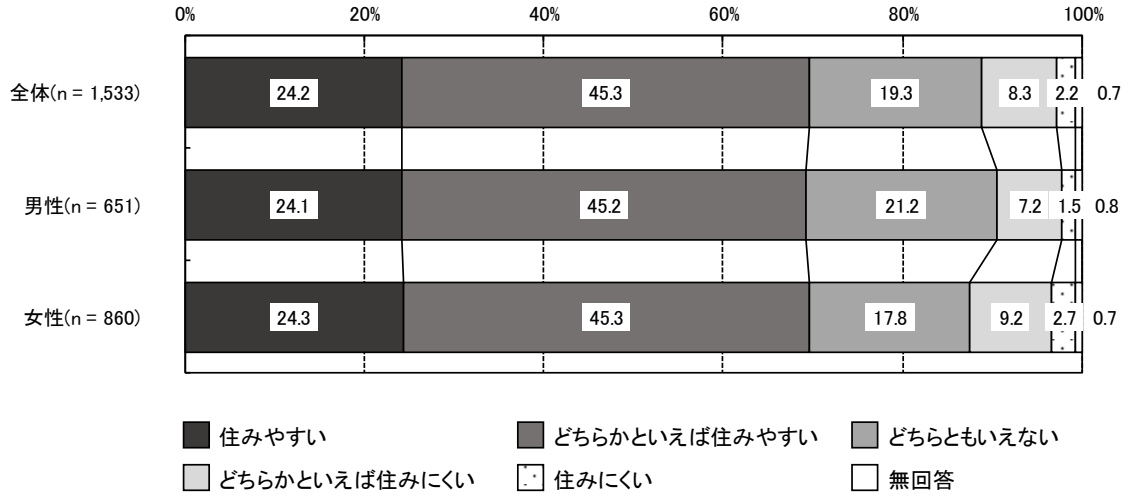
図 6-2 【前々回・前回比較】 現在住んでいる地域は住みやすいか



※ 選択肢、「住みやすい」は、第 37 回調査では「とても住みやすい」

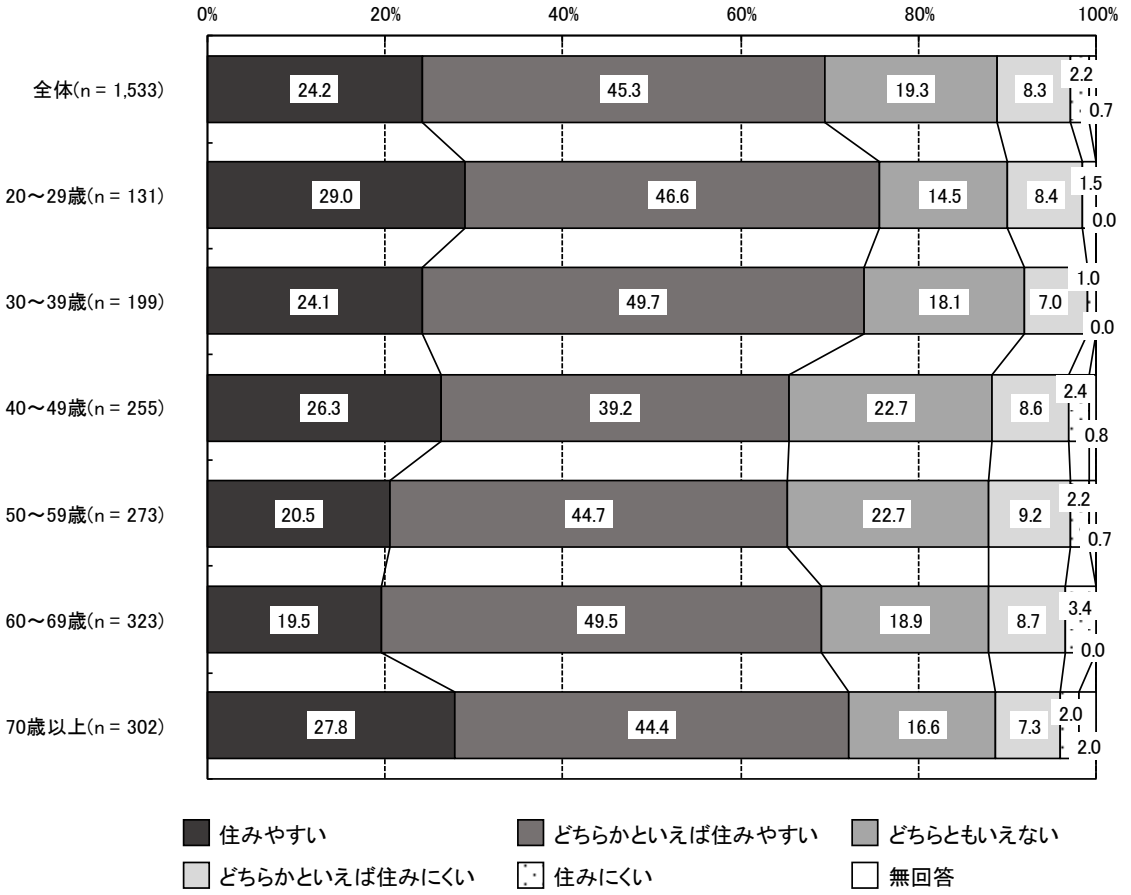
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 45.2%、女性は 45.3%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



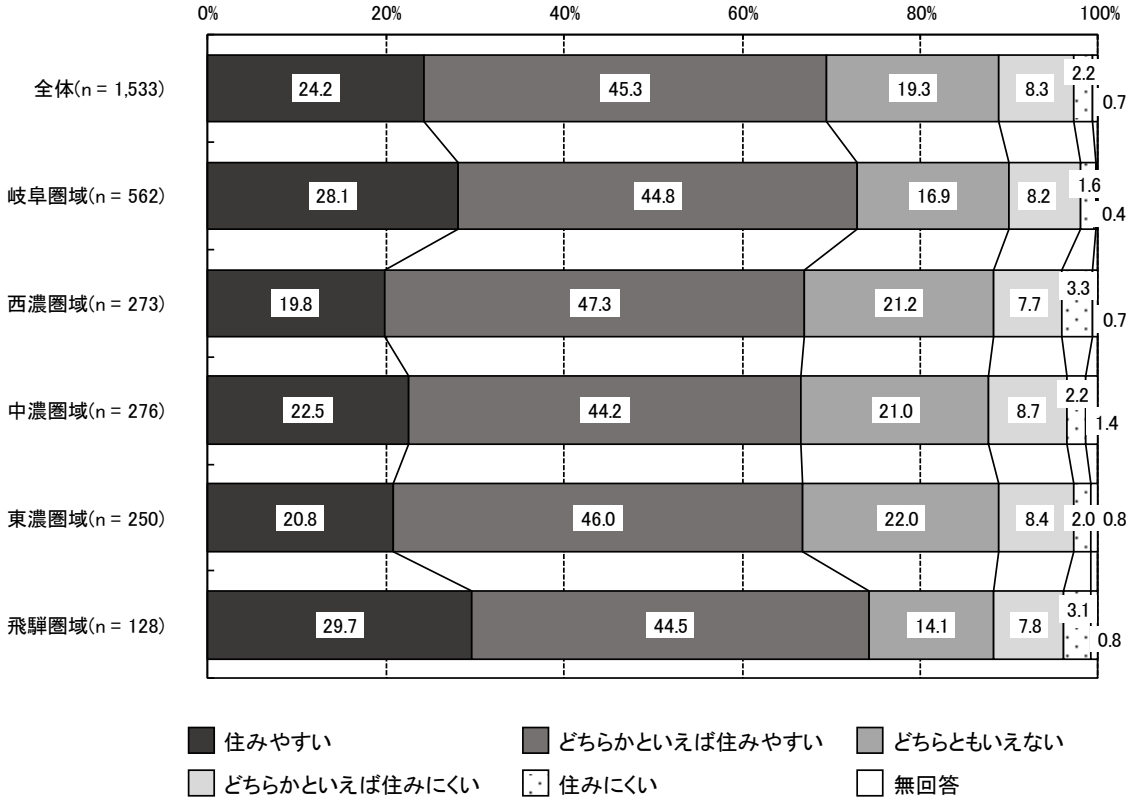
年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち 30 歳代が 49.7%と最も高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



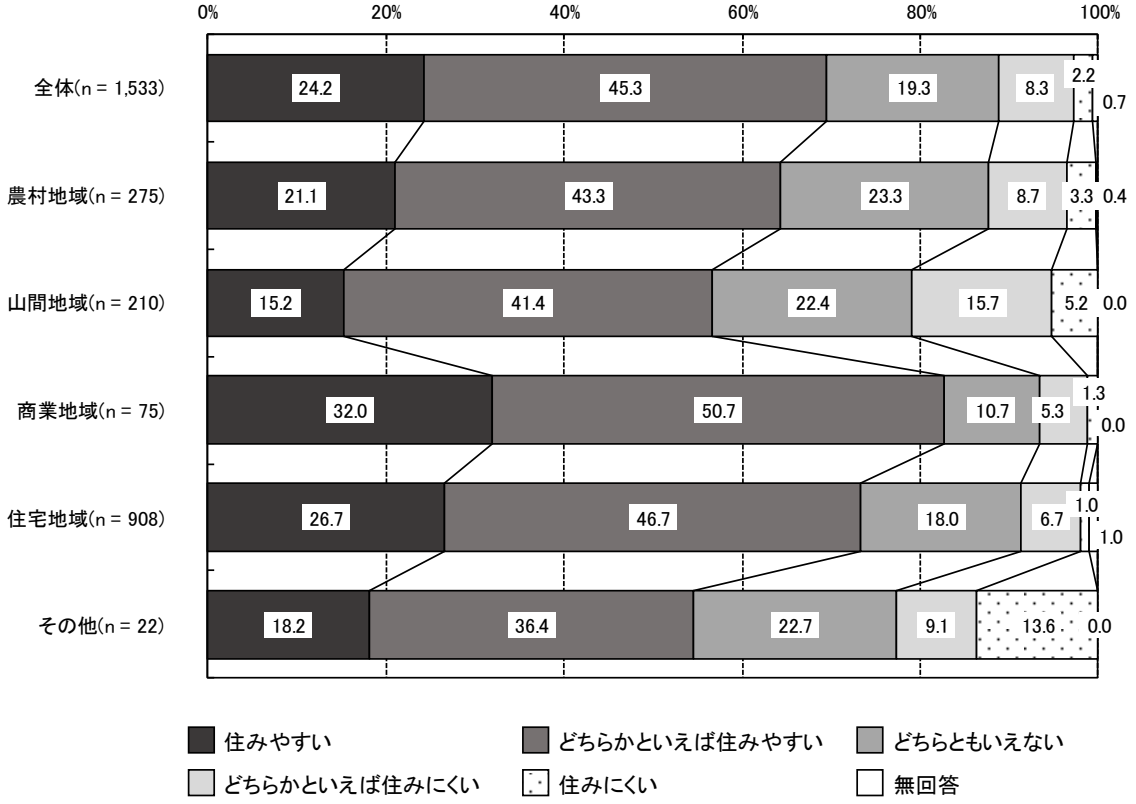
居住圏域別（図 6-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち西濃圏域が 47.3%と最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち商業地域が 50.7%と最も高くなっている。「住みやすい」についても、商業地域が 32.0%となっており、その他の居住環境と比べて高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか

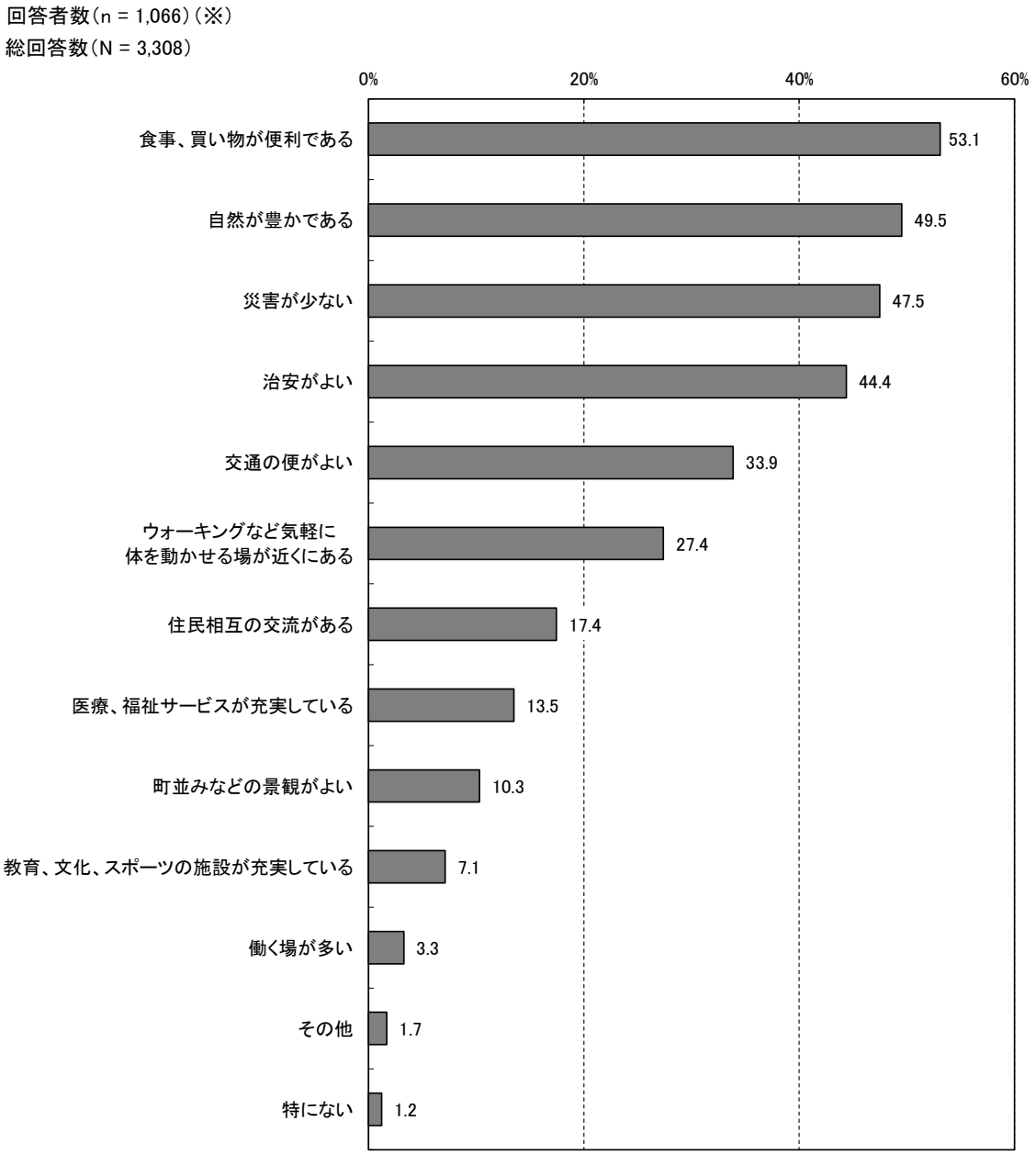


問６-２　住んでいる地域が住みやすいと感じる点

問６－２　「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図 6-2-1）でみると、「食事、買い物が便利である」が 53.1％と最も高く、次いで「自然が豊かである」（49.5％）、「災害が少ない」（47.5％）、「治安がよい」（44.4％）、「交通の便がよい」（33.9％）の順となっている。

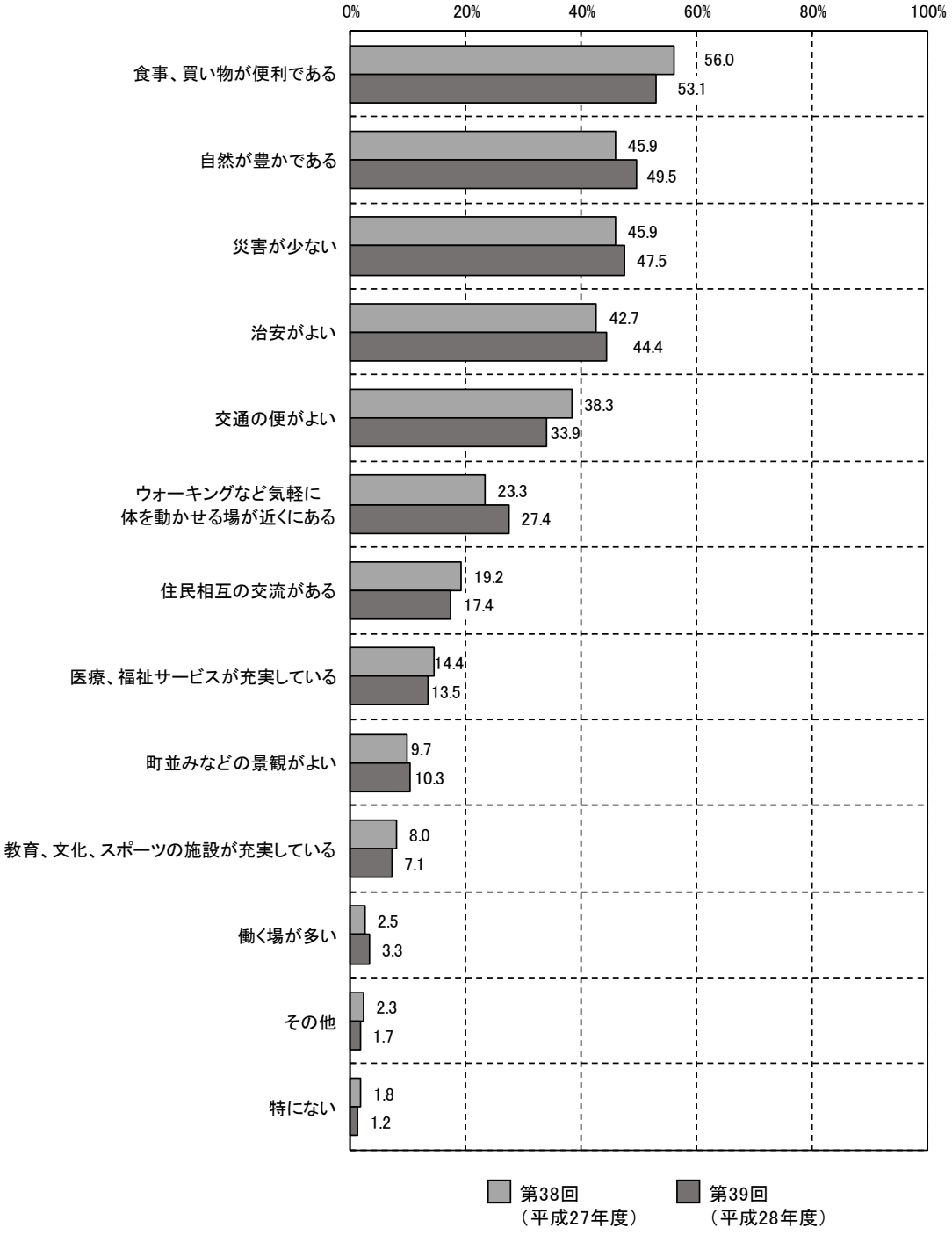
図 6-2-1　住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ 問 6 で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

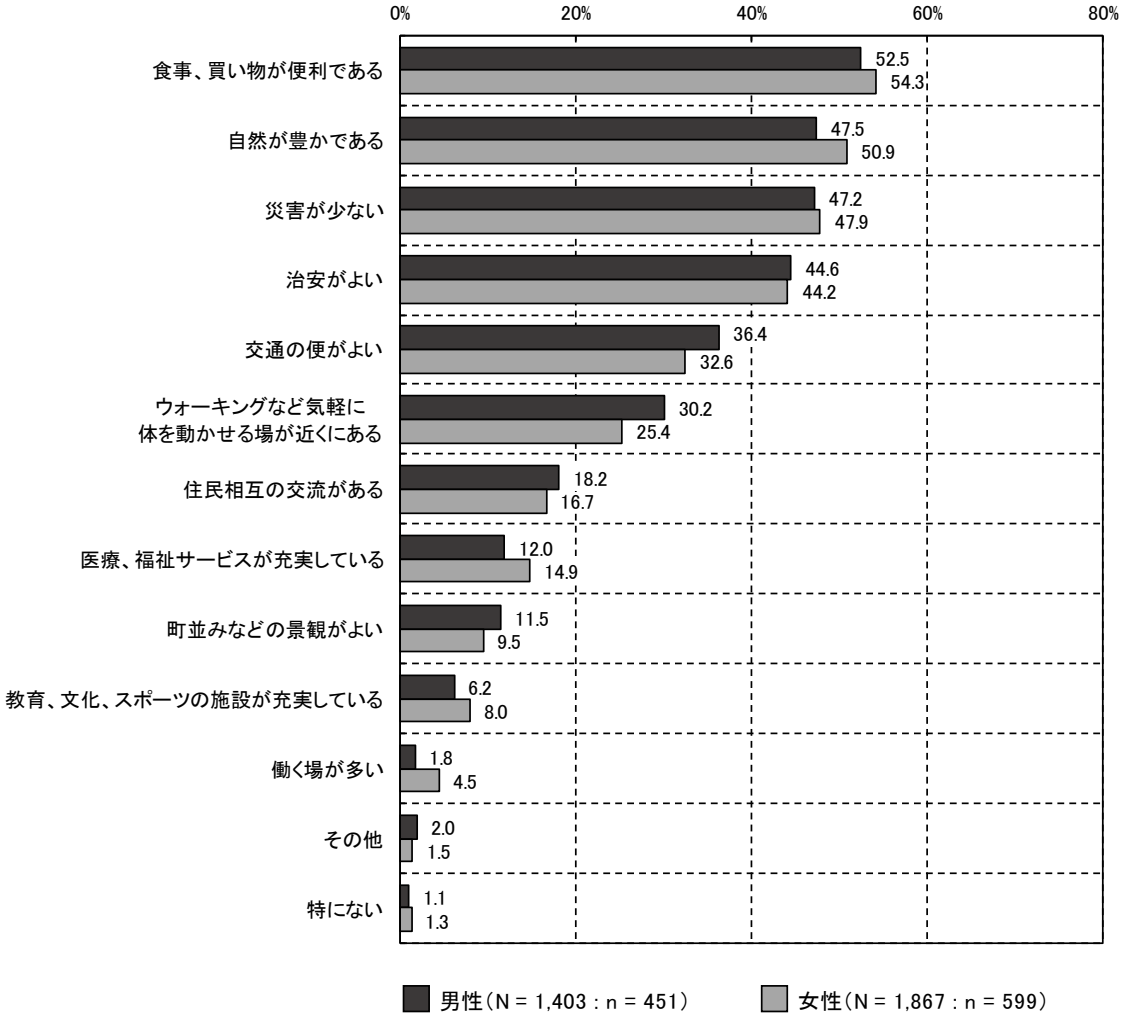
前回比較（図 6-2-2）でみると、前回と同様に「食事、買い物が便利である」が最も高いが、前回から 2.9 ポイント減少している。「自然が豊かである」は、前回から 3.6 ポイント増加している。

図 6-2-2 【前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高くなっており、男性が 52.5%、女性が 54.3%となっている。

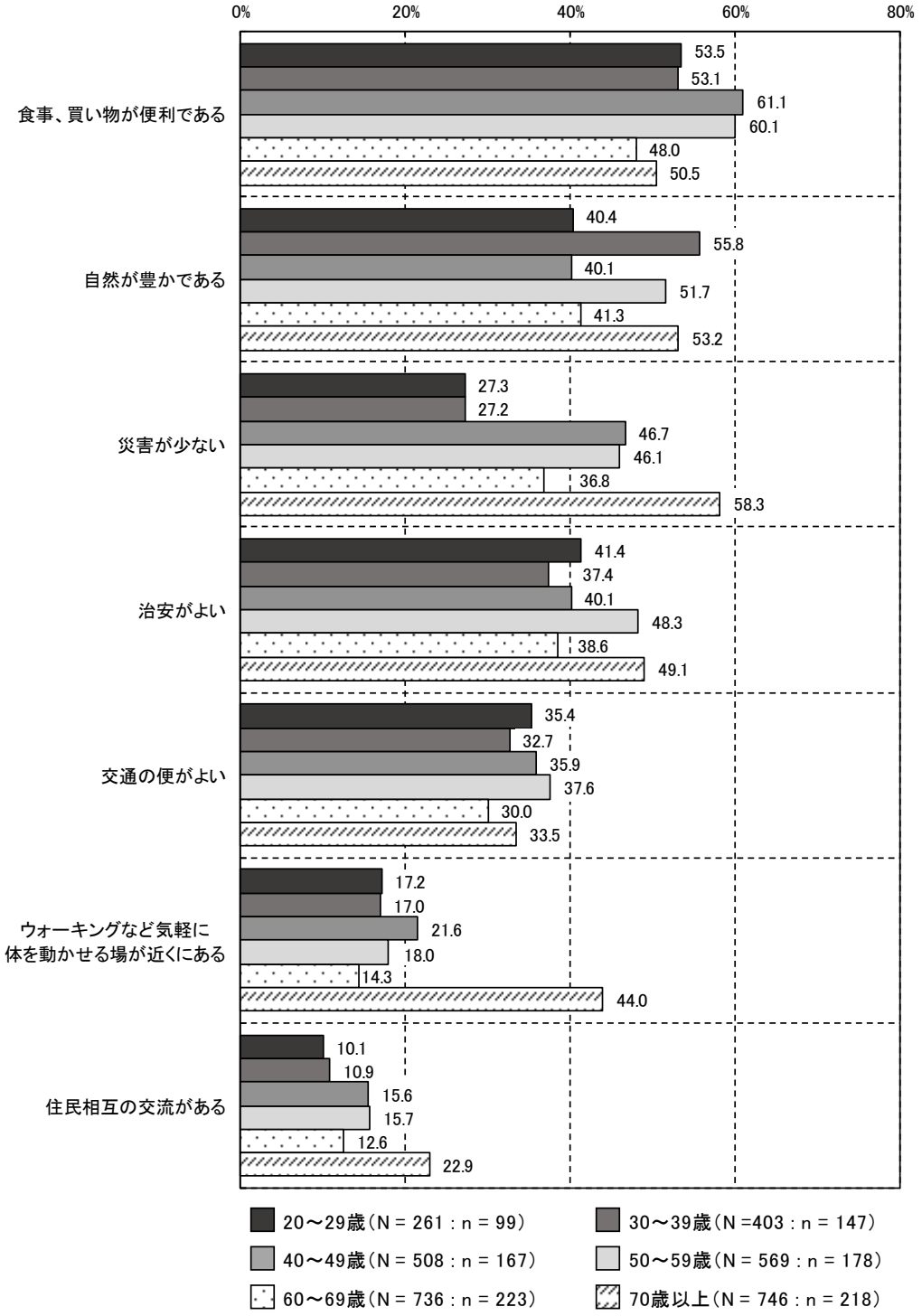
図 6-2-3 【性別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

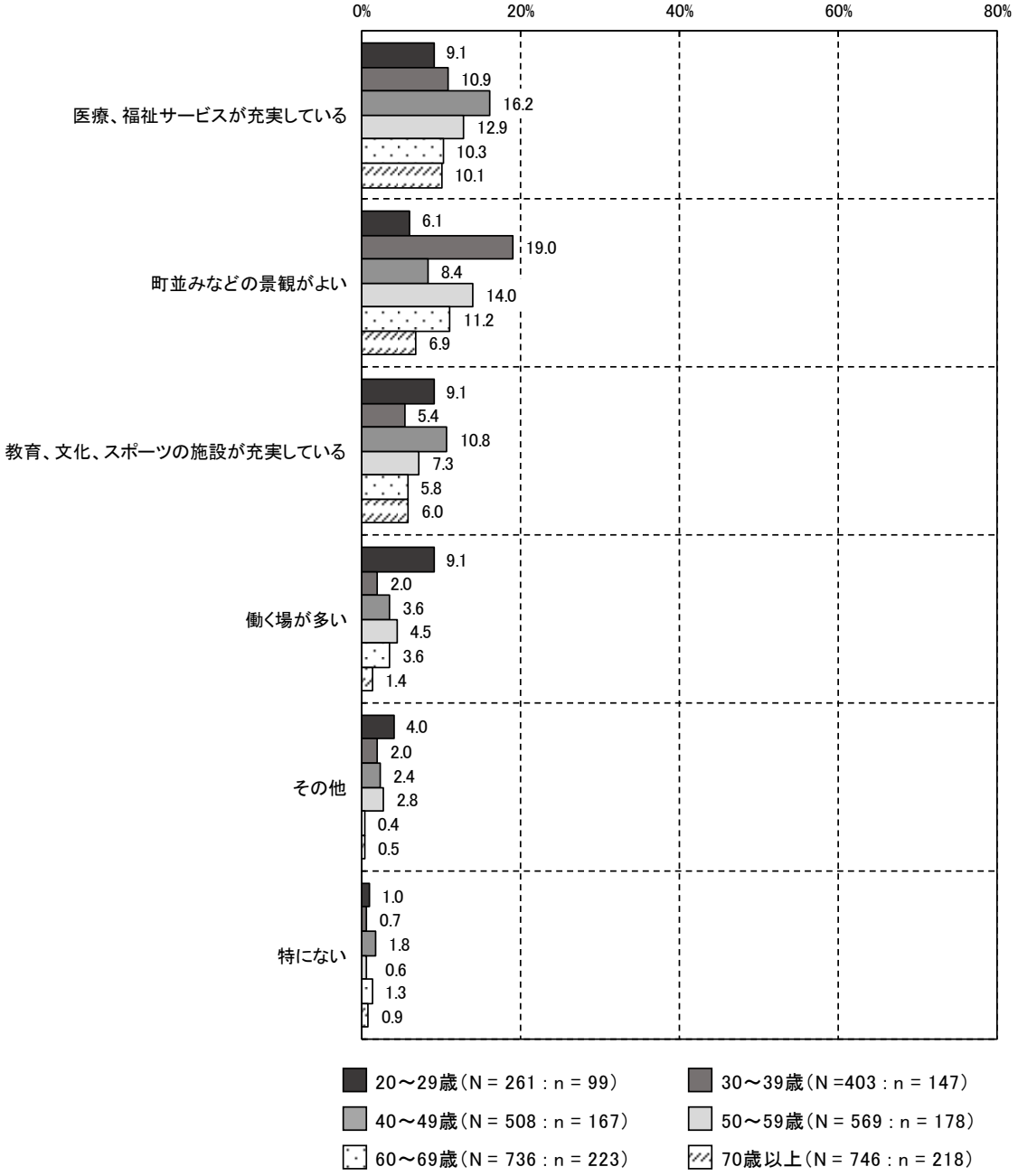
年代別（図 6-2-4）でみると、30 歳代と 70 歳以上を除く、いずれの年代においても「食事、買い物が便利である」が最も高く、そのうち 40 歳代が 61.1%と最も高くなっている。30 歳代では「自然が豊かである」が 55.8%と最も高く、70 歳以上では「災害が少ない」が 58.3%と最も高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

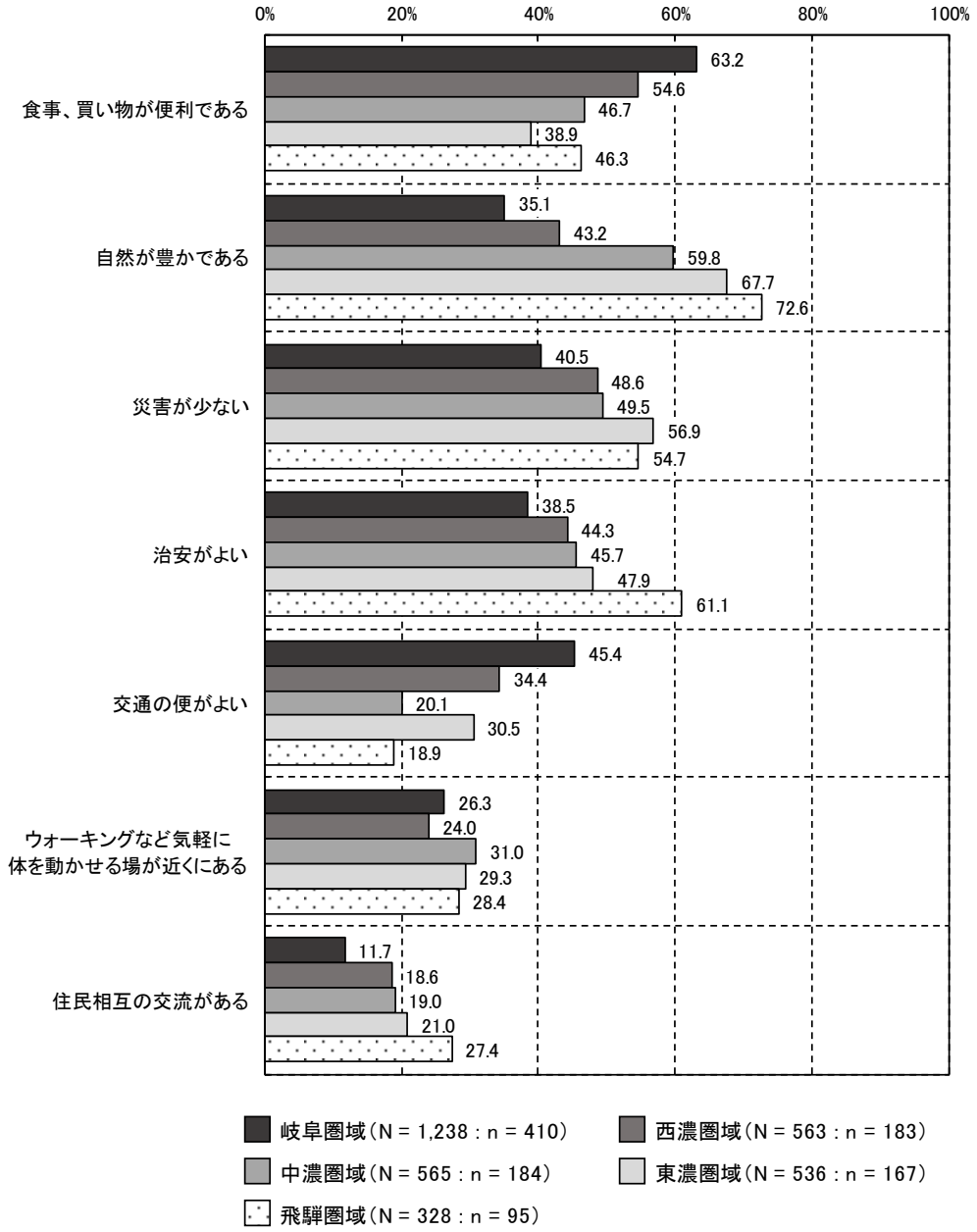
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

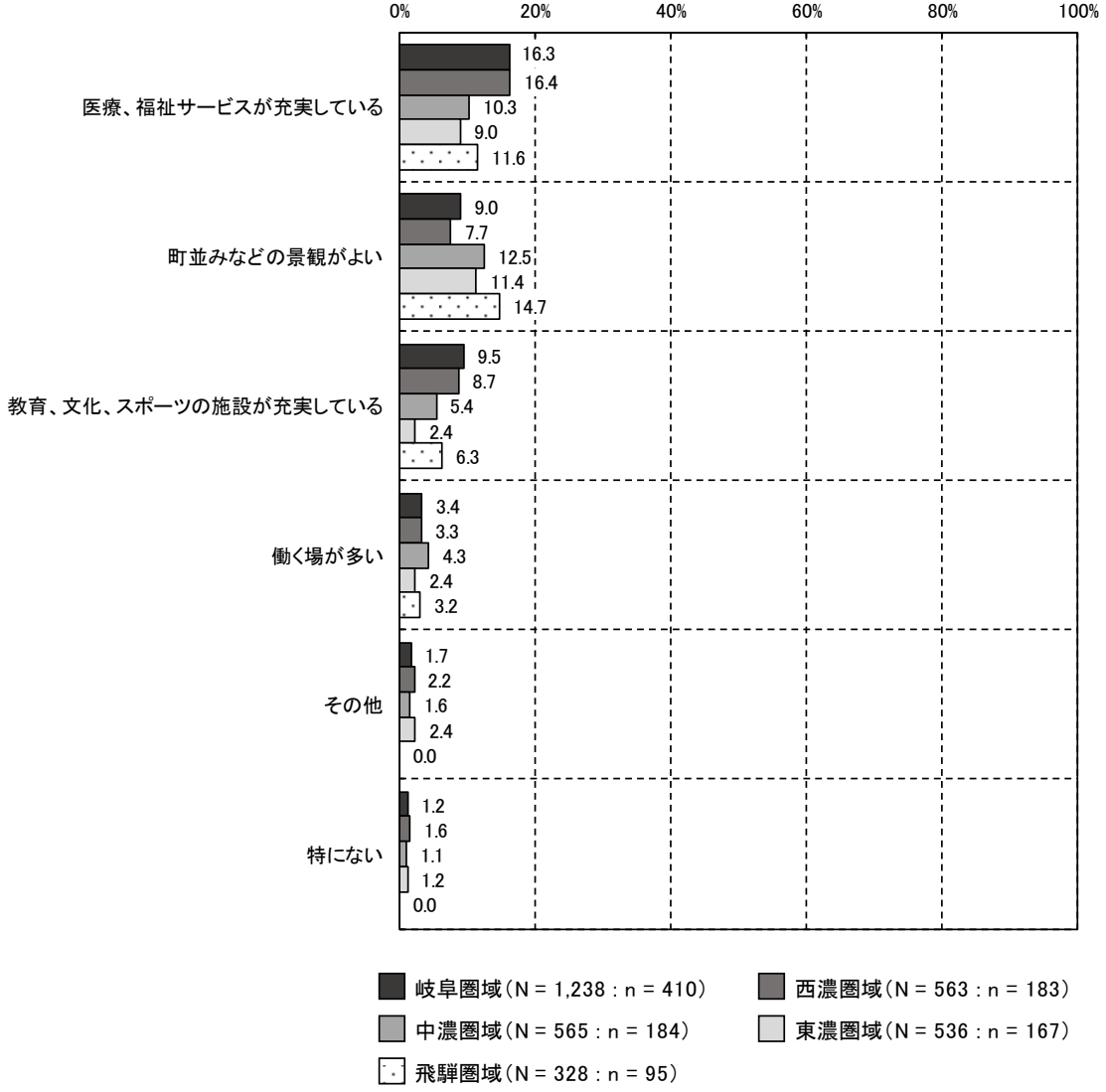
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域で「食事、買い物が便利である」が最も高く、岐阜圏域が 63.2%、西濃圏域が 54.6%となっている。中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 72.6%と最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

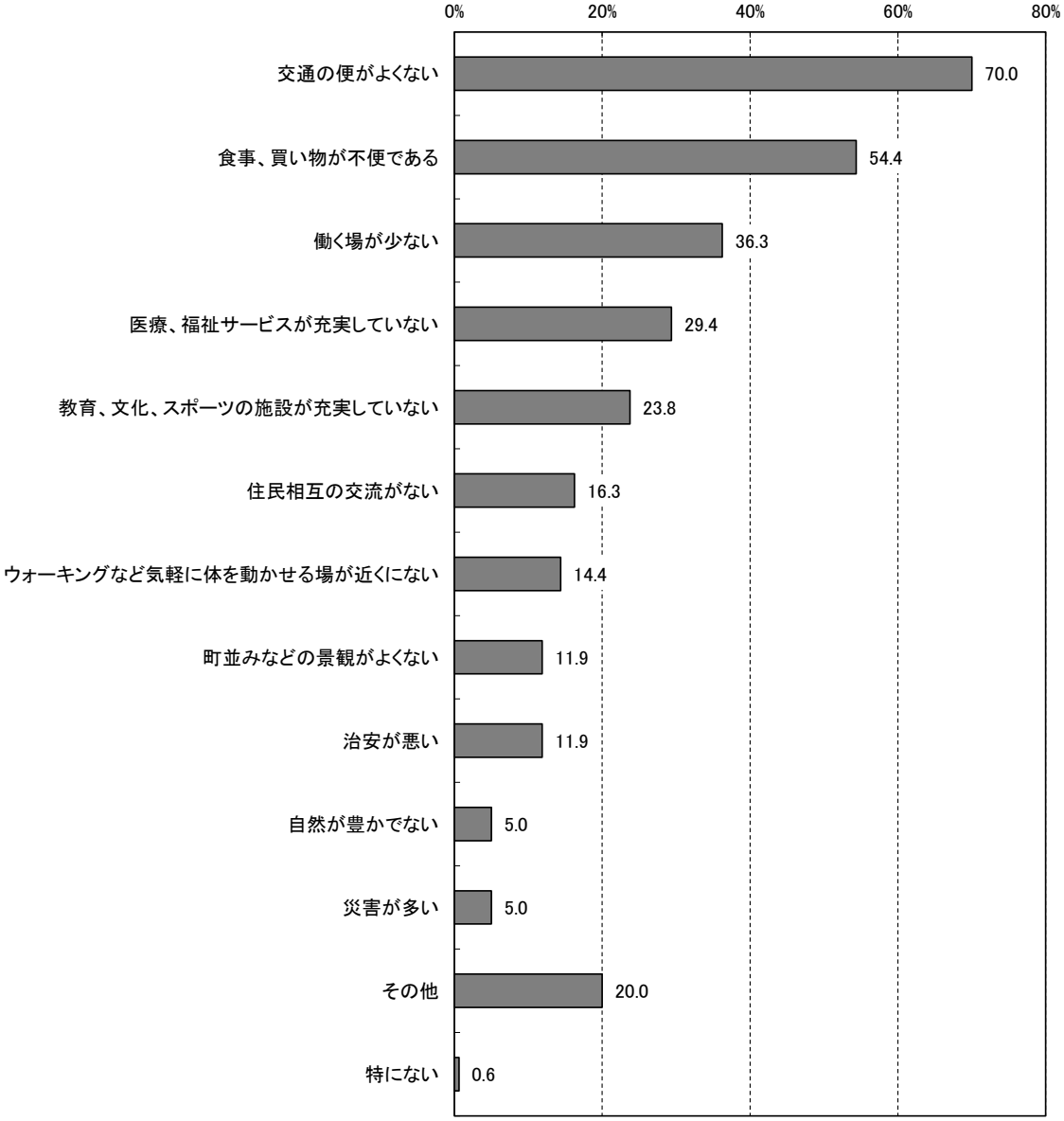
問６-３　住んでいる地域が住みにくいと感じる点

問６－３　「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。現在お住まいの地域が住みにくいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図 6-3-1）でみると、「交通の便がよくない」が 70.0％と最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」（54.4％）、「働く場が少ない」（36.3％）の順となっている。

図 6-3-1　住んでいる地域が住みにくいと感じる点

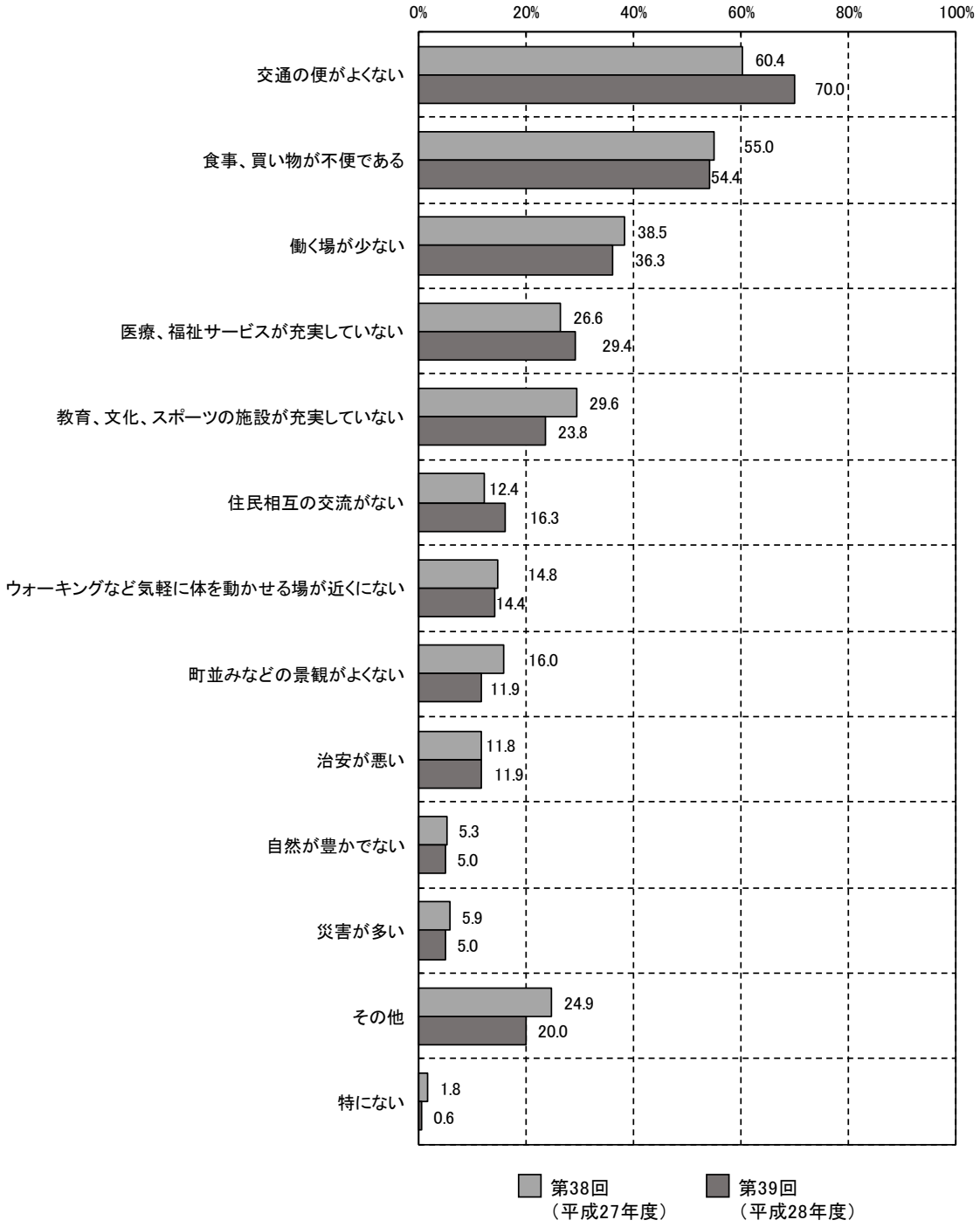
回答者数（n = 160）（※）
総回答数（N = 482）



※ 問 6 で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

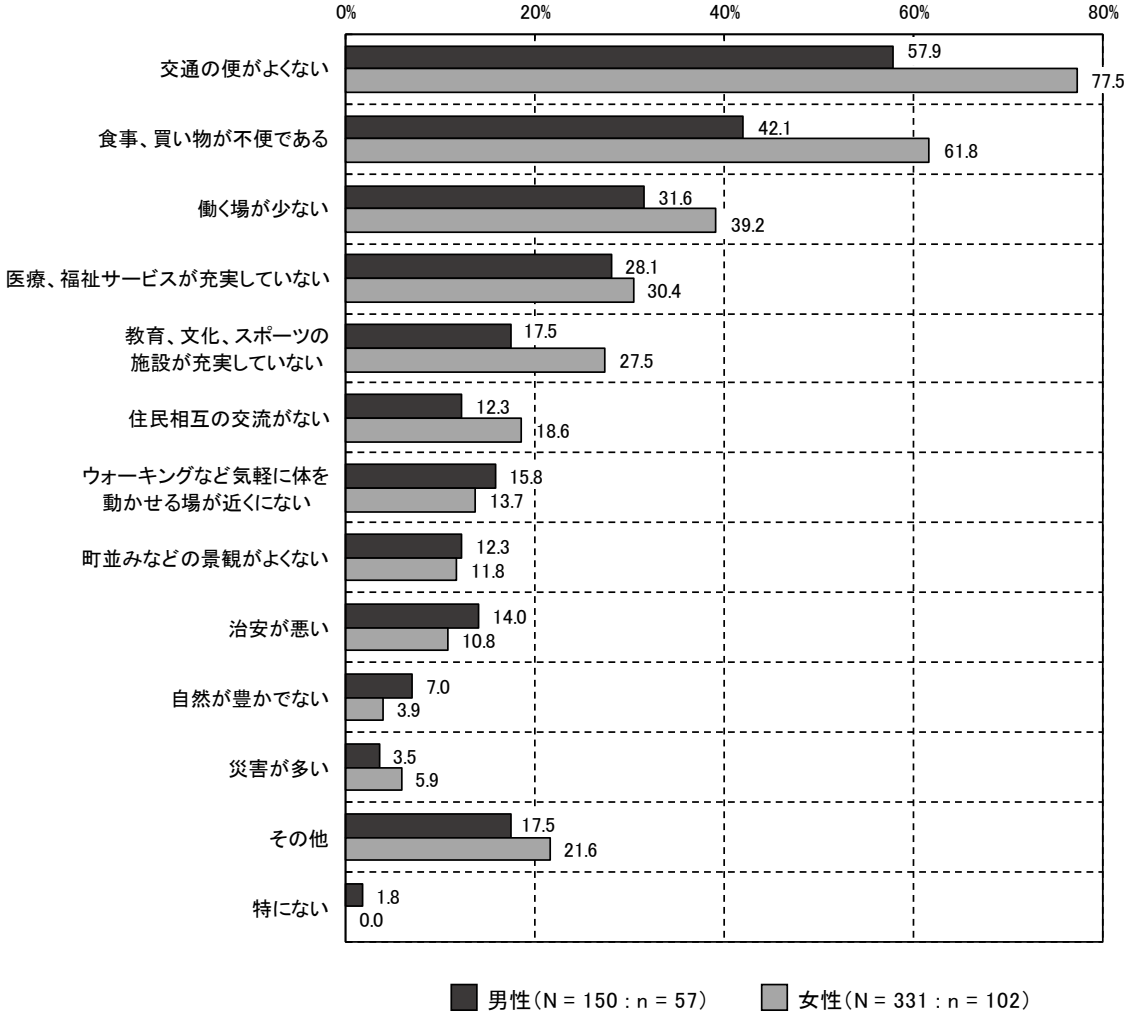
前回比較（図 6-3-2）でみると、前回と同様に「交通の便がよくない」が最も高く、前回から 9.6 ポイント増加している。

図 6-3-2 【前回比較】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別（図 6-3-3）でみると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高くなっており、女性が男性より 19.6 ポイント高くなっている。次いで「食事、買い物が不便である」が高く、女性が男性より 19.7 ポイント高くなっている。

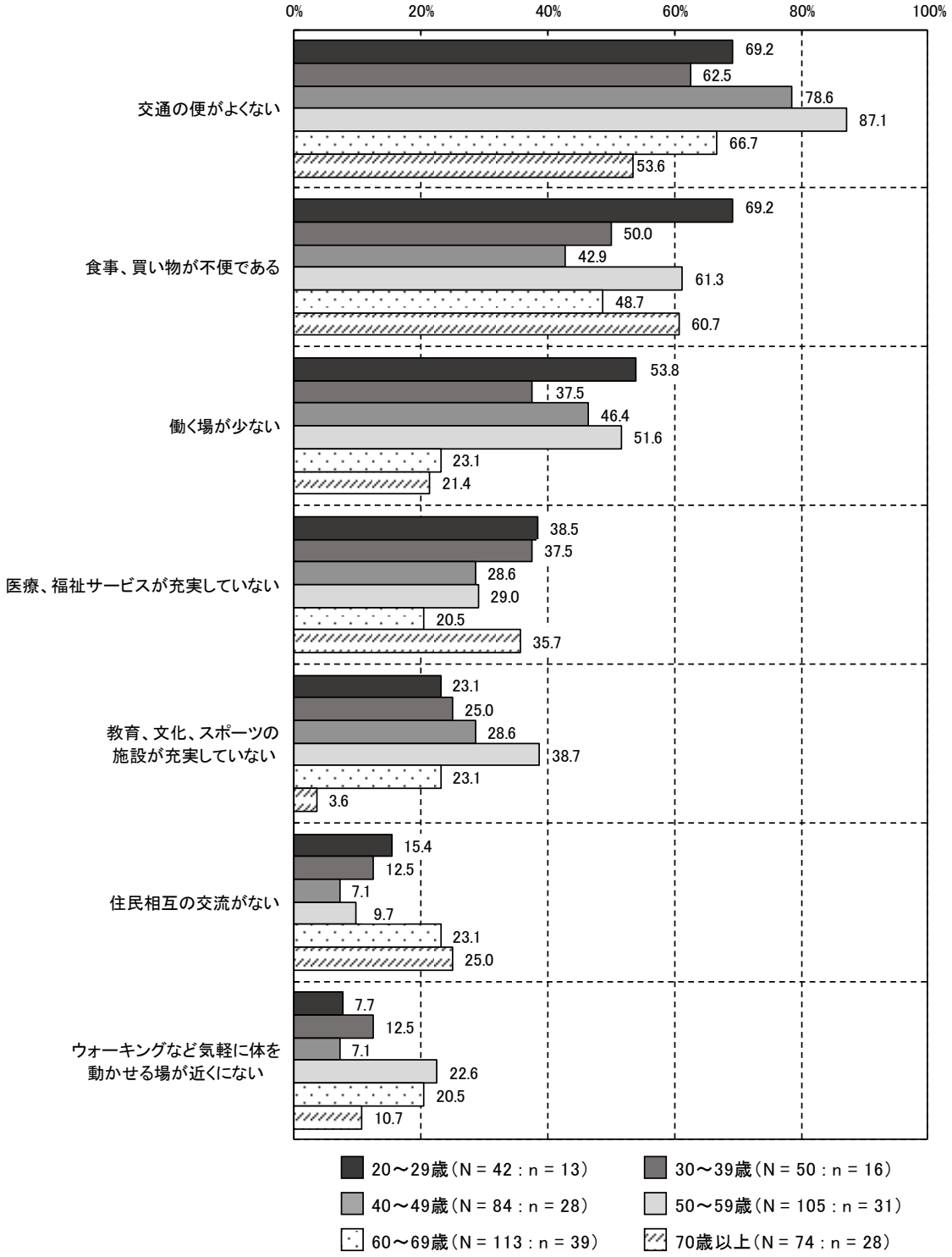
図 6-3-3 【性別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

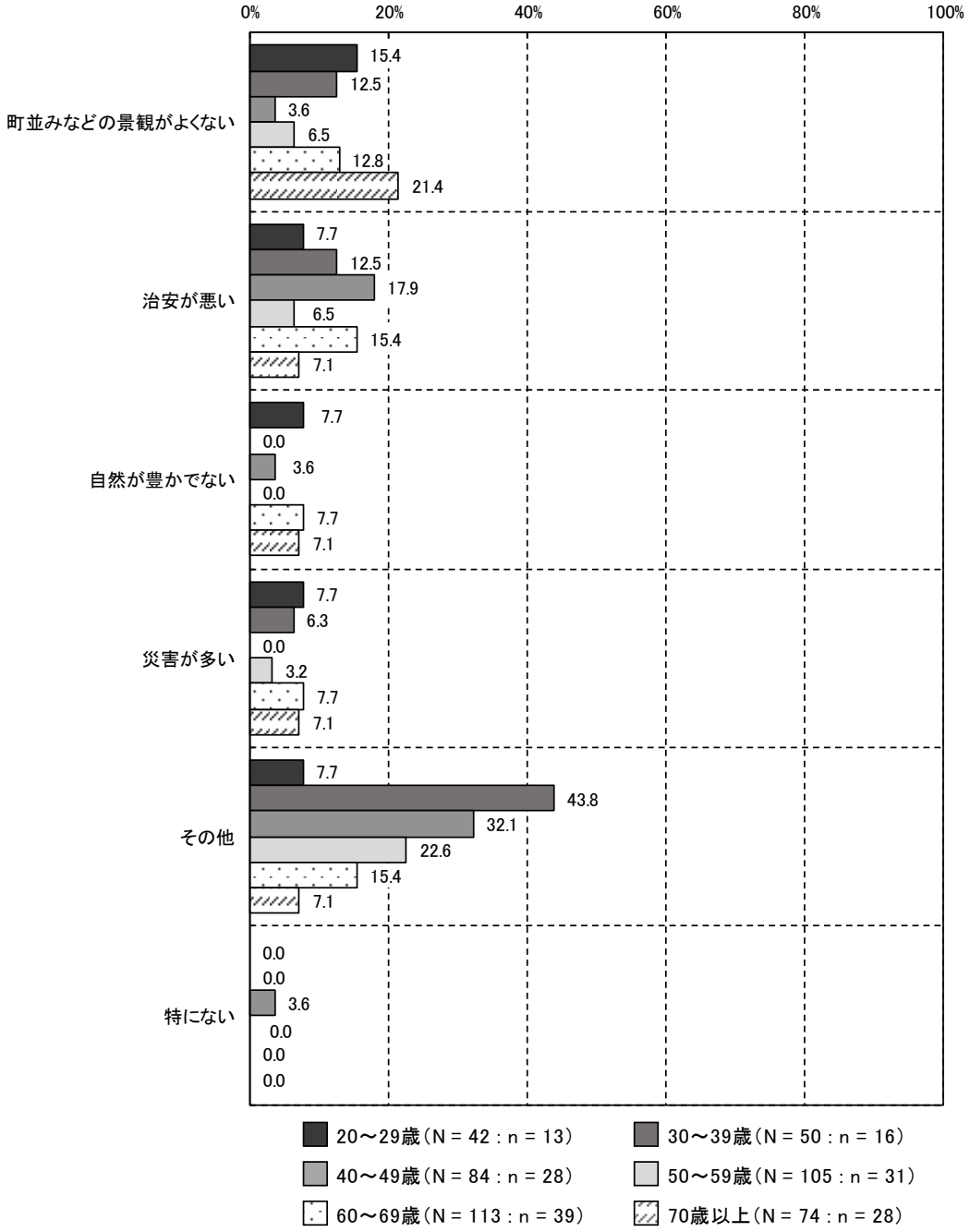
年代別（図 6-3-4）でみると、70 歳代を除く、いずれの年代においても「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち 50 歳代が 87.1%と最も高くなっている。70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が 60.7%と最も高くなっている。20 歳代については、「食事、買い物が不便である」と「交通の便がよくない」が 69.2%と最も高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

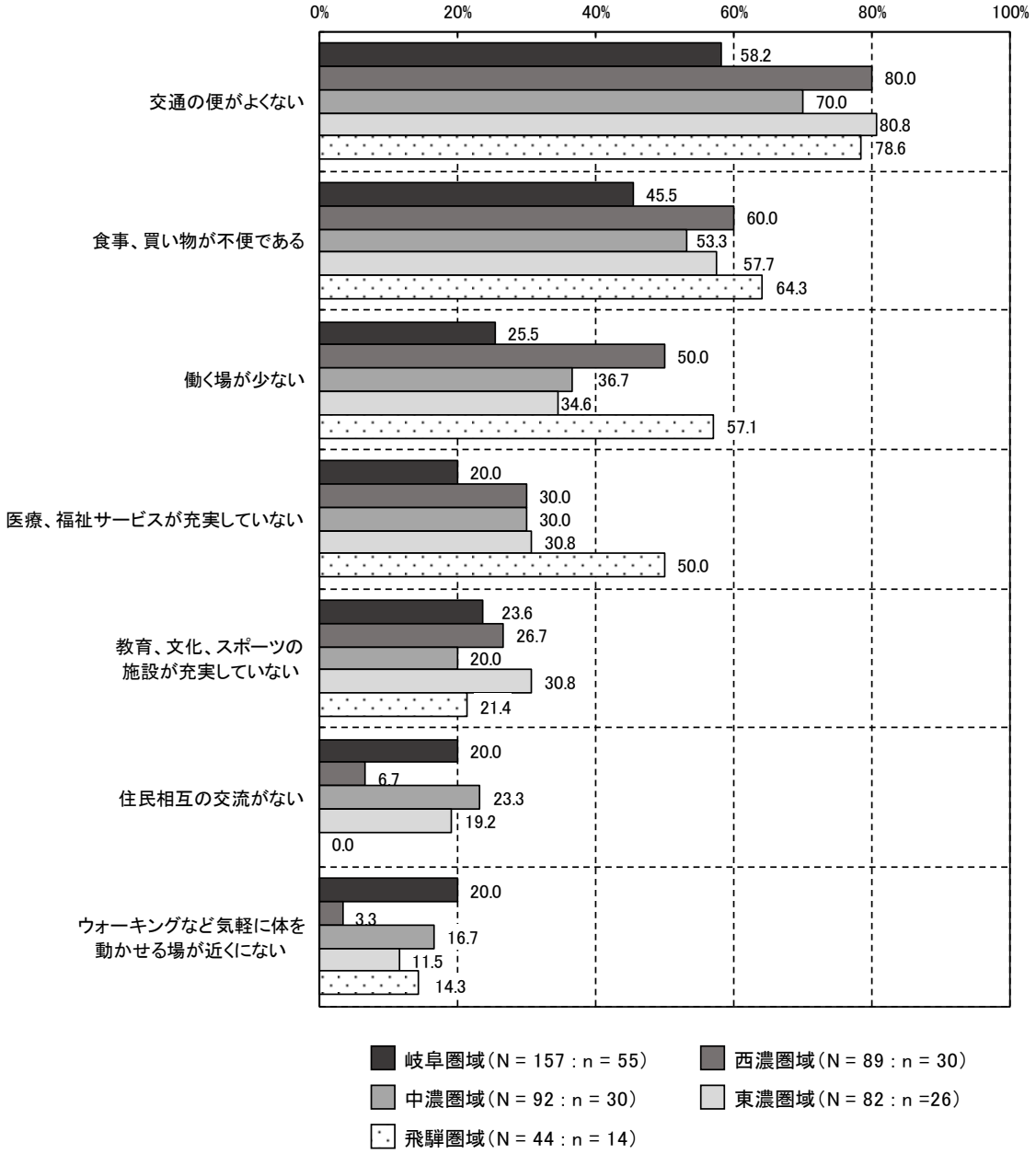
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

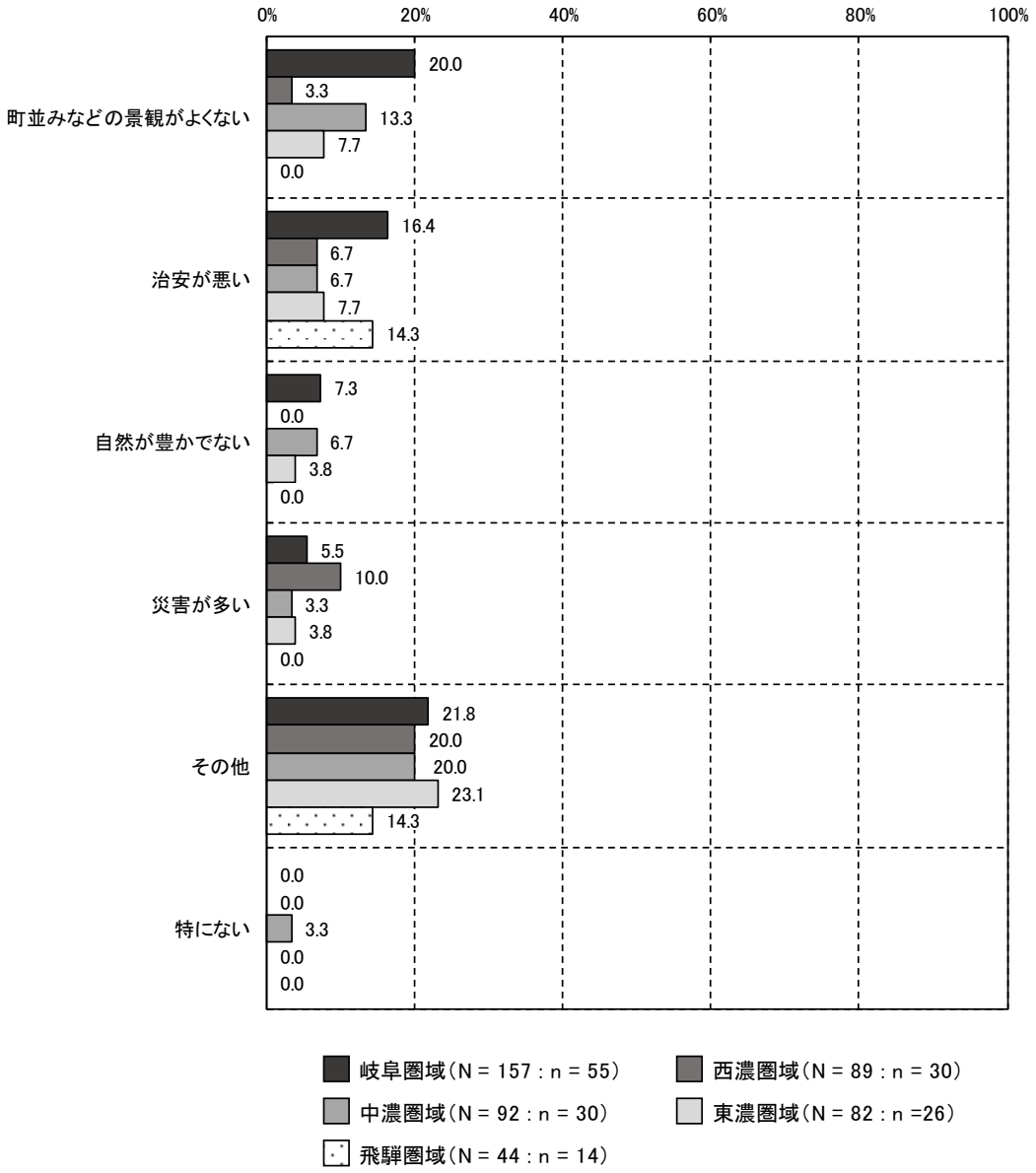
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち東濃圏域が 80.8%と最も高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 （続き）



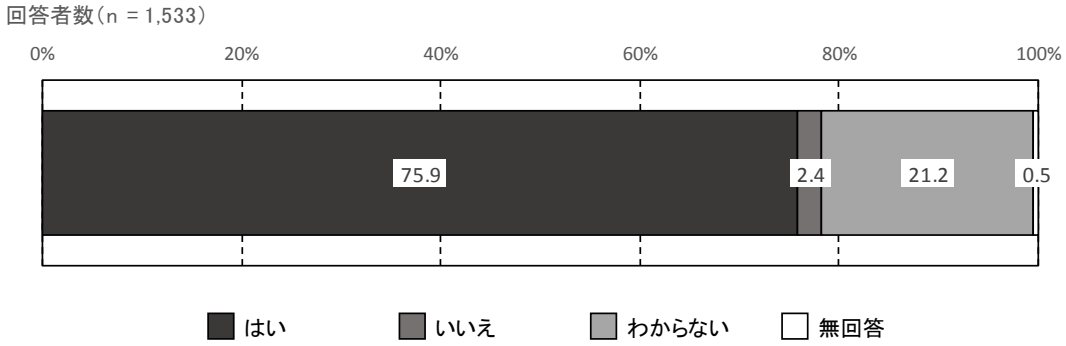
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問７　今後も岐阜県に住み続けたいか

問７　あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。（１つだけ）

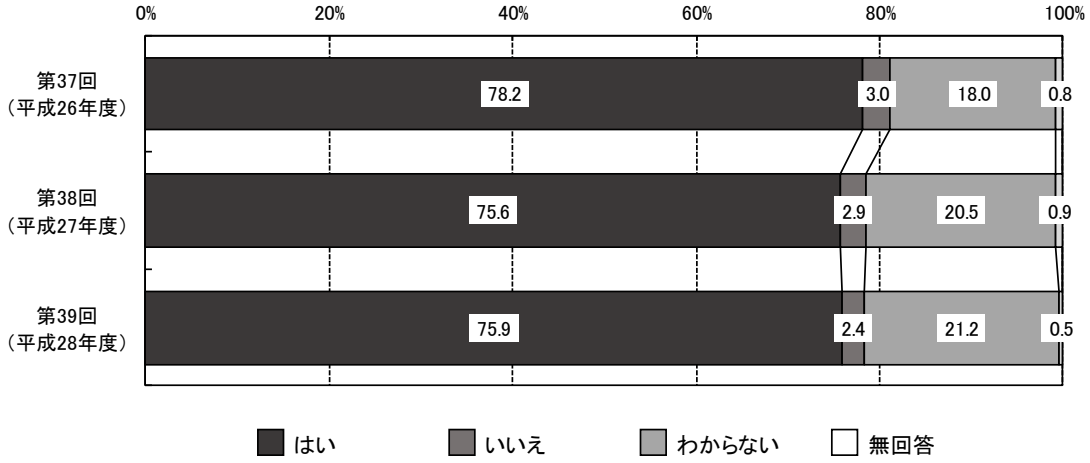
全体（図 7-1）でみると、「はい」が 75.9％と最も高くなっている。

図 7-1　今後も岐阜県に住み続けたいか



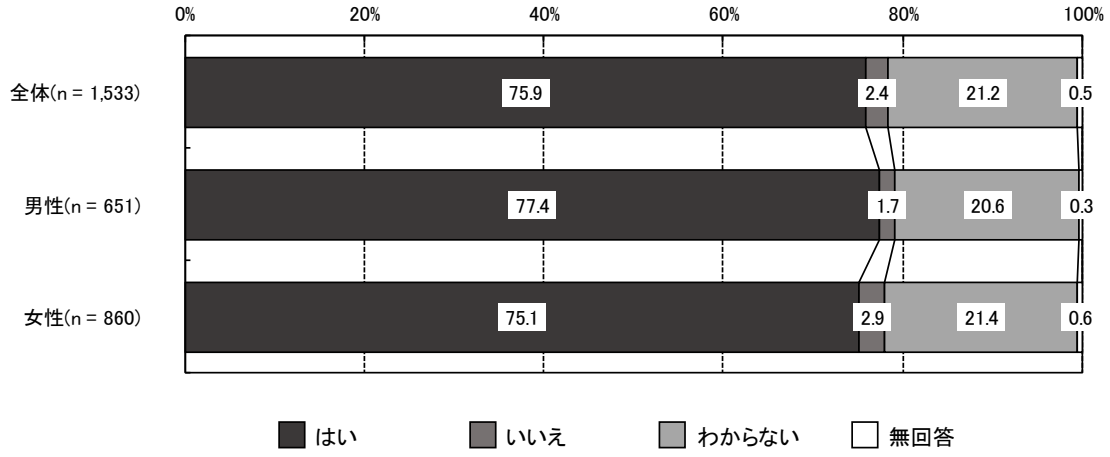
前々回・前回比較（図 7-2）でみると、前々回、前回と同様に「はい」が最も高く、前回に比べて 0.3 ポイント増加している。

図 7-2 【前々回･前回比較】 今後も岐阜県に住み続けたいか



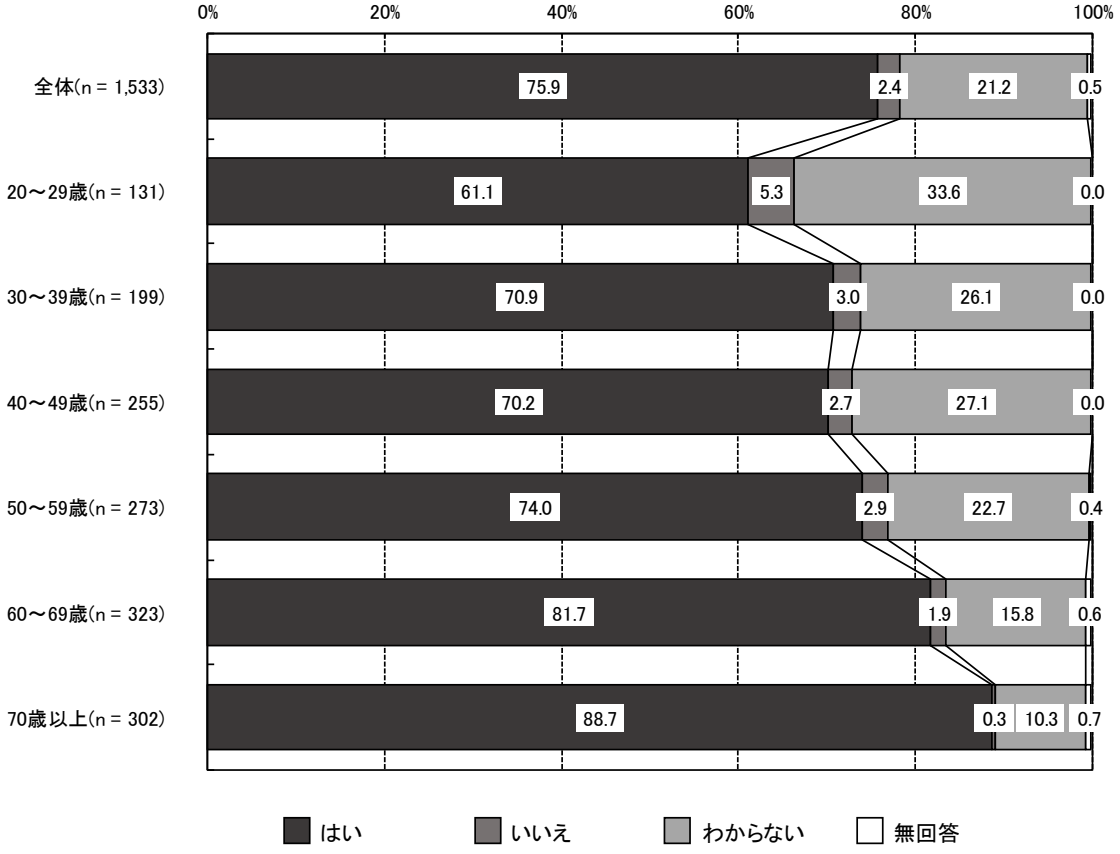
性別（図 7-3）でみると、男女ともに「はい」が最も高くなっており、男性が 77.4%、女性が 75.1%となっている。

図 7-3【性別】今後も岐阜県に住み続けたいか



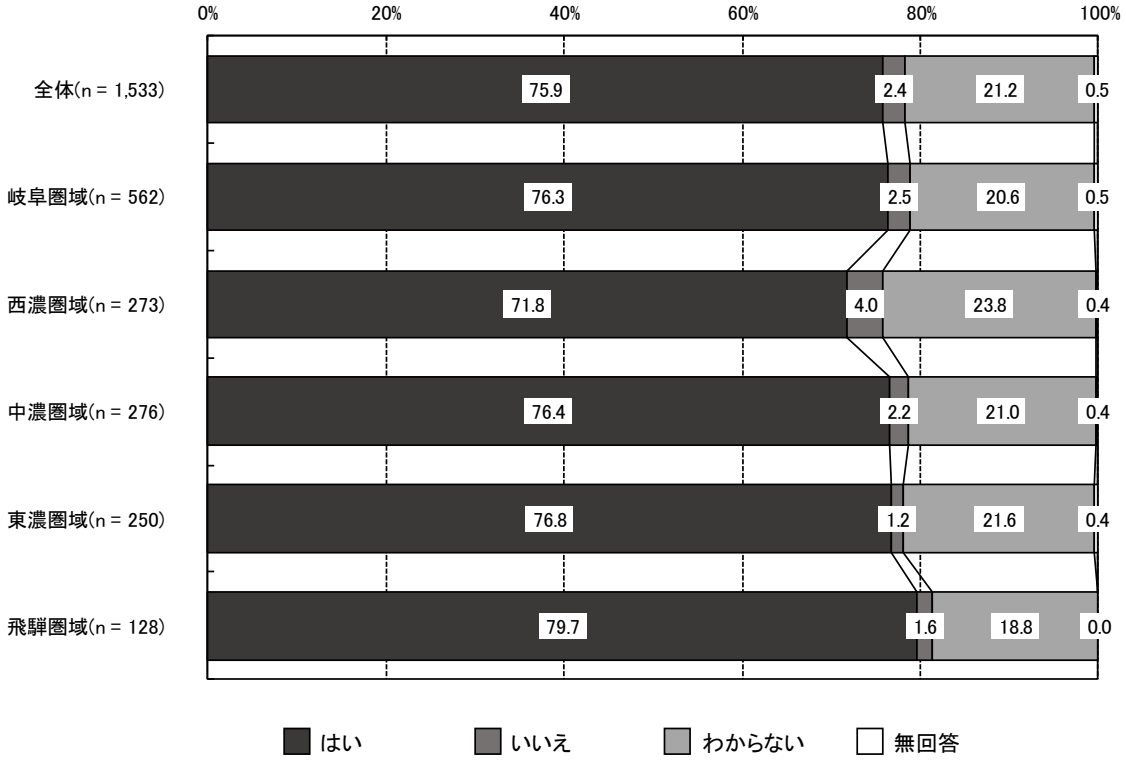
年代別（図 7-4）でみると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 88.7%と最も高くなっている。

図 7-4【年代別】今後も岐阜県に住み続けたいか



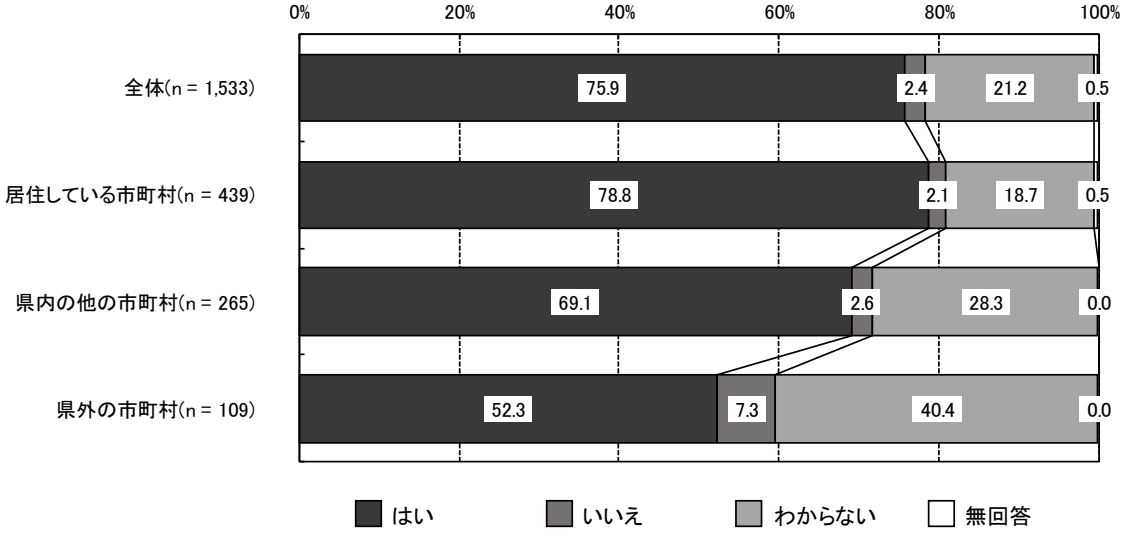
居住圏域別（図 7-5）でみると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 79.7%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



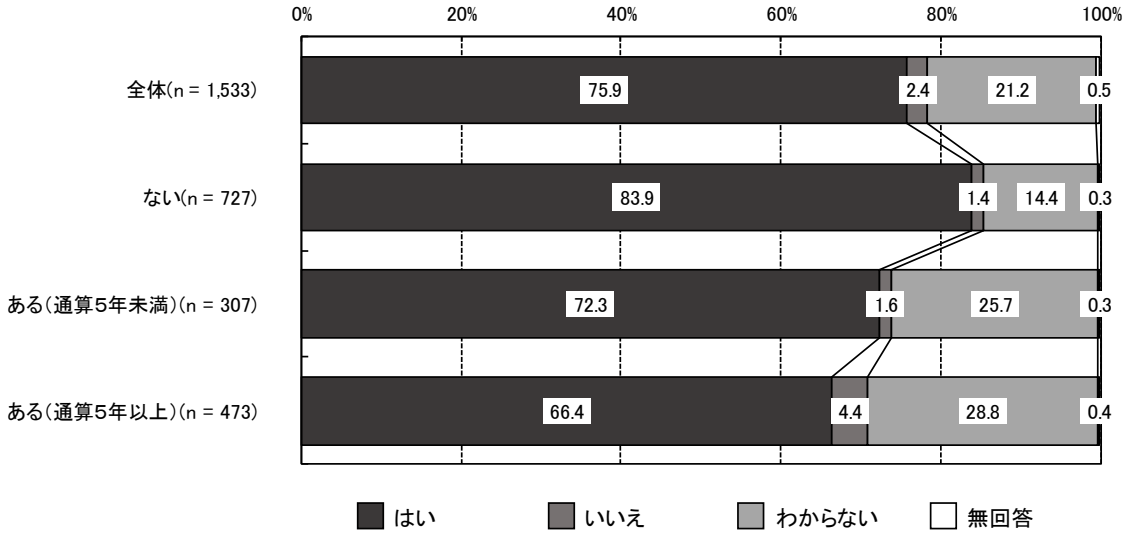
通勤、通学先別（図 7-6）でみると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち居住している市町村が 78.8%と最も高くなっている。

図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



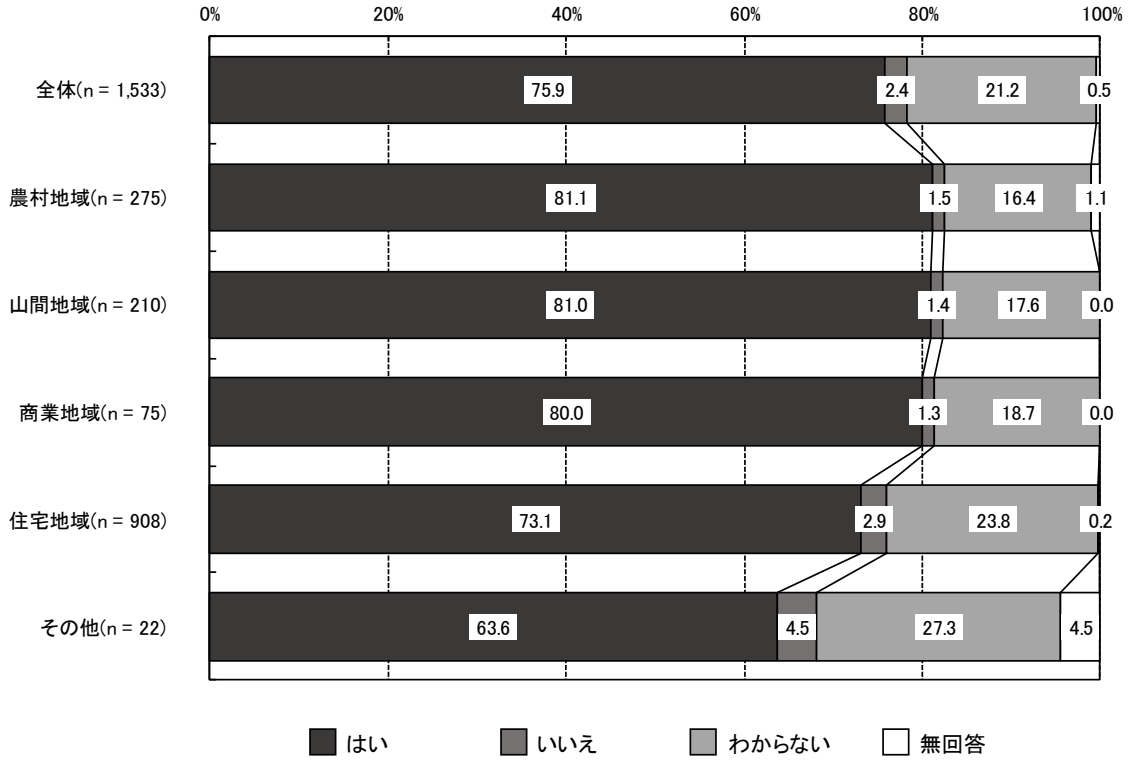
県外居住経験の有無別（図 7-7）でみると、県外居住経験がない人は、ある人と比べて「はい」が 83.9%と高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



居住環境別（図 7-8）でみると、いずれの地域においても「はい」が最も高く、そのうち農村地域が 81.1%と最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



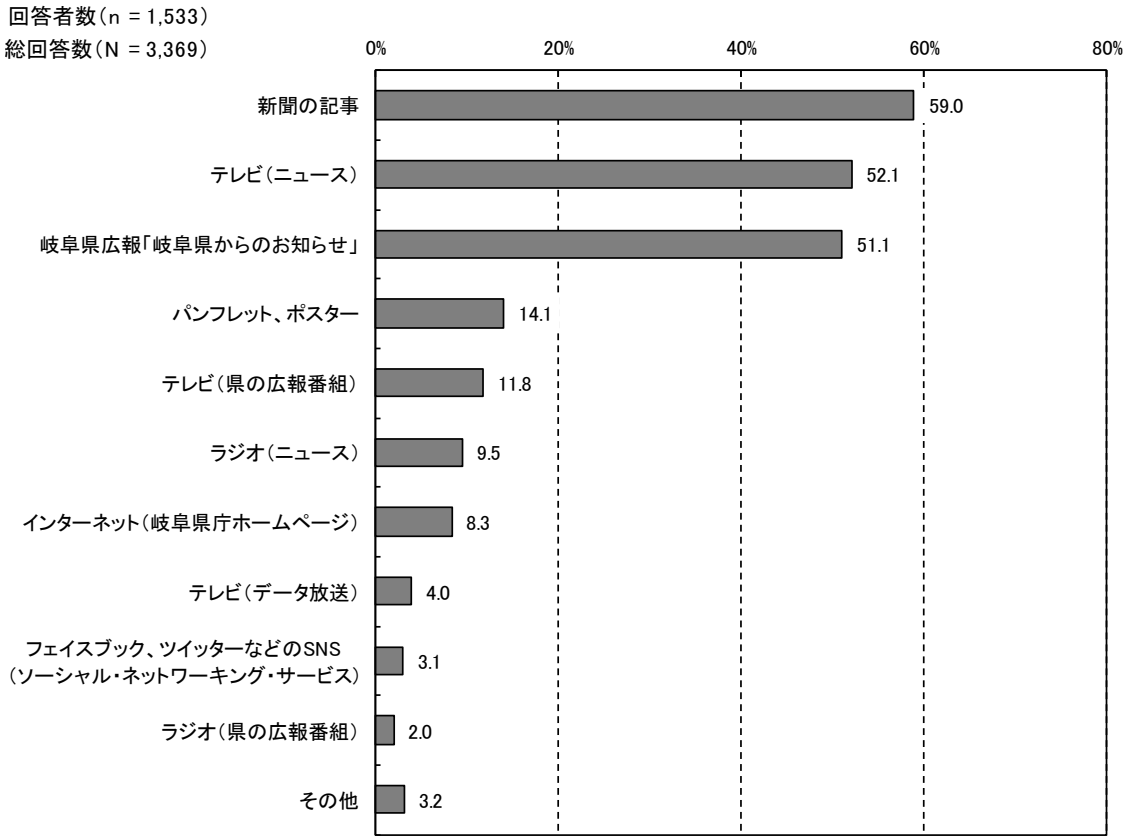
２．２　県の取り組み全般について

問８　施策や事業についての情報の入手方法

問８　あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。（いくつでも）

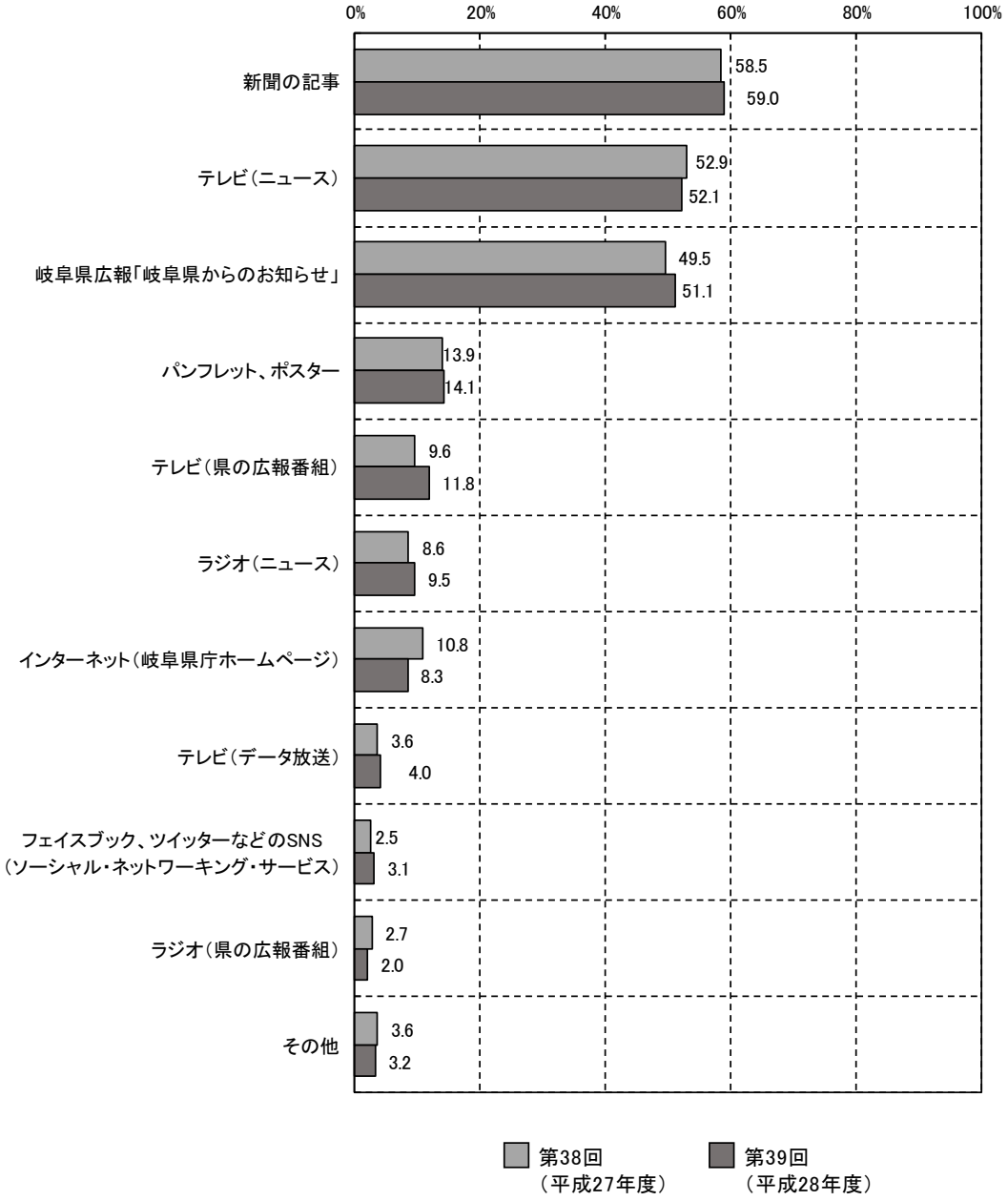
全体（図 8-1）でみると、「新聞の記事」が 59.0％と最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」（52.1％）、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（51.1％）の順となっている。

図 8-1　施策や事業についての情報の入手方法



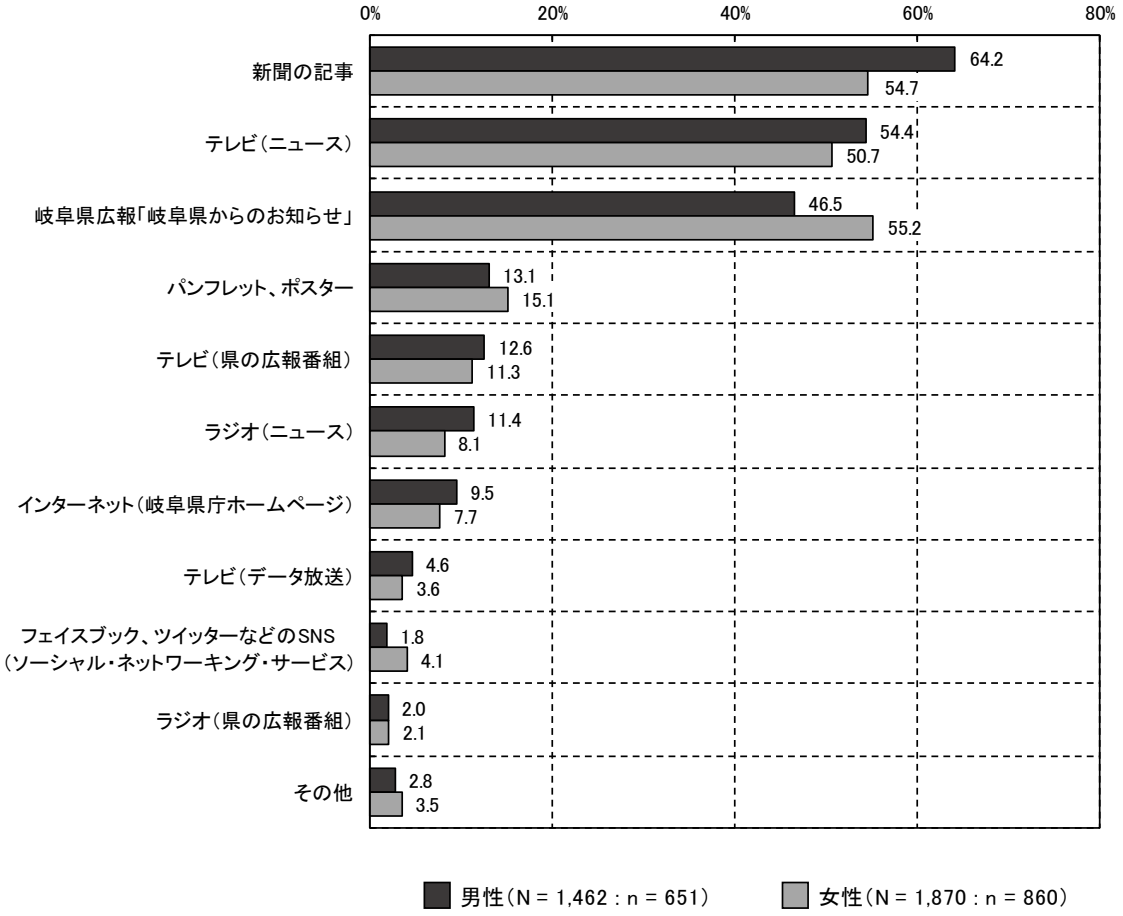
前回比較（図 8-2）でみると、前回と同様に「新聞の記事」が最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」の順となっている。

図 8-2 【前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）でみると、男性は「新聞の記事」が 64.2%と最も高く、男性が女性より 9.5 ポイント高くなっている。女性は「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が 55.2%と最も高く、女性が男性より 8.7 ポイント高くなっている。

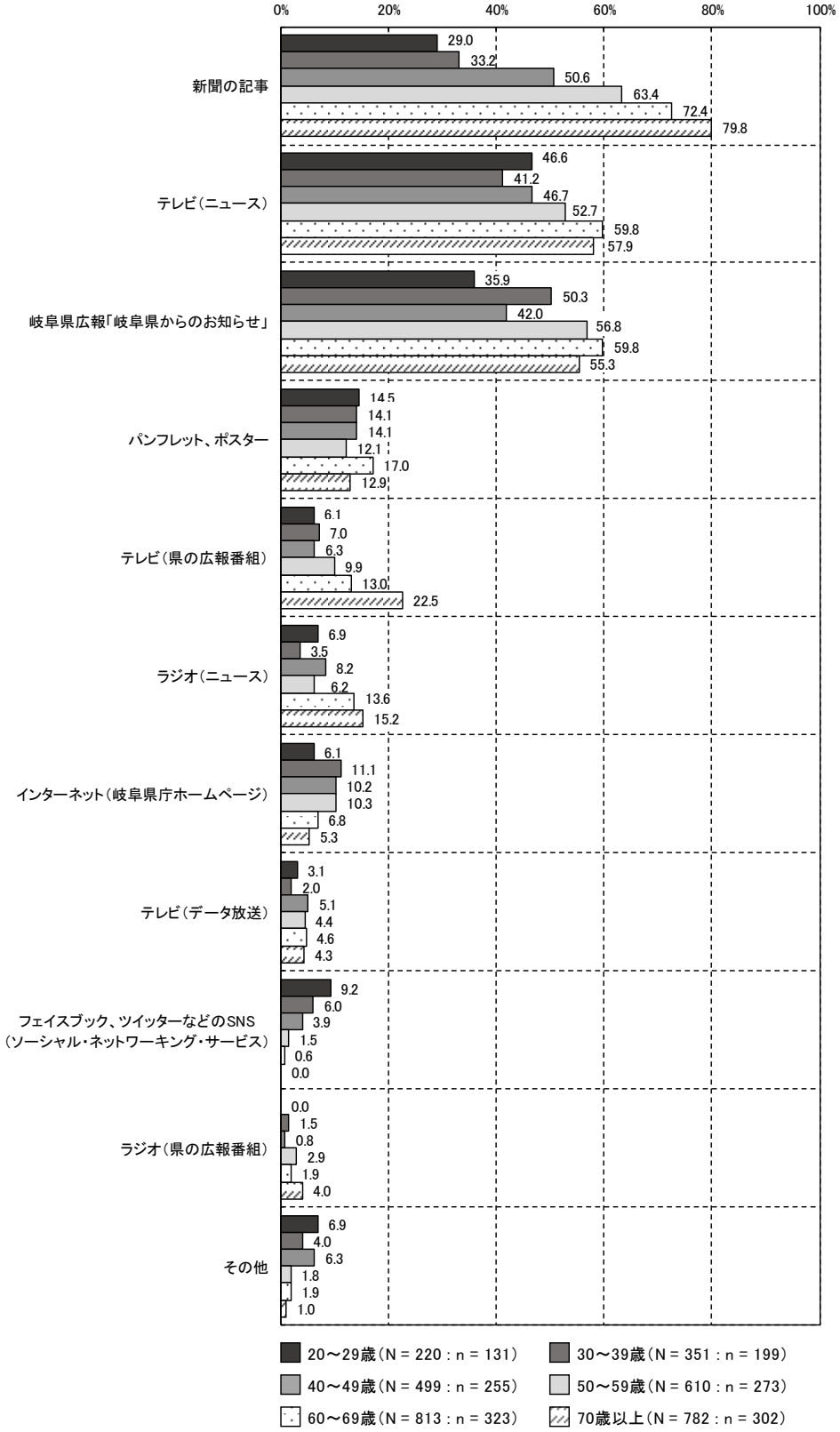
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 8-4）でみると、20 歳代、30 歳代を除く、いずれの年代においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 79.8%と最も高くなっている。20 歳代では「テレビ（ニュース）」が 46.6%、30 歳代では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が 50.3%と最も高くなっている。

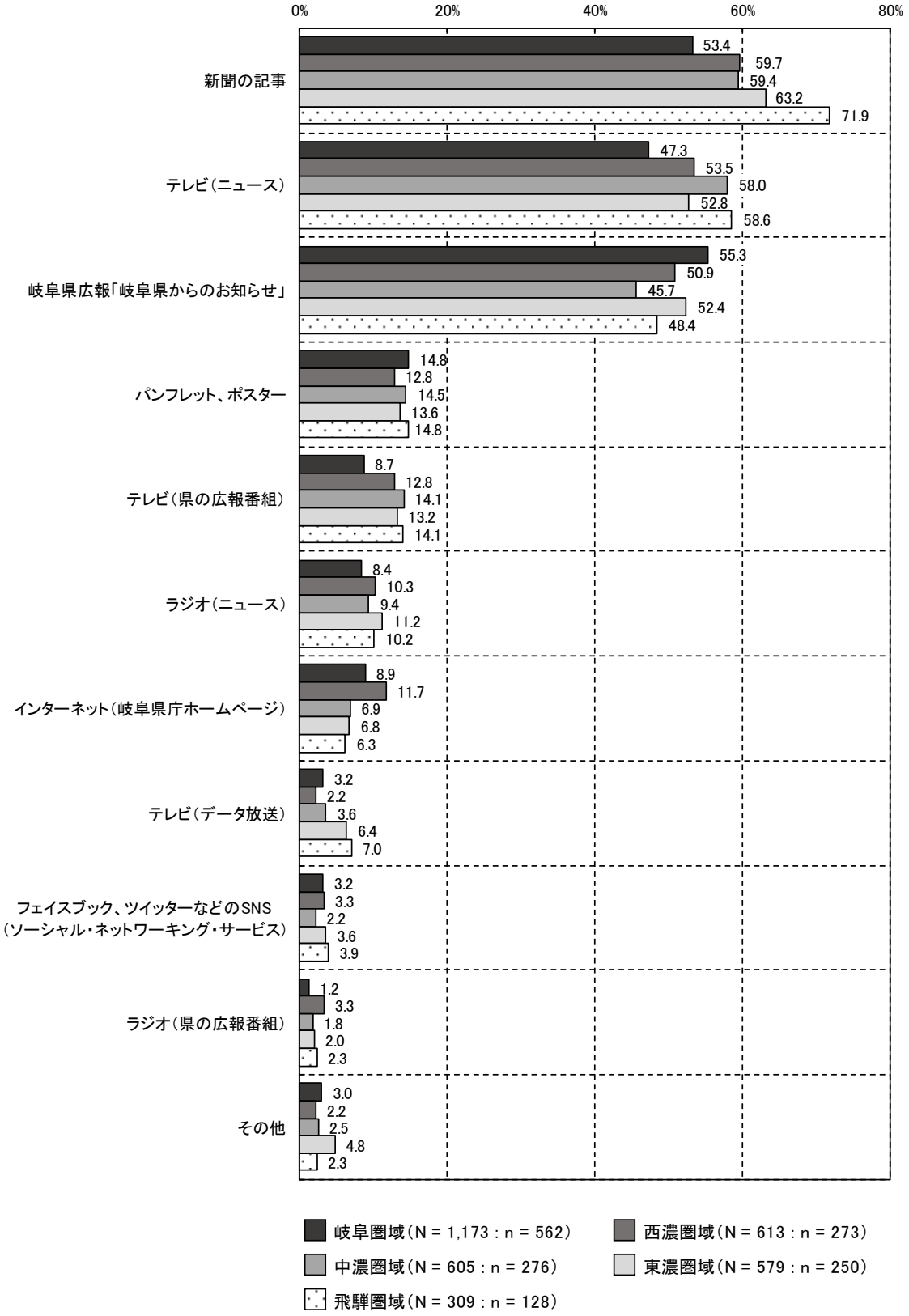
図 8-4【年代別】施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数　n＝回答者数

居住圏域別（図 8-5）でみると、岐阜圏域を除く、いずれの居住圏域においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 71.9%と最も高くなっている。岐阜圏域では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が 55.3%と最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



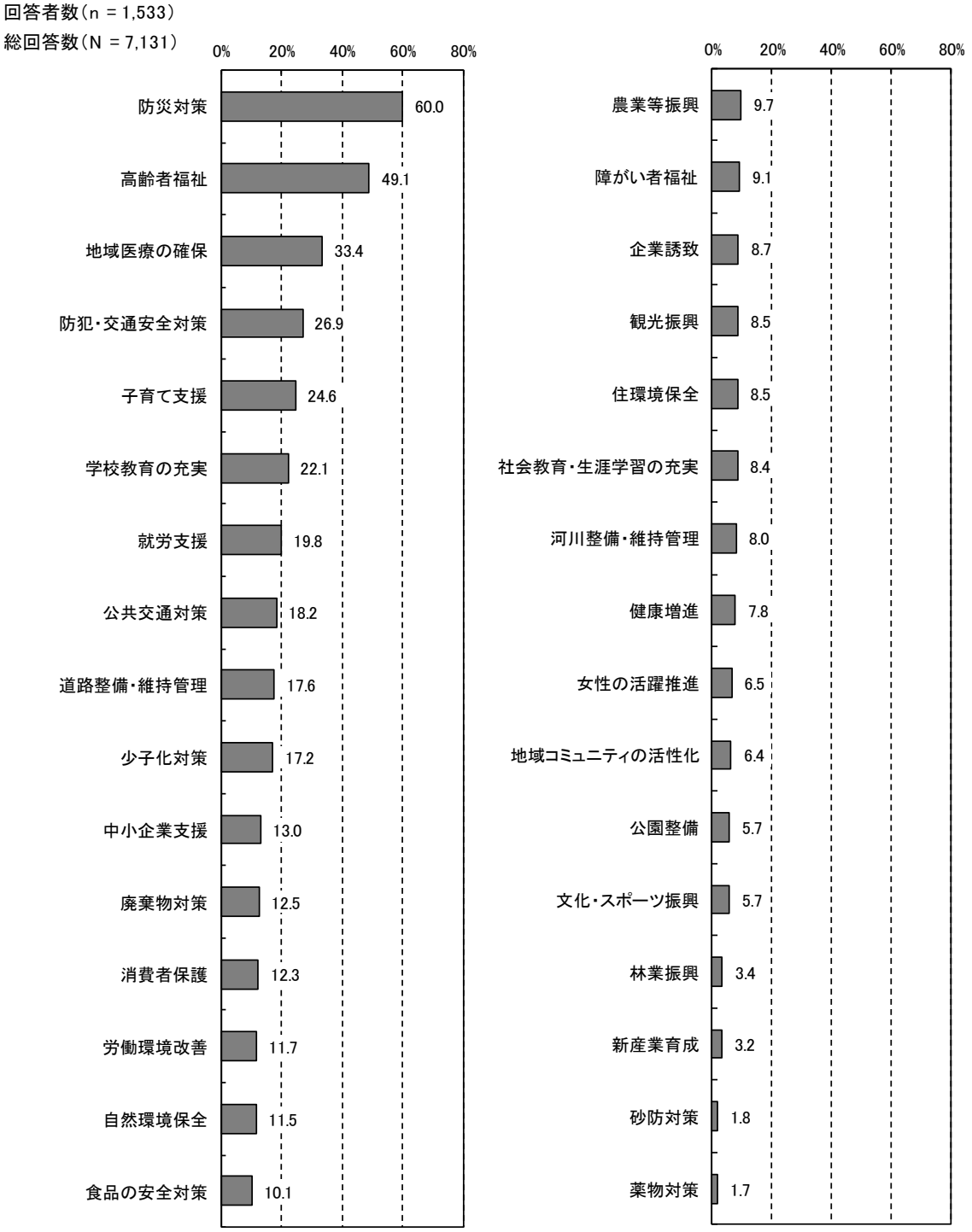
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問９　特に重要だと思う県の施策

問９　現在、あなたが、特に重要だと思う県の施策はどれですか。（５つまで）

全体（図 9-1）でみると、「防災対策」が 60.0％と最も高く、次いで「高齢者福祉」（49.1％）、「地域医療の確保」（33.4％）の順となっている。

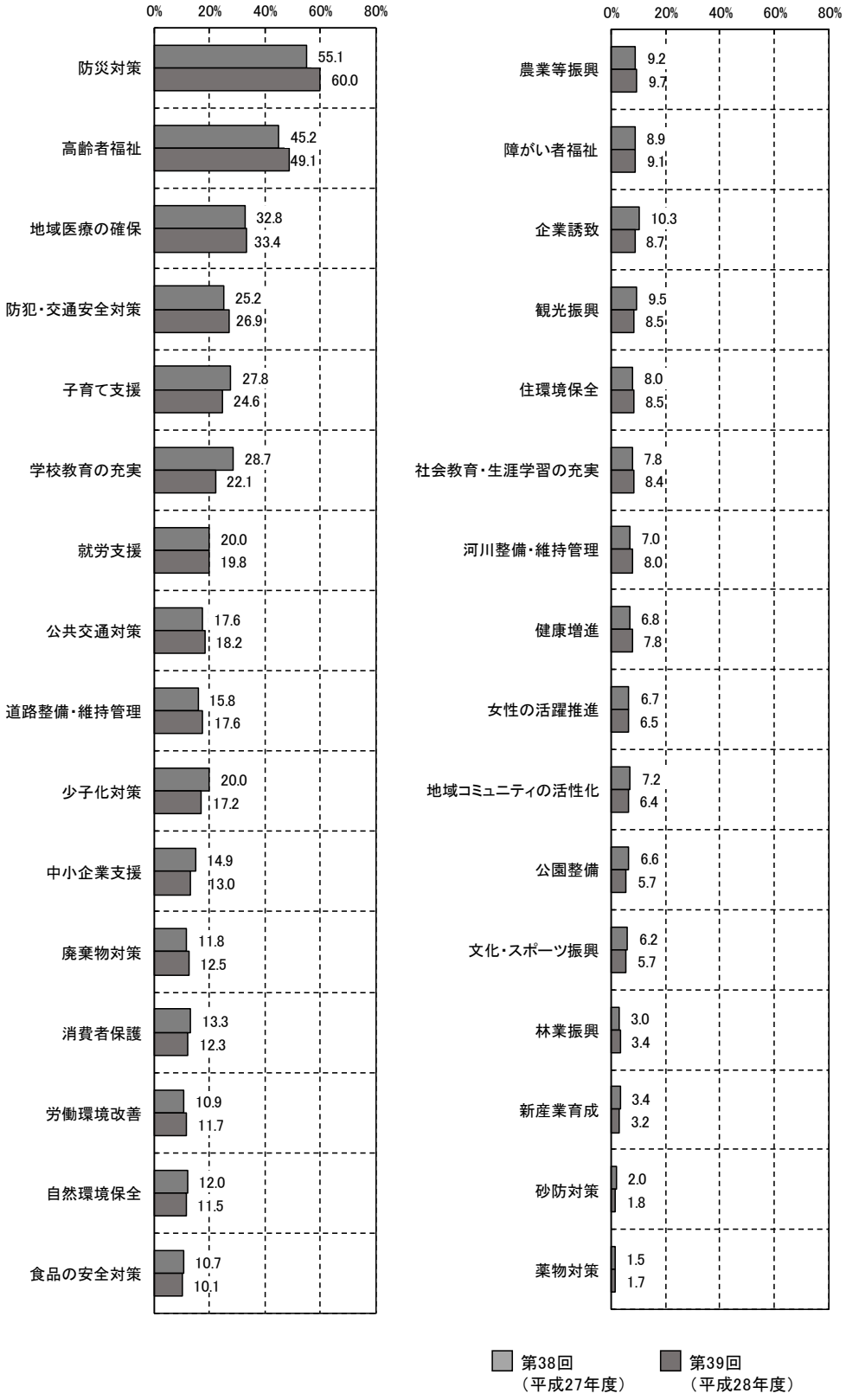
図 9-1　特に重要だと思う県の施策



※　本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全･･･騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全
・農業等振興･･･農業（畜産業・水産業含む）振興

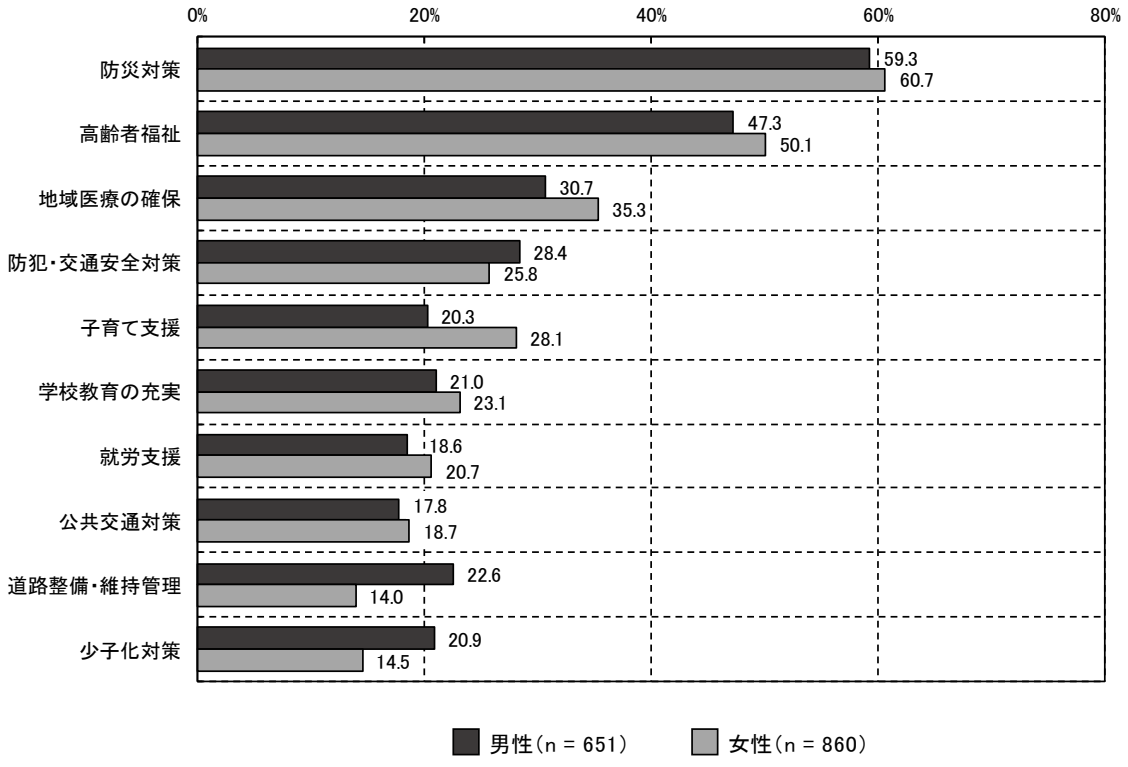
前回比較（図 9-2）でみると、前回と同様に「防災対策」が 60.0%と最も高く、4.9 ポイント増加している。

図 9-2 【前回比較】 特に重要だと思う県の施策



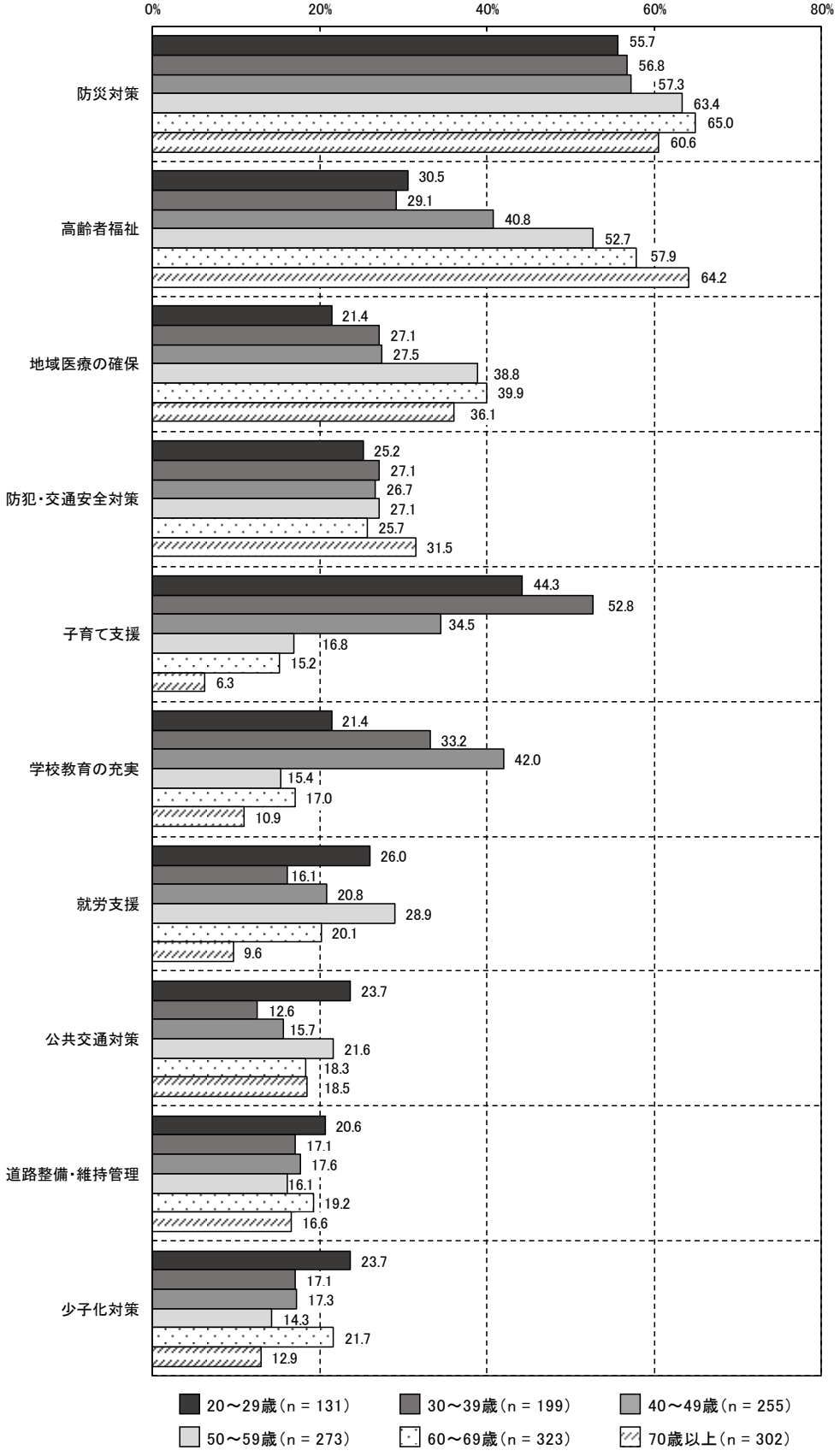
性別（図 9-3）でみると、男女ともに「防災対策」が最も高く、男性が 59.3%、女性が 60.7%となっている。「子育て支援」では、女性が男性より 7.8 ポイント高くなっており、「道路整備・維持管理」では、男性が女性より 8.6 ポイント高くなっている。

図 9-3 【性別】 特に重要だと思う県の施策（上位 10 施策）



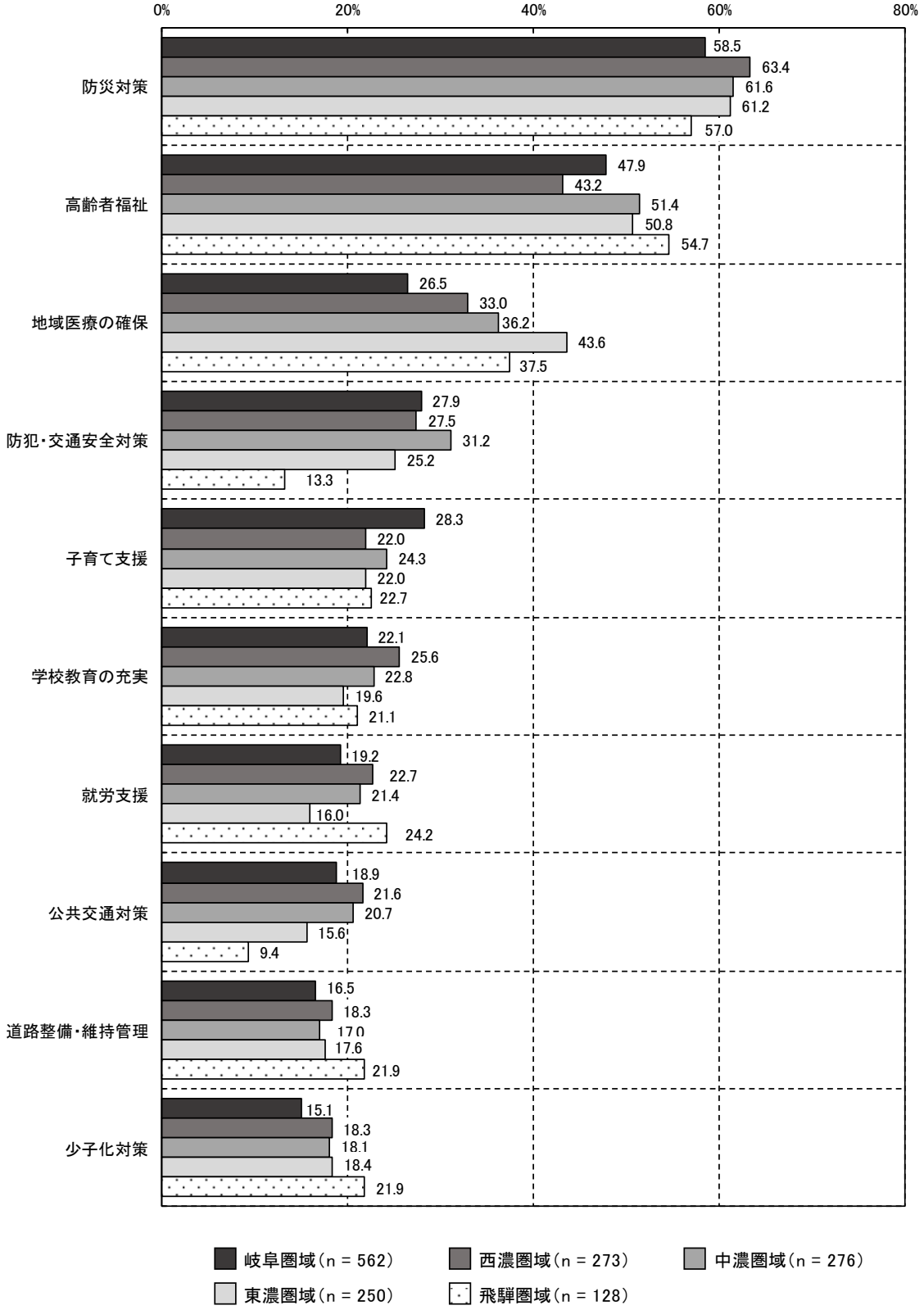
年代別（図 9-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの世代においても「防災対策」が最も高くなっており、そのうち 60 歳代が 65.0%と最も高くなっている。70 歳以上は「高齢者福祉」が 64.2%と最も高くなっている。

図 9-4 【年代別】 特に重要だと思う県の施策（上位 10 施策）



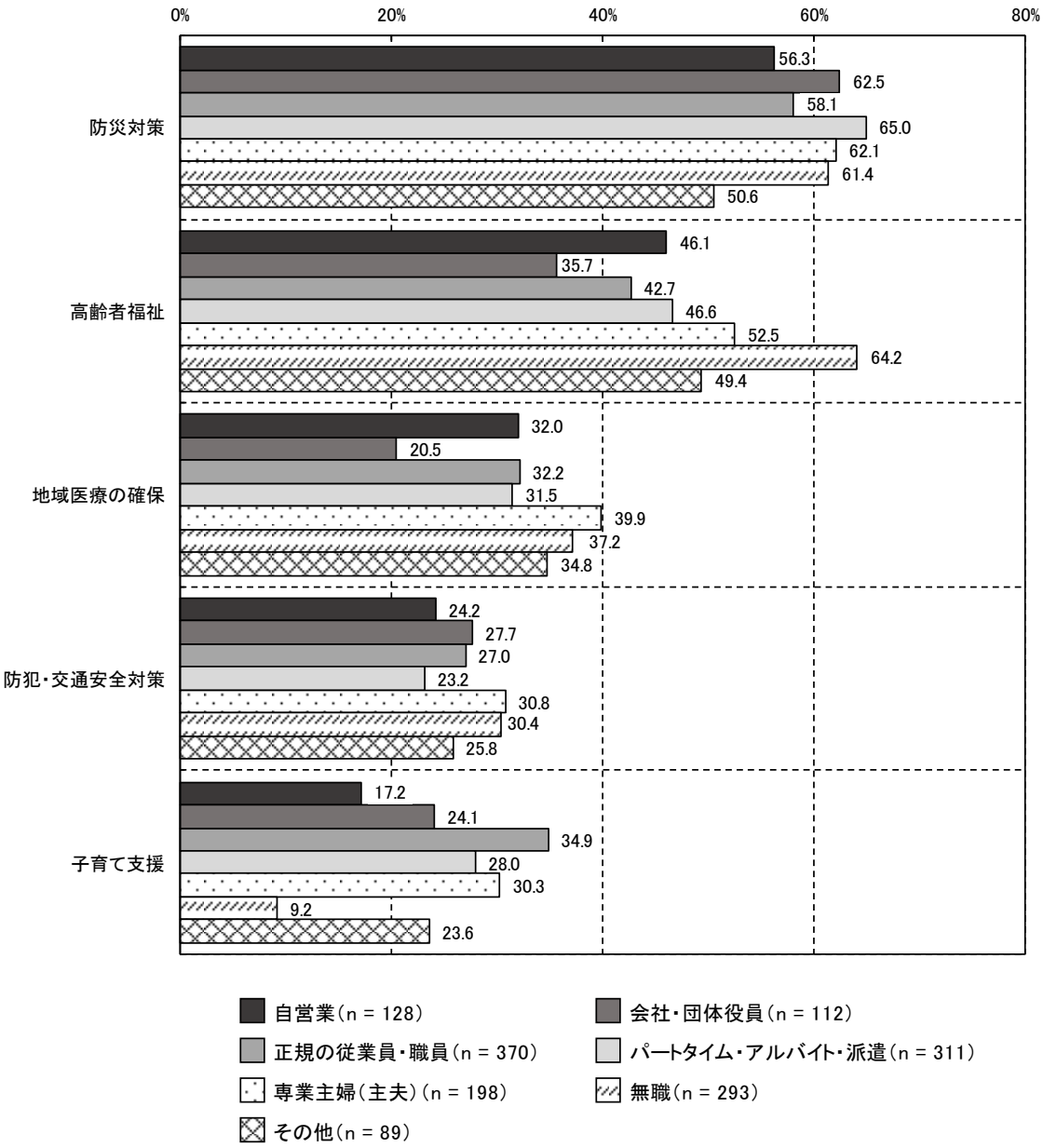
居住圏域別（図 9-5）でみると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち西濃圏域が 63.4%と最も高くなっている。

図 9-5 【居住圏域別】 特に重要だと思う県の施策（上位 10 施策）



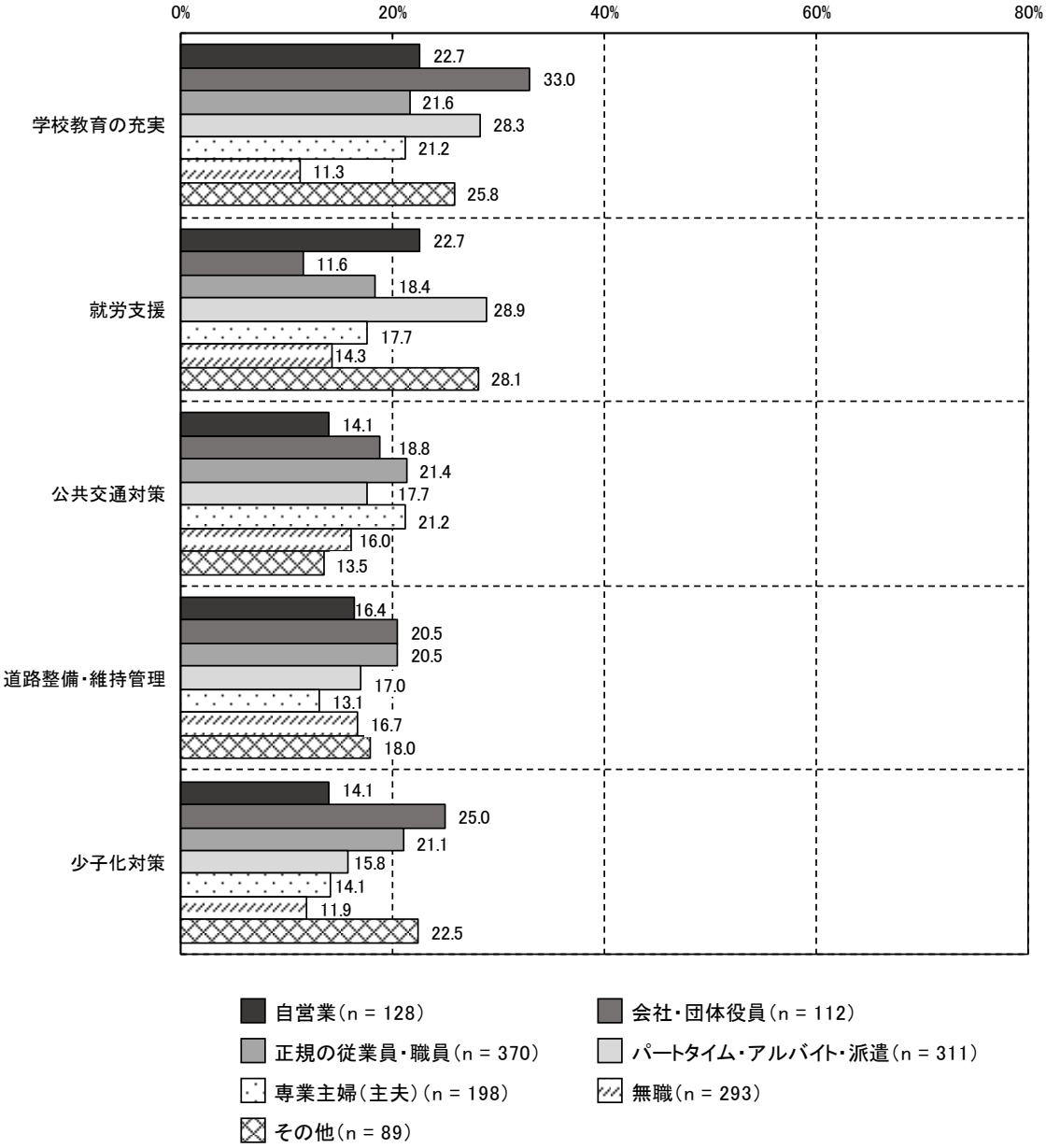
職業別（図 9-6）でみると、無職を除く、いずれの職業においても「防災対策」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が 65.0％と最も高くなっている。無職は「高齢者福祉」が 64.2％と最も高くなっている。

図 9-6 【職業別】 特に重要だと思う県の施策（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む

図 9-6 【職業別】 特に重要だと思う県の施策（上位 10 施策）（続き）



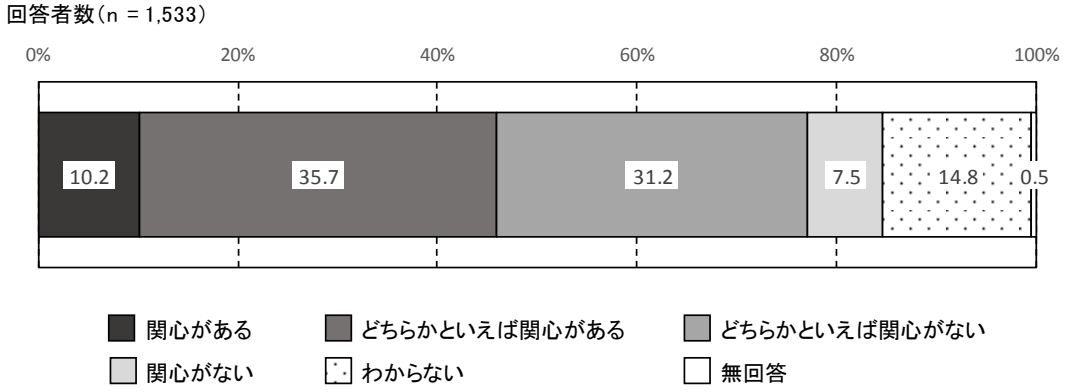
※ その他には、自由業、学生を含む

問１０　県事業への関心の有無

問１０　あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。（１つだけ）

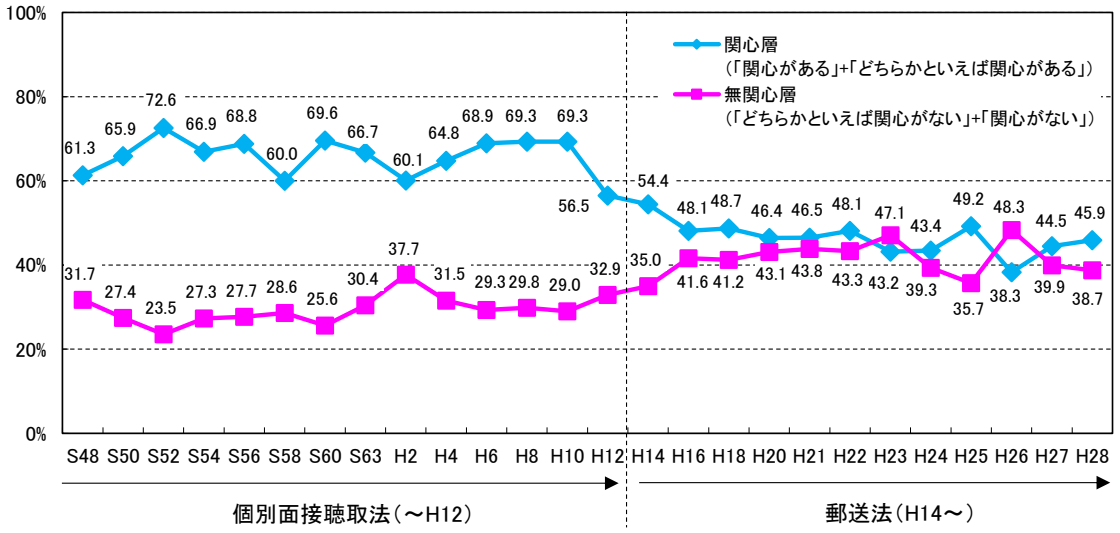
全体（図 10-1）でみると、「どちらかといえば関心がある」が 35.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」(31.2%)、「わからない」(14.8%) の順となっている。

図 10-1　県事業への関心の有無



経年変化（図 10-2）でみると、関心層は前回に比べて 1.4 ポイント増加しており、無関心層は前回に比べて 1.2 ポイント減少している。

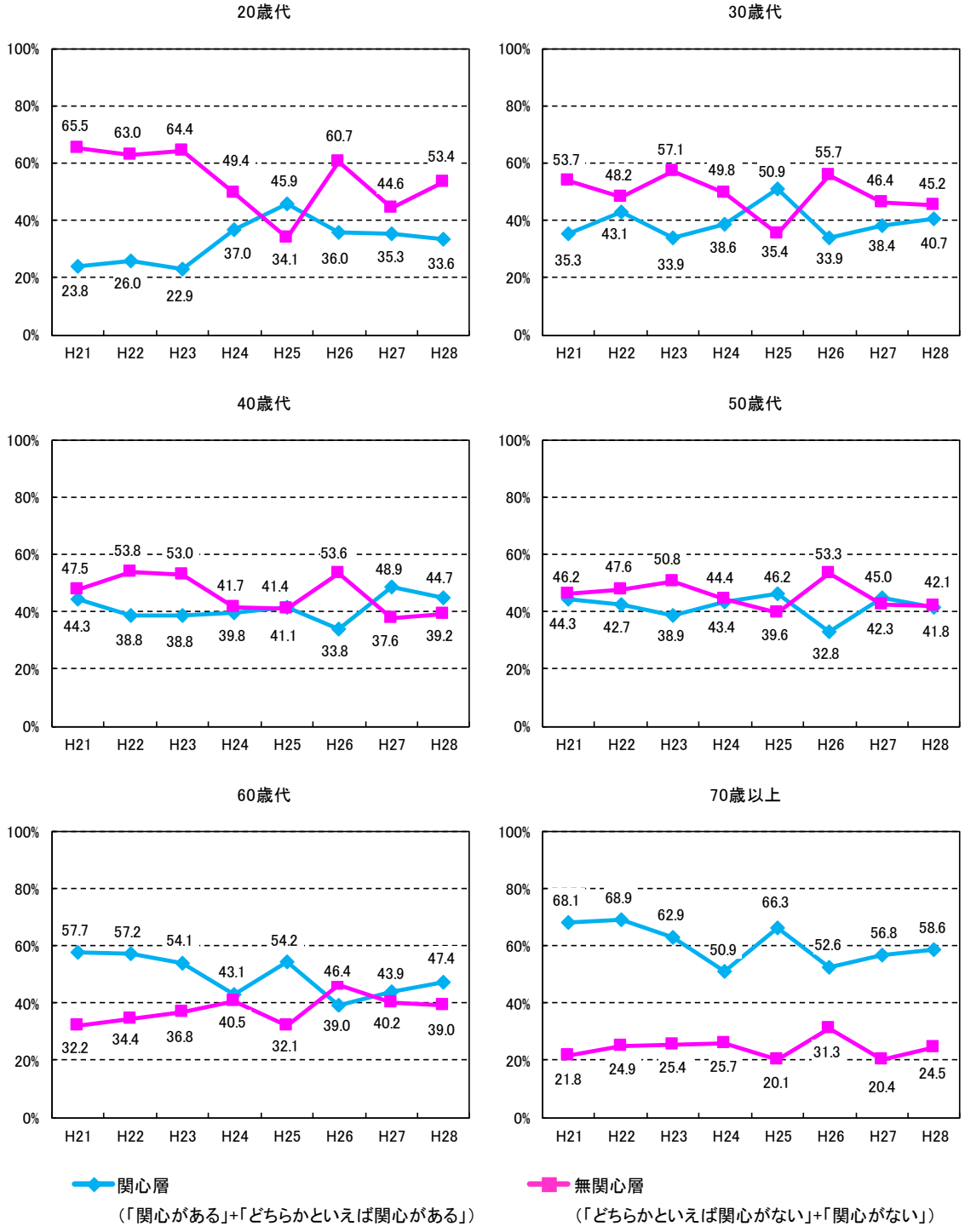
図 10-2【経年変化】県事業への関心の有無



※ 調査方法:平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

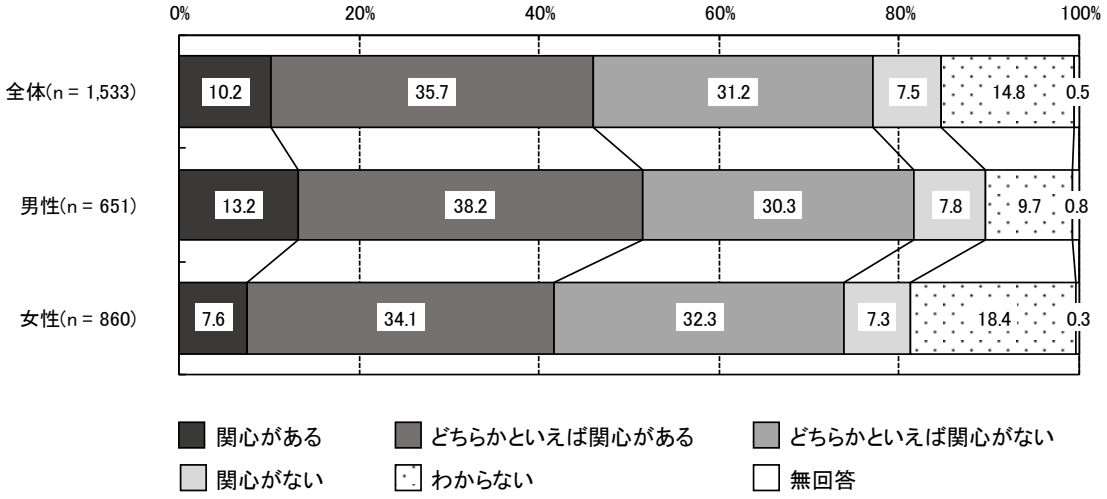
経年変化（年代別）（図 10-3）でみると、70 歳以上では一貫して“関心層”が“無関心層”より高くなっている。

図 10-3【経年変化（年代別）】県事業への関心の有無



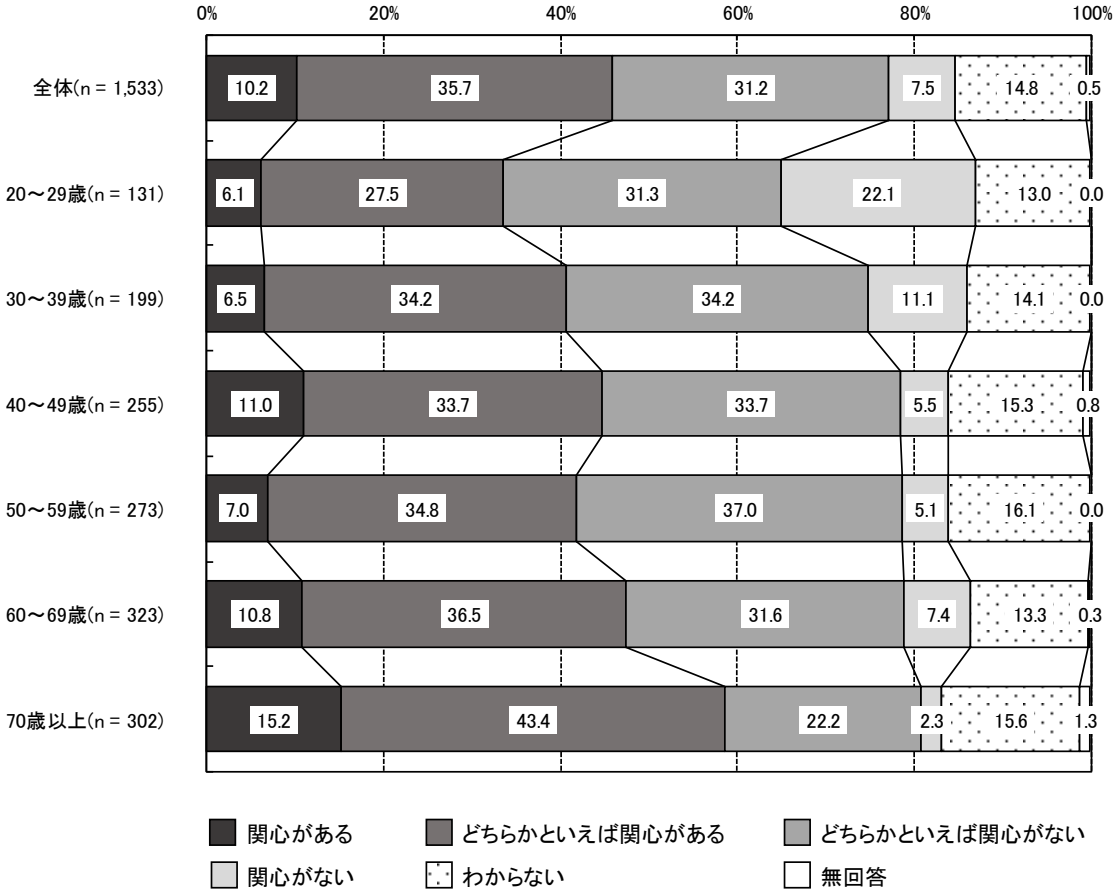
性別（図 10-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高く、男性が 38.2%、女性が 34.1%となっている。

図 10-4【性別】県事業への関心の有無



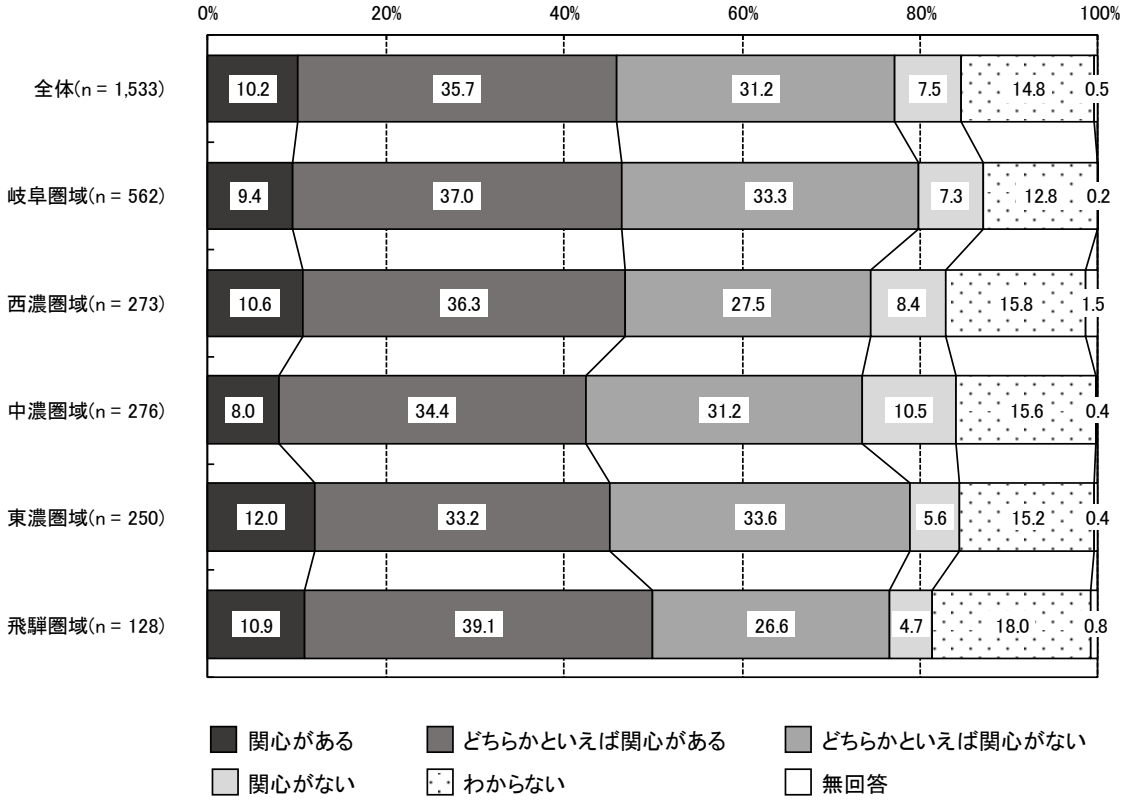
年代別（図 10-5）でみると、20 歳代、50 歳代では「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち 50 歳代が 37.0%と最も高くなっている。60 歳代、70 歳以上では「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 43.4%と最も高くなっている。

図 10-5【年代別】県事業への関心の有無



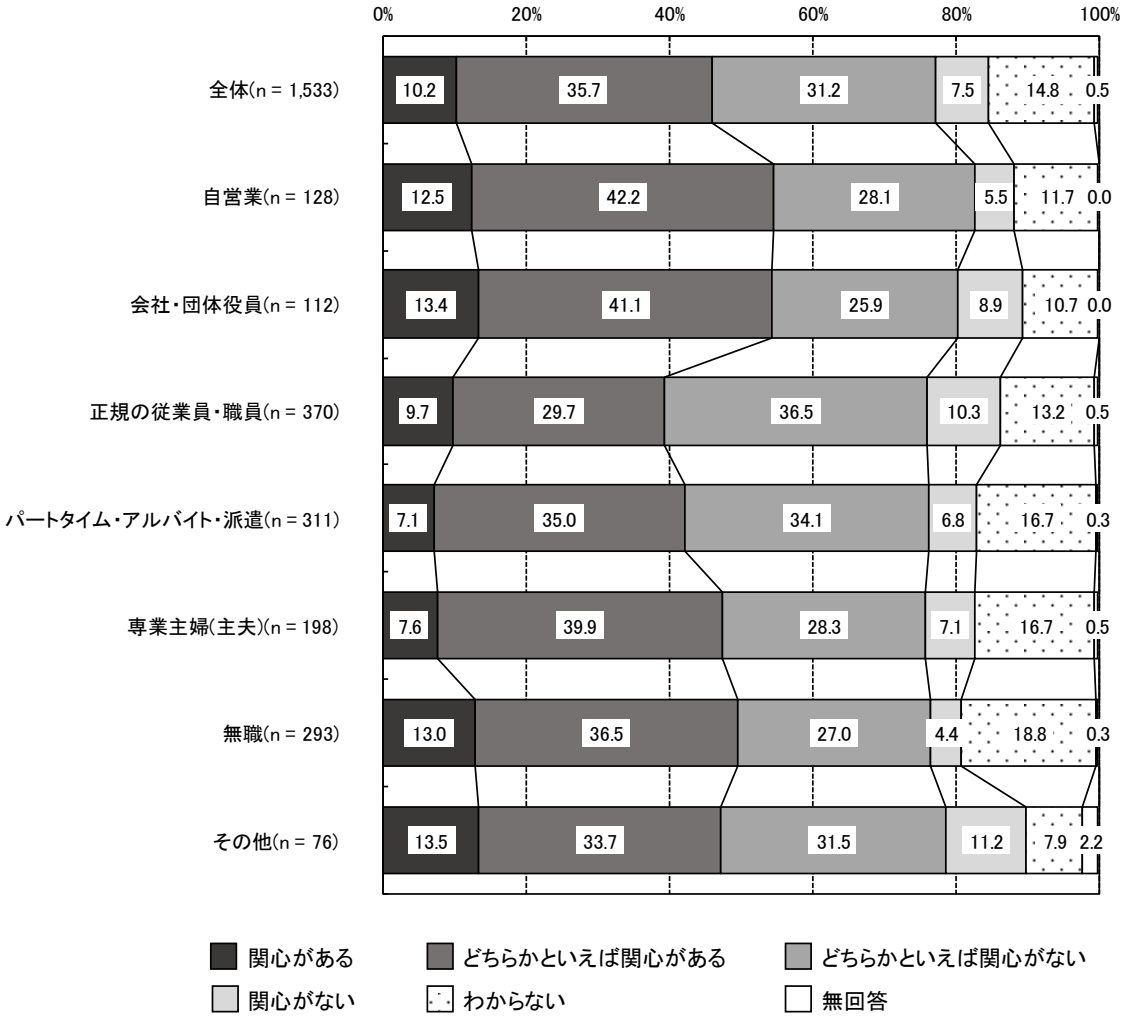
居住圏域別（図 10-6）でみると、東濃圏域を除く、いずれの圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 39.1%と最も高くなっている。東濃圏域においては、「どちらかといえば関心がない」が 33.6%と最も高くなっている。

図 10-6【居住圏域別】県事業への関心の有無



職業別（図 10-7）でみると、正規の従業員・職員を除く、いずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち自営業が 42.2%と最も高くなっている。正規の従業員・職員においては「どちらかといえば関心がない」が 36.5%と最も高くなっている。

図 10-7【職業別】県事業への関心の有無



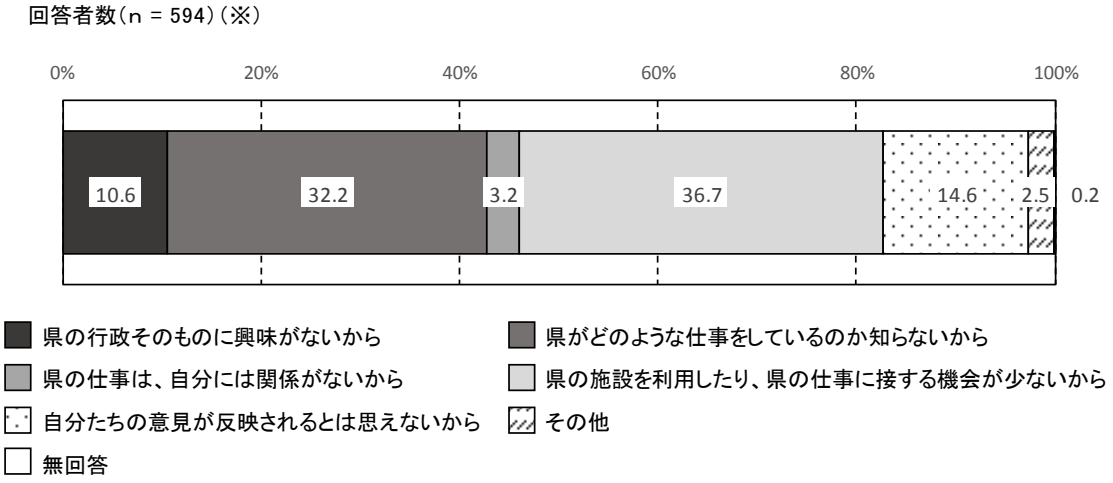
※ その他には、自由業、学生を含む

問１０-２　県事業に関心がない理由

問１０－２　「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、どのような理由からですか。（１つだけ）

全体（図 10-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 36.7％と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」(32.2％)、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」(14.6％) の順となっている。

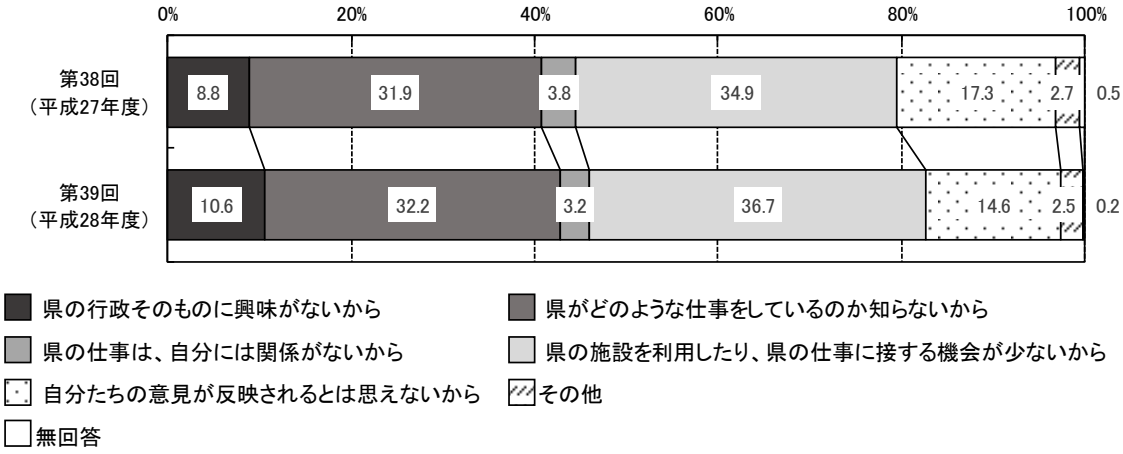
図 10-2-1　県事業に関心がない理由



※ 問 10 で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

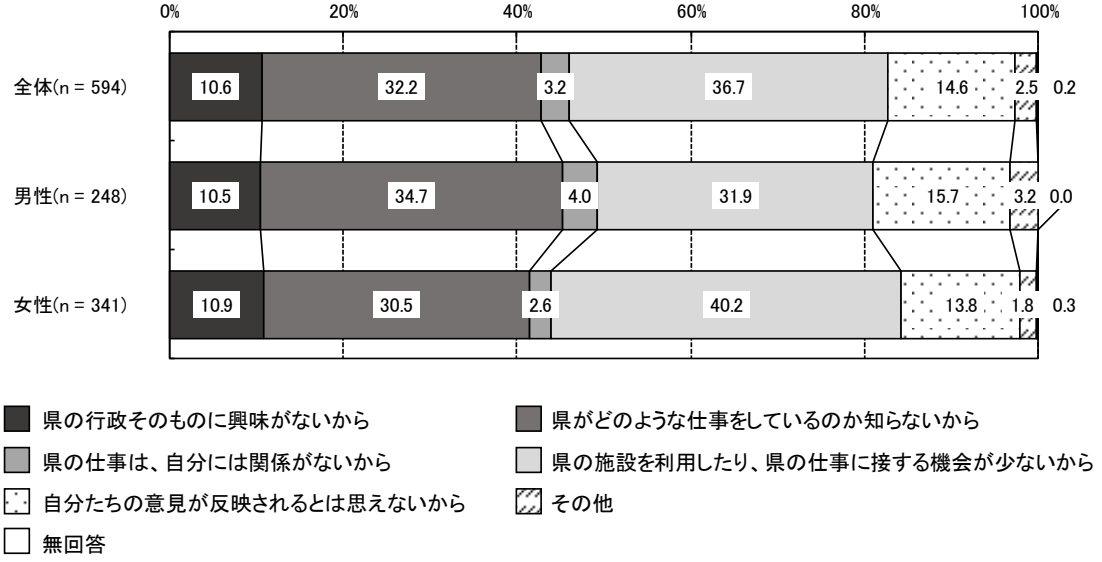
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回と同様に「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 36.7％と最も高く、前回よりも 1.8 ポイント増加している。

図 10-2-2 【前回比較】 県事業に関心がない理由



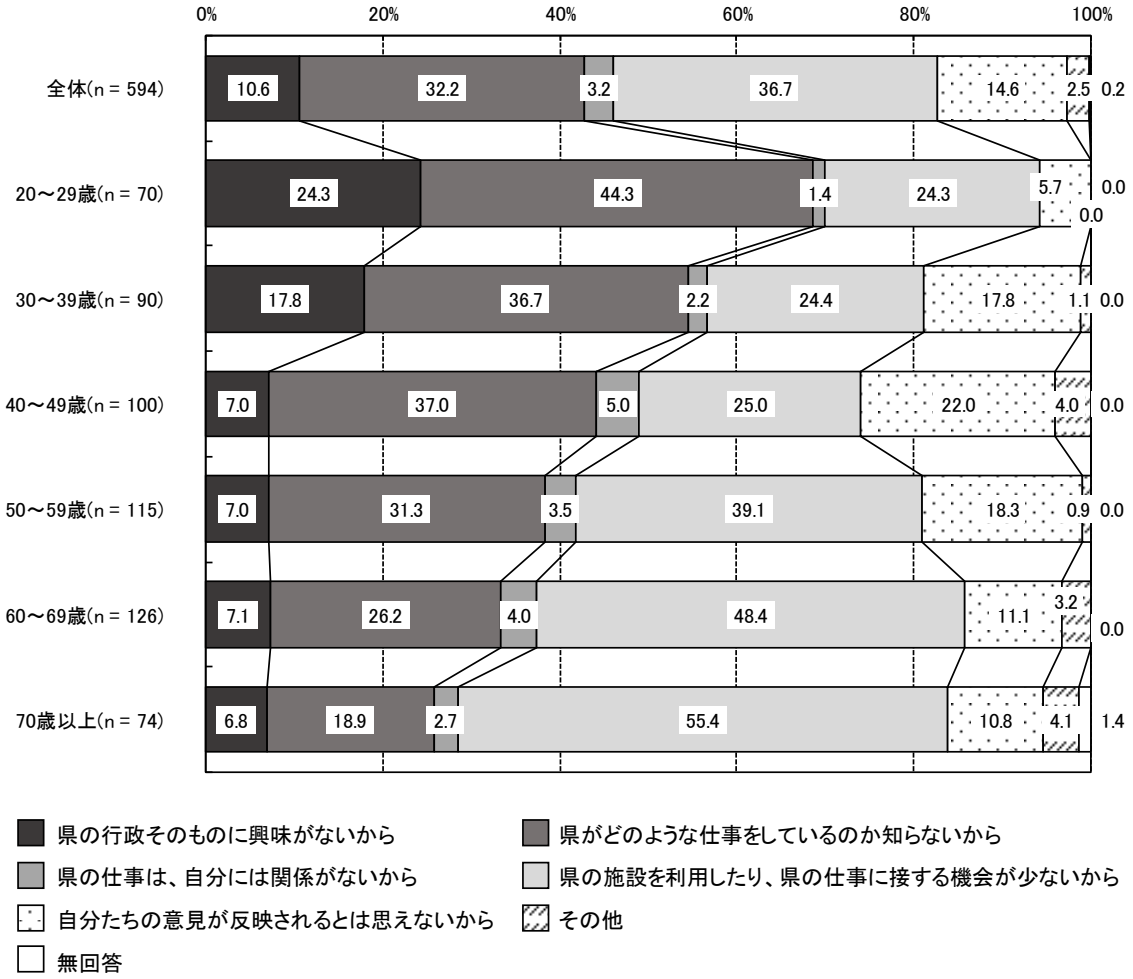
性別（図 10-2-3）でみると、男性は「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が 34.7%と最も高く、女性は「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が 40.2%と最も高くなっている。

図 10-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



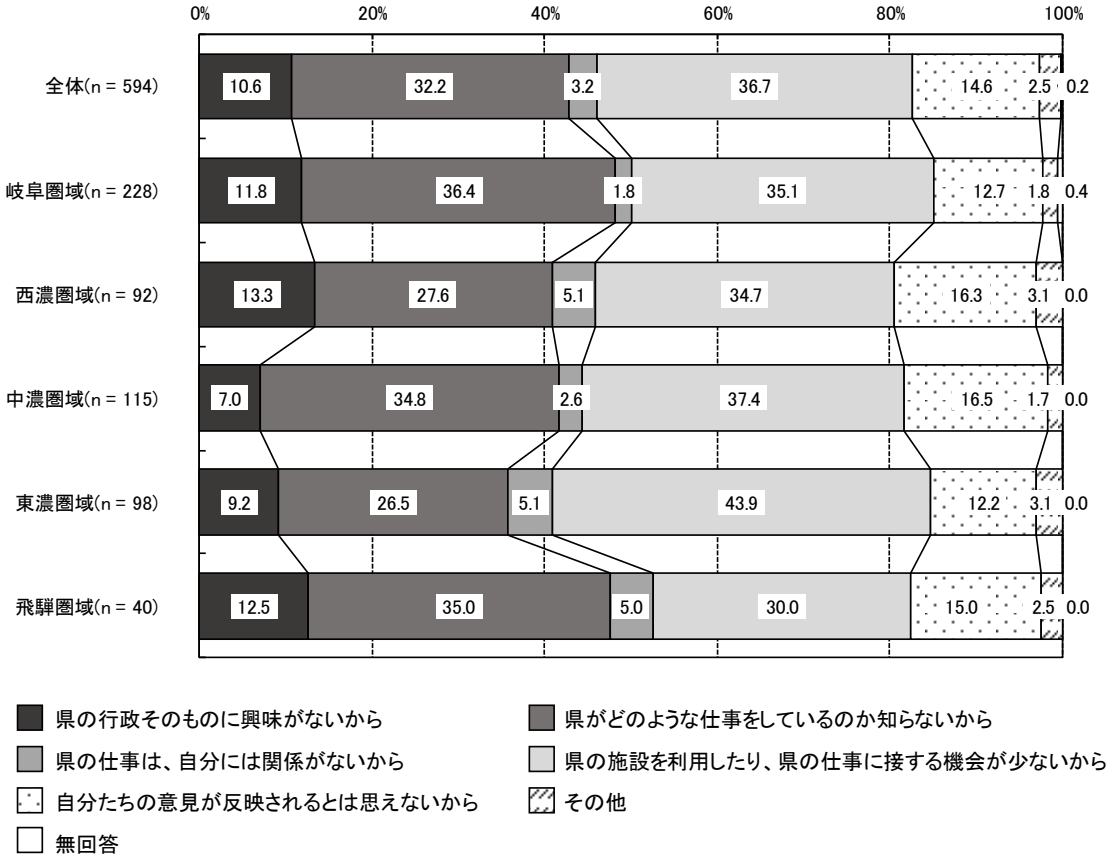
年代別（図 10-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が最も高く、そのうち 20 歳代が 44.3%と最も高くなっている。50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 55.4%と最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



居住圏域別（図 10-2-5）でみると、岐阜圏域、飛騨圏域においては「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 36.4%と最も高くなっている。西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域においては「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち東濃圏域が 43.9%と最も高くなっている。

図 10-2-5【居住圏域別】県事業に関心がない理由

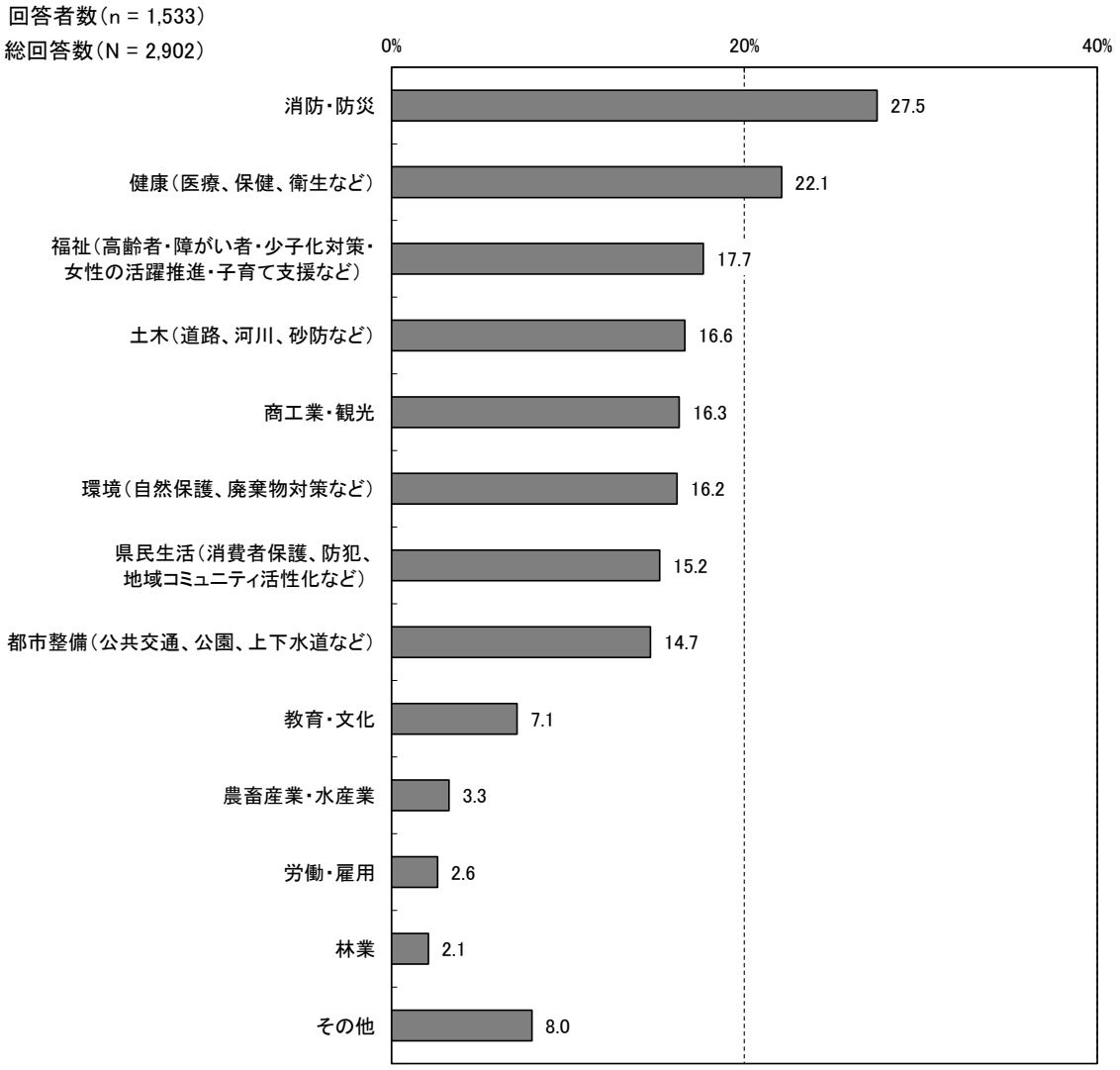


問１１　県の取り組みでよくやっていると思う分野

問１１　あなたが、県の取り組みについてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。（３つまで）

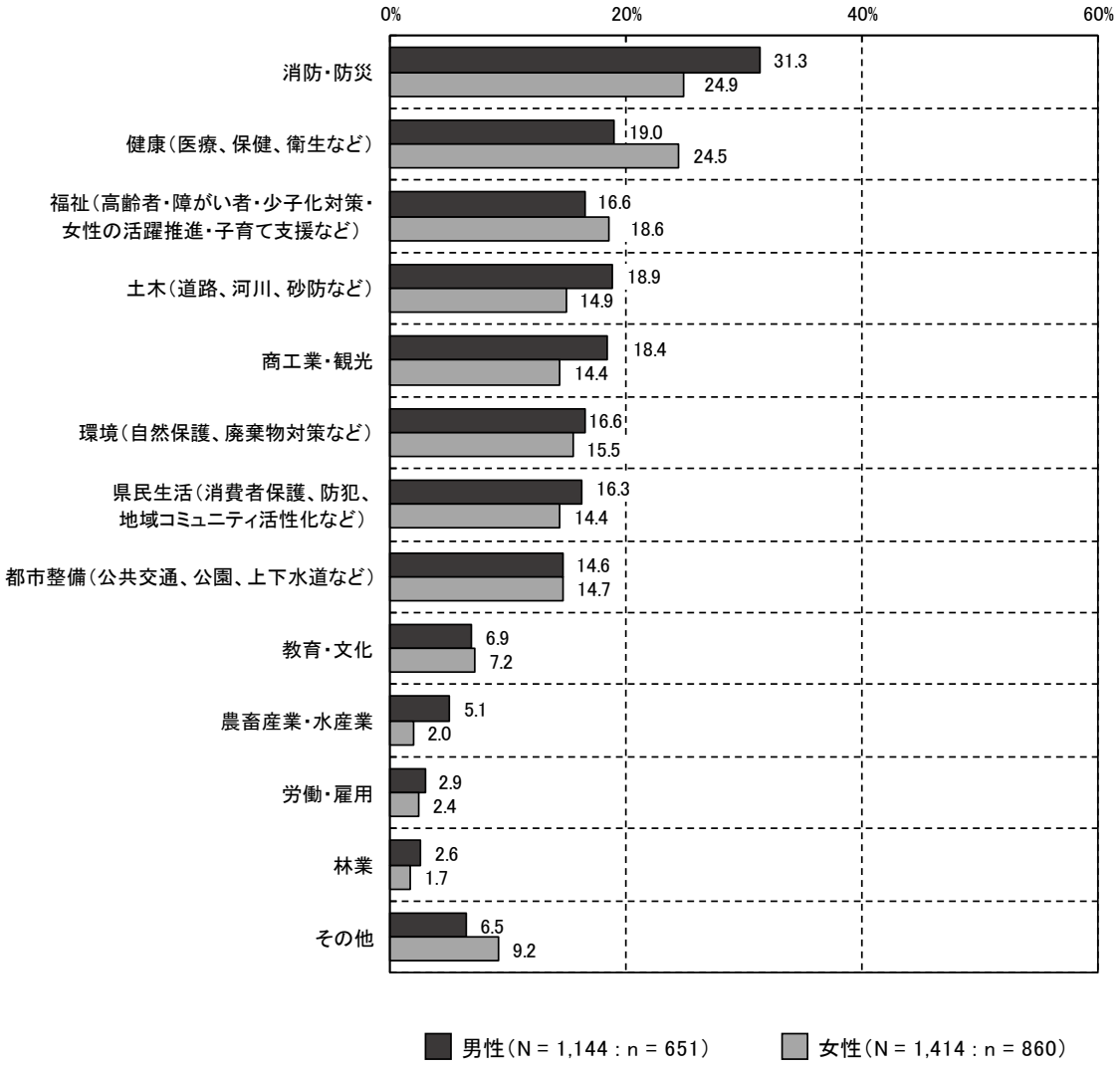
全体（図 11-1）でみると、「消防・防災」が 27.5%と最も高く、次いで「健康（医療、保健、衛生など）」（22.1%）、「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など）」（17.7%）の順となっている。

図 11-1　県の取り組みでよくやっていると思う分野



性別（図 11-2）でみると、男女ともに「消防・防災」が最も高く、男性が 31.3%、女性が 24.9%となっており、男性が女性より 6.4 ポイント高くなっている。「健康（医療、保健、衛生など）」は、女性が男性より 5.5 ポイント高くなっている。

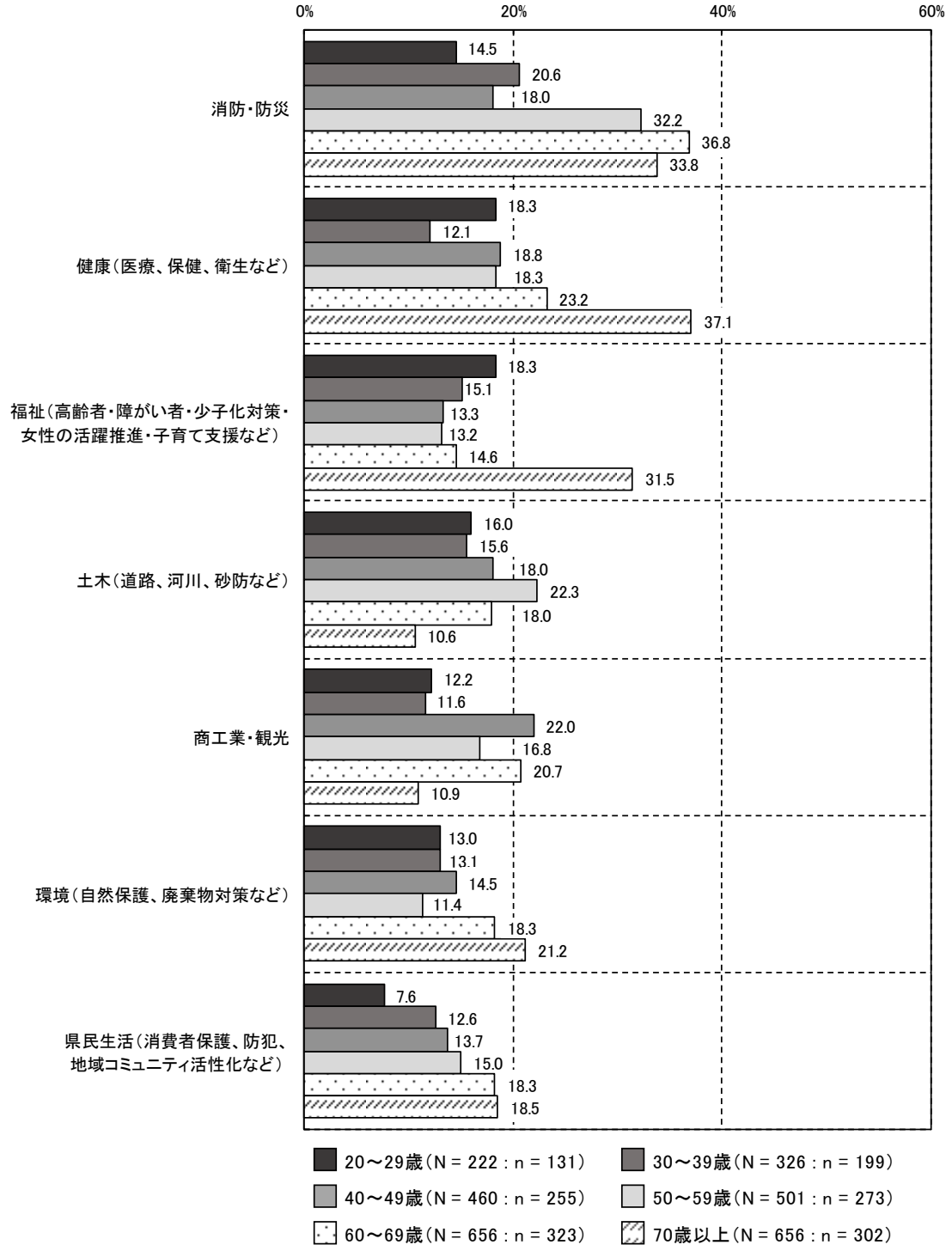
図 11-2 【性別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野



※ N＝総回答数 n＝回答者数

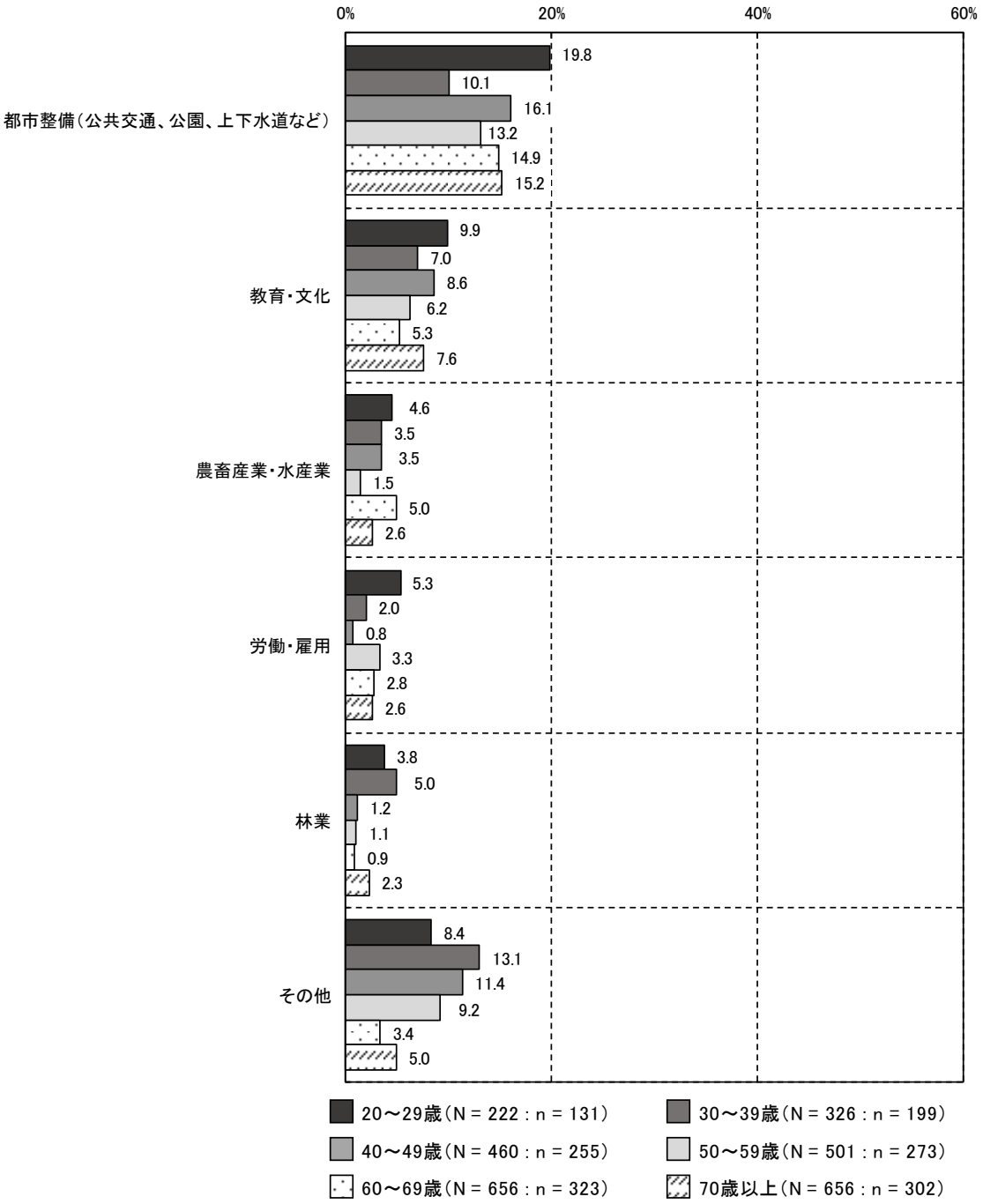
年代別（図 11-3）でみると、30 歳代、50 歳代、60 歳代においては「消防・防災」が最も高くなっている。20 歳代では「都市整備（公共交通、公園、上下水道など）」が 19.8%と最も高くなっている。40 歳代では「商工業・観光」が 22.0%と最も高くなっている。70 歳以上では「健康（医療、保健、衛生など）」が 37.1%と最も高くなっている。

図 11-3 【年代別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野



※ N＝総回答数 n＝回答者数

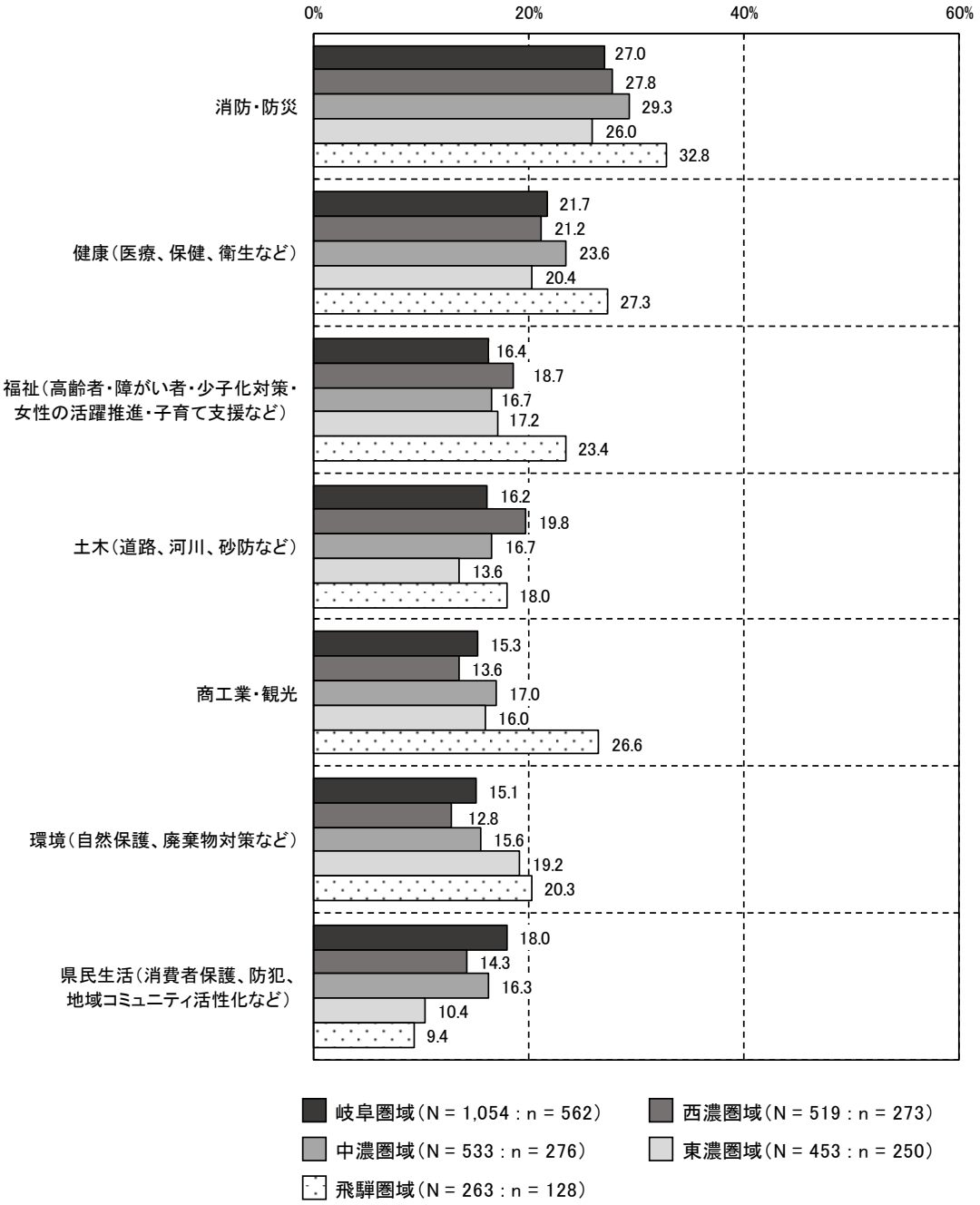
図 11-3 【年代別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

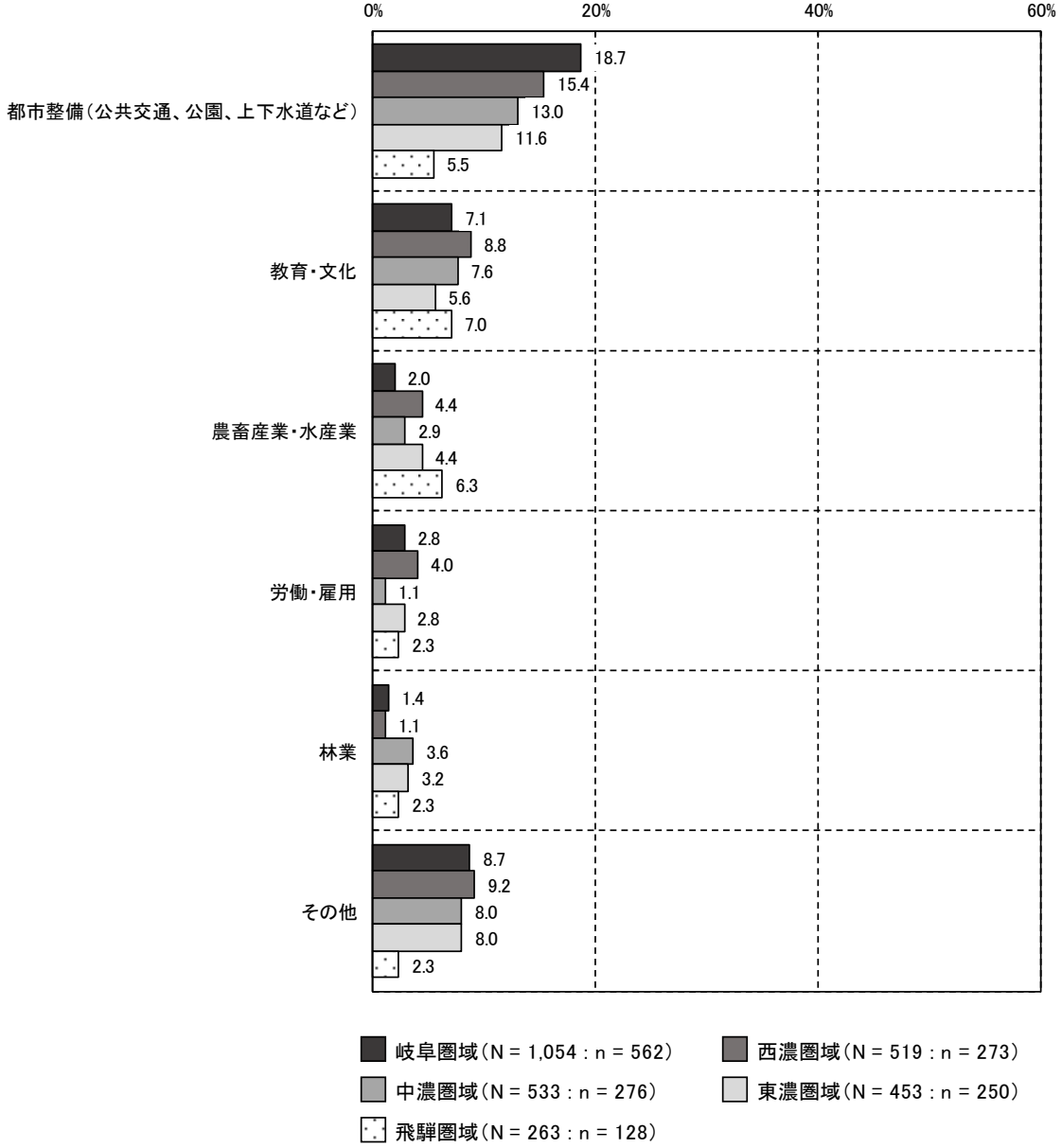
居住圏域別（図 11-4）でみると、いずれの居住圏域においても「消防・防災」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 32.8%と最も高くなっている。

図 11-4 【居住圏域別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野



※ N＝総回答数 n＝回答者数

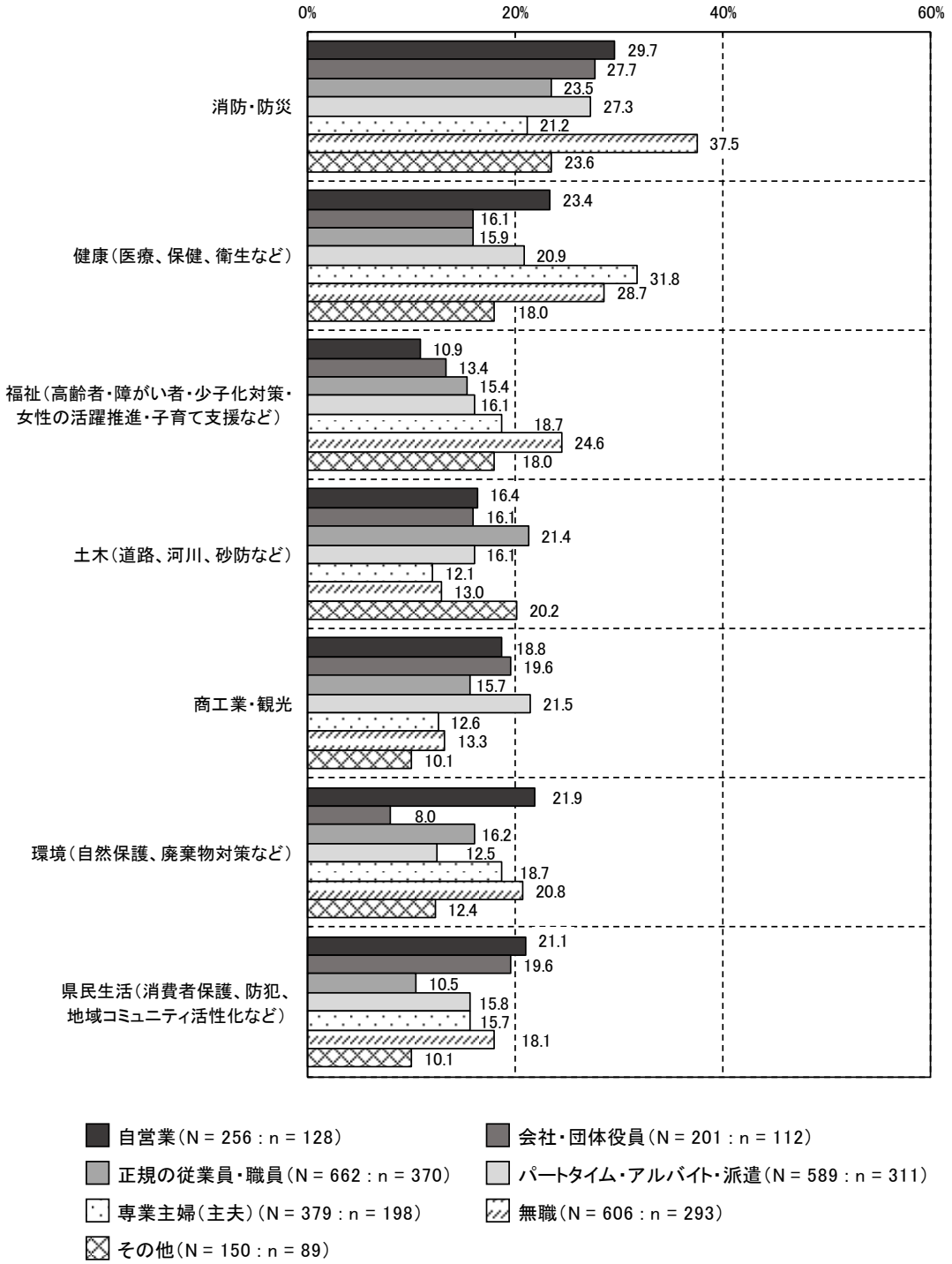
図 11-4 【居住圏域別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 11-5）でみると、専業主婦（主夫）を除く、いずれの職業においても「消防・防災」が最も高く、そのうち無職が 37.5%と最も高くなっている。専業主婦（主夫）では、「健康（医療、保健、衛生など）」が 31.8%と最も高くなっている。

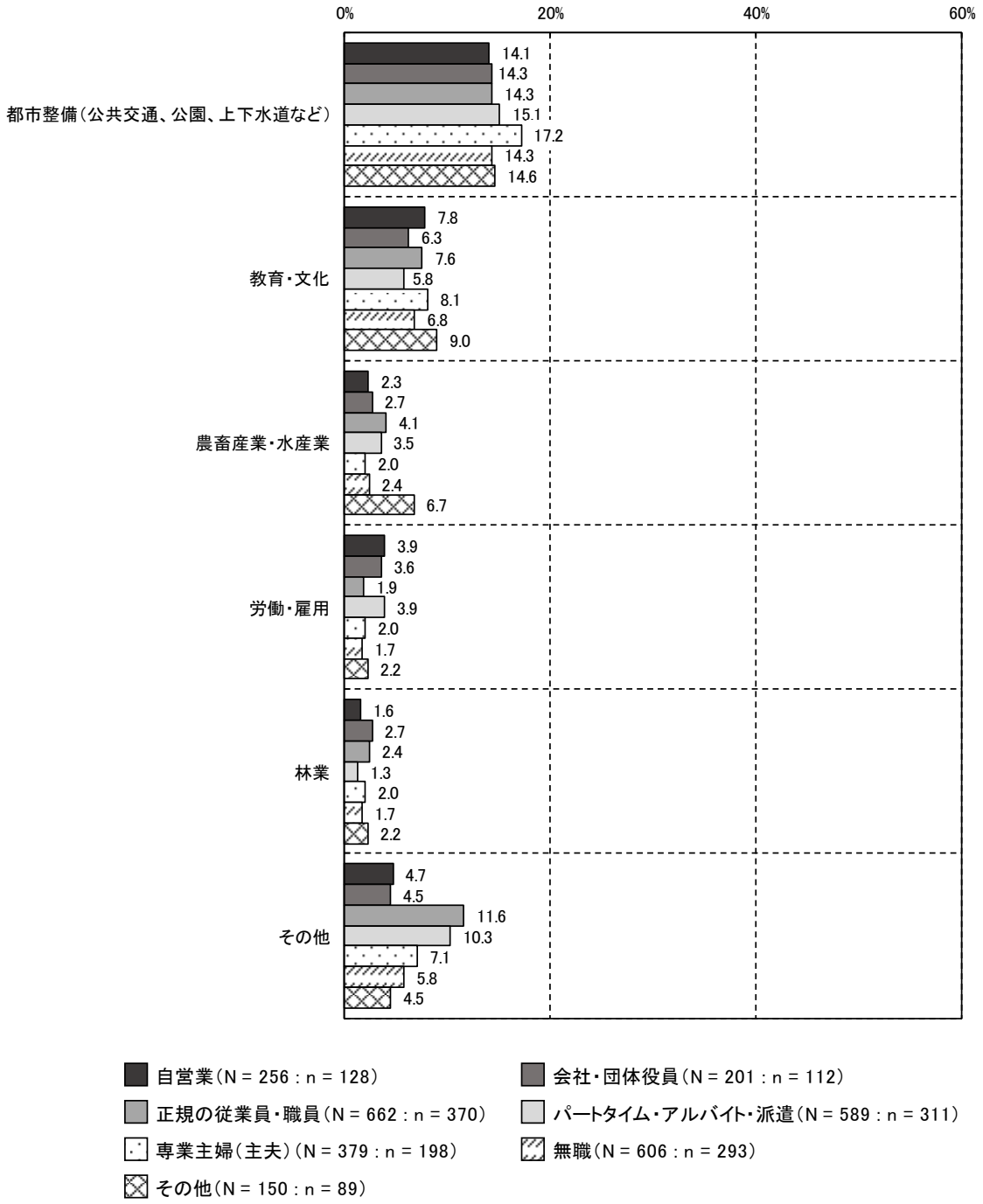
図 11-5 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 11-5 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野 （続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

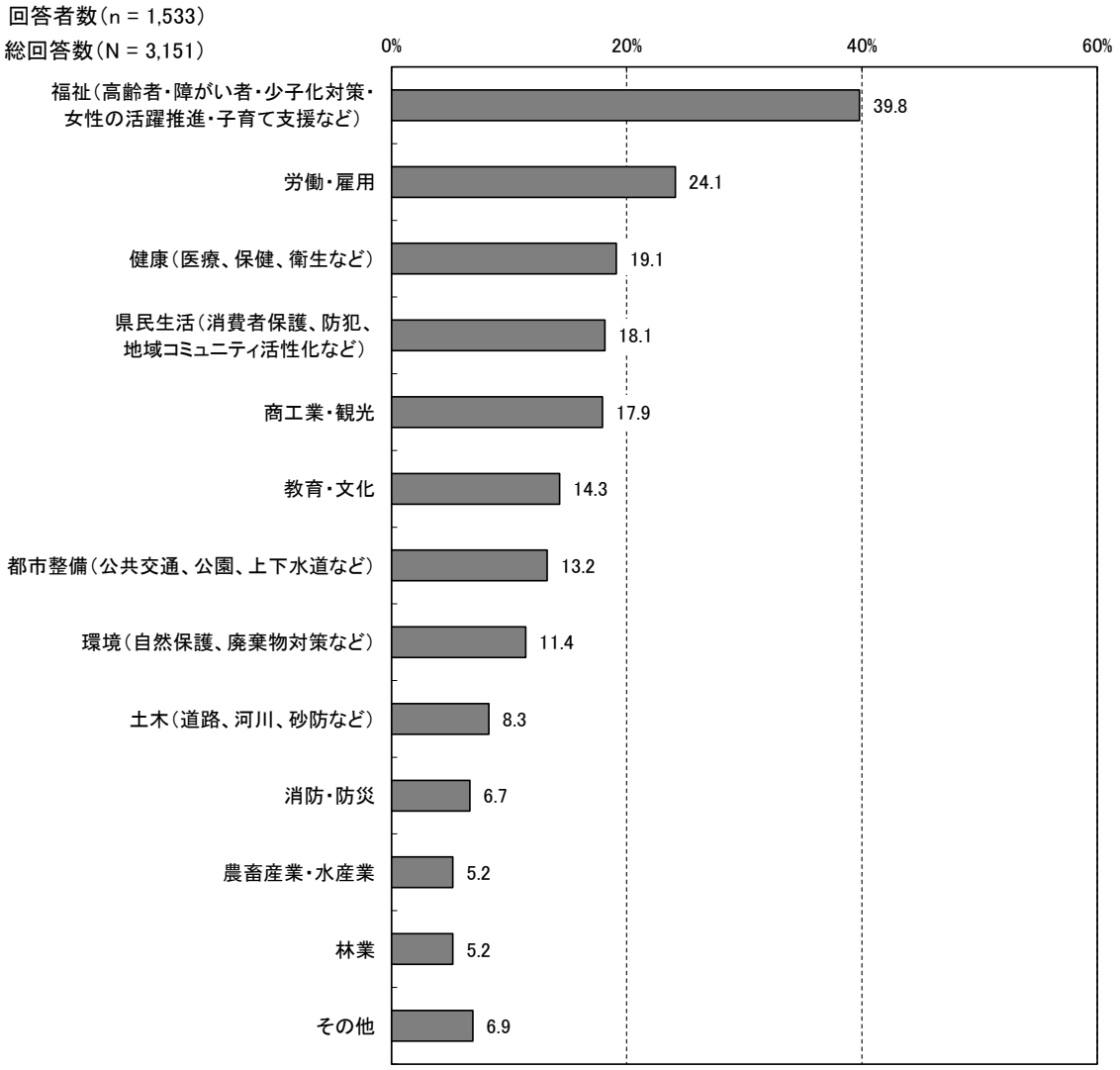
※ N＝総回答数　n＝回答者数

問１２　県の取り組みで努力が足りないと思う分野

問１２　あなたが、県の取り組みについて努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。（３つまで）

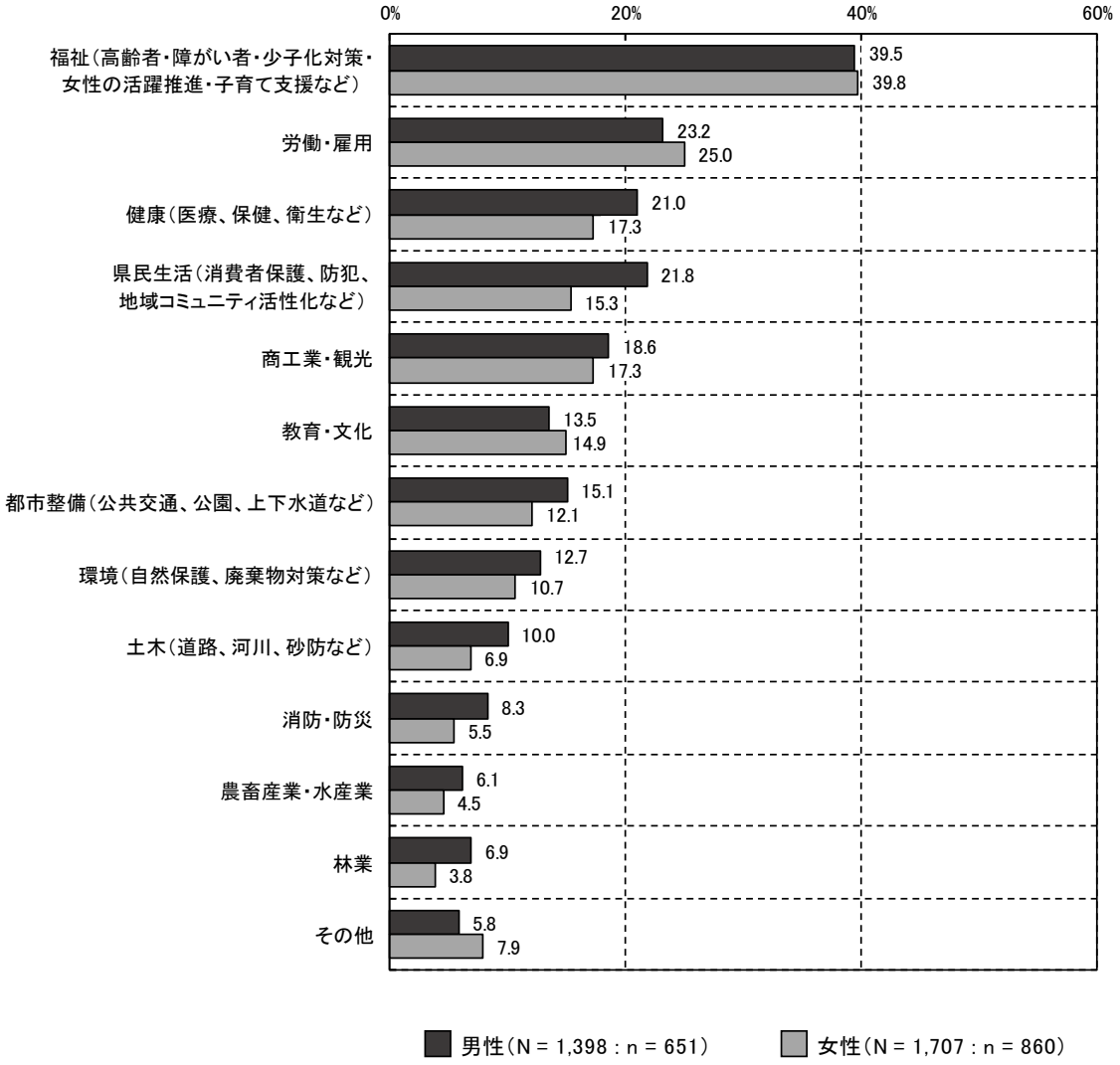
全体（図 12-1）でみると、「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など）」が 39.8%と最も高く、次いで「労働・雇用」（24.1%）、「健康（医療、保健、衛生など）」（19.1%）の順となっている。

図 12-1　県の取り組みで努力が足りないと思う分野



性別（図 12-2）でみると、男女ともに「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など)」が最も高く、男性が 39.5%、女性が 39.8%となっている。

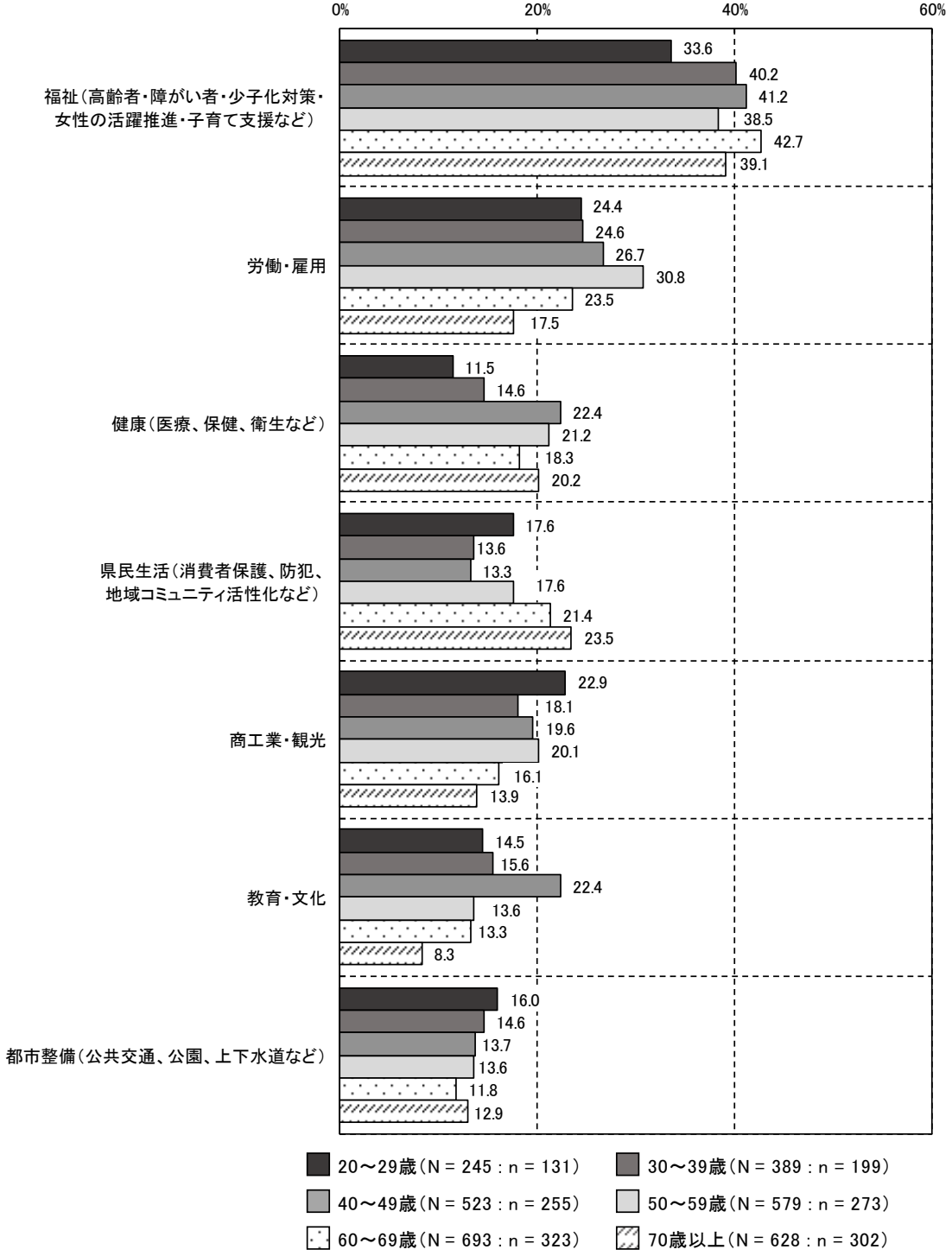
図 12-2 【性別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



※ N＝総回答数 n＝回答者数

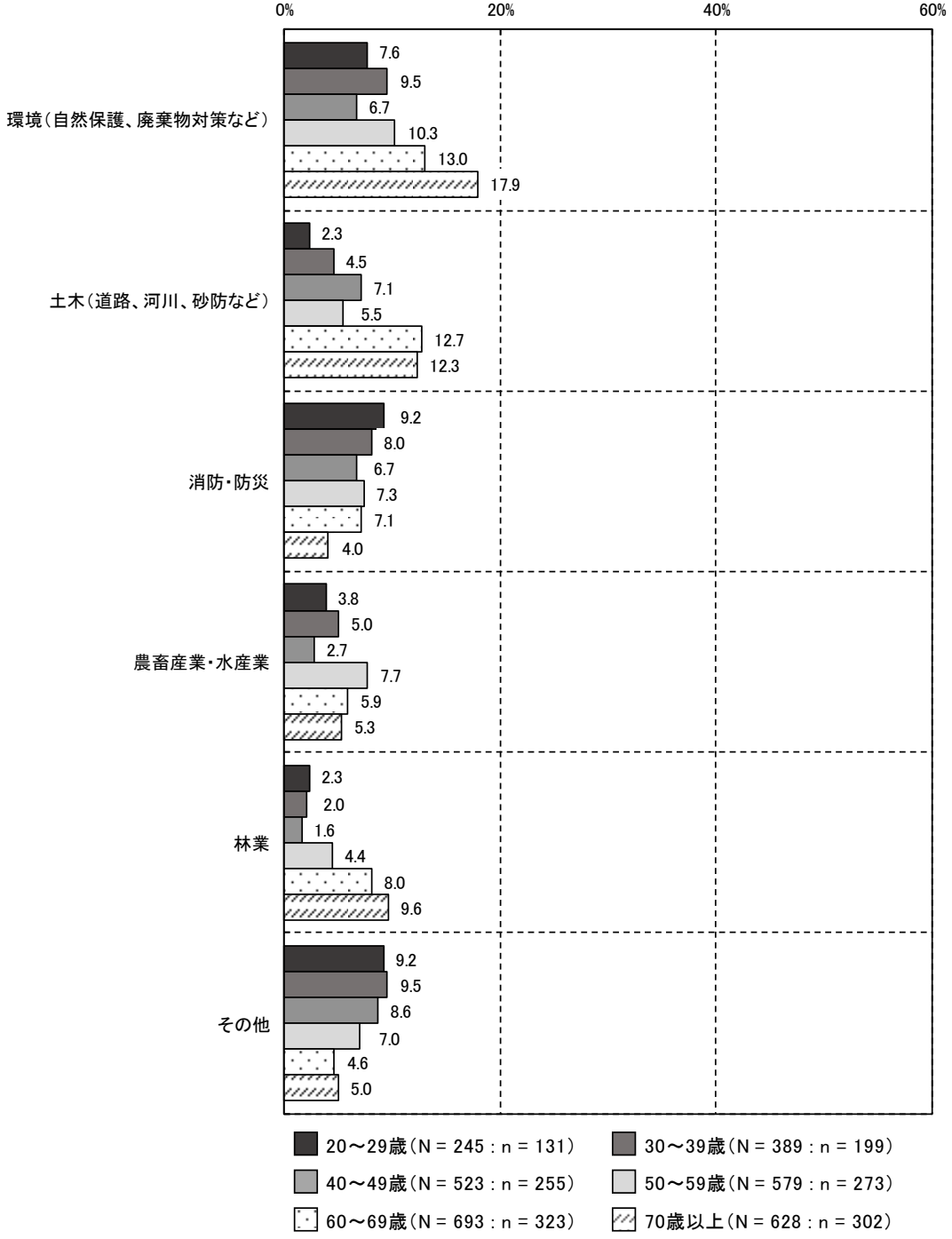
年代別（図 12-3）でみると、いずれの年代においても「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など）」が最も高く、そのうち 60 歳代が 42.7%と最も高くなっている。

図 12-3 【年代別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



※ N＝総回答数 n＝回答者数

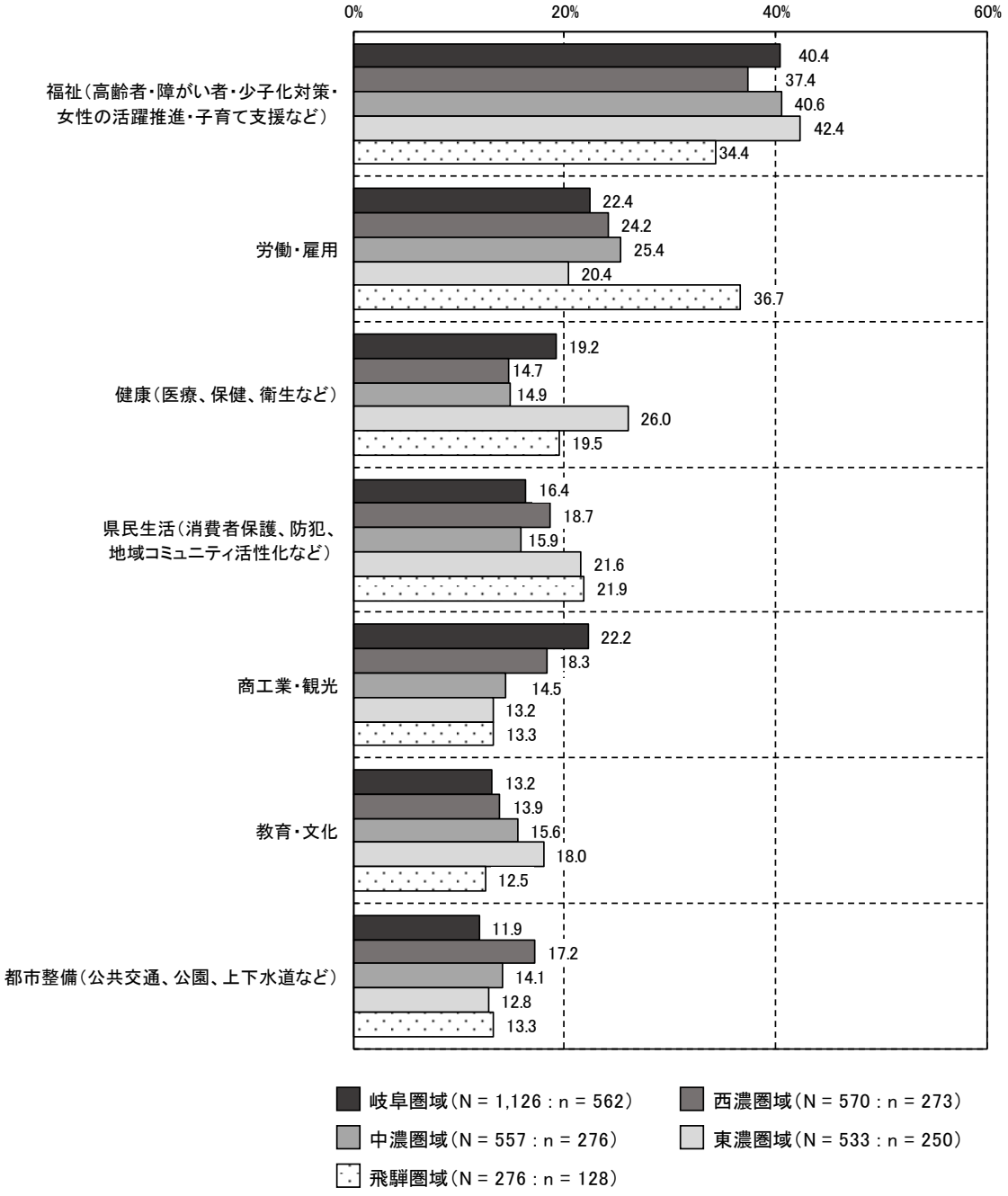
図 12-3 【年代別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

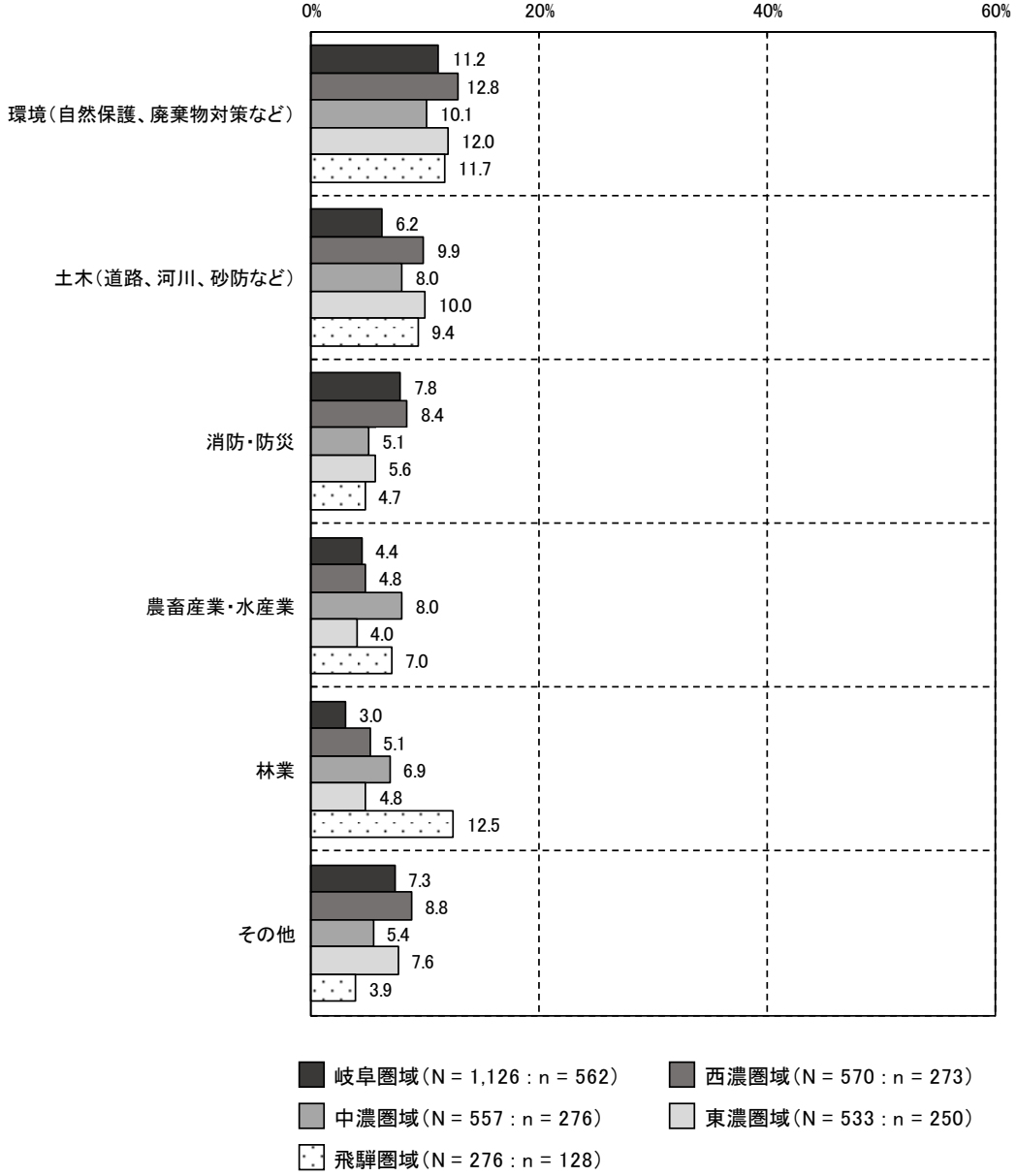
居住圏域別（図 12-4）でみると、飛騨圏域を除く、いずれの居住圏域においても「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など）」が最も高く、そのうち東濃圏域が 42.4%と最も高くなっている。飛騨圏域では「労働・雇用」が 36.7%と最も高くなっている。

図 12-4 【居住圏域別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



※ N＝総回答数　n＝回答者数

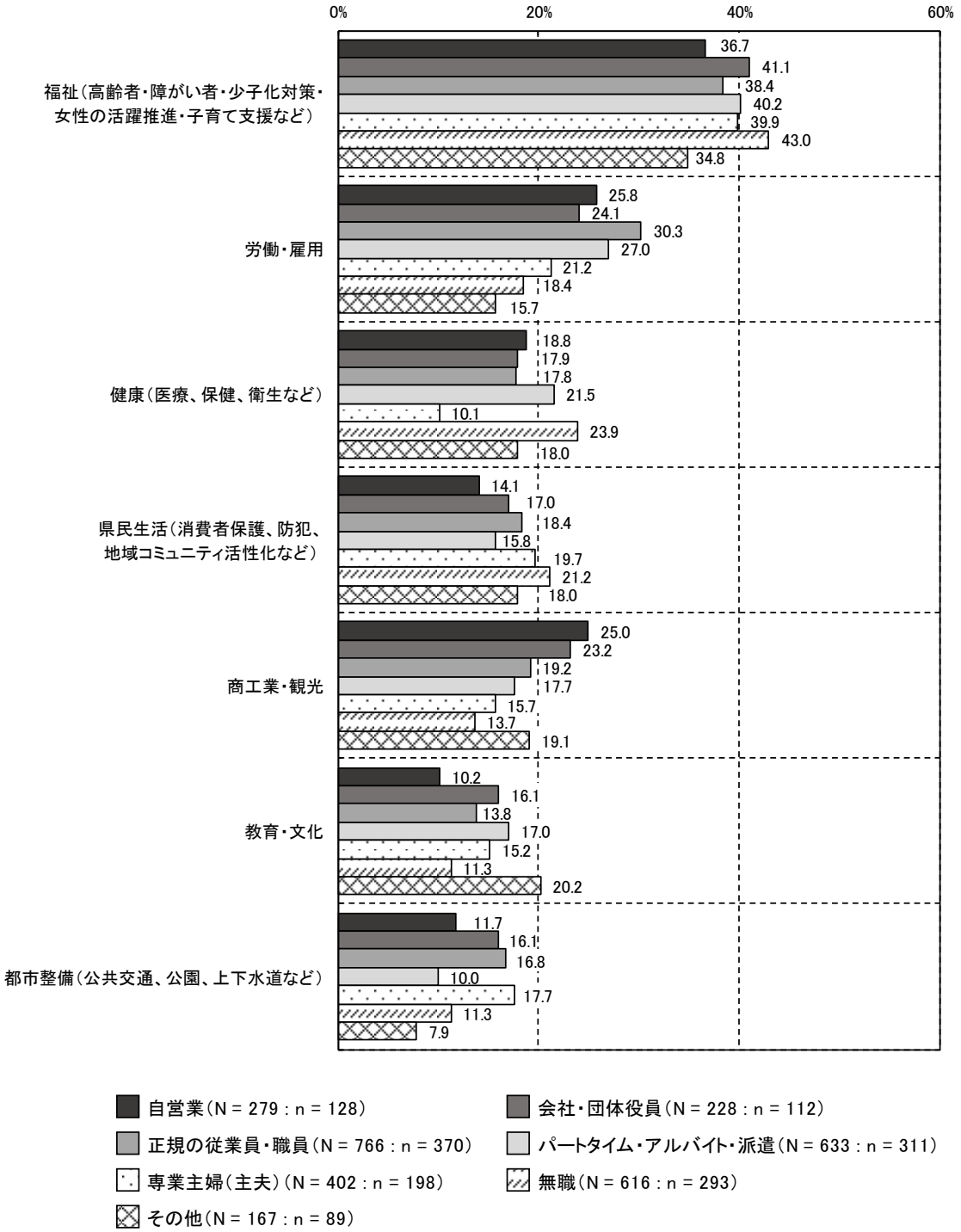
図 12-4 【居住圏域別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野 （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 12-5）でみると、いずれの職業においても「福祉（高齢者・障がい者・少子化対策・女性の活躍推進・子育て支援など）」が最も高く、そのうち無職が 43.0%と最も高くなっている。

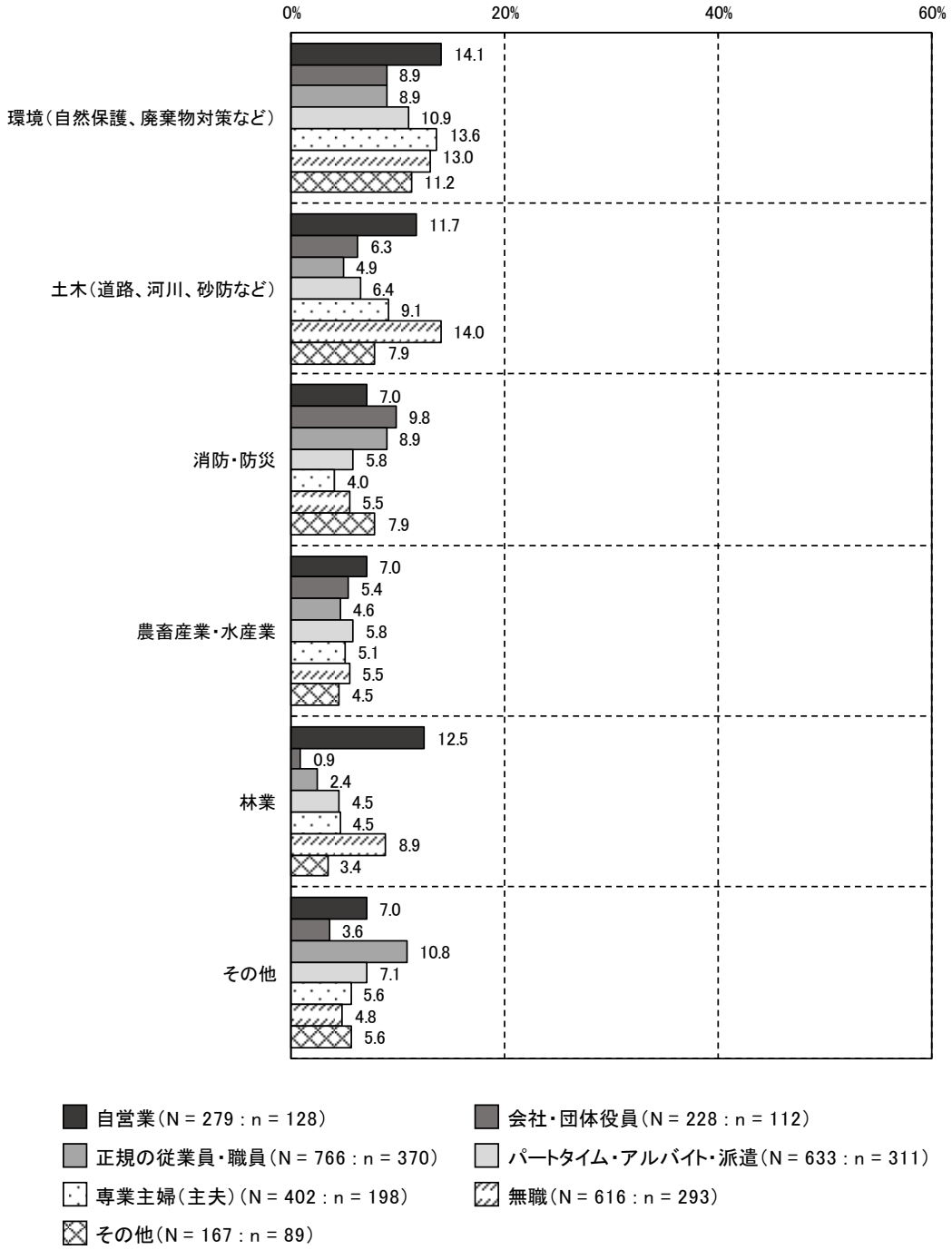
図 12-5 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数　n＝回答者数

図 12-5 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野 （続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

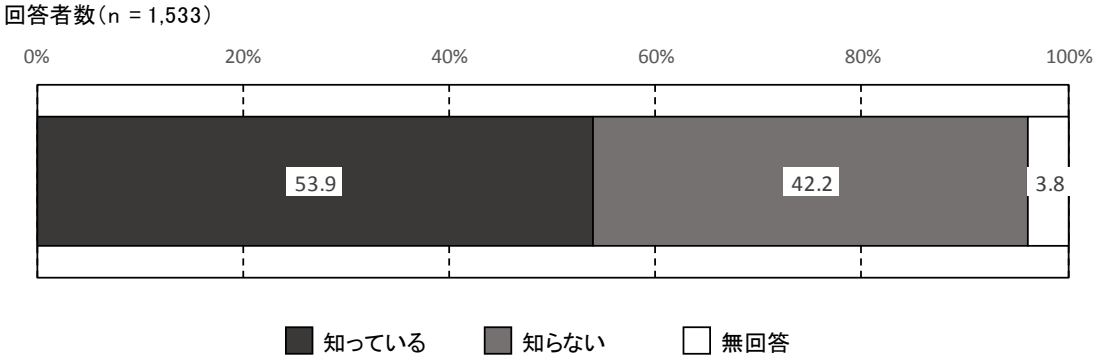
※ N＝総回答数　n＝回答者数

問１３　「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み

問１３　あなたは、岐阜県が「清流の国ぎふ」を地域づくりのキーワードとして掲げ、各種の施策に取り組んでいることを知っていますか。（１つだけ）

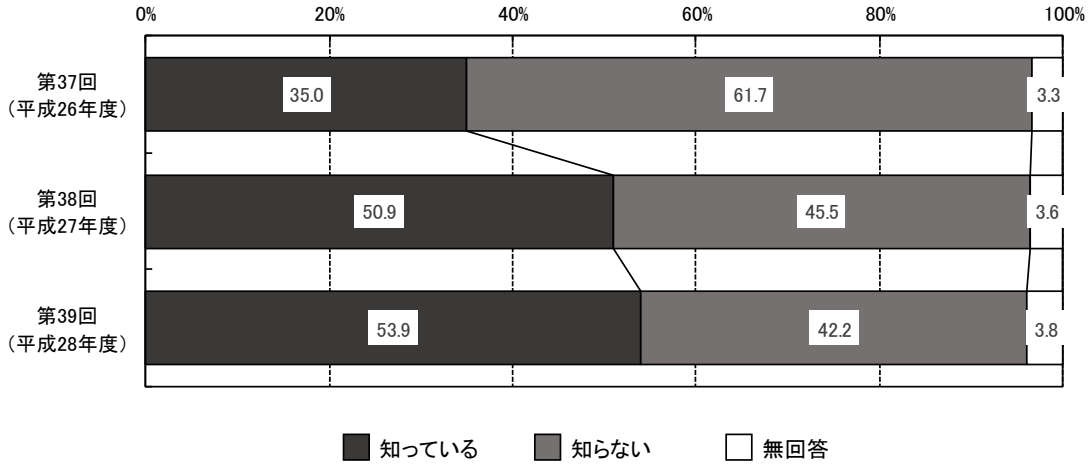
全体（図 13-1）でみると、「知っている」が 53.9%、「知らない」が 42.2%となっている。

図 13-1 「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み



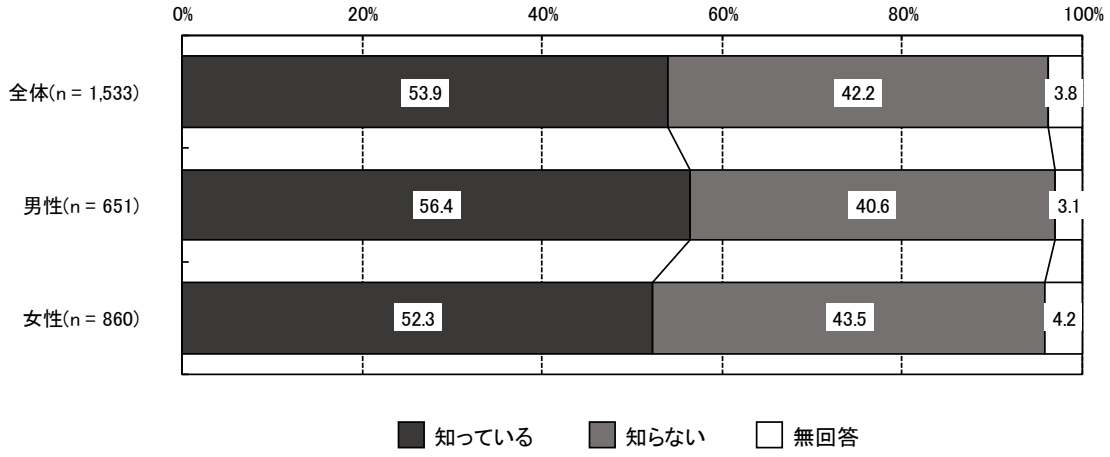
前々回・前回比較（図 13-2）でみると、前回と同様に「知っている」が 53.9%と最も高く、前回よりも 3.0 ポイント増加している。

図 13-2 【前々回・前回比較】「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み



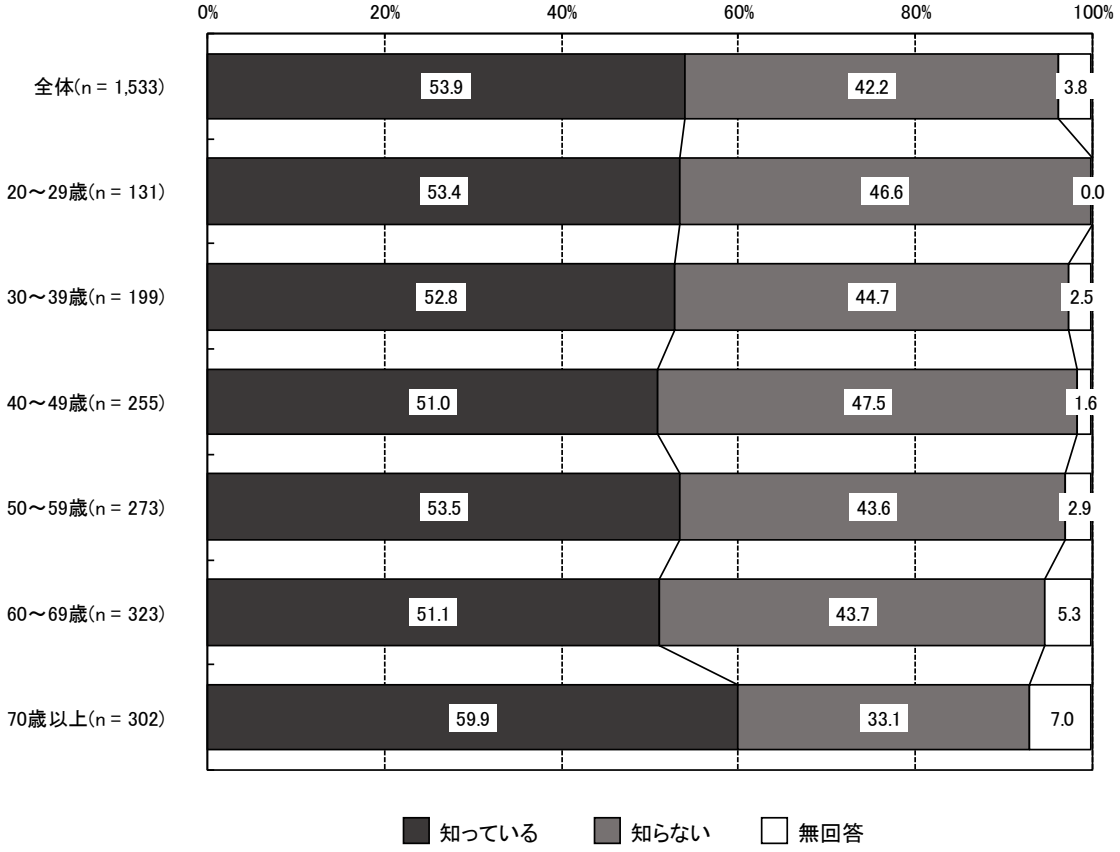
性別（図 13-3）でみると、男女ともに「知っている」が高く、男性が 56.4%、女性が 52.3%となっている。「知らない」では、男性が 40.6%、女性が 43.5%となっている。

図 13-3 【性別】「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み



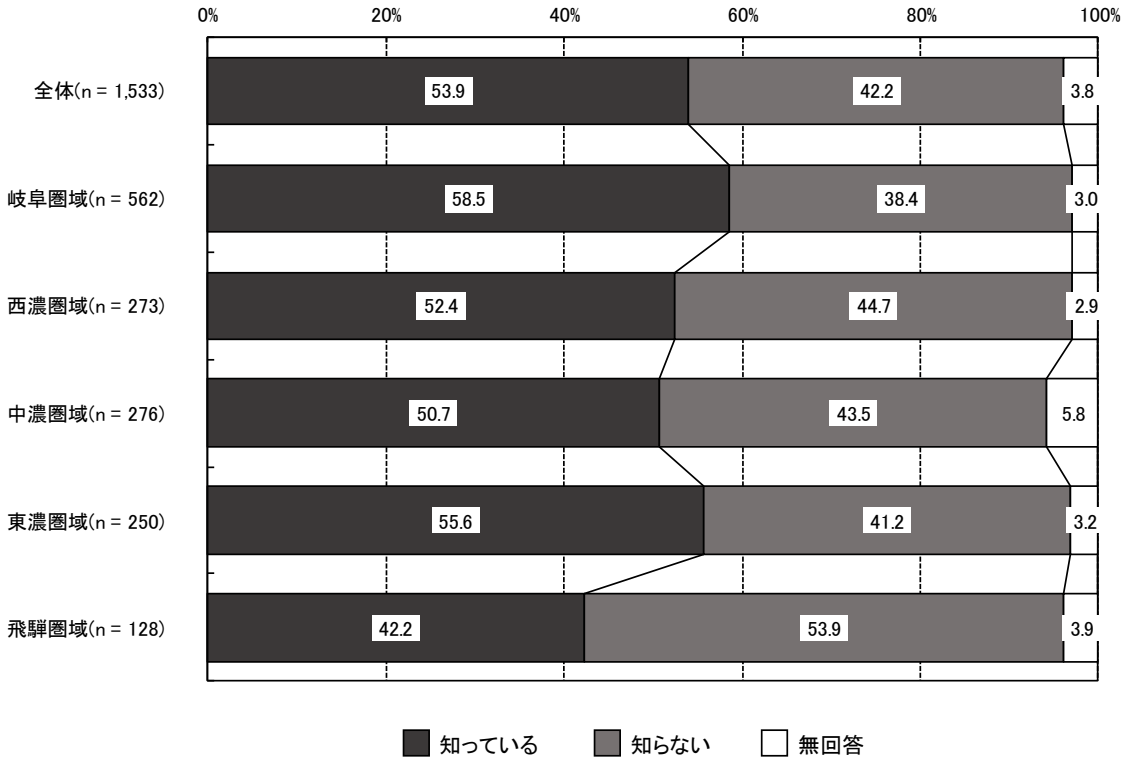
年代別（図 13-4）でみると、いずれの年代でも「知っている」が高く、そのうち 70 歳以上が 59.9%と最も高くなっている。

図 13-4 【年代別】「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み



居住圏域別（図 13-5）でみると、飛騨圏域を除く、いずれの居住圏域においても「知っている」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 58.5%と最も高くなっている。飛騨圏域では「知らない」が 53.9%と最も高くなっている。

図 13-5 【居住圏域別】「清流の国ぎふ」をキーワードとした施策の取り組み



２．３　生活を取り巻くさまざまな課題について

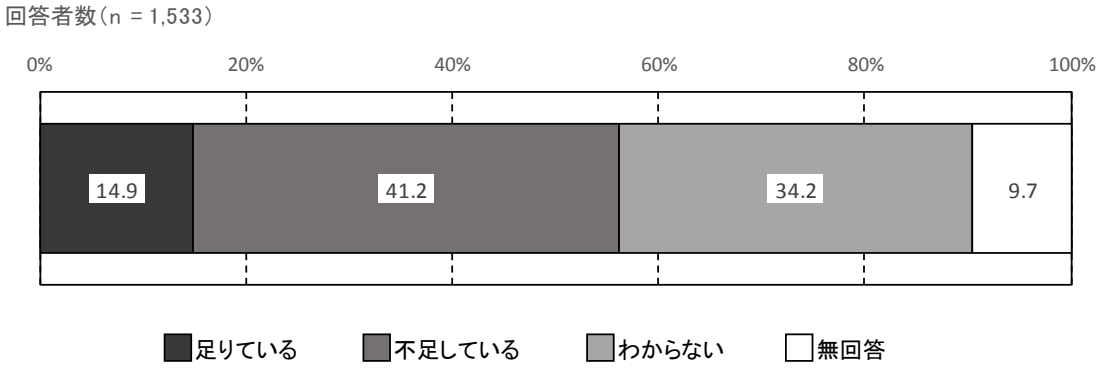
問１４　「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスの不足

問１４　あなたがお住まいの地域で、「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスは足りていると思いますか。（それぞれ１つずつ）

【「高齢者」に対する福祉サービスの不足】

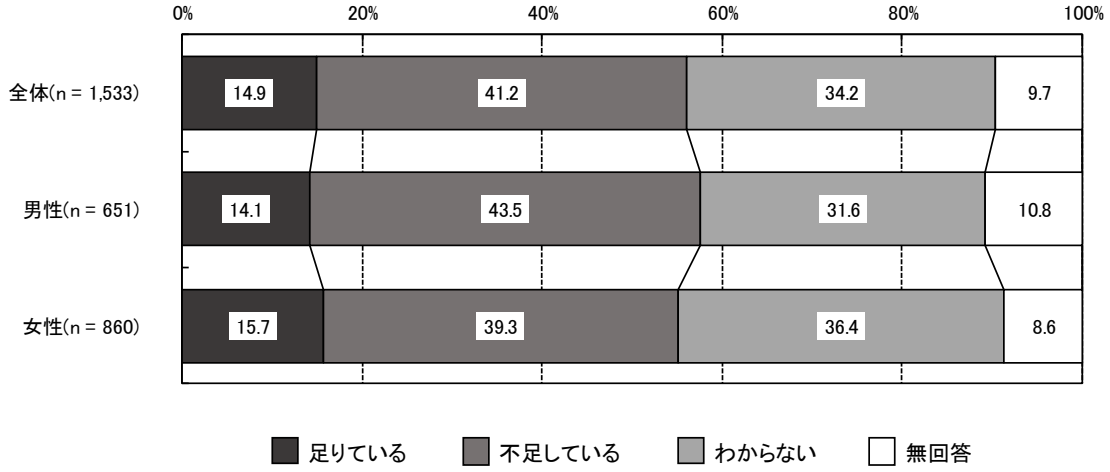
「高齢者」に対する福祉サービスの不足について全体（図 14-1）でみると、「不足している」が 41.2%と最も高く、次いで「わからない」（34.2%）、「足りている」（14.9%）となっている。

図 14-1 「高齢者」に対する福祉サービスの不足



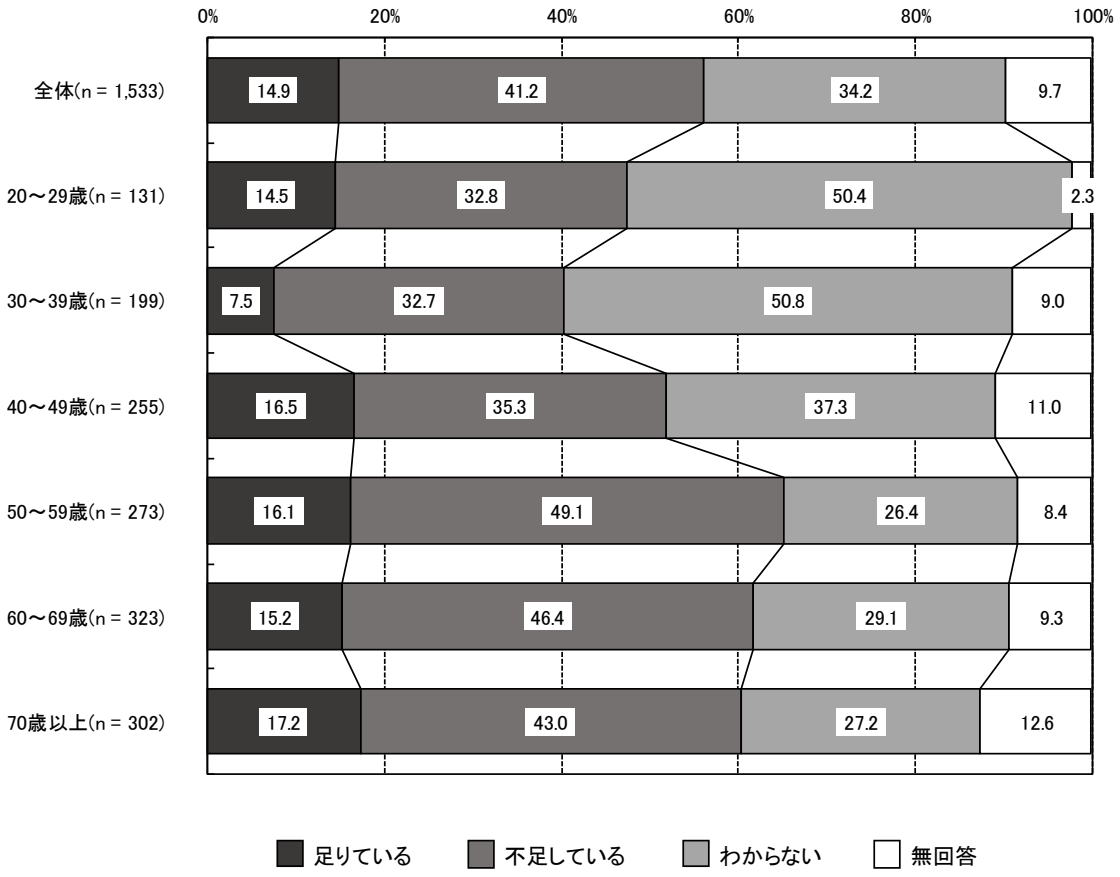
「高齢者」に対する福祉サービスの不足について性別（図 14-2）でみると、男女ともに「不足している」が最も高く、男性が 43.5%、女性が 39.3%となっている。

図 14-2 【性別】「高齢者」に対する福祉サービスの不足



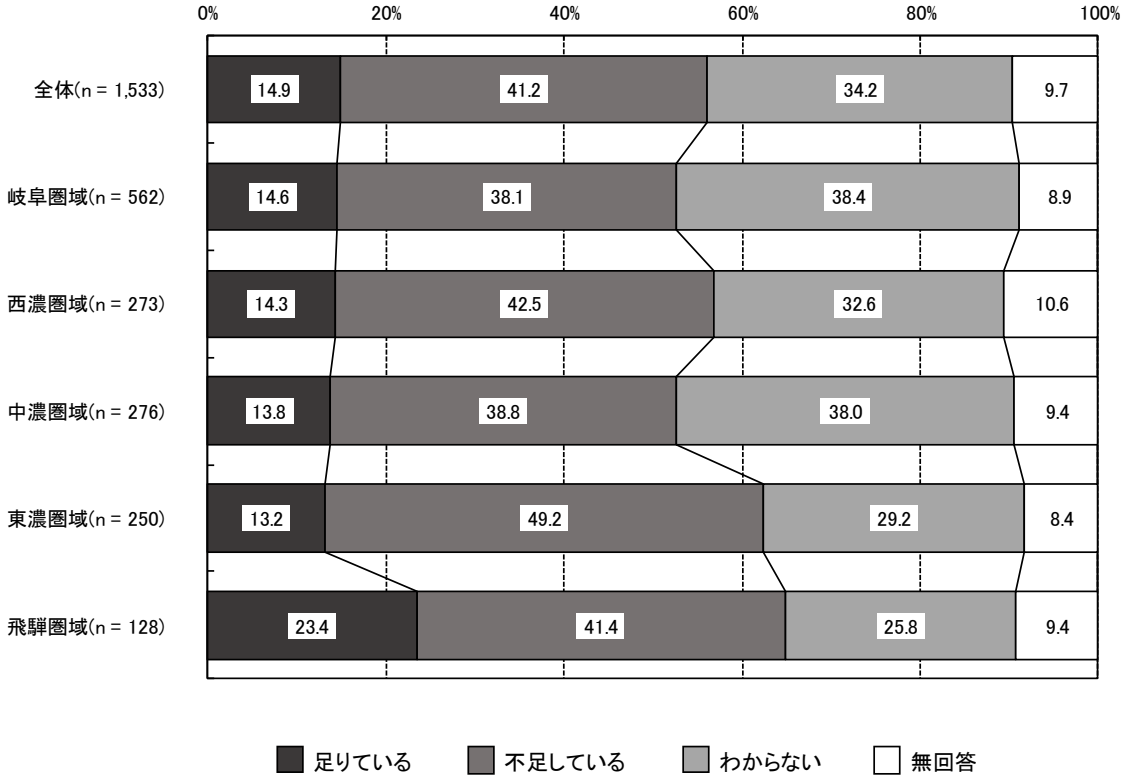
「高齢者」に対する福祉サービスの不足について年代別（図 14-3）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「わからない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 50.8%と最も高くなっている。50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「不足している」が最も高く、そのうち 50 歳代が 49.1%と最も高くなっている。

図 14-3 【年代別】「高齢者」に対する福祉サービスの不足



「高齢者」に対する福祉サービスの不足について居住圏域別（図 14-4）でみると、岐阜圏域を除く、いずれの居住圏域においても「不足している」が最も高く、そのうち東濃圏域が 49.2%と最も高くなっている。岐阜圏域では「わからない」が 38.4%と最も高くなっている。飛騨圏域では「足りている」が 23.4%と、その他の圏域と比較して高くなっている。

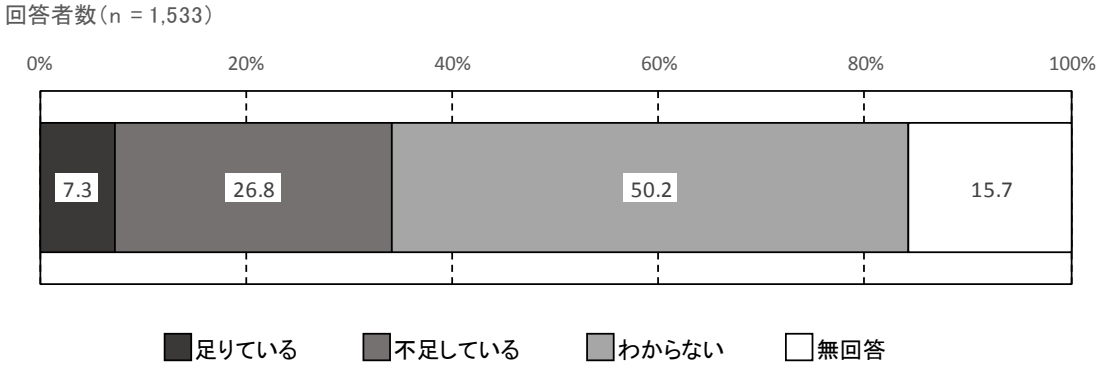
図 14-4 【居住圏域別】「高齢者」に対する福祉サービスの不足



【「障がい者」に対する福祉サービスの不足】

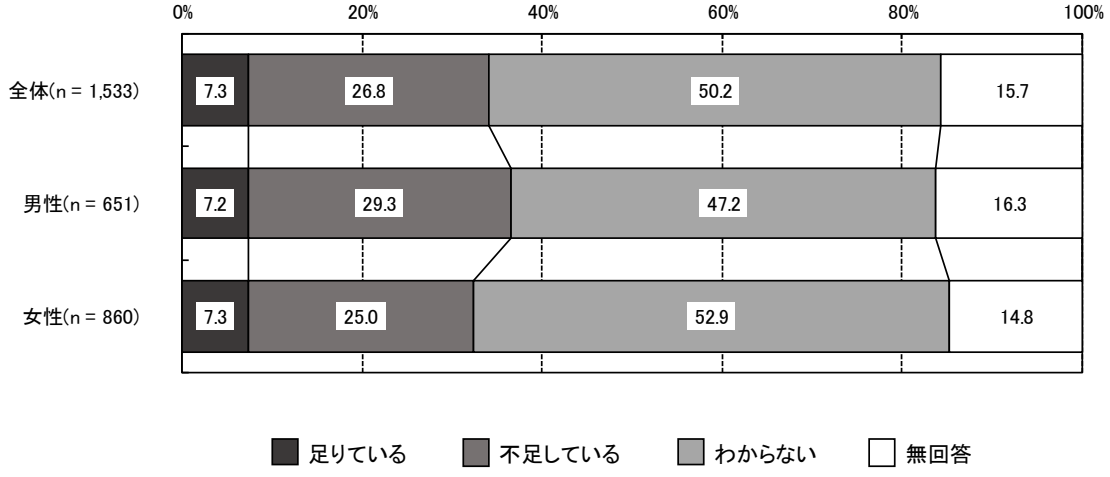
「障がい者」に対する福祉サービスの不足について全体（図 14-5）でみると、「わからない」が 50.2%と最も高く、次いで「不足している」（26.8%）、「足りている」（7.3%）となっている。

図 14-5 「障がい者」に対する福祉サービスの不足



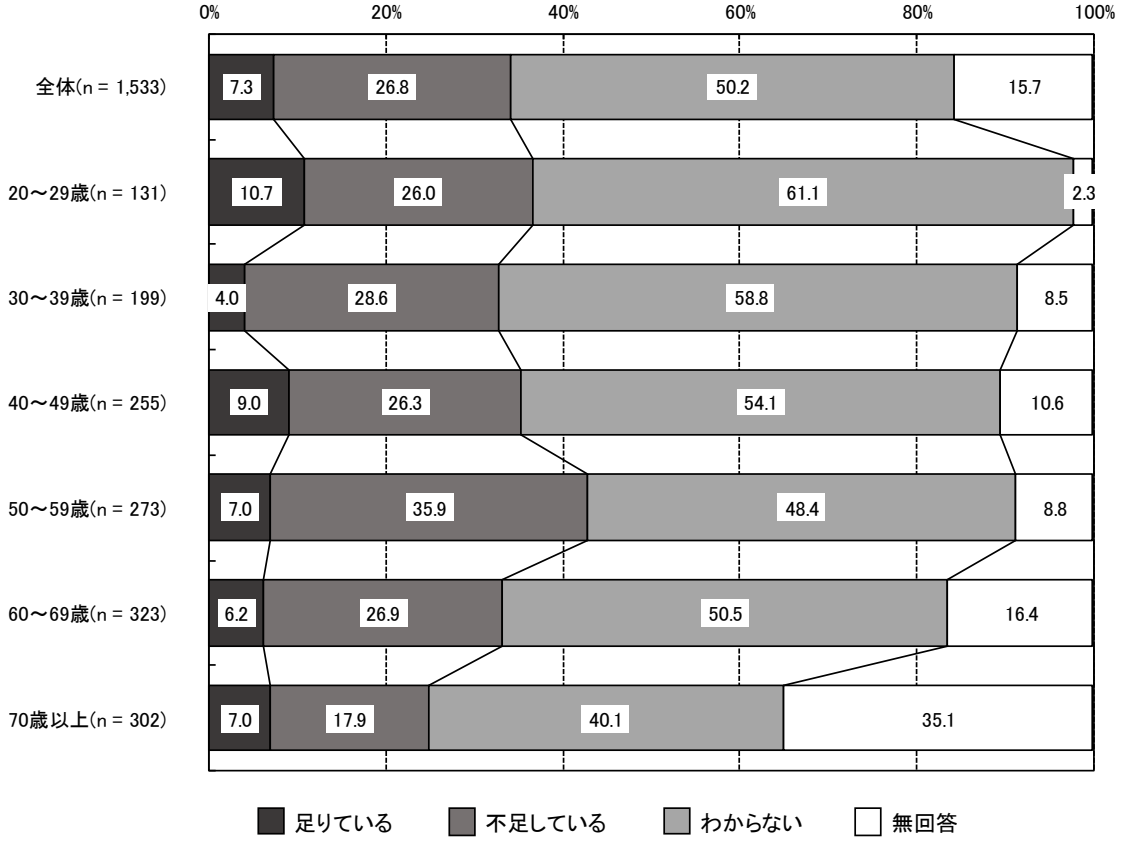
「障がい者」に対する福祉サービスの不足について性別（図 14-6）でみると、男女ともに「わからない」が最も高く、男性が 47.2%、女性が 52.9%となっている。

図 14-6 【性別】「障がい者」に対する福祉サービスの不足



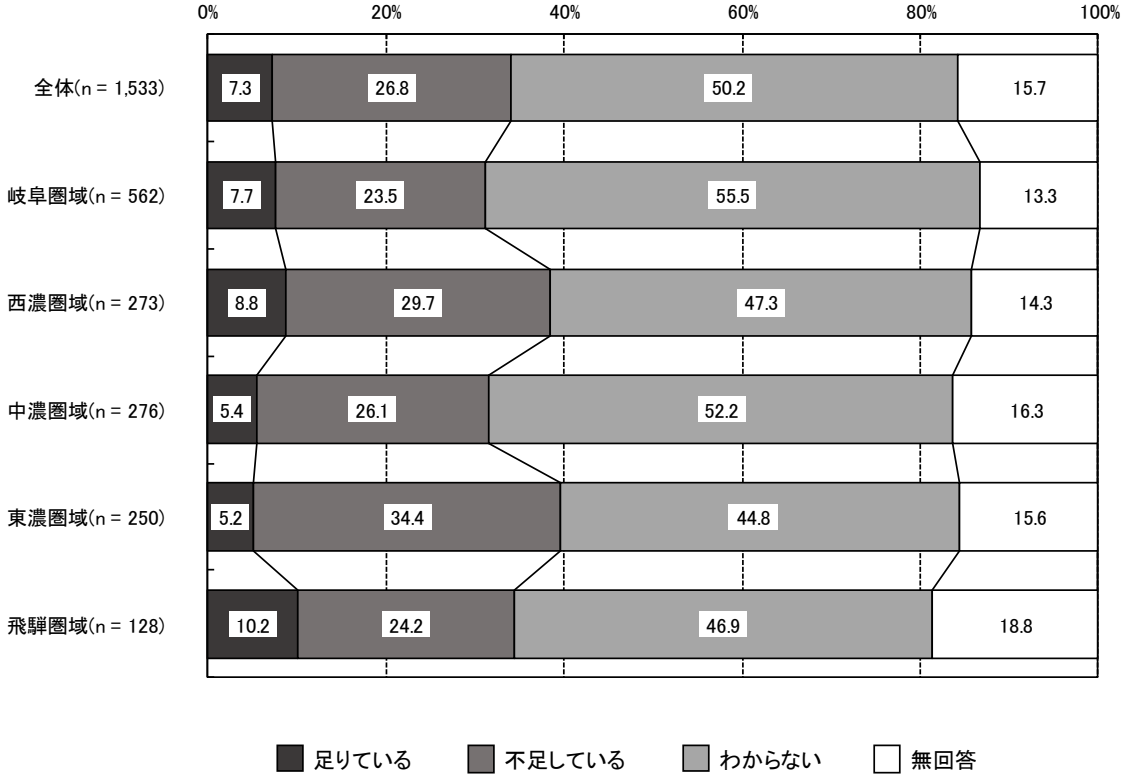
「障がい者」に対する福祉サービスの不足について年代別（図 14-7）でみると、いずれの年代においても「わからない」が最も高く、そのうち 20 歳代で 61.1%と最も高くなっている。

図 14-7 【年代別】「障がい者」に対する福祉サービスの不足



「障がい者」に対する福祉サービスの不足について居住圏域別（図 14-8）でみると、いずれの圏域においても「わからない」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 55.5%と最も高くなっている。

図 14-8 【居住圏域別】「障がい者」に対する福祉サービスの不足



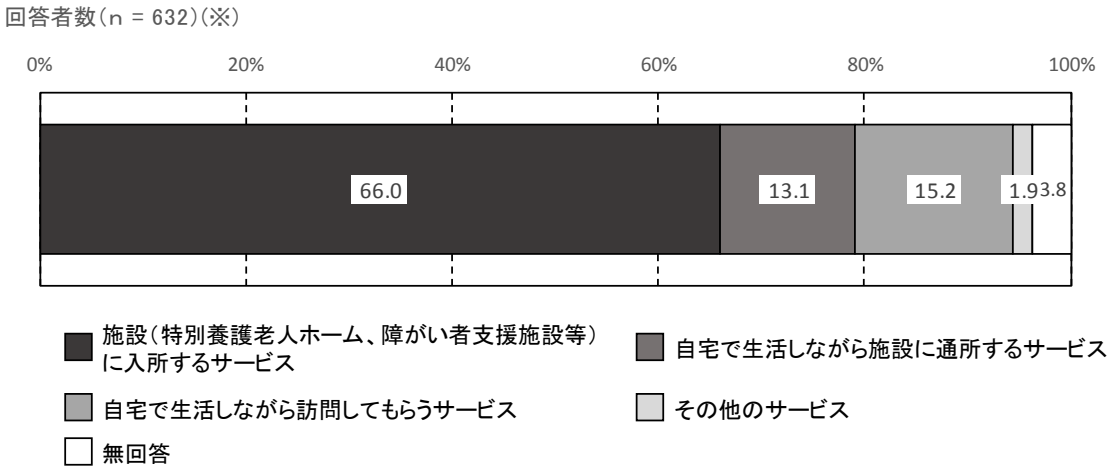
問１４-２　不足している「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス

問１４－２　「不足している」と答えた方にお尋ねします。不足していると思う「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス等は何ですか。（それぞれ１つずつ）

【不足している「高齢者」に対する福祉サービス】

不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて全体（図 14-2-1）でみると、「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が 66.0%と最も高く、次いで「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」（15.2%）、「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」（13.1%）の順となっている。

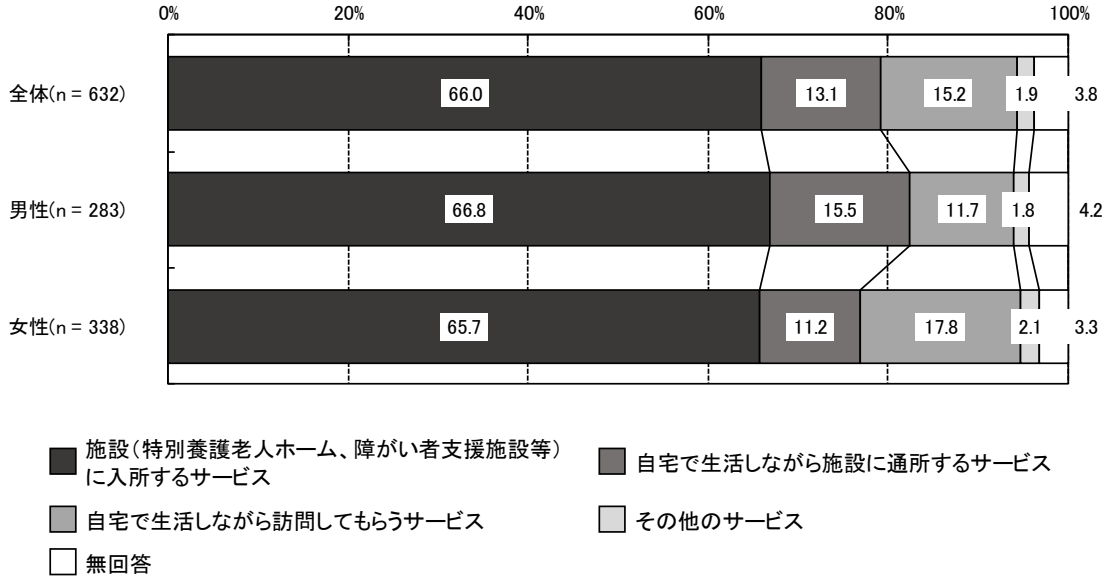
図 14-2-1　不足している「高齢者」に対する福祉サービス



※ 問 14 で高齢者に対する福祉サービスが「不足している」と答えた方のみ

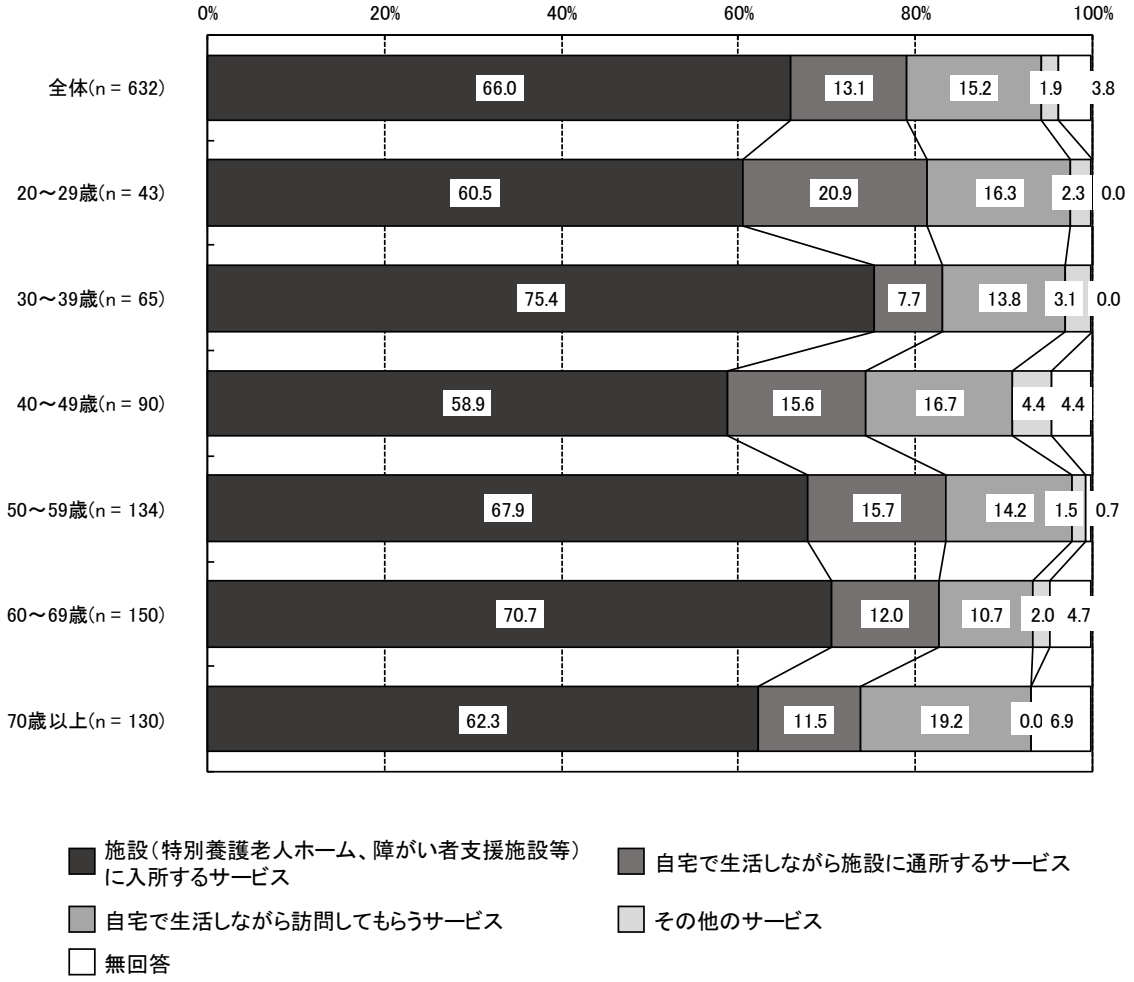
不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて性別（図 14-2-2）でみると、男女ともに「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、男性が 66.8%、女性が 65.7%となっている。

図 14-2-2 【性別】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス



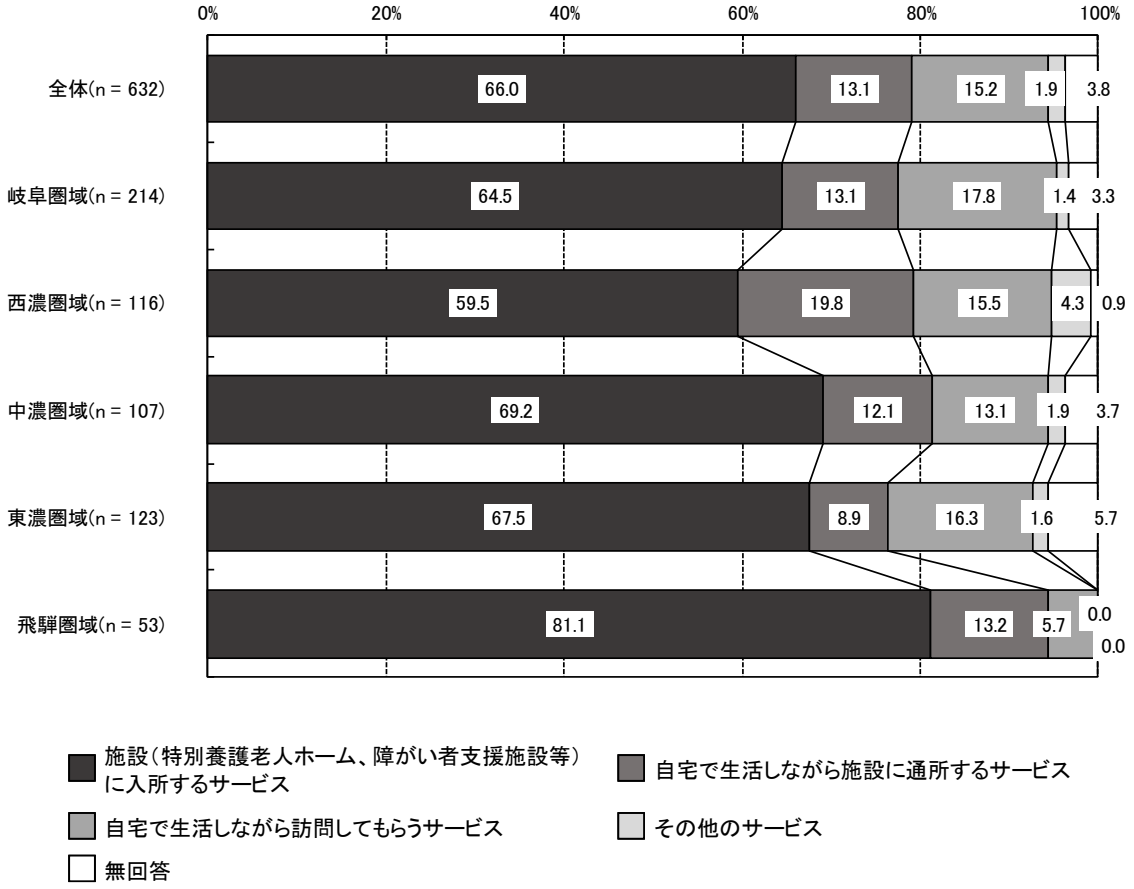
不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて年代別（図 14-2-3）でみると、いずれの年代においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち 30 歳代が 75.4%と最も高くなっている。

図 14-2-3 【年代別】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス



不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 14-2-4）でみると、いずれの居住圏域においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 81.1%と最も高くなっている。

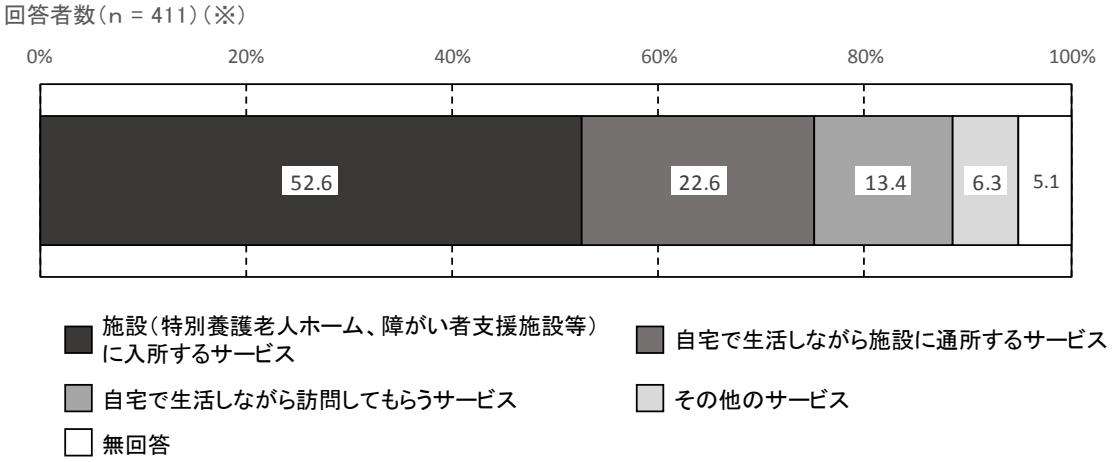
図 14-2-4 【居住圏域別】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス



【不足している「障がい者」に対する福祉サービス】

不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて全体（図 14-2-5）でみると、「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が 52.6%と最も高く、次いで「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」(22.6%)、「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」(13.4%) となっている。

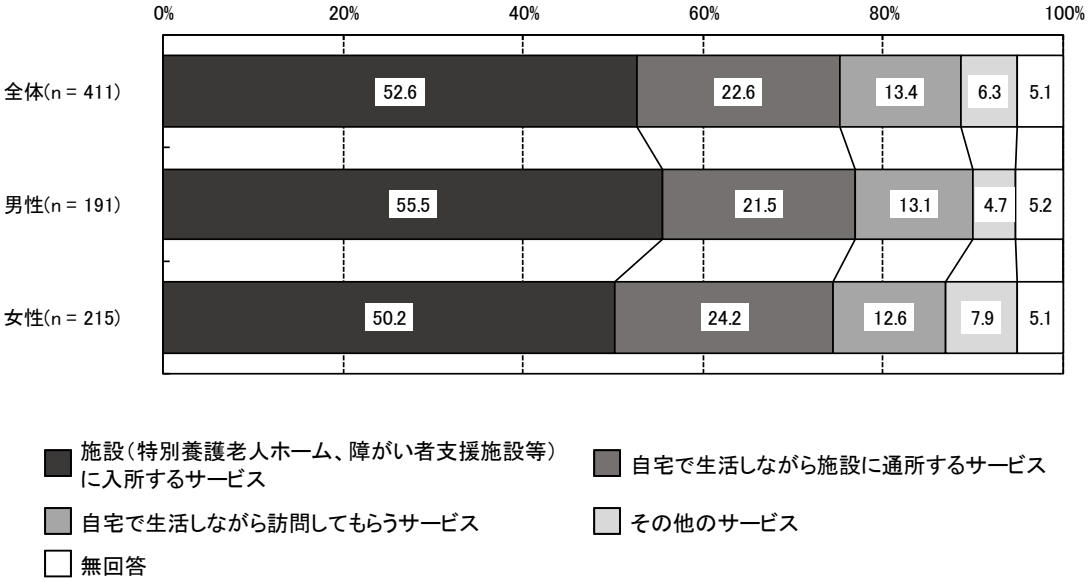
図 14-2-5 不足している「障がい者」に対する福祉サービス



※ 問 14 で障がい者に対する福祉サービスが「不足している」と答えた方のみ

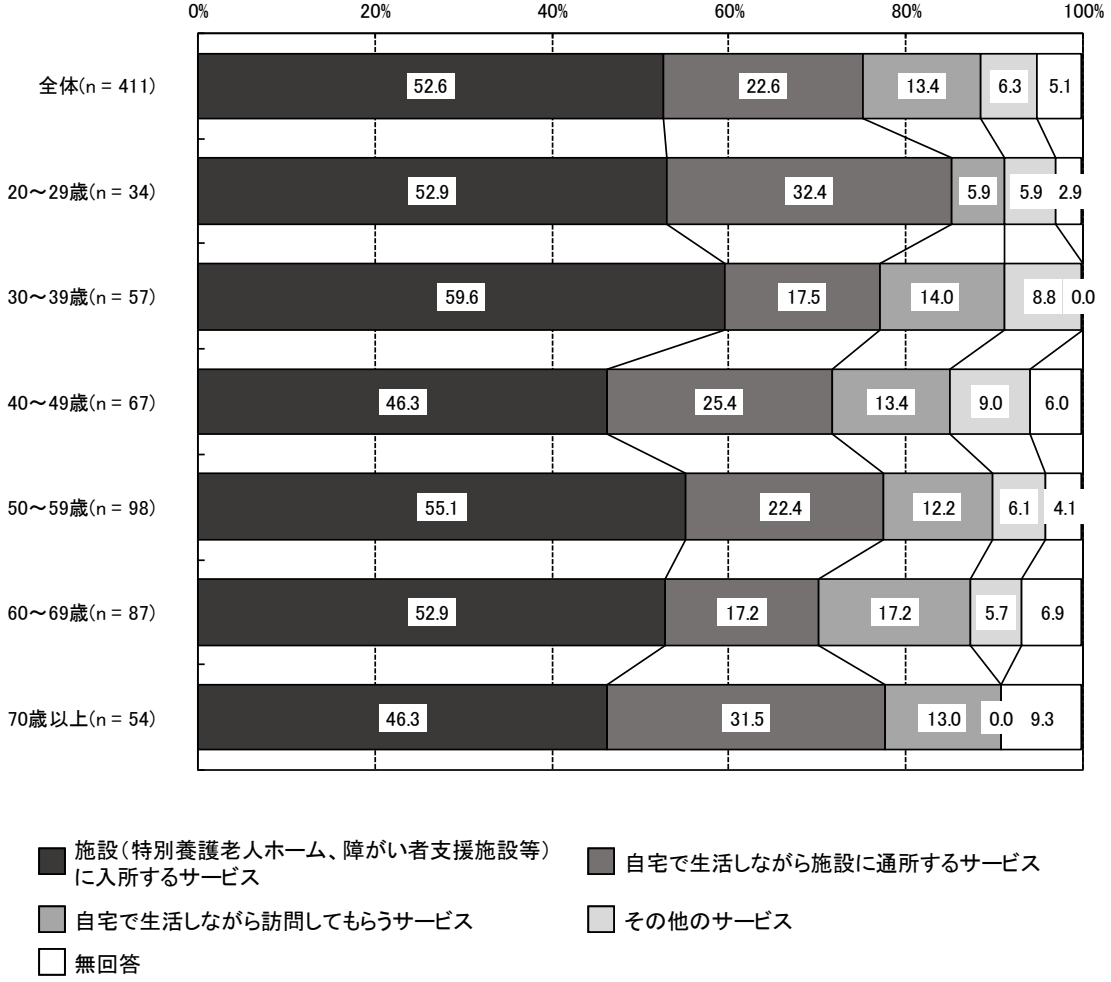
不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて性別（図 14-2-6）でみると、男女ともに「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、男性が 55.5%、女性が 50.2%となっている。

図 14-2-6 【性別】 不足している「障がい者」に対する福祉サービス



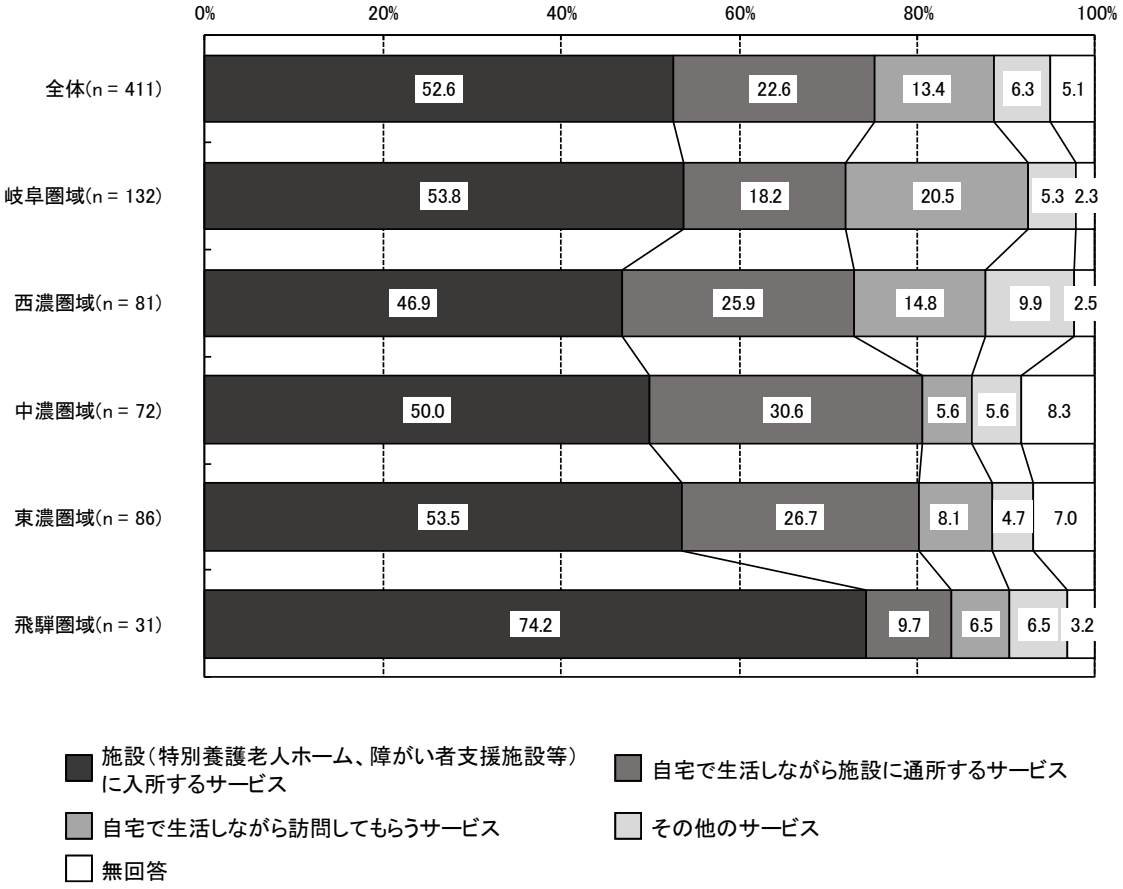
不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて年代別（図 14-2-7）でみると、いずれの年代においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち 30 歳代で 59.6%と最も高くなっている。

図 14-2-7 【年代別】 不足している「障がい者」に対する福祉サービス



不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 14-2-8）でみると、「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 74.2%と最も高くなっている。

図 14-2-8 【居住圏域別】 不足している「障がい者」に対する福祉サービス

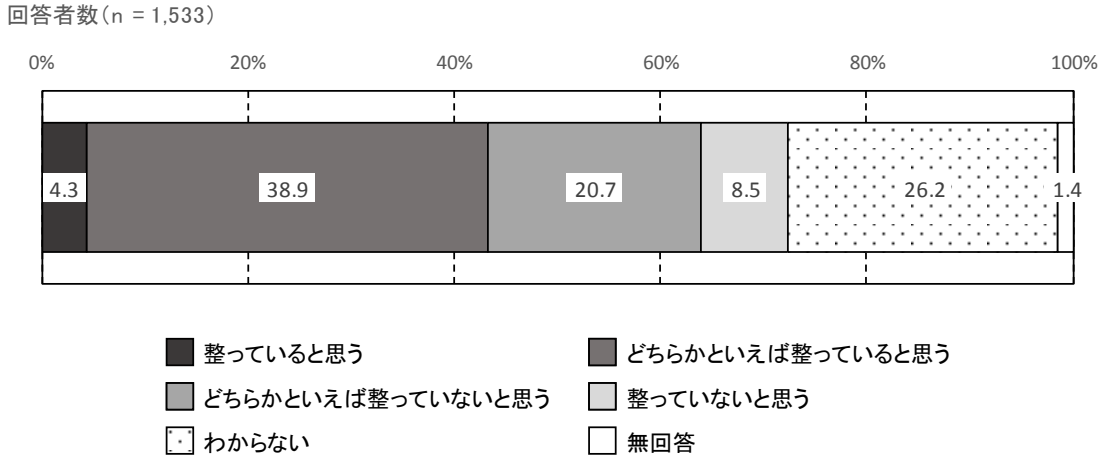


問１５　地域全体で子育てを支える環境の整備

問１５　あなたがお住まいの地域では、地域全体で子育てを支える環境が整っていると思いますか。（１つだけ）

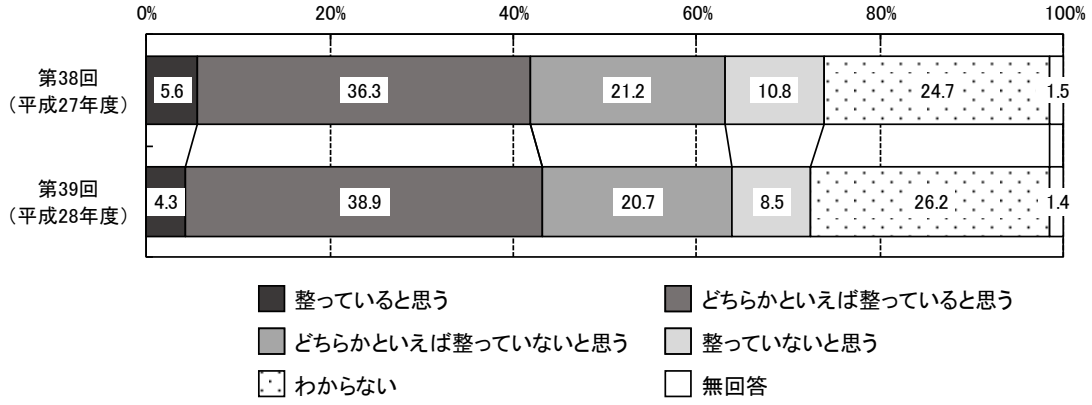
全体（図 15-1）でみると、「どちらかといえば整っていると思う」が 38.9%と最も高く、次いで「わからない」（26.2%）、「どちらかといえば整っていないと思う」（20.7%）となっている。

図 15-1　地域全体で子育てを支える環境の整備



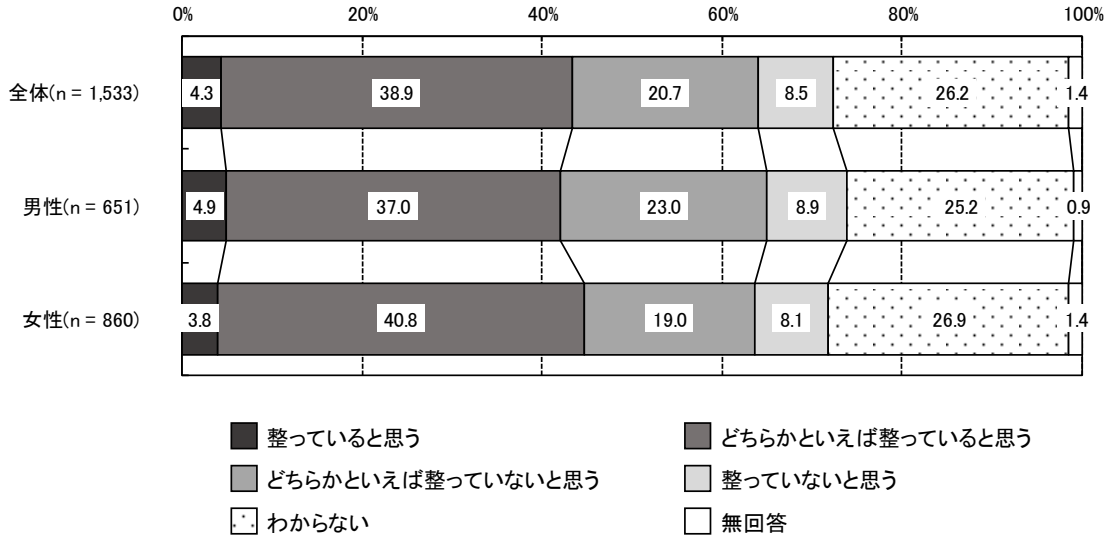
前回比較（図 15-2）でみると、前回と同様に「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、前回と比較して 2.6 ポイント増加している。

図 15-2 【前回比較】 地域全体で子育てを支える環境の整備



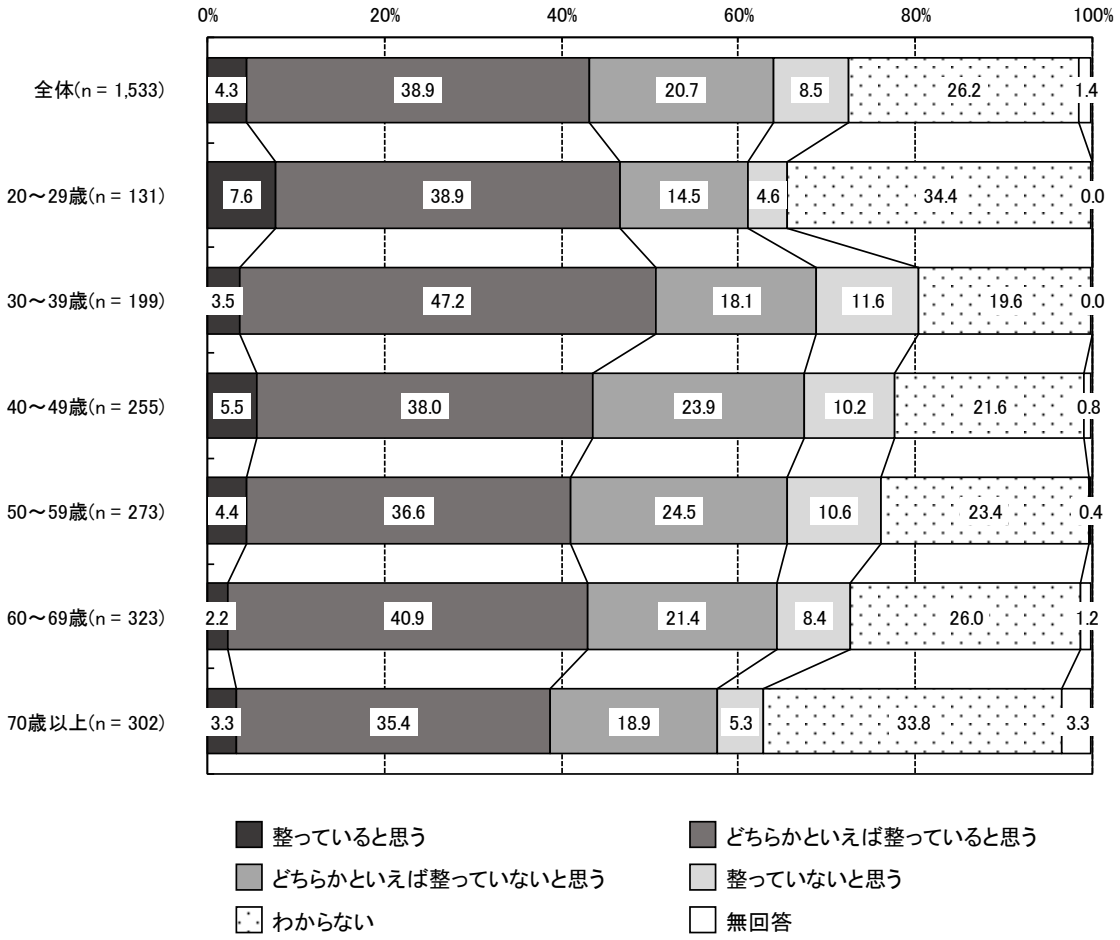
性別（図 15-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、男性が 37.0%、女性が 40.8%となっている。

図 15-3 【性別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



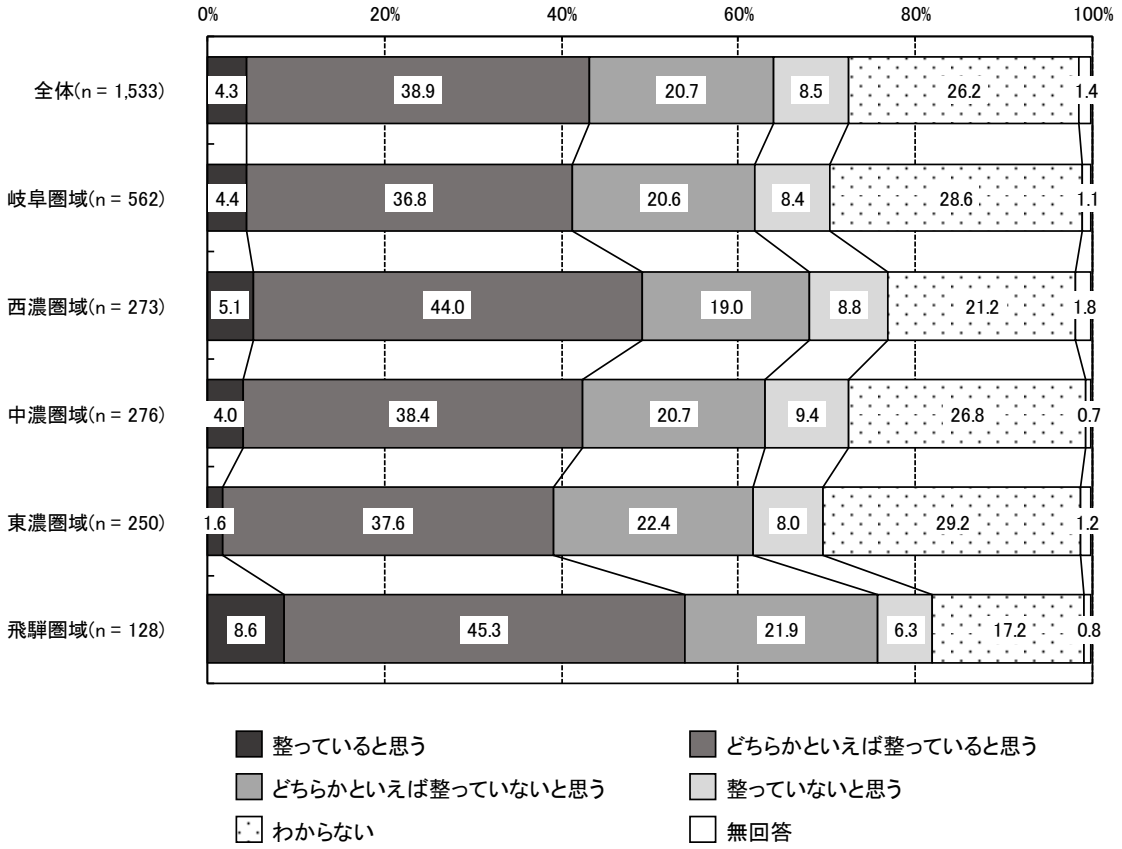
年代別（図 15-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち 30 歳代が 47.2%と最も高くなっている。

図 15-4 【年代別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



居住圏域別（図 15-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 45.3%と最も高くなっている。

図 15-5 【居住圏域別】 地域全体で子育てを支える環境の整備

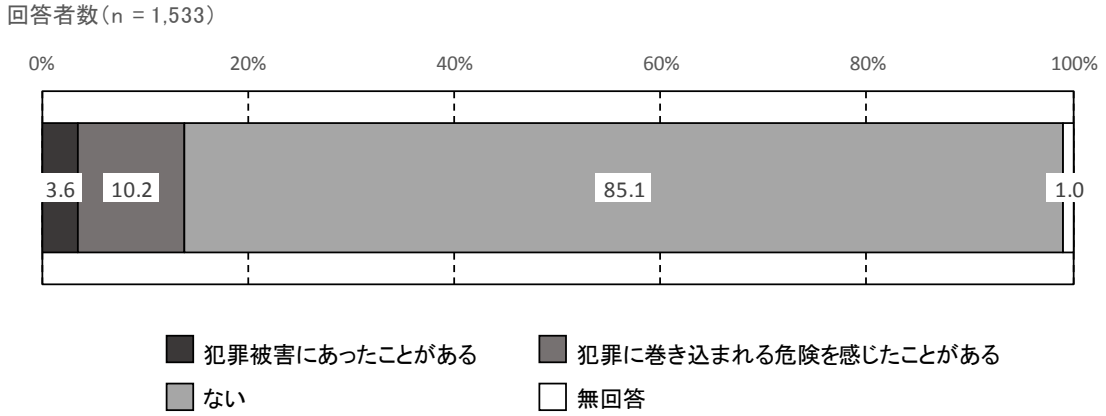


問１６　過去１年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

問１６　あなたは、過去１年間に犯罪被害にあったこと、または犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがありますか。（１つだけ）

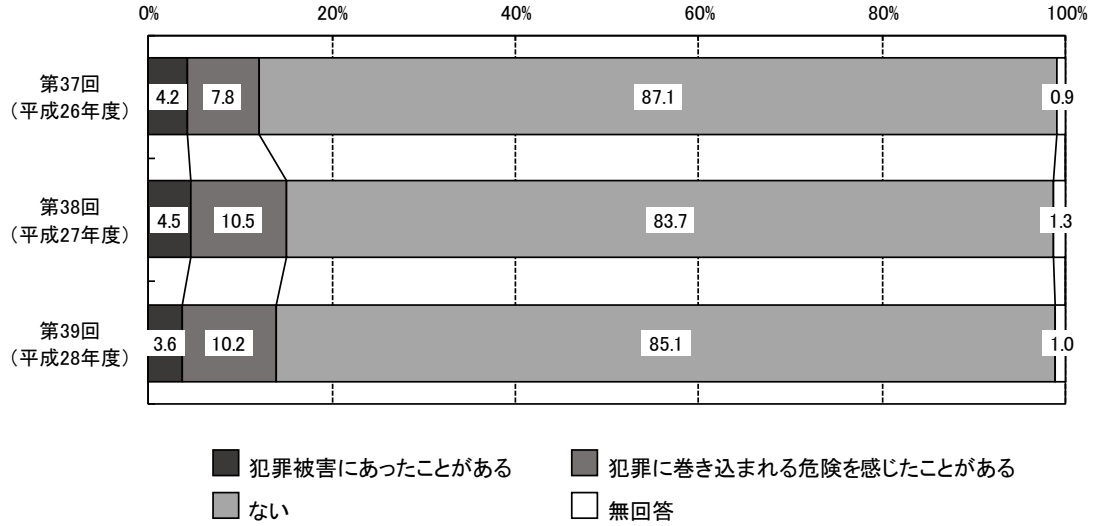
全体（図 16-1）でみると、「ない」が 85.1％と最も高くなっている。

図 16-1　過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



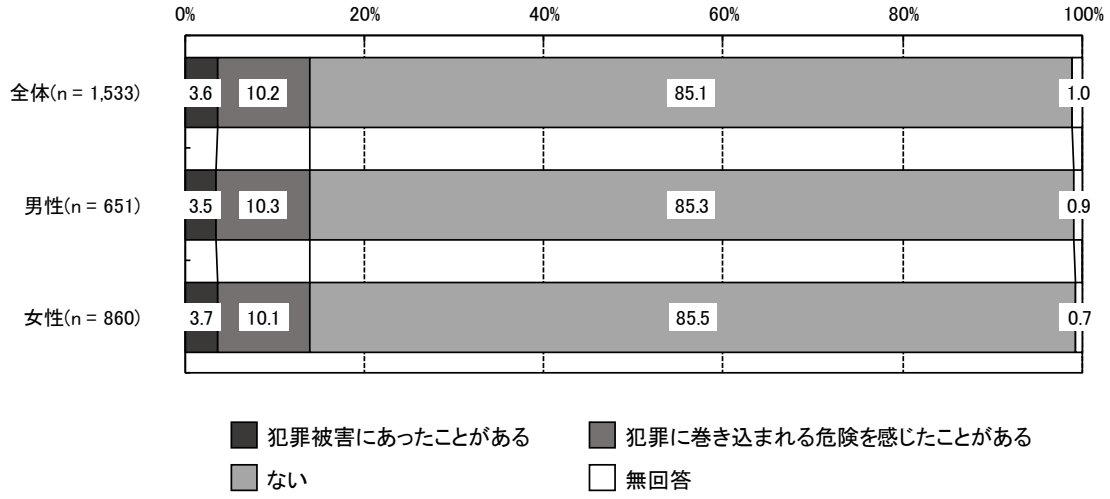
前々回・前回比較（図 16-2）でみると、前々回・前回と同様に「ない」が最も高く、前回より 1.4 ポイント増加している。

図 16-2 【前々回・前回比較】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



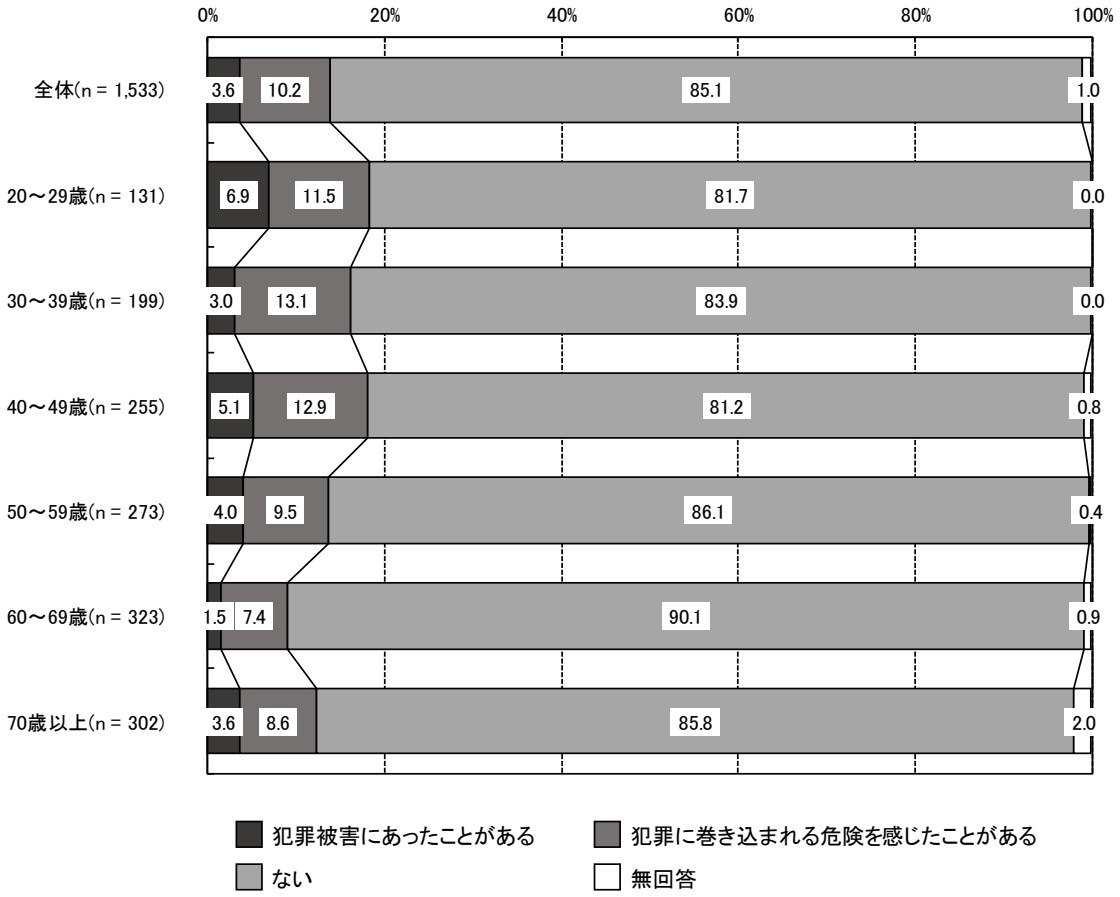
性別（図 16-3）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は男女ともに 13.8%となっている。

図 16-3 【性別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



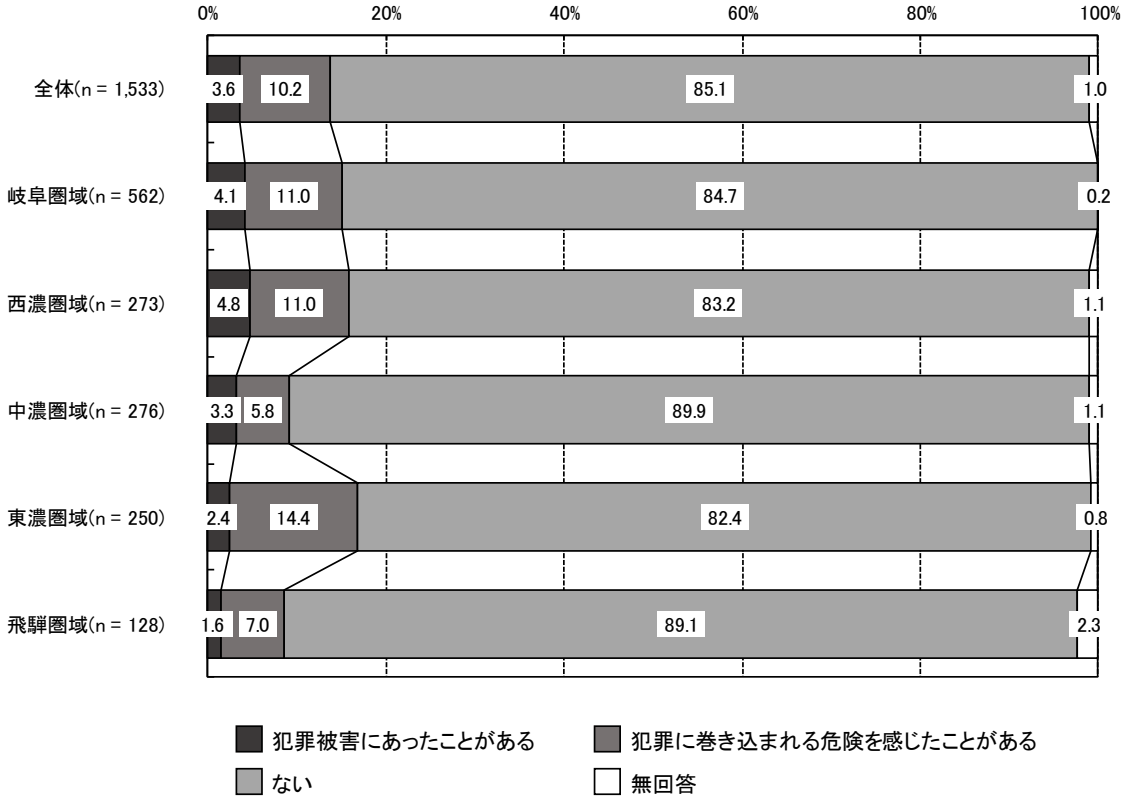
年代別（図 16-4）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は、20 歳代が 18.4%と最も高く、60 歳代が 8.9%と最も低くなっている。

図 16-4 【年代別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



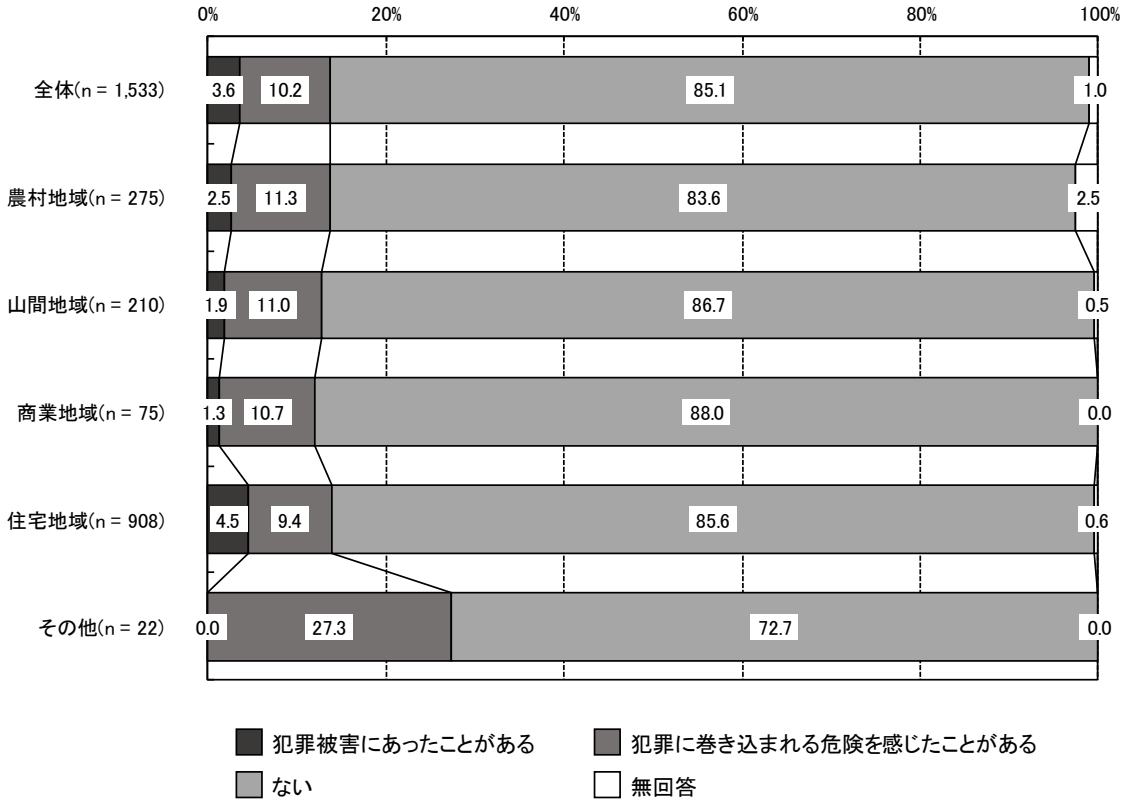
居住圏域別（図 16-5）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は、東濃圏域が 16.8%と最も高く、飛騨圏域が 8.6%と最も低くなっている。

図 16-5 【居住圏域別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



居住環境別（図 16-6）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は、その他を除いて住宅地域が 13.9%と最も高くなっている。

図 16-6 【居住環境別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

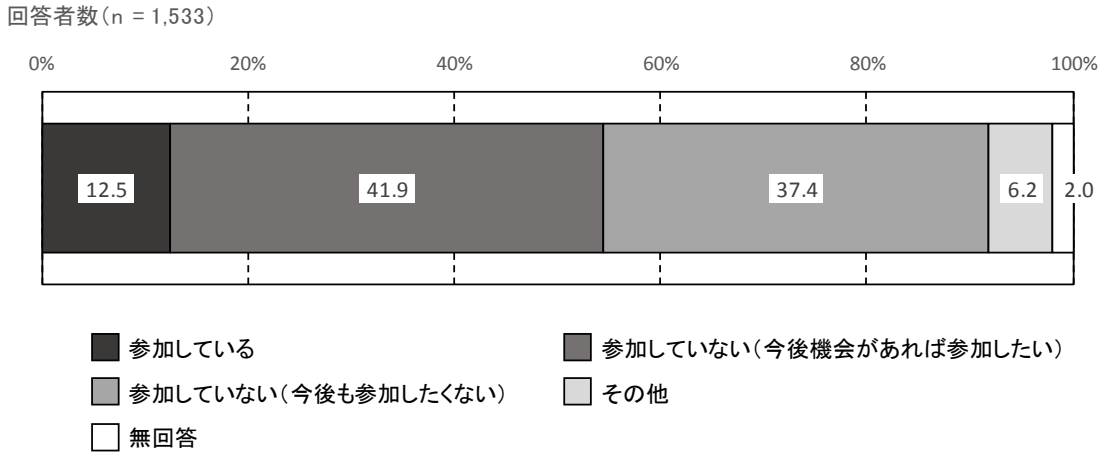


問１７　社会貢献活動への参加

問１７　あなたは、ＮＰＯ（民間非営利組織）やボランティアなど、自発的に社会のために取り組む活動に参加していますか。（１つだけ）

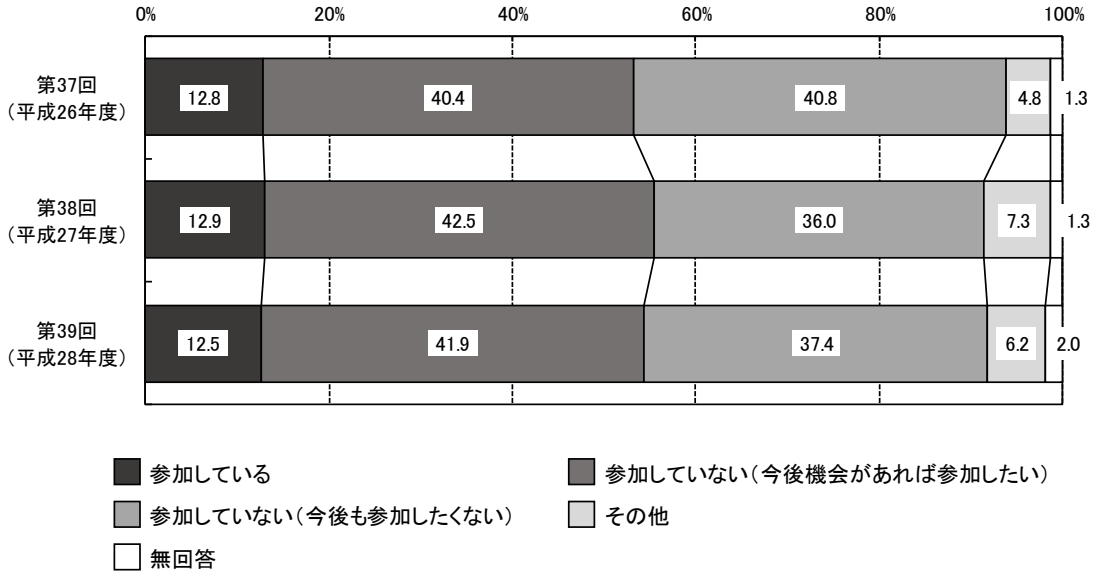
全体（図 17-1）でみると、「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が 41.9%と最も高く、次いで「参加していない（今後も参加したくない）」（37.4%）、「参加している」（12.5%）の順となっている。

図 17-1　社会貢献活動への参加



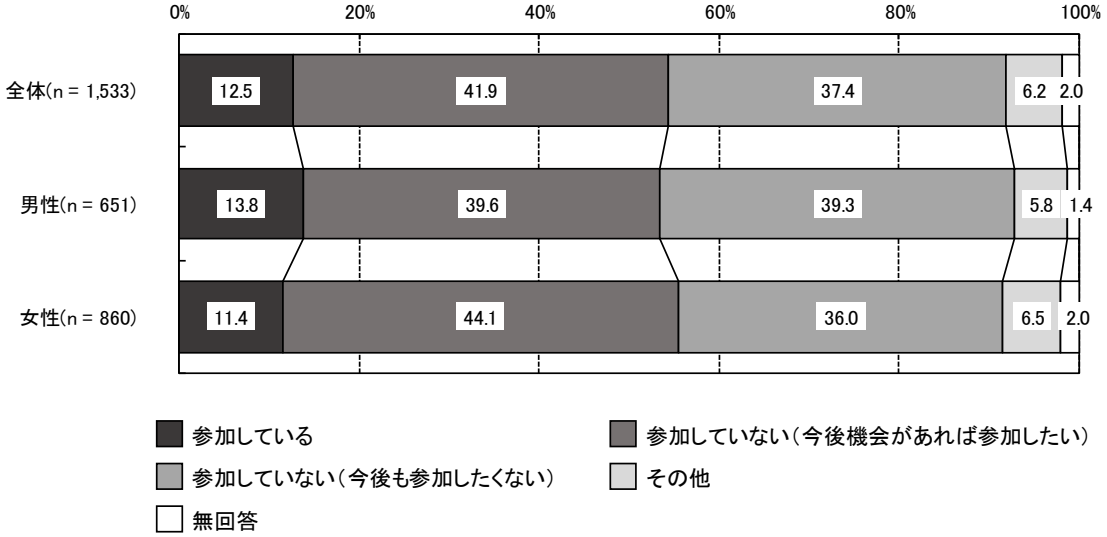
前々回・前回比較（図 17-2）でみると、前々回・前回と同様に「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高くなっている。「参加していない（今後も参加したくない）」は前回より 1.4 ポイント増加している。

図 17-2 【前々回･前回比較】 社会貢献活動への参加



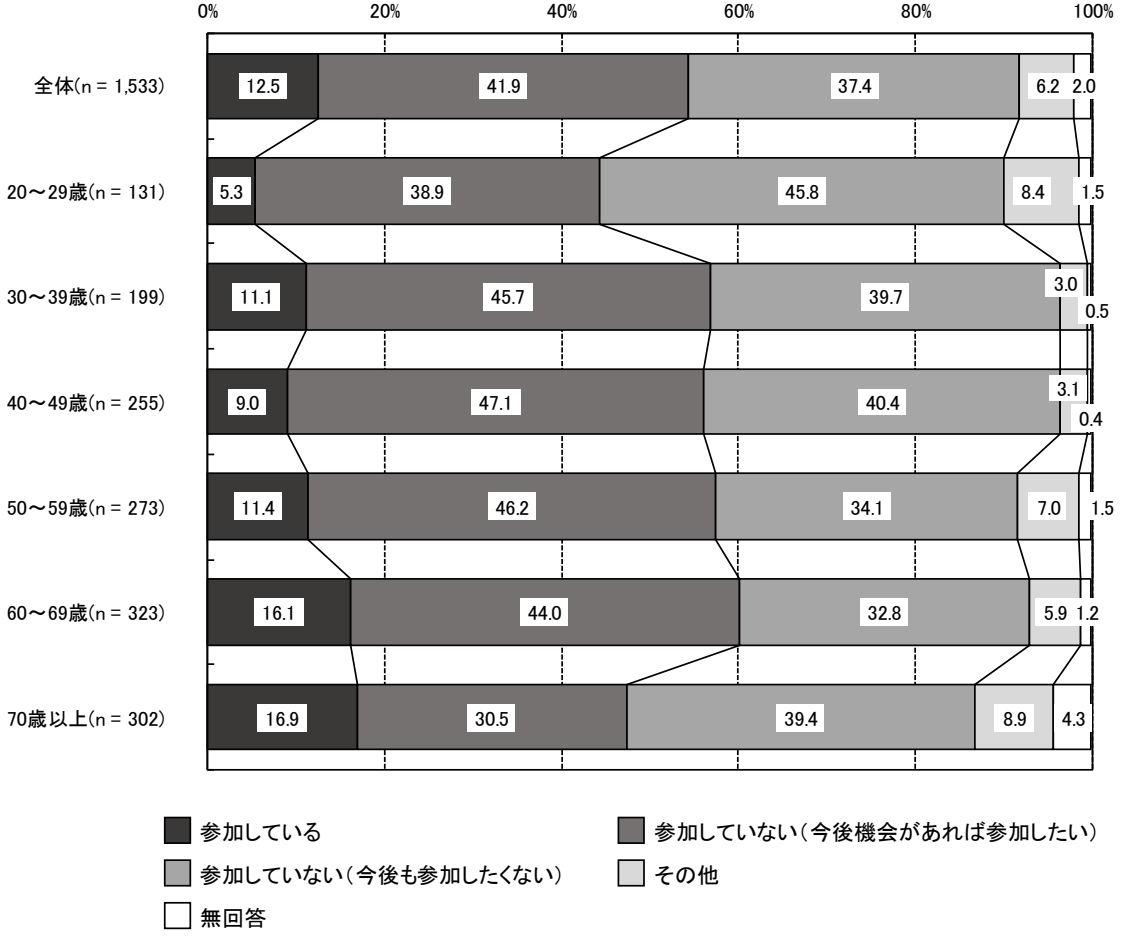
性別（図 17-3）でみると、男女ともに「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、男性は 39.6%、女性は 44.1%で、女性が男性より 4.5 ポイント高くなっている。

図 17-3 【性別】 社会貢献活動への参加



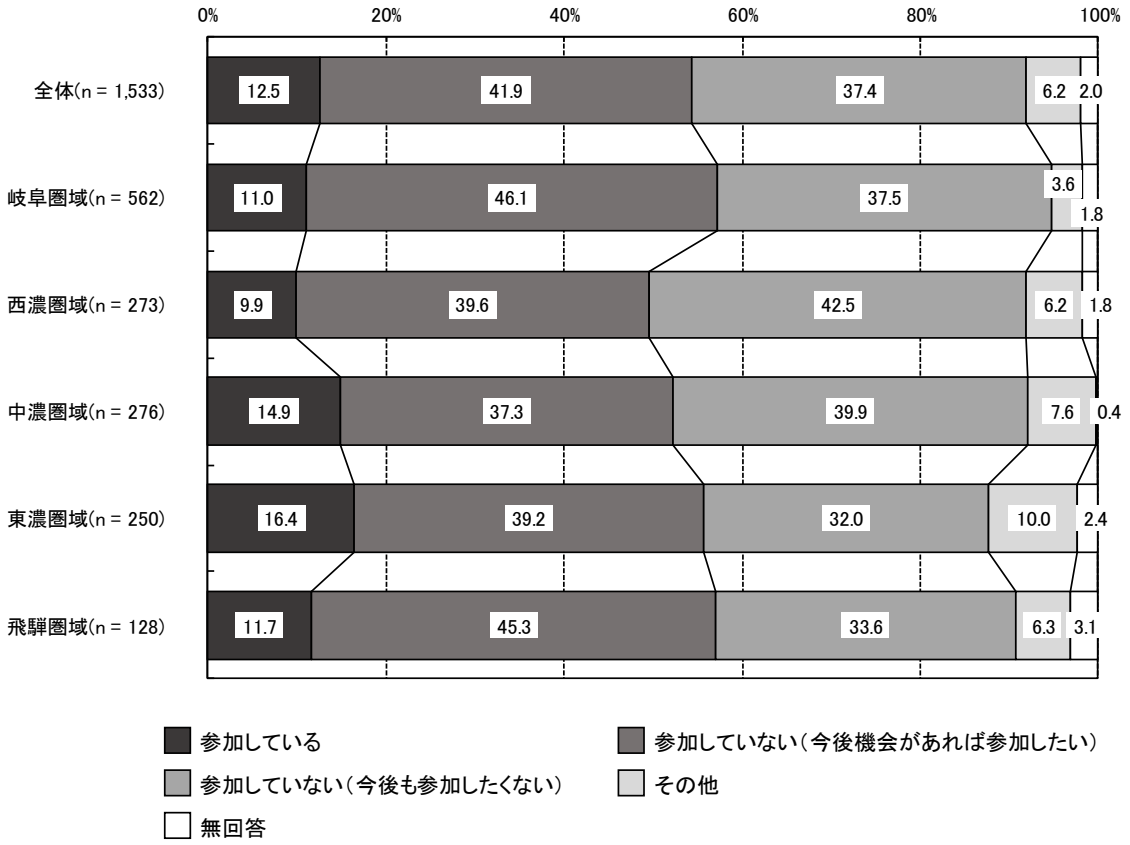
年代別（図 17-4）でみると、20 歳代と 70 歳以上を除く、いずれの年代においても「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、そのうち 40 歳代が 47.1%と最も高くなっている。20 歳代と 70 歳以上は「参加していない（今後も参加したくない）」が最も高く、20 歳代が 45.8%、70 歳以上が 39.4%となっている。「参加している」は、60 歳代が 16.1%、70 歳以上が 16.9%と、その他の年代と比較して高くなっている。

図 17-4【年代別】社会貢献活動への参加



居住圏域別（図 17-5）でみると、岐阜圏域、東濃圏域、飛騨圏域は「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 46.1%と最も高くなっている。西濃圏域、中濃圏域では「参加していない（今後も参加したくない）」が最も高くなっている。

図 17-5【居住圏域別】社会貢献活動への参加

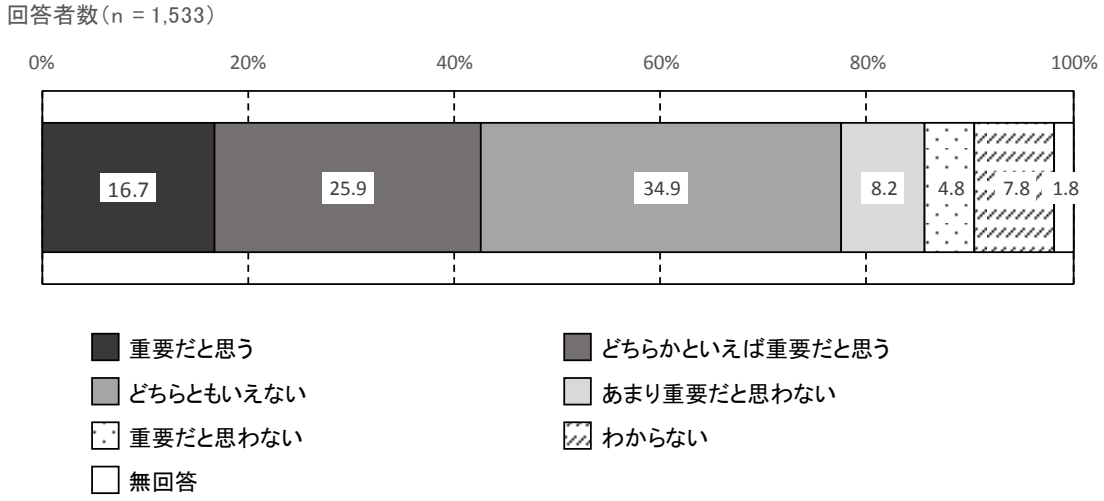


問１８　在住外国人との共生

問１８　現在、県内では、多くの外国人が暮らし、定住化が進んでいます。あなたは、在住外国人と共生する社会の実現についてどう思いますか。（１つだけ）

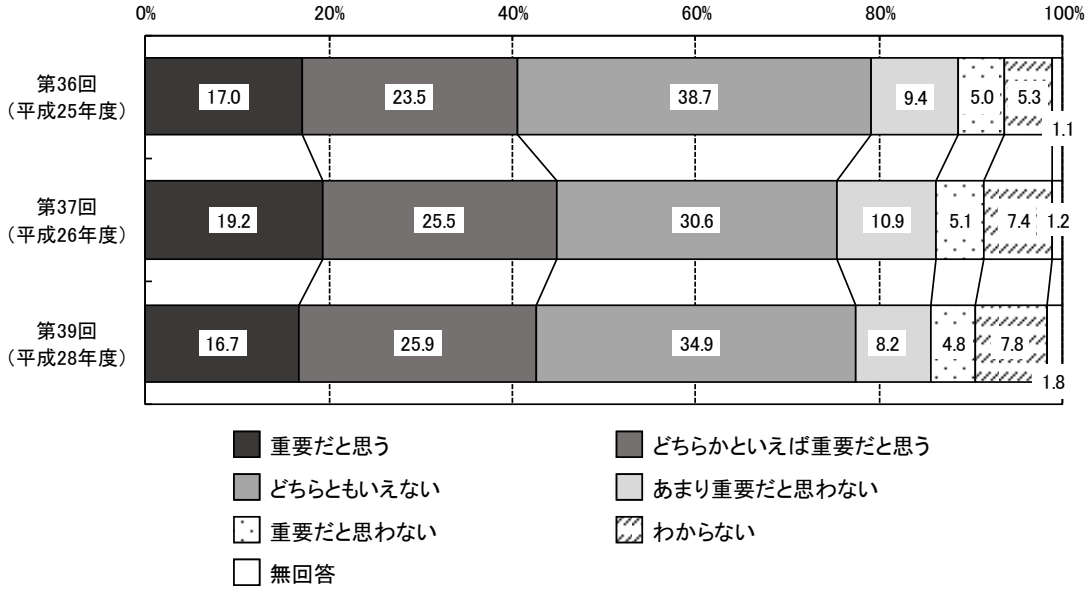
全体（図 18-1）でみると、「どちらともいえない」が 34.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば重要だと思う」（25.9%）、「重要だと思う」（16.7%）の順となっている。

図 18-1　在住外国人との共生



第 36 回・第 37 回調査比較（図 18-2）でみると、第 37 回と比較して「重要だと思う」が 2.5 ポイント減少しており、「あまり重要だと思わない」が 2.7 ポイント減少している。「どちらともいえない」が 4.3 ポイント増加している。

図 18-2 【第 36 回・第 37 回調査比較】 在住外国人との共生

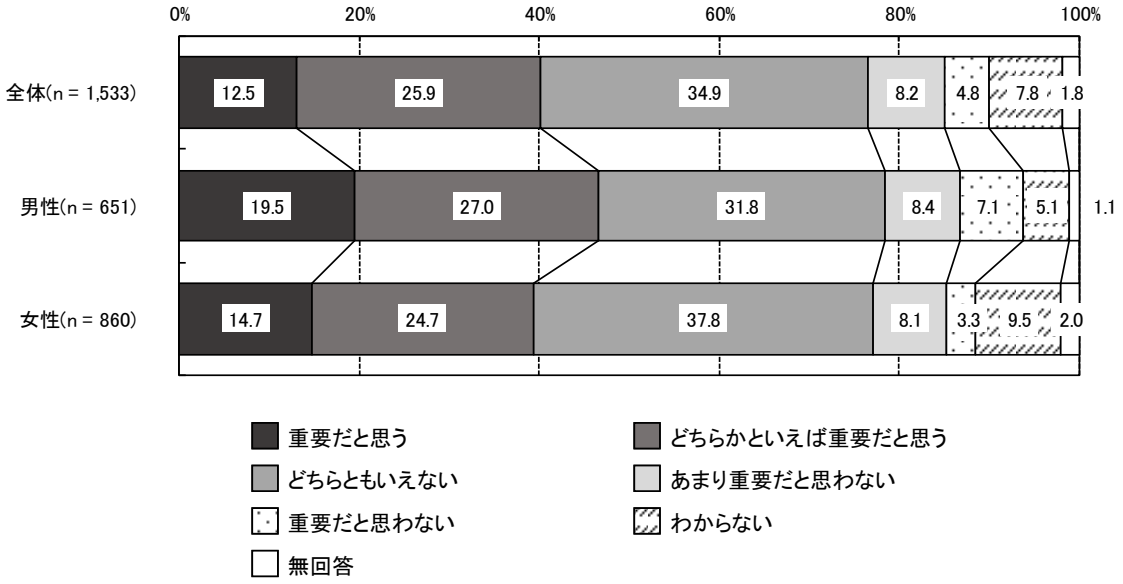


※ 第 38 回調査では、『在住外国人との共生』は聞いていない。

※ 第 36 回調査では、選択肢が「よいことだと思う」「どちらかといえばよいことだと思う」「どちらともいえない」「あまりよいことだと思わない」「よいことだと思わない」「わからない」であった。

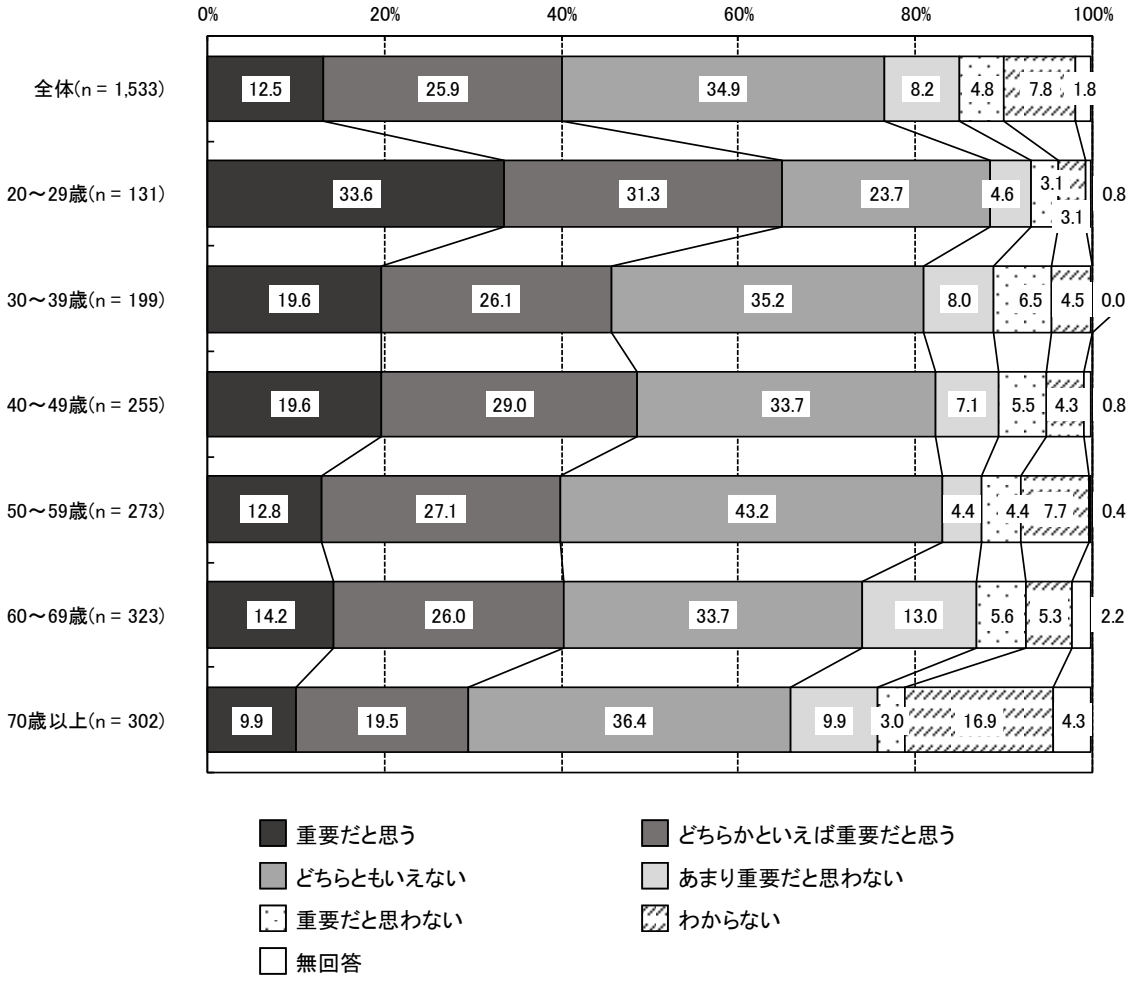
性別（図 18-3）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合わせた肯定派は男性が 46.5%、女性が 39.4%で、男性が女性より 7.1 ポイント高くなっている。

図 18-3【性別】在住外国人との共生



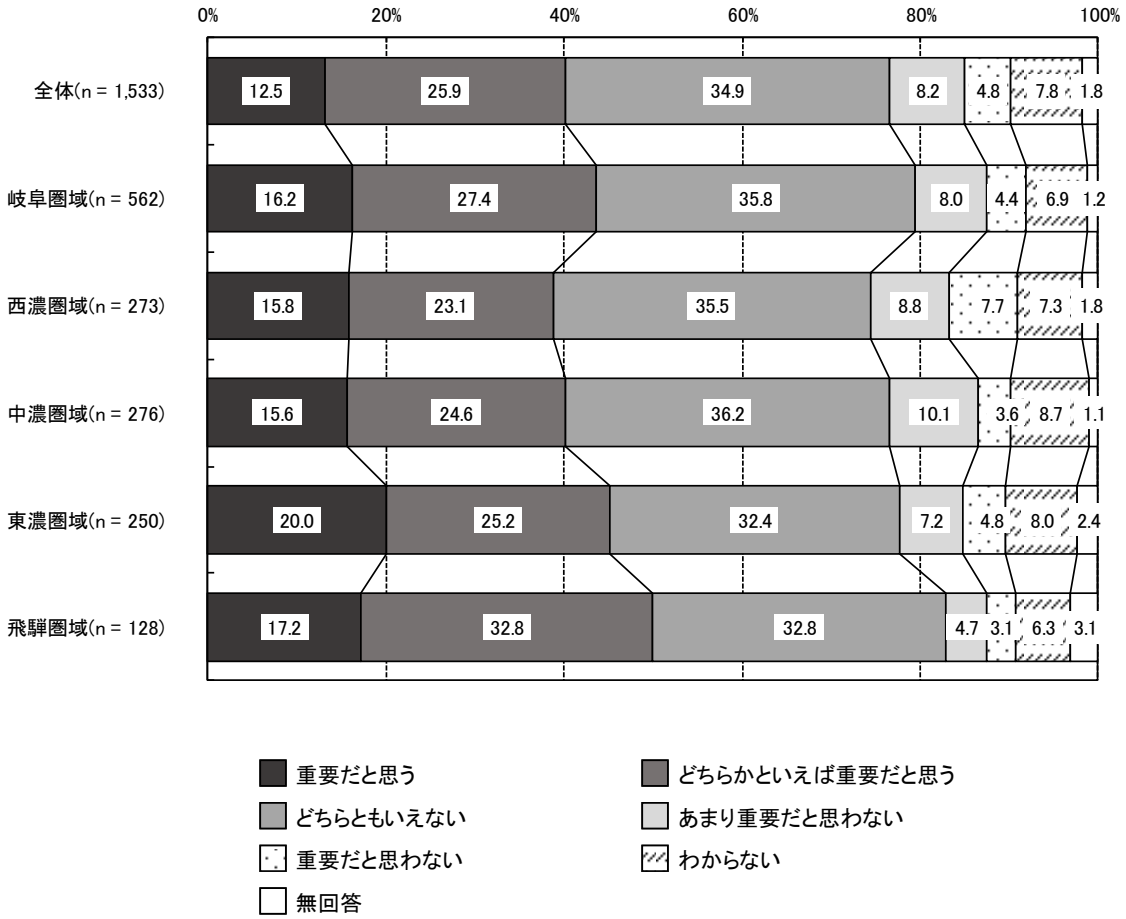
年代別（図 18-4）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合わせた肯定派は 20 歳代が 64.9％と最も高く、70 歳以上は 29.4％と最も低くなっている。

図 18-4 【年代別】 在住外国人との共生



居住圏域別（図 18-5）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合わせた肯定派は飛騨圏域が 50.0%と最も高く、西濃圏域が 38.9%と最も低くなっている。

図 18-5【居住圏域別】在住外国人との共生

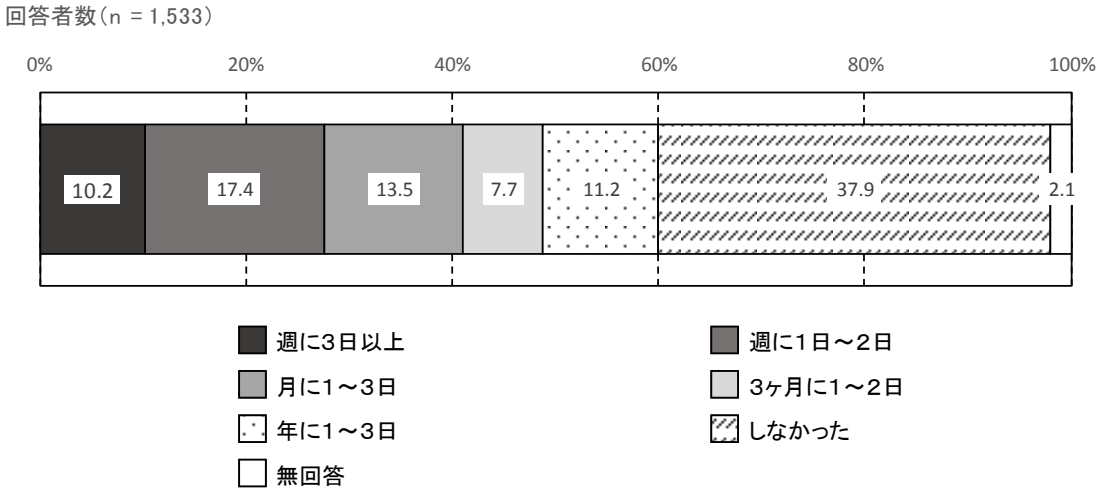


問１９　スポーツやレクリエーションをする頻度

問１９　あなたは、この１年間に、どのくらいの頻度でスポーツやレクリエーション（※）をしましたか。(複数のスポーツやレクリエーションをしている場合は、その合計の頻度をお答えください。)（１つだけ）

全体（図 19-1）でみると、「しなかった」が 37.9%と最も高く、次いで「週に１日～２日」(17.4%)、「月に１～３日」(13.5%）の順となっている。

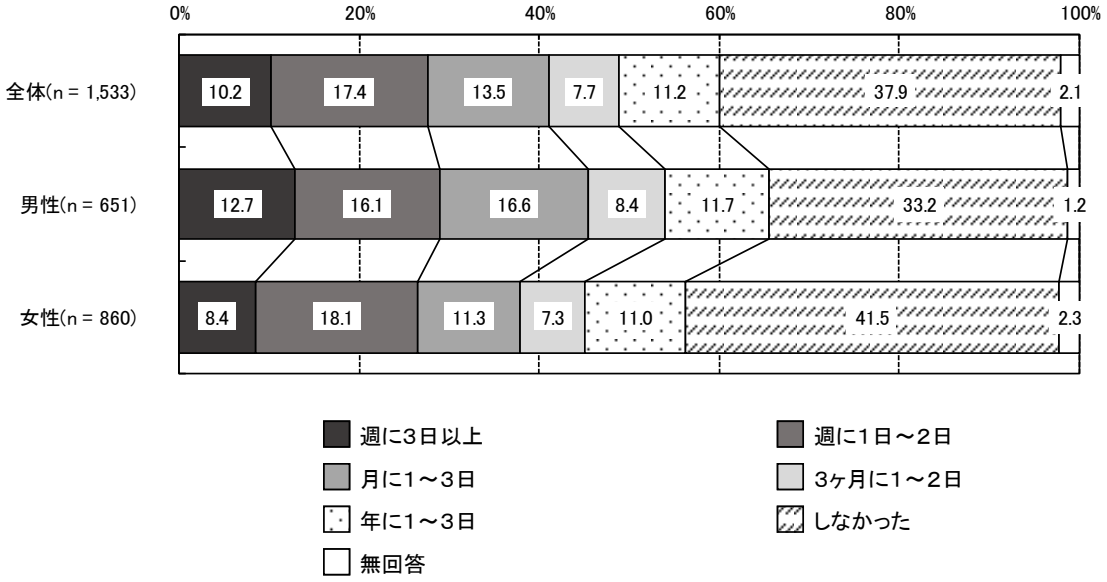
図 19-1　スポーツやレクリエーションをする頻度



※ スポーツやレクリエーション：身体運動を伴う屋内または屋外での活動
例：陸上、球技、水泳、ゴルフ、体操（職場体操、美容体操など）、ウォーキング、ジョギング、ダンス、軽スポーツ（ゲートボール、グラウンド・ゴルフなど）、キャンプ、登山、釣り、器具を使った室内運動など

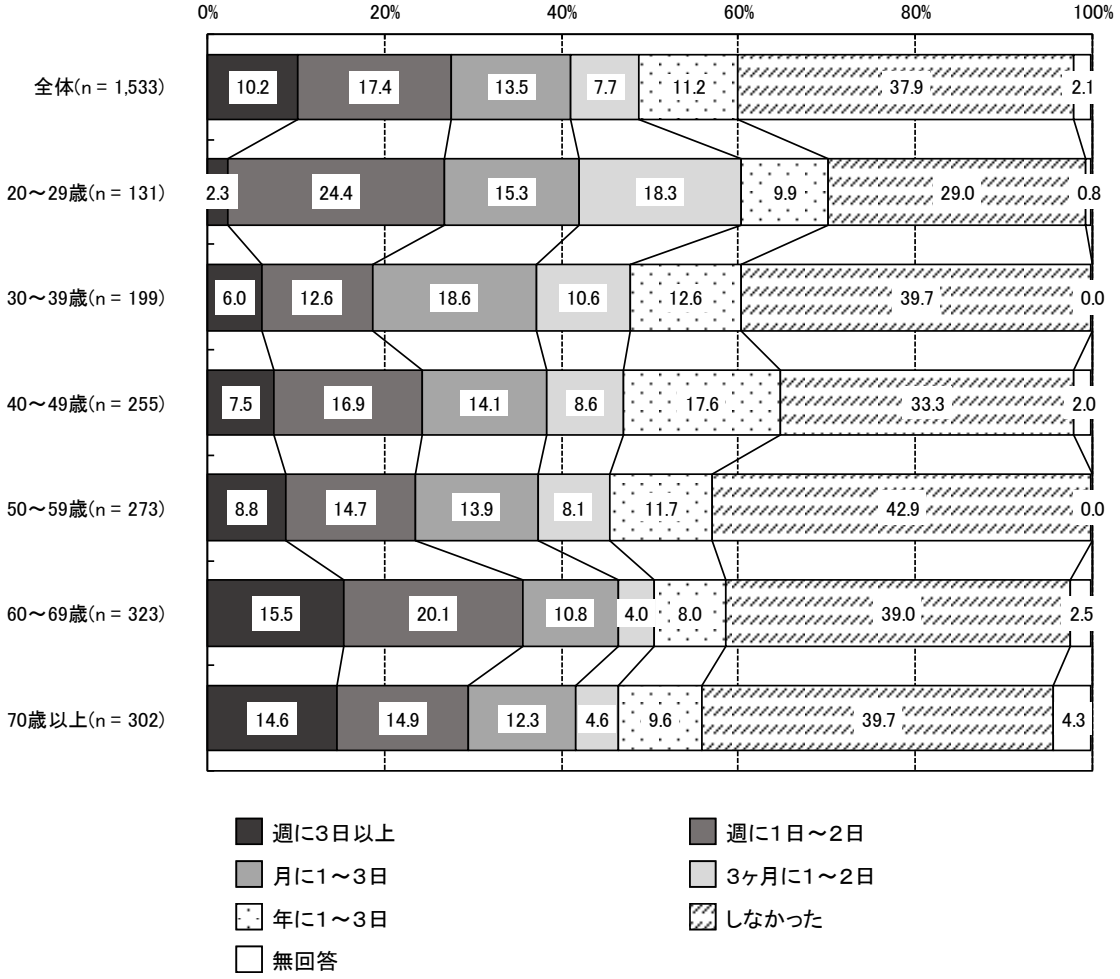
性別（図 19-2）でみると、男女ともに「しなかった」が最も高く、男性は 33.2%、女性は 41.5%で、女性が男性より 8.3 ポイント高くなっている。

図 19-2 【性別】 スポーツやレクリエーションをする頻度



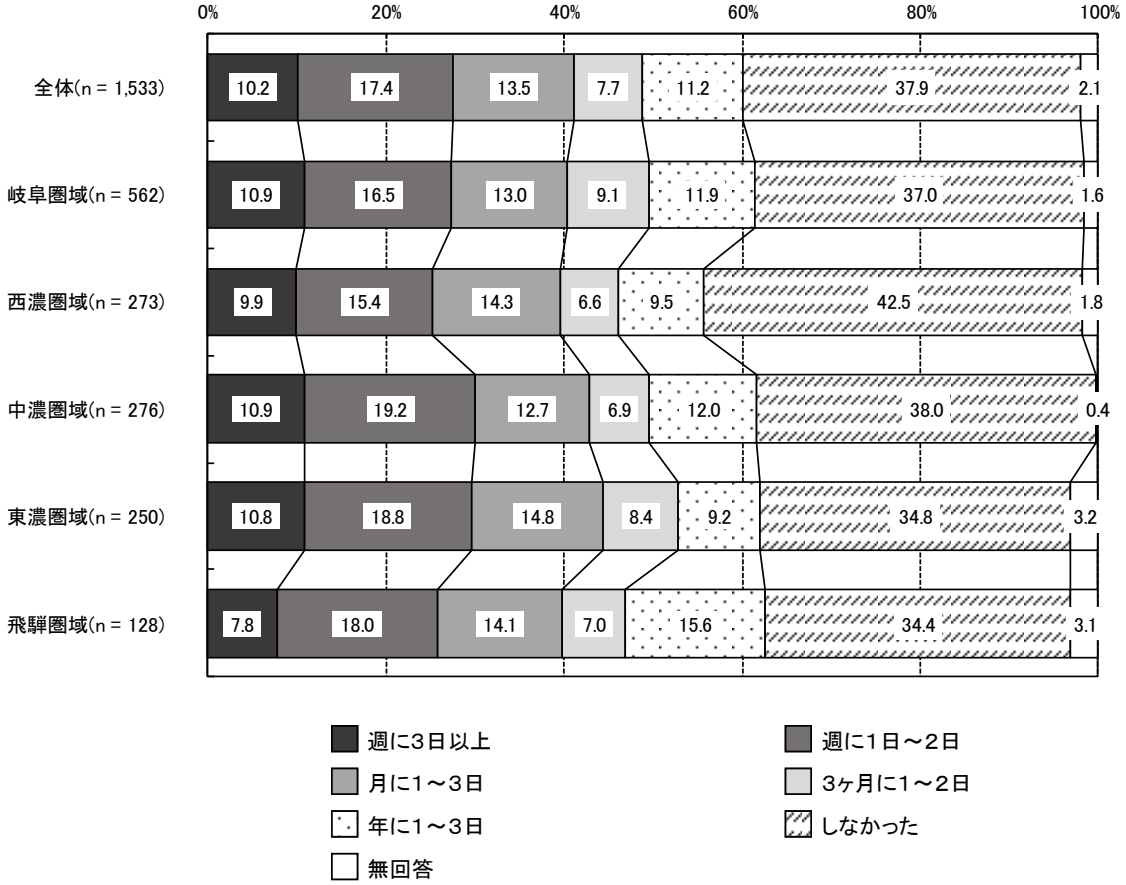
年代別（図 19-3）でみると、いずれの年代においても「しなかった」が最も高く、そのうち 50 歳代が 42.9%と最も高くなっている。

図 19-3 【年代別】 スポーツやレクリエーションをする頻度



居住圏域別（図 19-4）でみると、いずれの居住圏域においても「しなかった」が最も高く、そのうち西濃圏域が 42.5%と最も高くなっている。

図 19-4 【居住圏域別】 スポーツやレクリエーションをする頻度

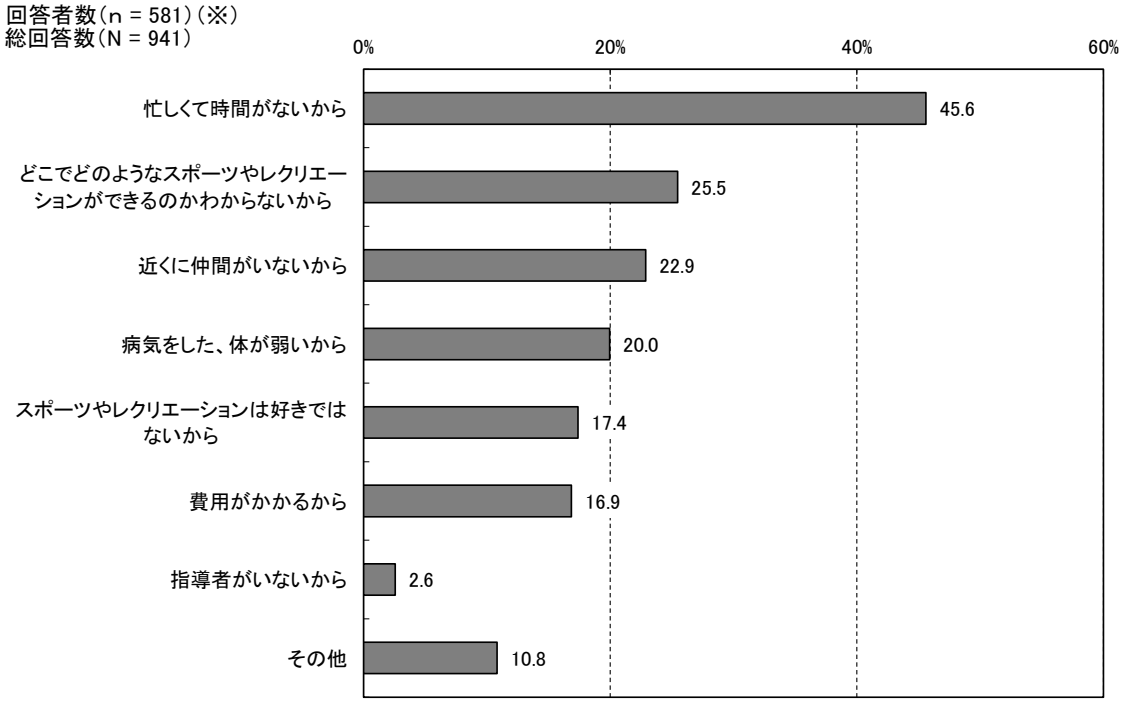


問１９-2　スポーツやレクリエーションをしなかった理由

問１９－２　「しなかった」と答えた方にお尋ねします。
スポーツやレクリエーションをしなかったのはどのような理由からですか。
（３つまで）

全体（図 19-2-1）でみると、「忙しくて時間がないから」が 45.6%と最も高く、次いで「どこでどのようなスポーツやレクリエーションができるのかわからないから」(25.5%)、「近くに仲間がいないから」(22.9%) の順となっている。

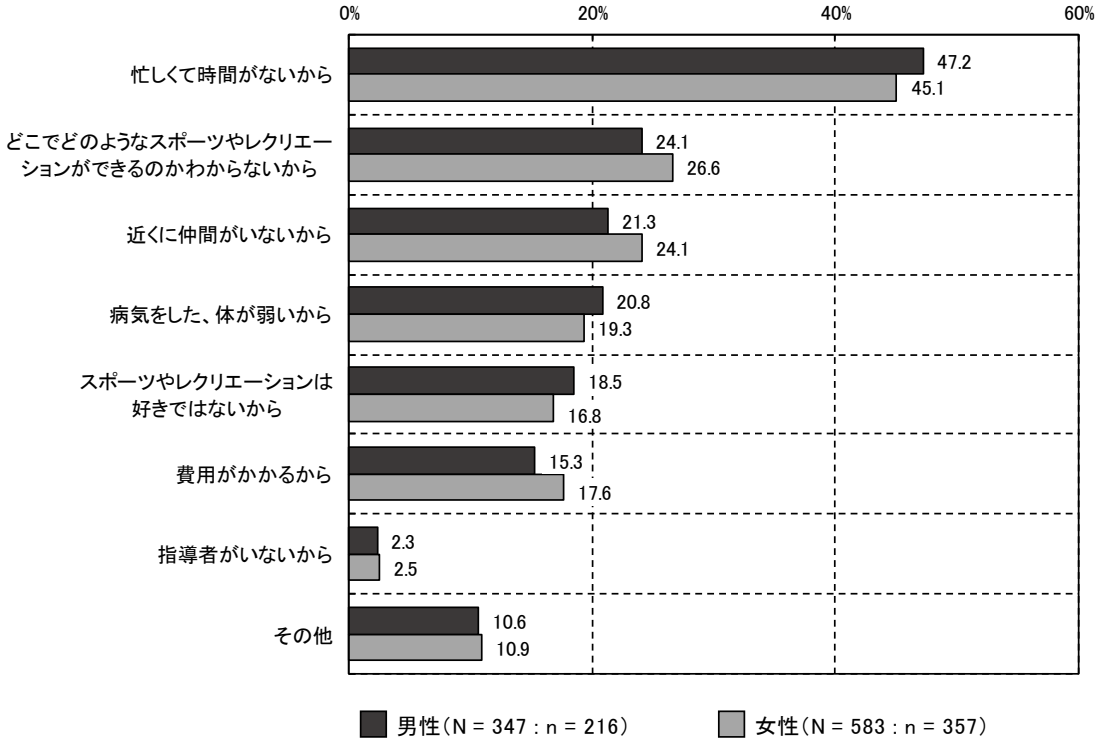
図 19-2-1　スポーツやレクリエーションをしなかった理由



※ 問 19 で「しなかった」と答えた方のみ

性別（図 19-2-2）でみると、男女ともに「忙しくて時間がないから」が最も高く、男性が 47.2%、女性が 45.1%となっている。

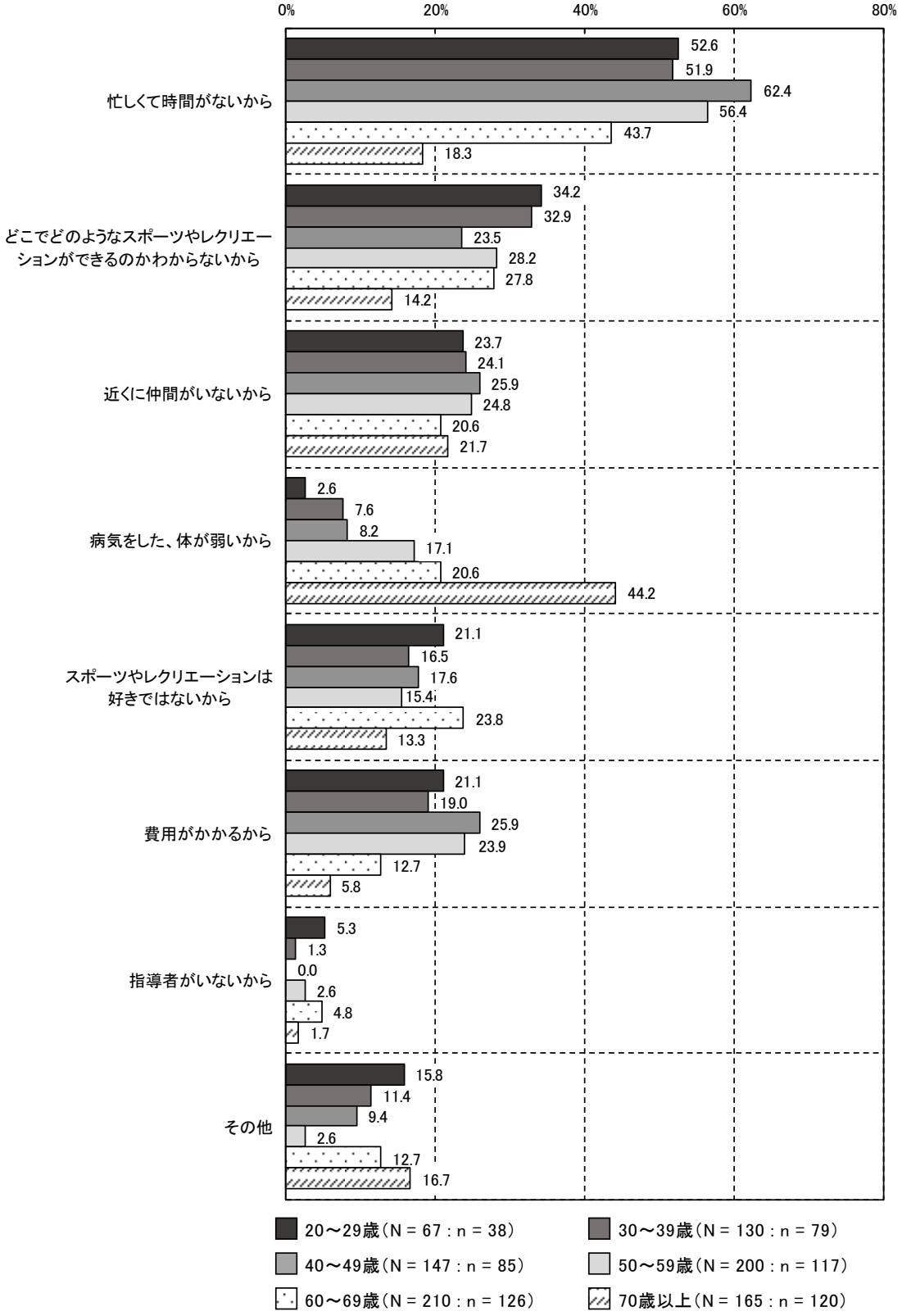
図 19-2-2 【性別】 スポーツやレクリエーションをしなかった理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 19-2-3）でみると、70 歳以上を除いた、いずれの年代においても「忙しくて時間がないから」が最も高く、そのうち 40 歳代が 62.4%と最も高くなっている。70 歳以上では「病気をした、体が弱いから」が 44.2%と最も高くなっている。

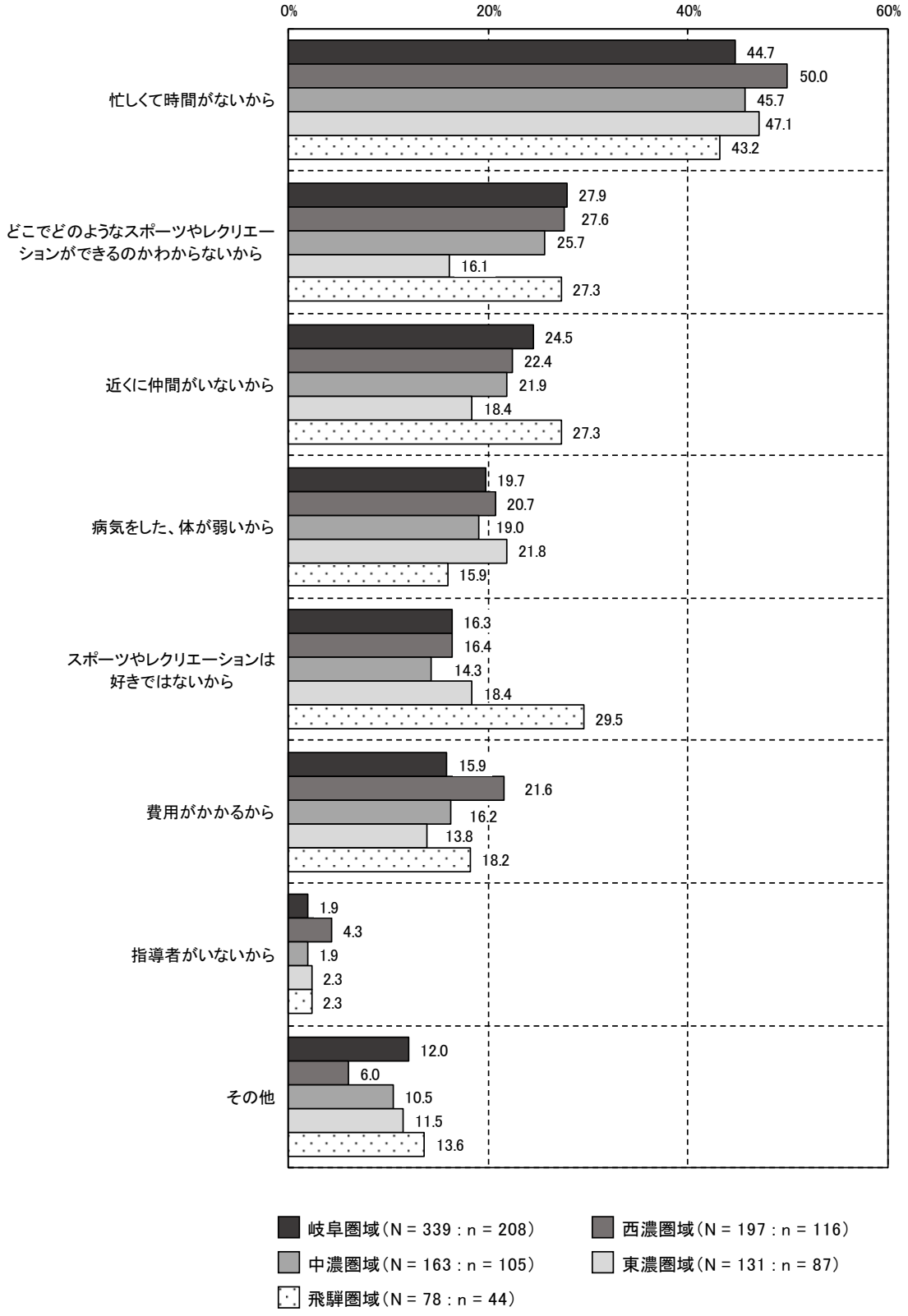
図 19-2-3 【年代別】 スポーツやレクリエーションをしなかった理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 19-2-4）でみると、いずれの居住圏域においても「忙しくて時間がないから」が最も高く、そのうち西濃圏域が 50.0%と最も高くなっている。

図 19-2-4 【居住圏域別】 スポーツやレクリエーションをしなかった理由



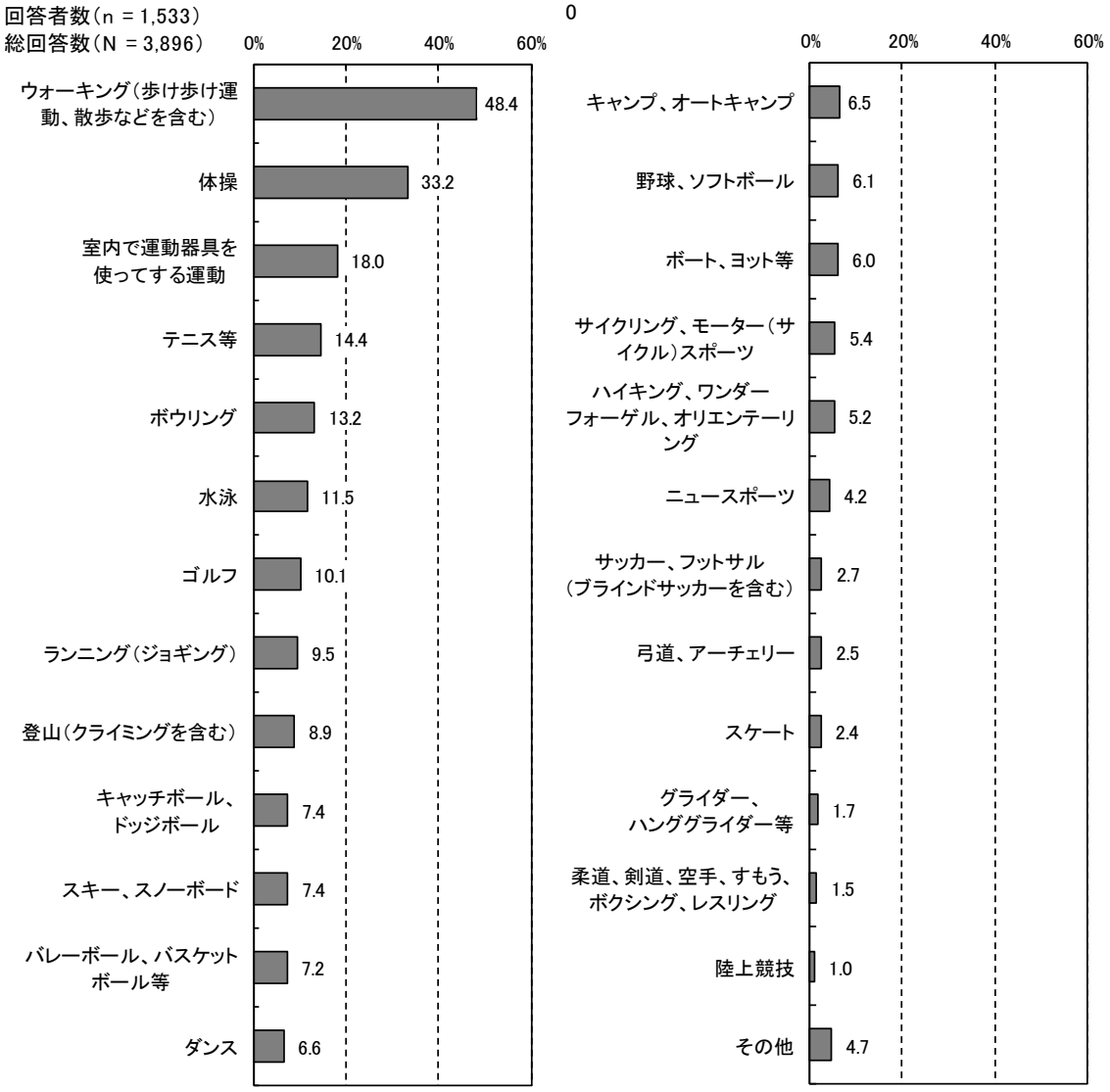
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問２０　興味のあるスポーツやレクリエーション

問２０　この１年間に、どんなスポーツやレクリエーションをしましたか。また、しなかった方は、どんなスポーツやレクリエーションをしてみたいですか。（いくつでも）

全体（図 20-1）でみると、「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）」が 48.4%と最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）」（33.2%）、「室内で運動器具を使ってする運動」（18.0%）の順となっている。

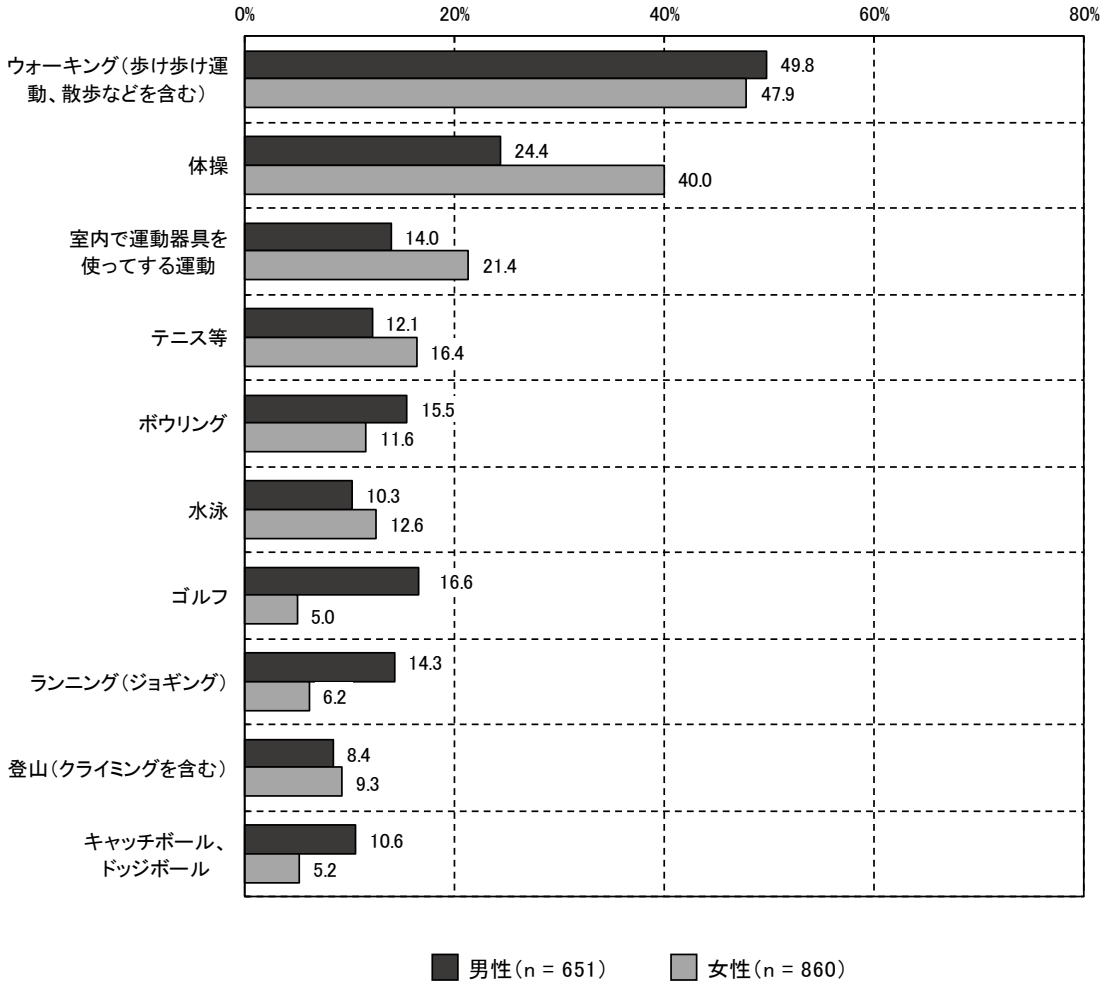
図 20-1　興味のあるスポーツやレクリエーション



※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
- 体操…体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）
- テニス等…テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球（車いすテニスを含む）
- バレーボール、バスケットボール等…バレーボール、バスケットボール（シッティングバレーボール、車いすバスケットボールを含む）
- ダンス…ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、民謡踊り、車いすダンスを含む）
- ボート、ヨット等…ボート、ヨット、ボードセーリング、スキンダイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、釣り
- ニュースポーツ…ニュースポーツ（ゲートボール、グラウンド・ゴルフ、インディアカなどを含む）
- グライダー、ハンググライダー等…グライダー、ハンググライダー、スカイダイビング、パラグライダー

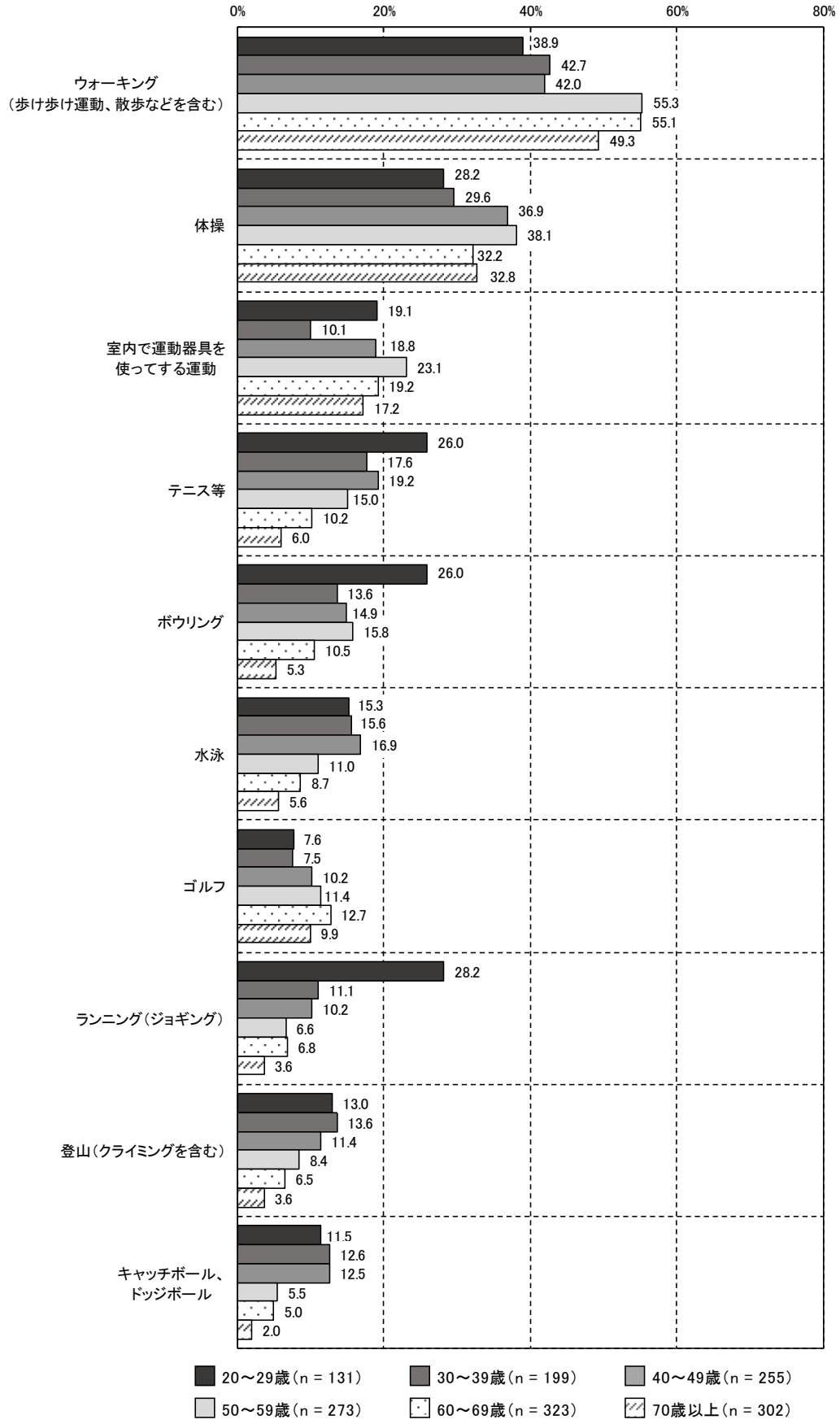
性別（図 20-2）でみると、男女ともに「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）」が最も高く、男性が 49.8%、女性が 47.9%となっている。男女の差が大きいのは「体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）」で、女性が男性より 15.6 ポイント高くなっている。また、「ゴルフ」は、男性が女性より 11.6 ポイント高くなっている。

図 20-2 【性別】 興味のあるスポーツやレクリエーション（上位 10 項目）



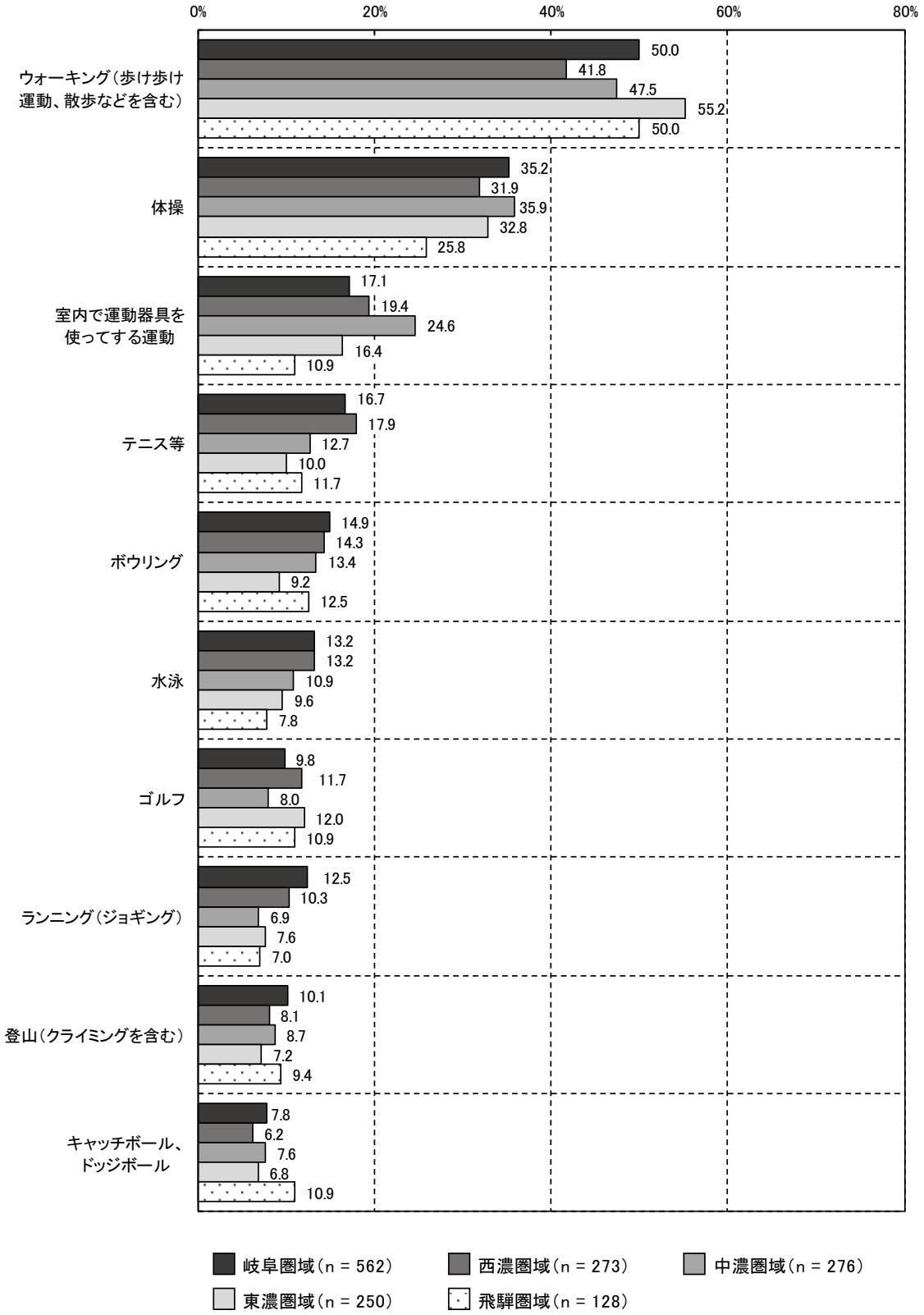
年代別（図 20-3）でみると、いずれの年代においても「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む)」が最も高く、そのうち 50 歳代が 55.3%と最も高くなっている。

図 20-3 【年代別】 興味のあるスポーツやレクリエーション（上位 10 項目）



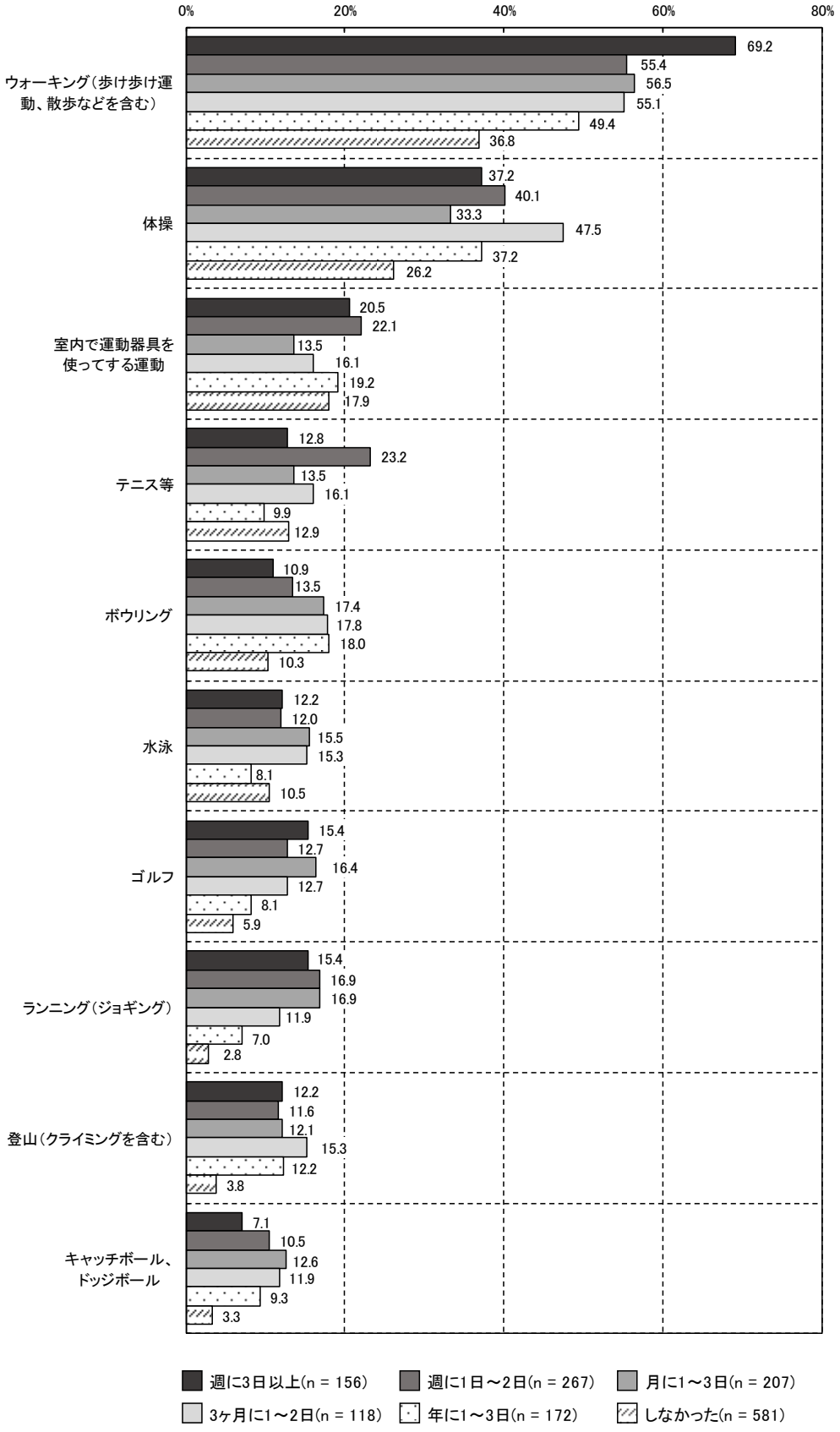
居住圏域別（図 20-4）でみると、いずれの居住圏域においても「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）」が最も高く、そのうち東濃圏域が 55.2%と最も高くなっている。

図 20-4 【居住圏域別】 興味のあるスポーツやレクリエーション（上位 10 項目）



スポーツをする頻度別（図 20-5）でみると、いずれの頻度においても「ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）」が最も高く、そのうち週に 3 日以上が 69.2%と最も高くなっている。

図 20-5 【スポーツをする頻度別】 興味のあるスポーツやレクリエーション（上位 10 項目）

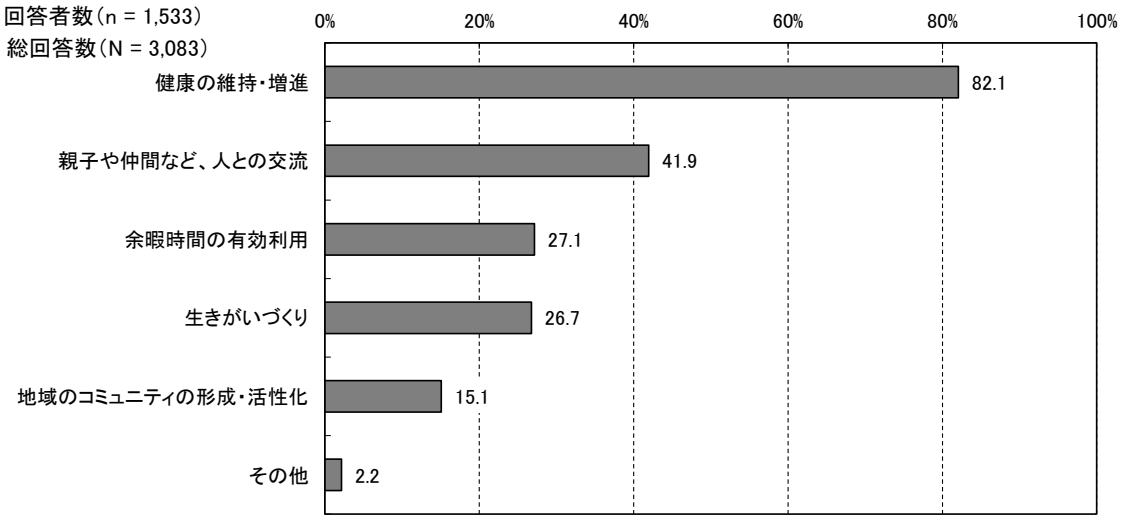


問２１　スポーツやレクリエーションに期待する効果

問２１　あなたは、スポーツやレクリエーションにどのような効果を期待しますか。（いくつでも）

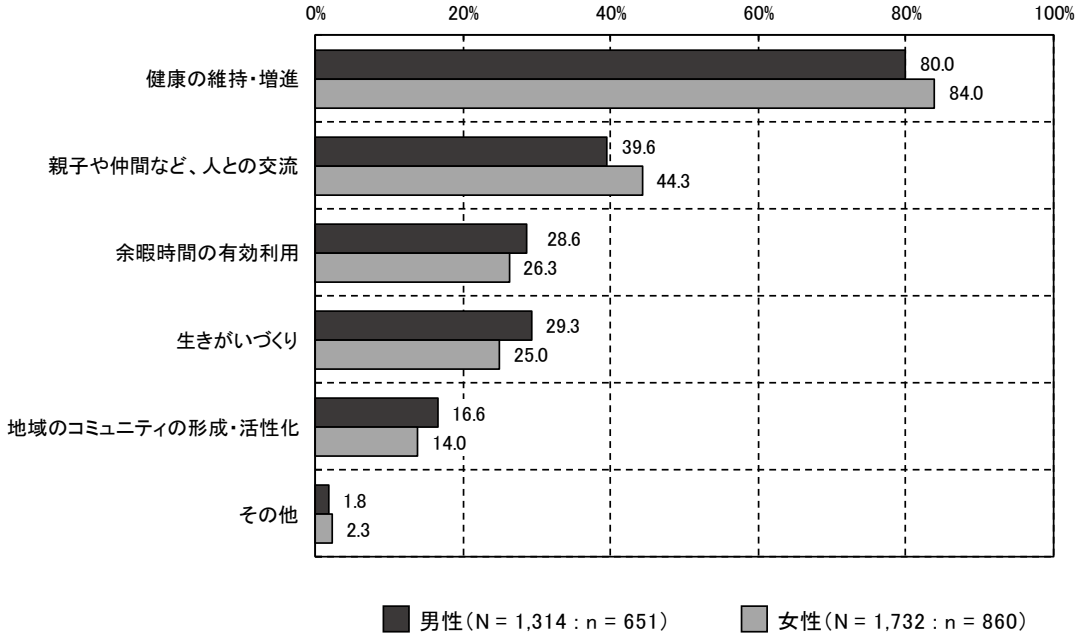
全体（図 21-1）でみると、「健康の維持・増進」が 82.1%と最も高く、次いで「親子や仲間など、人との交流」（41.9%）、「余暇時間の有効活用」（27.1%）の順となっている。

図 21-1　スポーツやレクリエーションに期待する効果



性別（図 21-2）でみると、男女ともに「健康の維持・増進」が最も高く、男性が 80.0%、女性が 84.0%となっている。

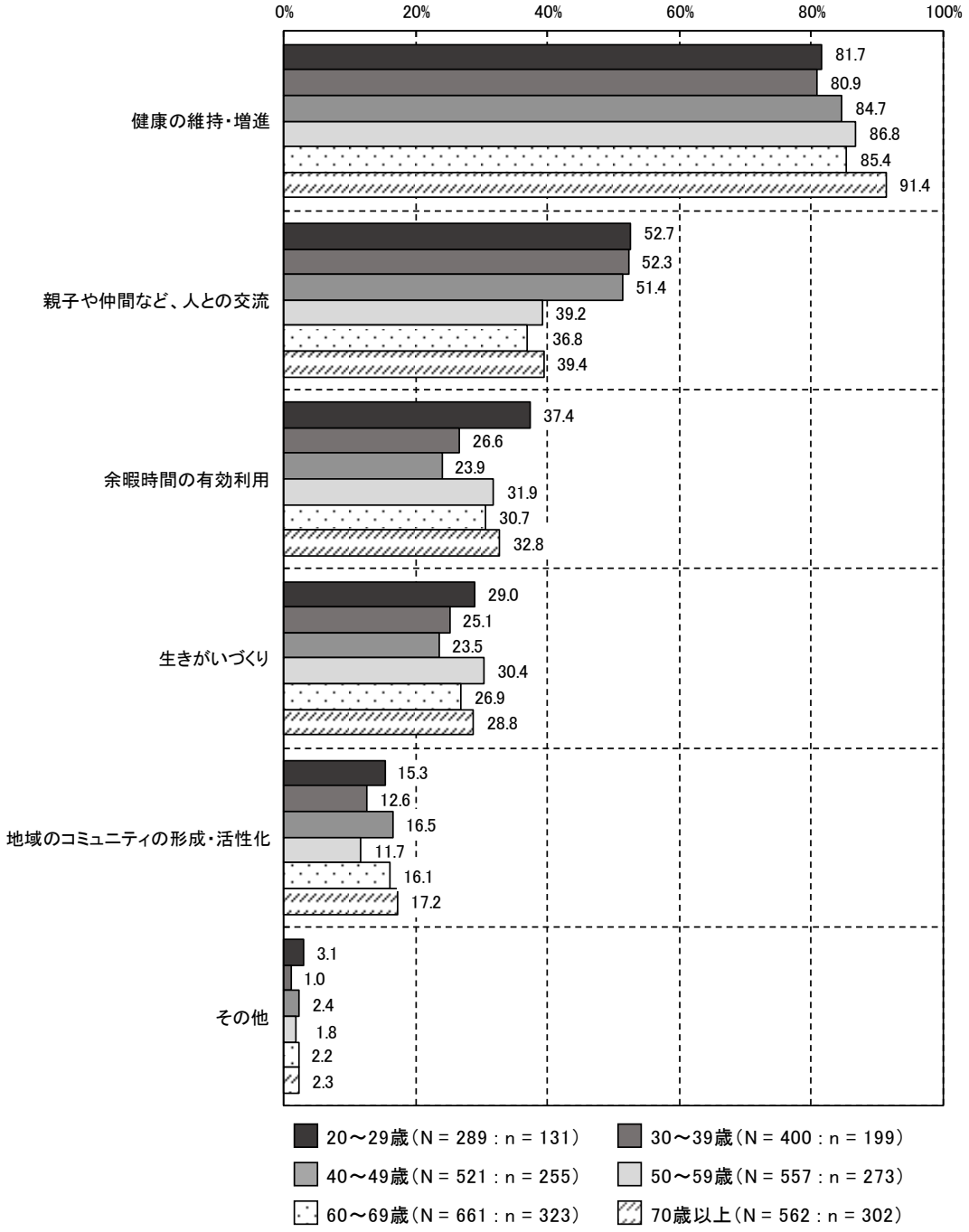
図 21-2 【性別】 スポーツやレクリエーションに期待する効果



※ N＝総回答数　n＝回答者数

年代別（図 21-3）でみると、いずれの年代においても「健康の維持・増進」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 91.4%と最も高くなっている。

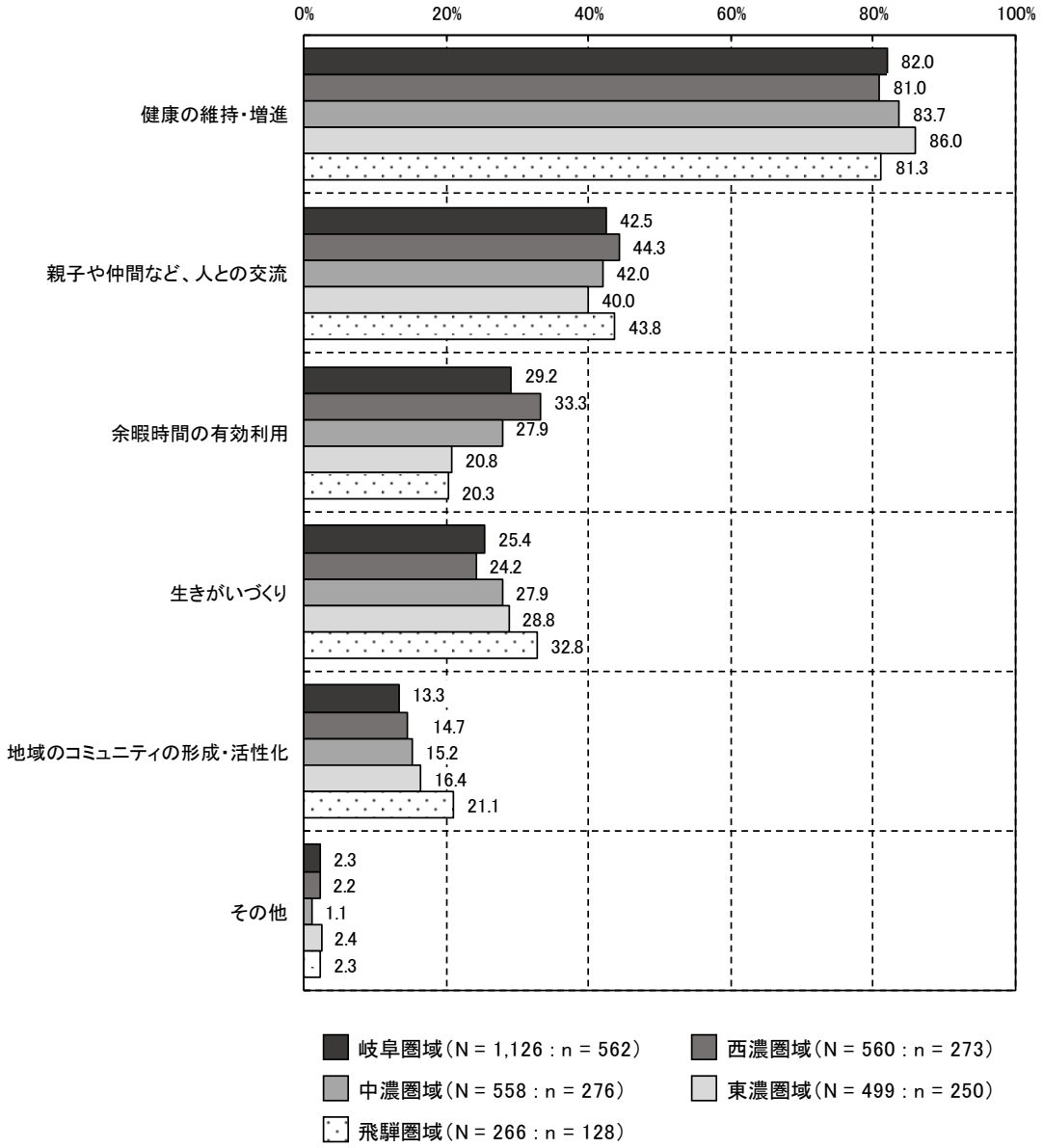
図 21-3 【年代別】 スポーツやレクリエーションに期待する効果



※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 21-4）でみると、いずれの居住圏域においても「健康の維持・増進」が最も高く、そのうち東濃圏域が 86.0%と最も高くなっている。

図 21-4 【居住圏域別】 スポーツやレクリエーションに期待する効果



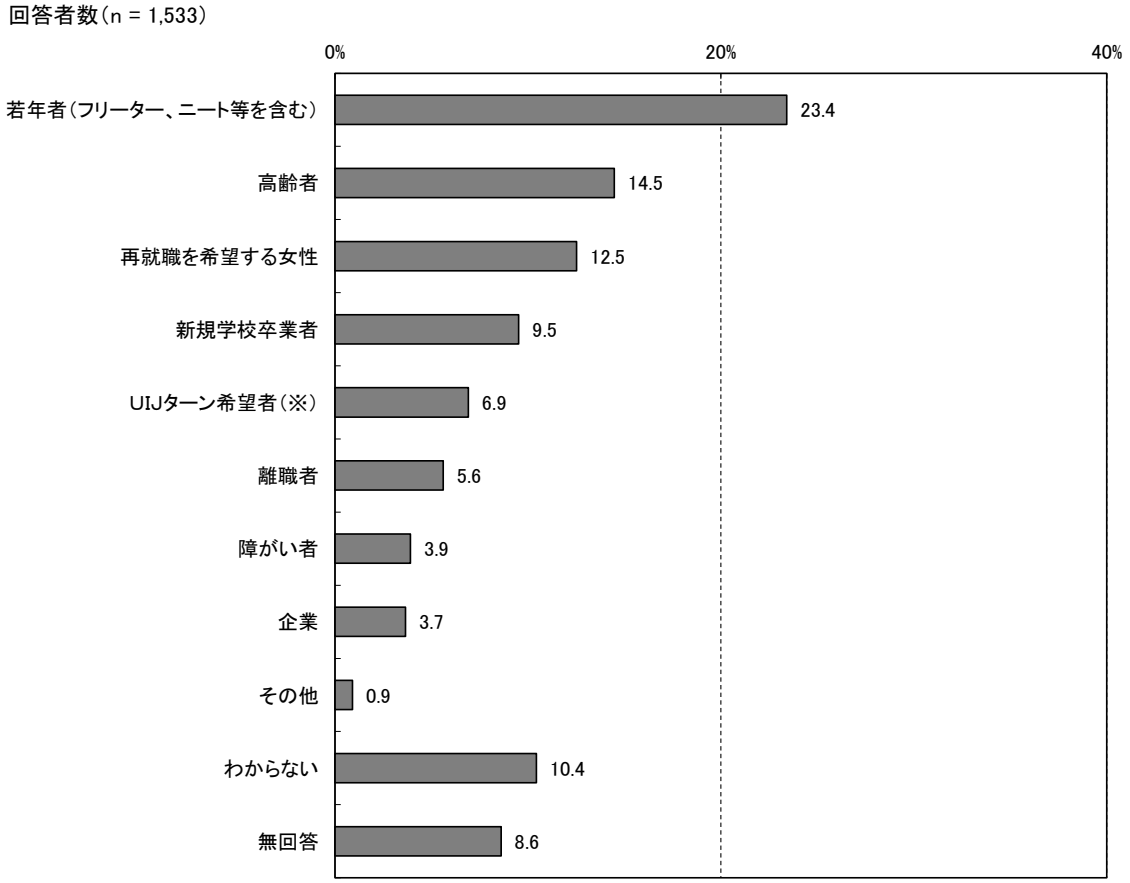
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問２２　雇用対策の取り組み

問２２　あなたは、岐阜県に特に重点的に取り組んでほしい雇用対策の対象は誰ですか。（１つだけ）

全体（図 22-1）でみると、「若年者（フリーター、ニート等を含む）」が 23.4％と最も高く、次いで「高齢者」（14.5％）、「再就職を希望する女性」（12.5％）の順となっている。

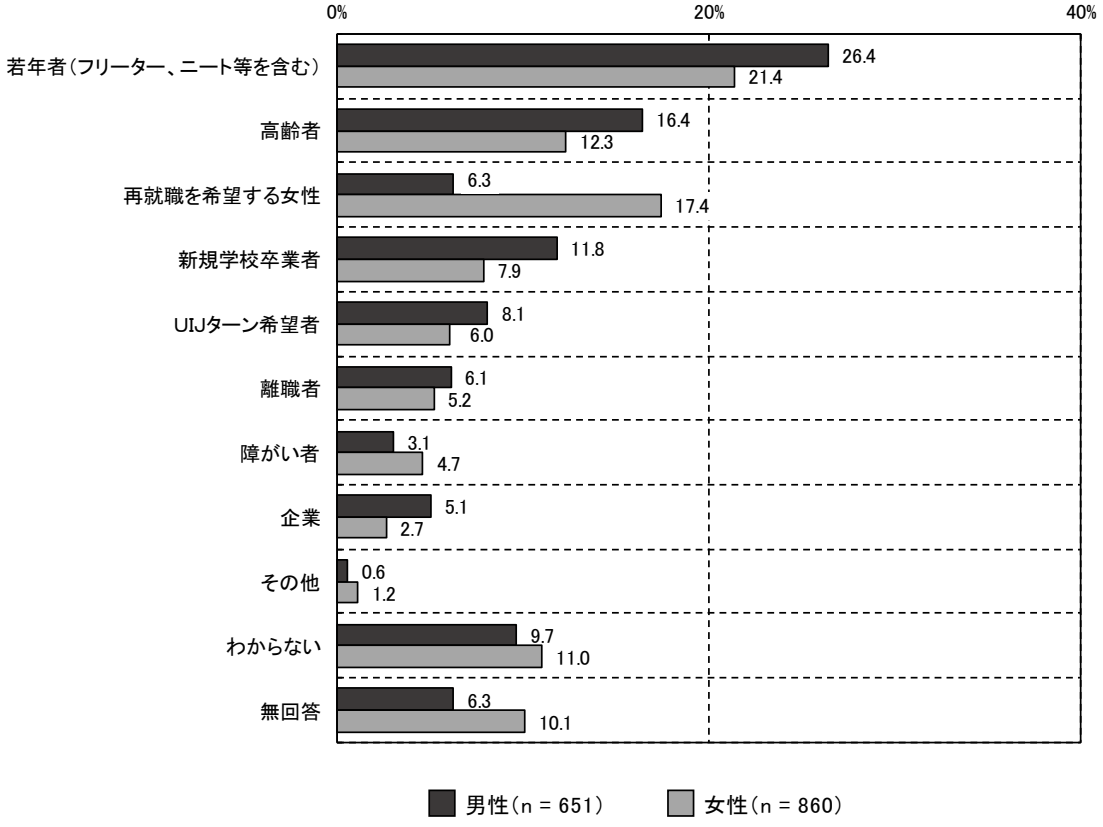
図 22-1　雇用対策の取り組み



※ UIJターン：現時点では岐阜県外に居住・就職しているが、今後岐阜県内への居住・就職を希望している方

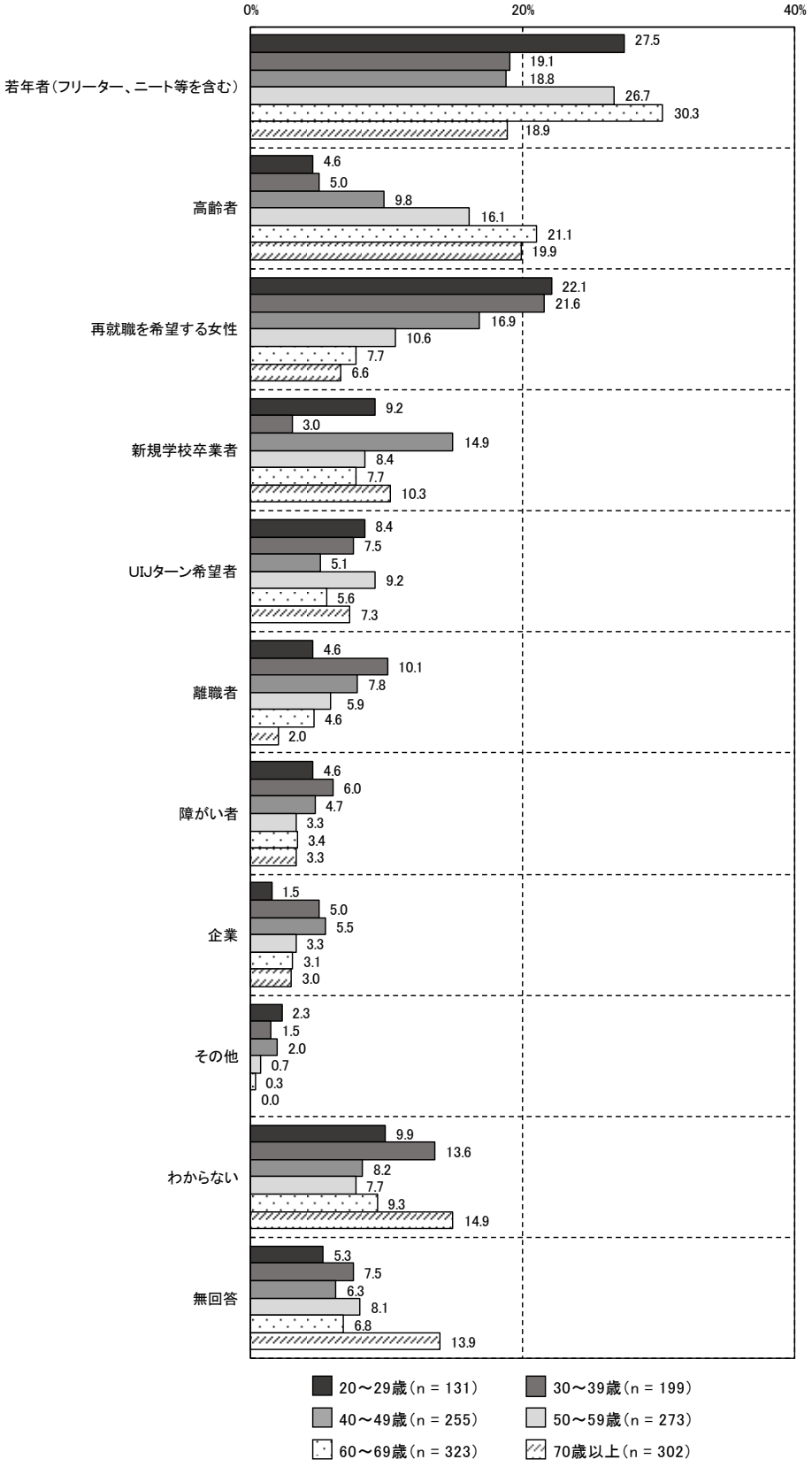
性別（図 22-2）でみると、男女ともに「若年者（フリーター、ニート等を含む)」が最も高く、男性が 26.4%、女性が 21.4%となっている。差が最も大きいのは「再就職を希望する女性」で、女性が男性より 11.1 ポイント高くなっている。

図 22-2【性別】雇用対策の取り組み



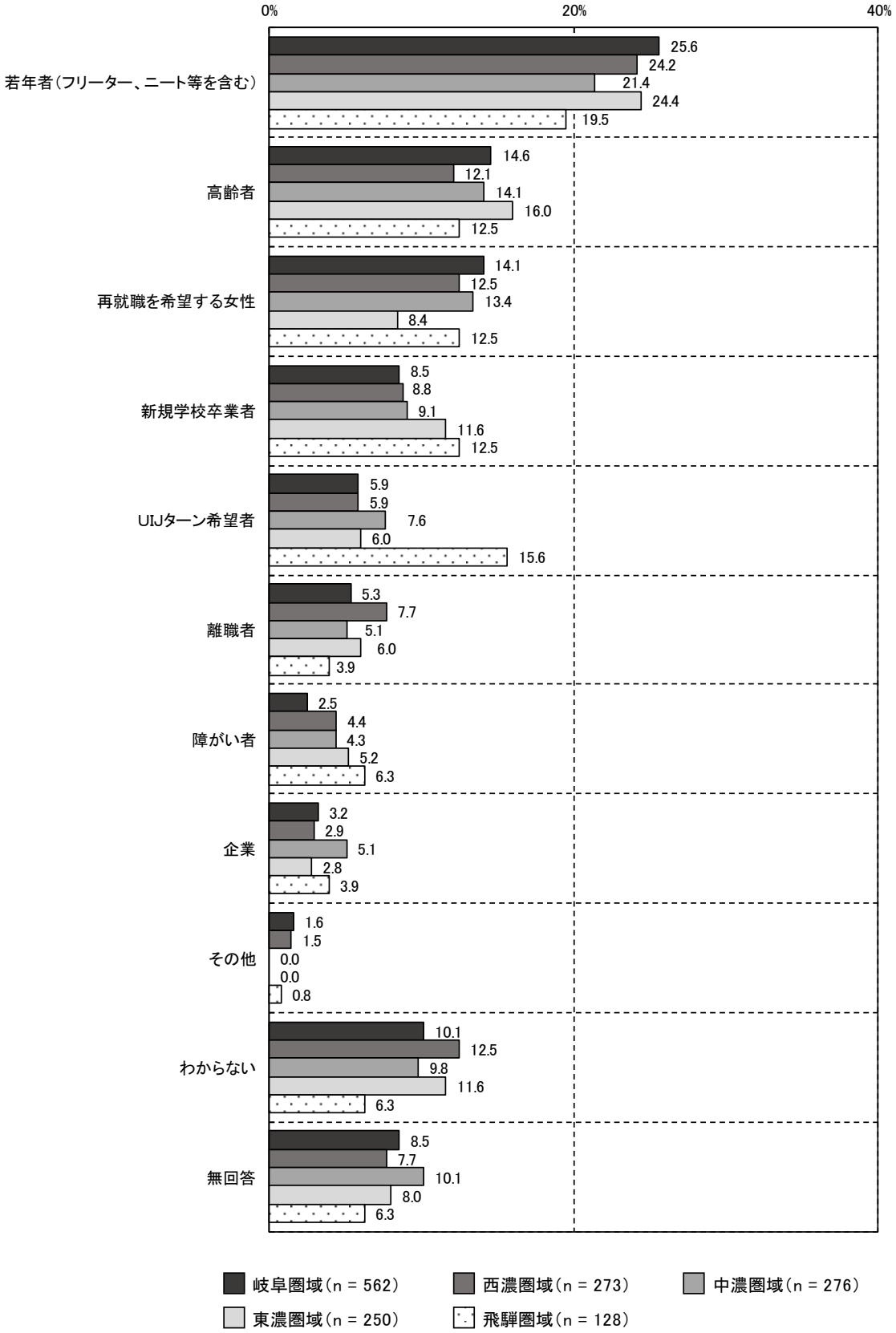
年代別（図 22-3）でみると、20 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代で「若年者（フリーター、ニート等を含む)」が最も高く、そのうち 60 歳代が 30.3%と最も高くなっている。30 歳代では「再就職を希望する女性」が 21.6%と最も高くなっている。70 歳以上では「高齢者」が 19.9%と最も高くなっている。

図 22-3【年代別】雇用対策の取り組み



居住圏域別（図 22-4）でみると、いずれの居住圏域においても「若年者（フリーター、ニート等を含む)」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 25.6%と最も高くなっている。飛騨圏域の「ＵＩＪターン希望者」が 15.6%と、その他の圏域と比較して高くなっている。

図 22-4【居住圏域別】雇用対策の取り組み

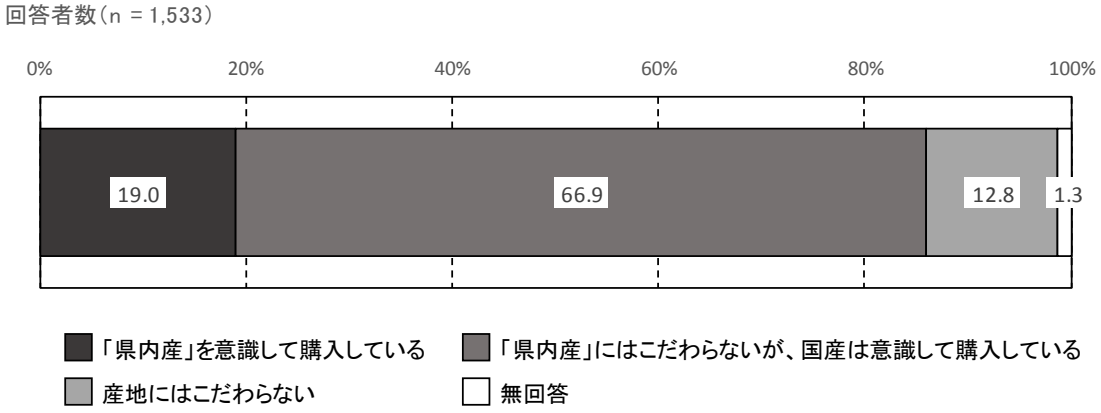


問２３　農産物購入時の「県内産」の意識

問２３　あなたは、米、野菜、食肉などの農産物について、「県内産」であることを意識して購入していますか。（１つだけ）

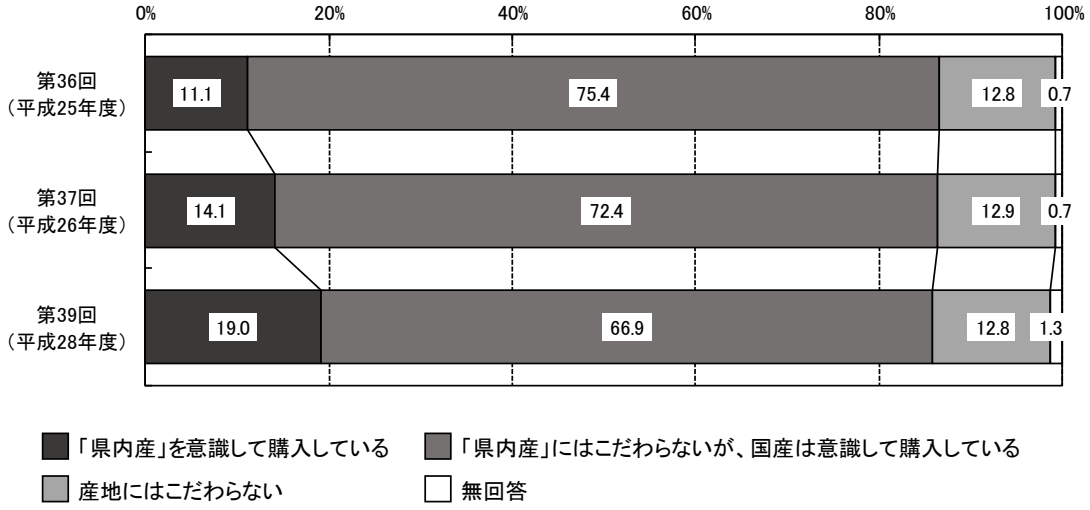
全体（図 23-1）でみると、「「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が 66.9%と最も高く、次いで「「県内産」を意識して購入している」（19.0%）、「産地にはこだわらない」（12.8%）の順となっている。

図 23-1　農産物購入時の「県内産」の意識



第 36 回・第 37 回調査比較（図 23-2）でみると、回を重ねるごとに「「県内産」を意識して購入している」の割合が高くなっており、第 37 回と比較して 4.9 ポイント高くなっている。

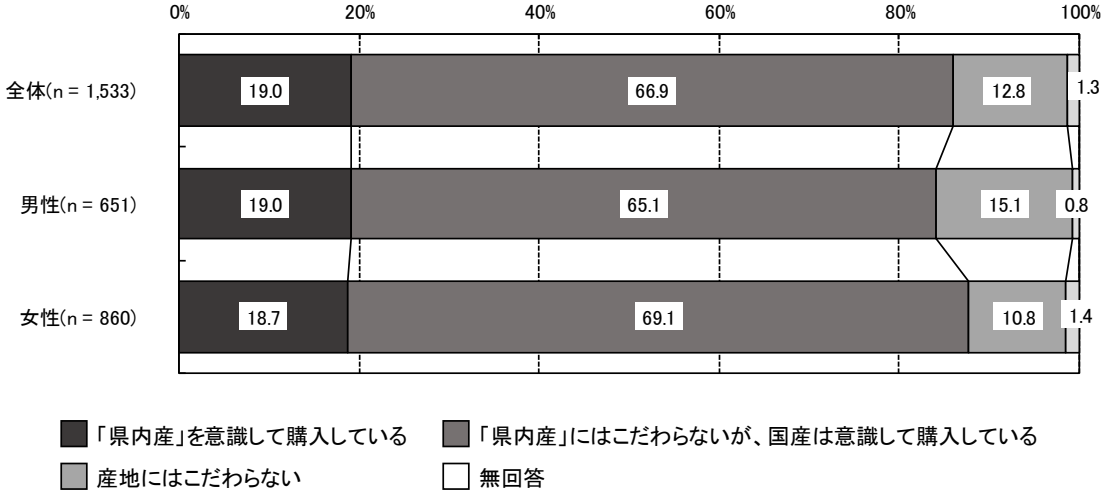
図 23-2 【第 36 回・第 37 回調査比較】 農産物購入時の「県内産」の意識



※ 第 38 回調査では、『農産物購入時の「県内産」の意識』は聞いていない。

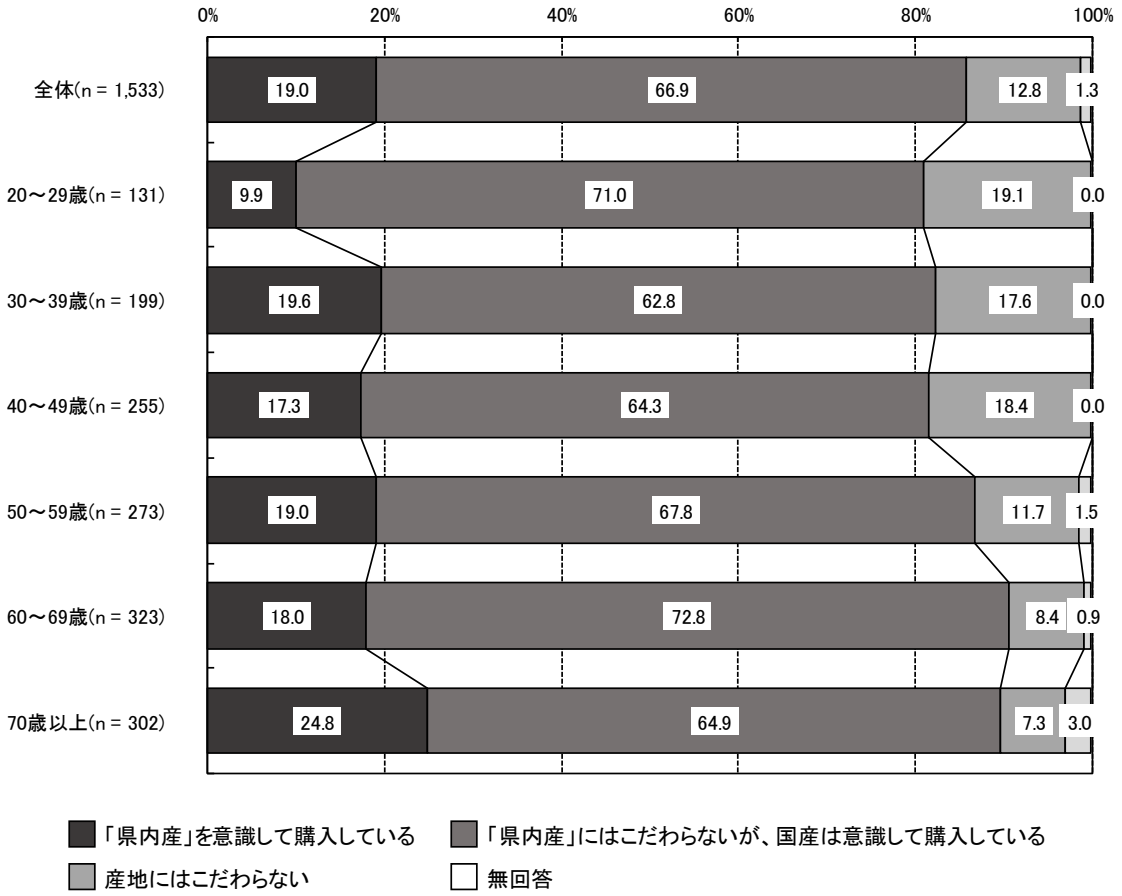
性別（図 23-3）でみると、男女ともに「「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、男性が 65.1%、女性が 69.1%と、女性が男性より 4.0 ポイント高くなっている。

図 23-3 【性別】 農産物購入時の「県内産」の意識



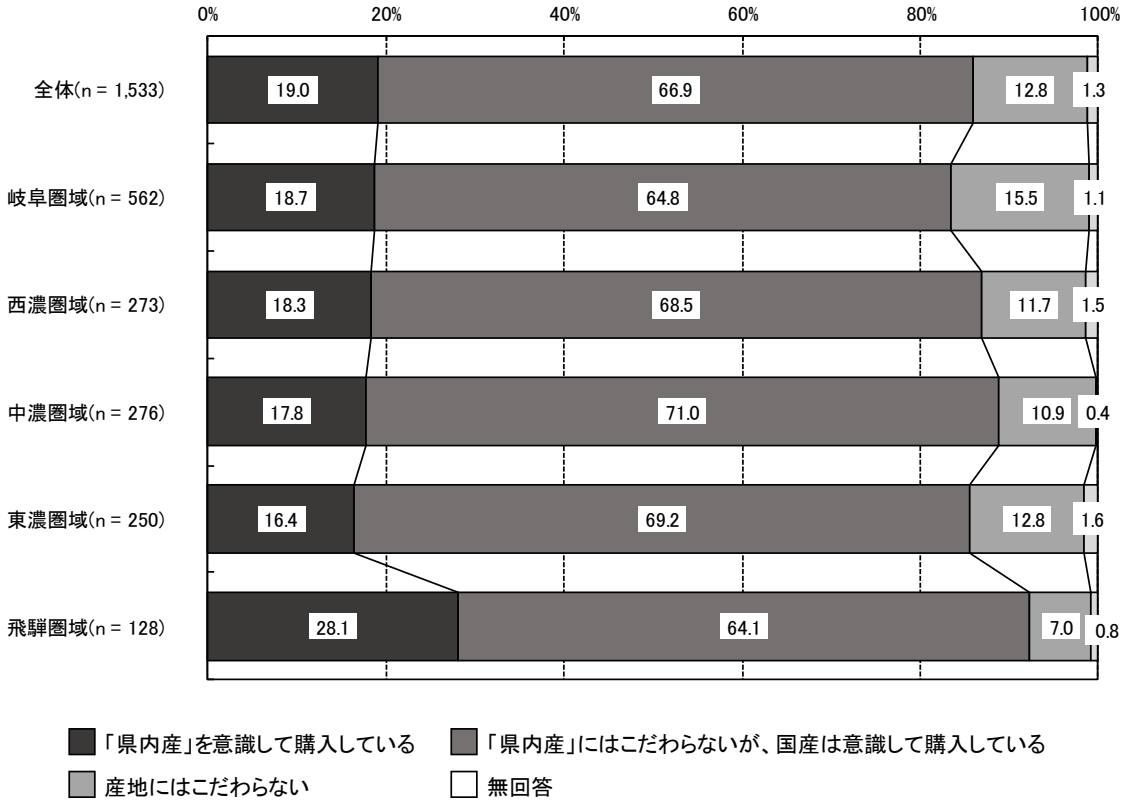
年代別（図 23-4）でみると、いずれの年代においても「「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、そのうち 60 歳代が 72.8%と最も高くなっている。「「県内産」を意識して購入している」について、70 歳以上が 24.8%と、その他の年代と比較して高くなっている。

図 23-4 【年代別】 農産物購入時の「県内産」の意識



居住圏域別（図 23-5）でみると、いずれの居住圏域においても「「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、そのうち中濃圏域が 71.0%と最も高くなっている。飛騨圏域が「「県内産」を意識して購入している」が 28.1%と、その他の圏域と比較して高くなっている。

図 23-5 【居住圏域別】 農産物購入時の「県内産」の意識

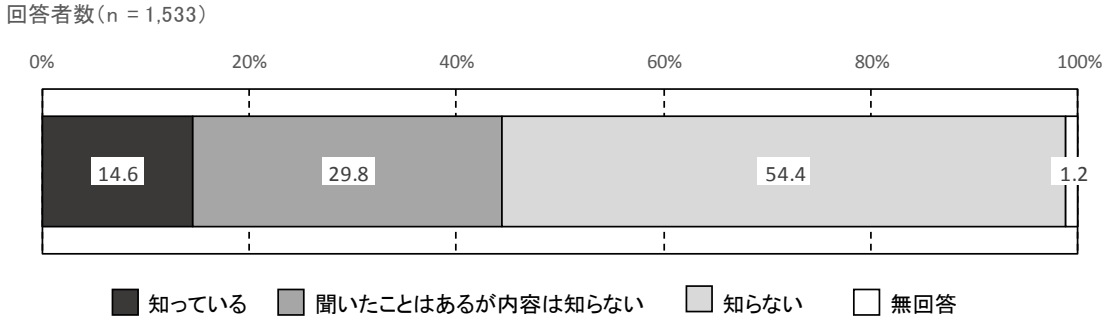


問２４　「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

問２４　岐阜県では、県民の皆様に「清流の国ぎふ森林・環境税」を負担していただき、豊かな森づくりや清流の保全に取り組んでいます。
　あなたは、この「清流の国ぎふ森林・環境税」を知っていますか。（１つだけ）

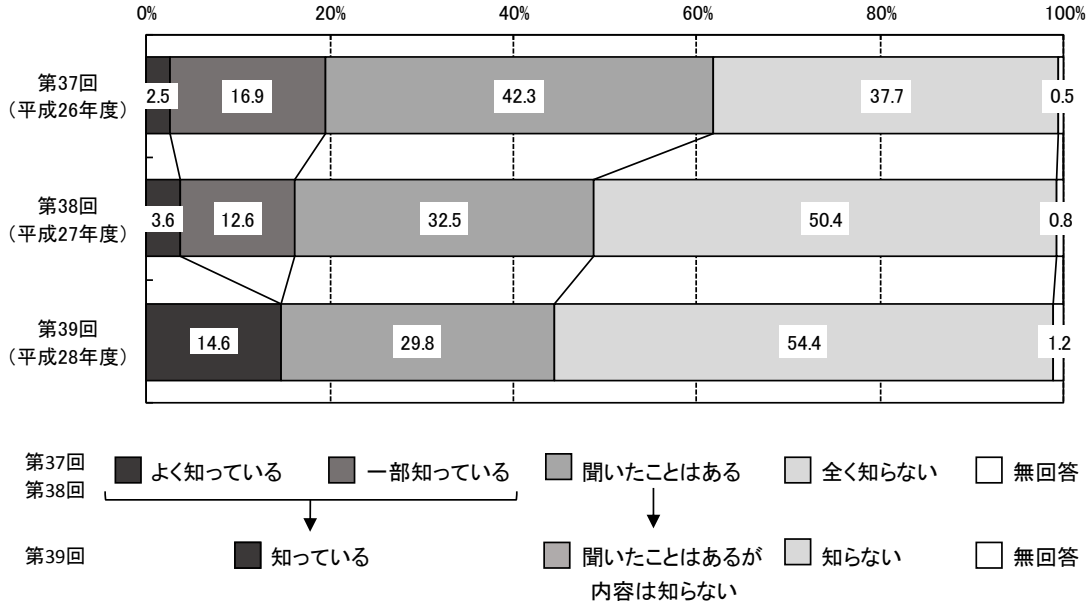
全体（図 24-1）でみると、「知らない」が 54.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」（29.8%）、「知っている」（14.6%）の順となっている。

図 24-1 「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



前々回・前回比較（図 24-2）でみると、「知っている（よく知っている＋一部知っている）」は前回から 1.6 ポイント減少している。

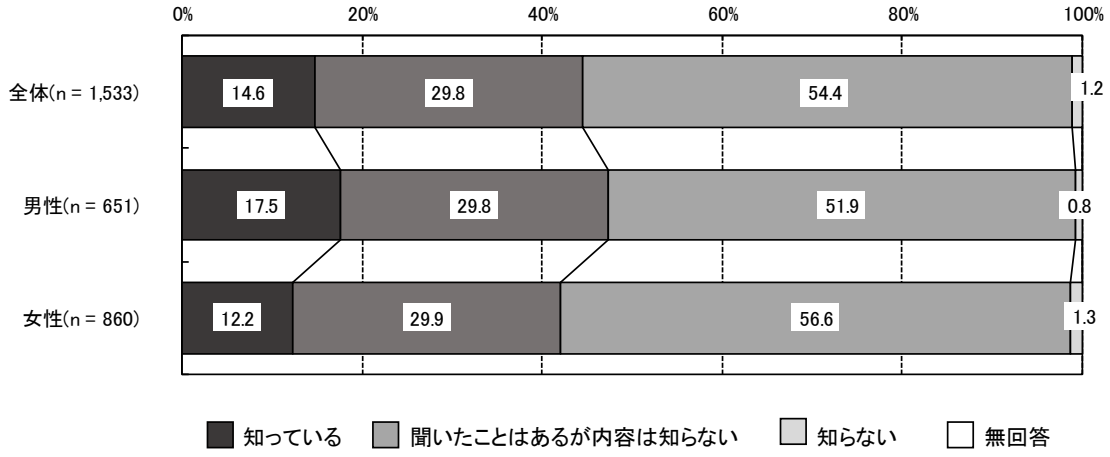
図 24-2 【前々回・前回比較】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



※ 第 39 回調査で選択肢を変えているため、第 37,38 回の「よく知っている」「一部知っている」を第 39 回の「知っている」、第 37,38 回の「聞いたことはある」を第 39 回の「聞いたことはあるが内容は知らない」と比較している。
※ 選択肢、「よく知っている」は、第 37 回調査では「内容についてよく知っている」
※ 選択肢、「一部知っている」は、第 37 回調査では「内容について少しは知っている」
※ 選択肢、「聞いたことはある」は、第 37 回調査では「聞いたことはあるが内容は全く知らない」

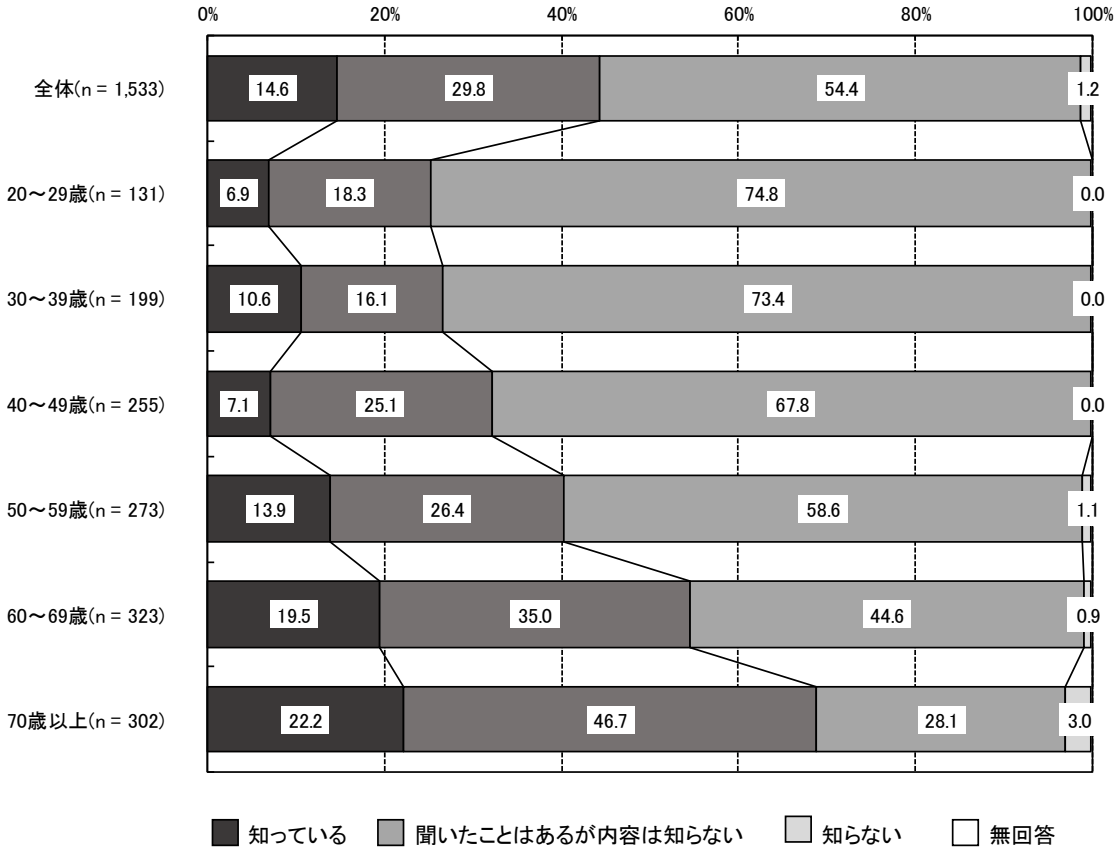
性別（図 24-3）でみると、「知っている」は男性 17.5%、女性 12.2%と、男性が女性より 5.3 ポイント高くなっている。

図 24-3 【性別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



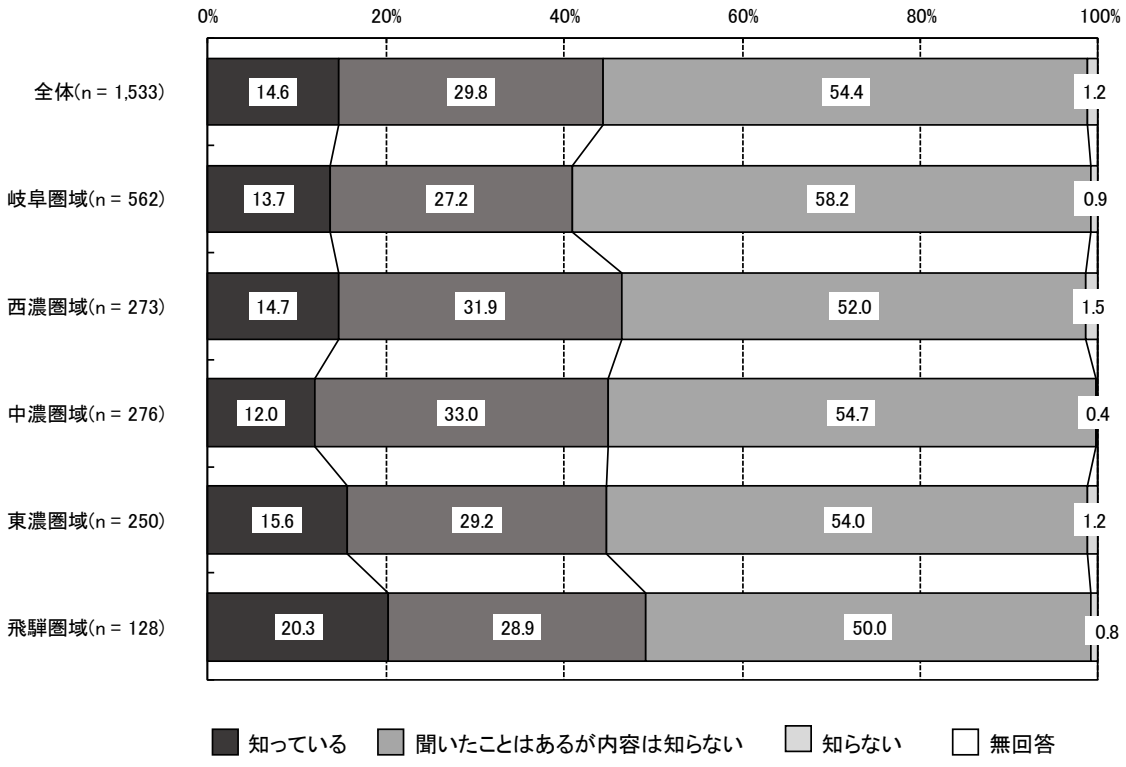
年代別（図 24-4）でみると、70 歳以上を除いた、いずれの年代においても「知らない」が最も高く、そのうち 20 歳代が 74.8%と最も高くなっている。70 歳以上では「聞いたことはあるが内容は知らない」が 46.7%と最も高くなっている。

図 24-4 【年代別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



居住圏域別（図 24-5）でみると、いずれの圏域でも「知らない」が最も高く、中でも「岐阜圏域」では 58.2%と最も高くなっている。「知っている」は、飛騨圏域が 20.3%と最も高くなっている。

図 24-5 【居住圏域別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

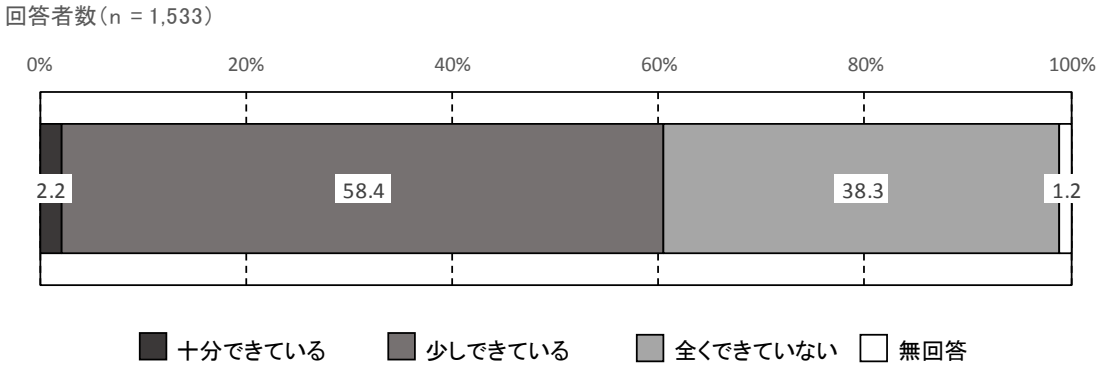


問２５　災害や緊急時の備え

問２５　あなたは、地震や台風などの災害や緊急時の備えができていますか。（１つだけ）

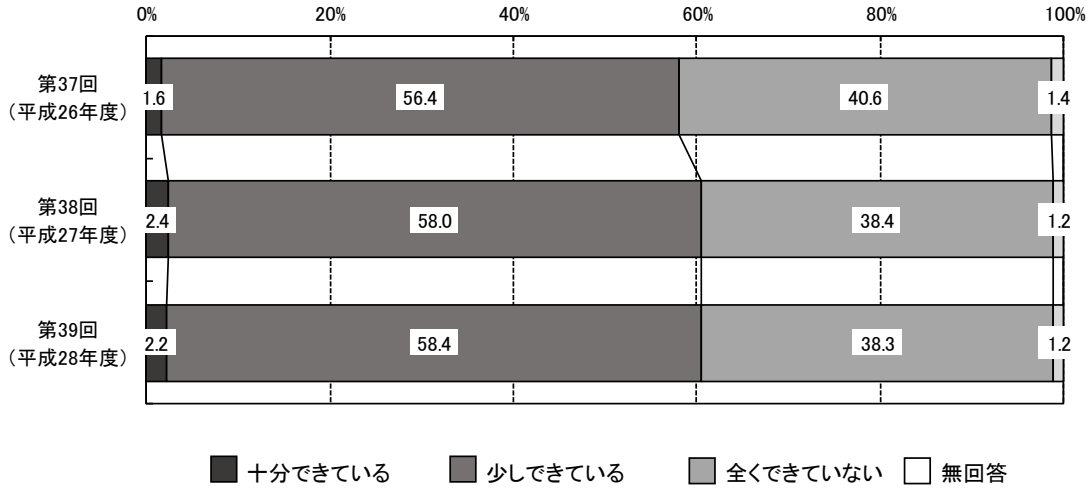
全体（図 25-1）でみると、「少しできている」が 58.4%で最も高くなっている。次いで「全くできていない」(38.3%)、「十分できている」(2.2%) となっている。

図 25-1　災害や緊急時の備え



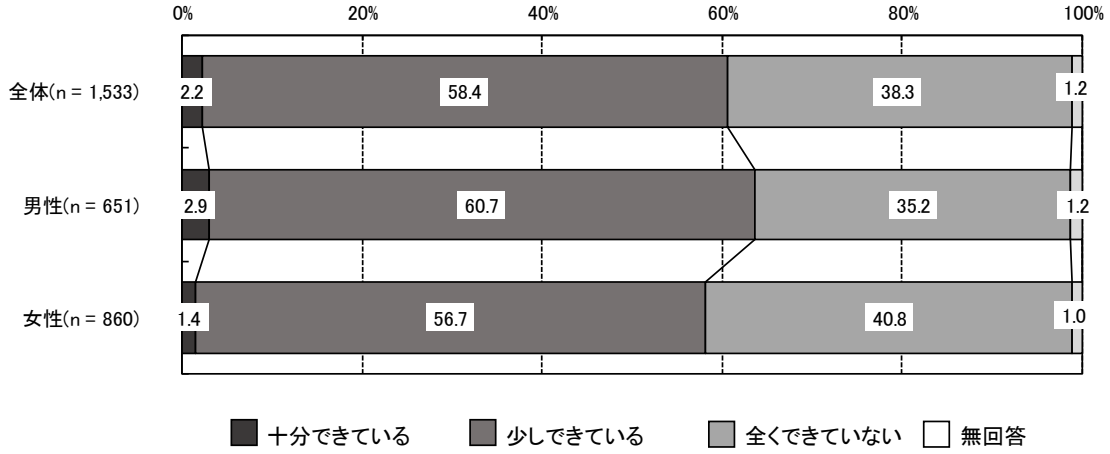
前々回・前回比較（図 25-2）でみると、いずれの選択肢においても前回と比較して大きな変化はない。

図 25-2【前々回･前回比較】 災害や緊急時の備え



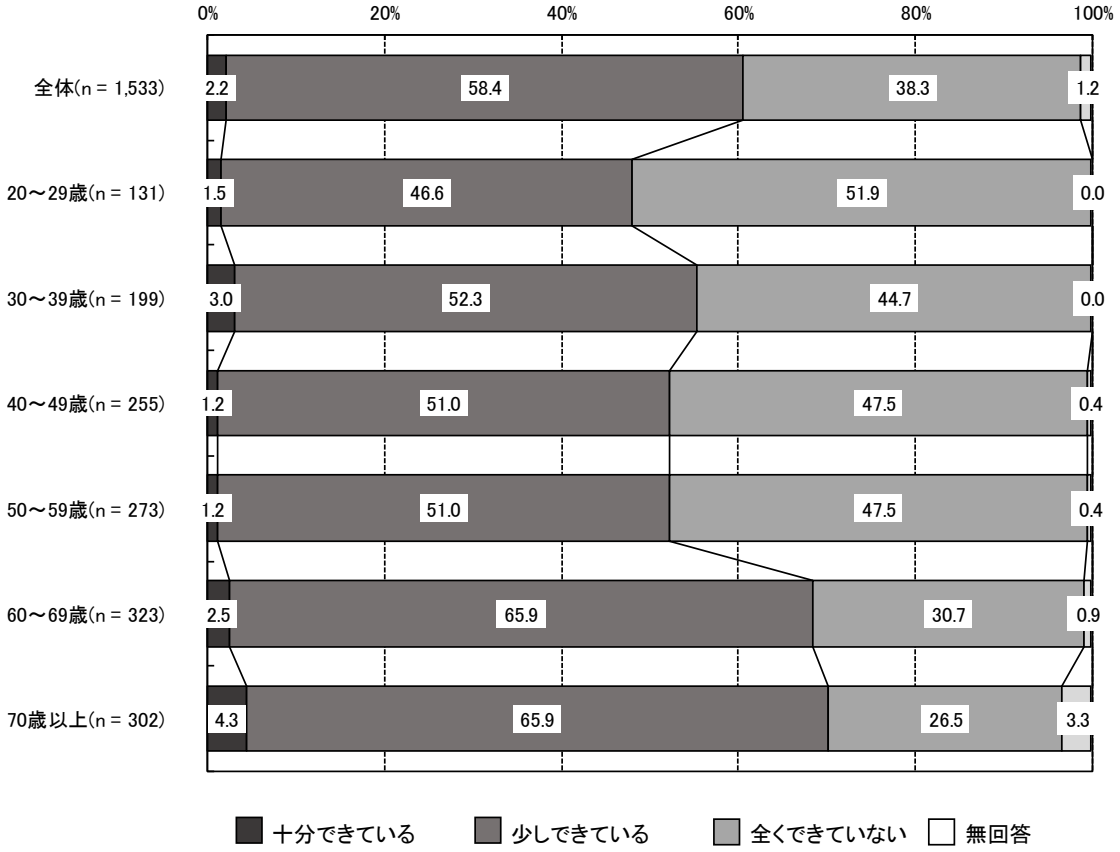
性別（図 25-3）でみると、男女ともに「少しできている」が最も高く、男性が 60.7%、女性が 56.7%となっている。

図 25-3【性別】災害や緊急時の備え



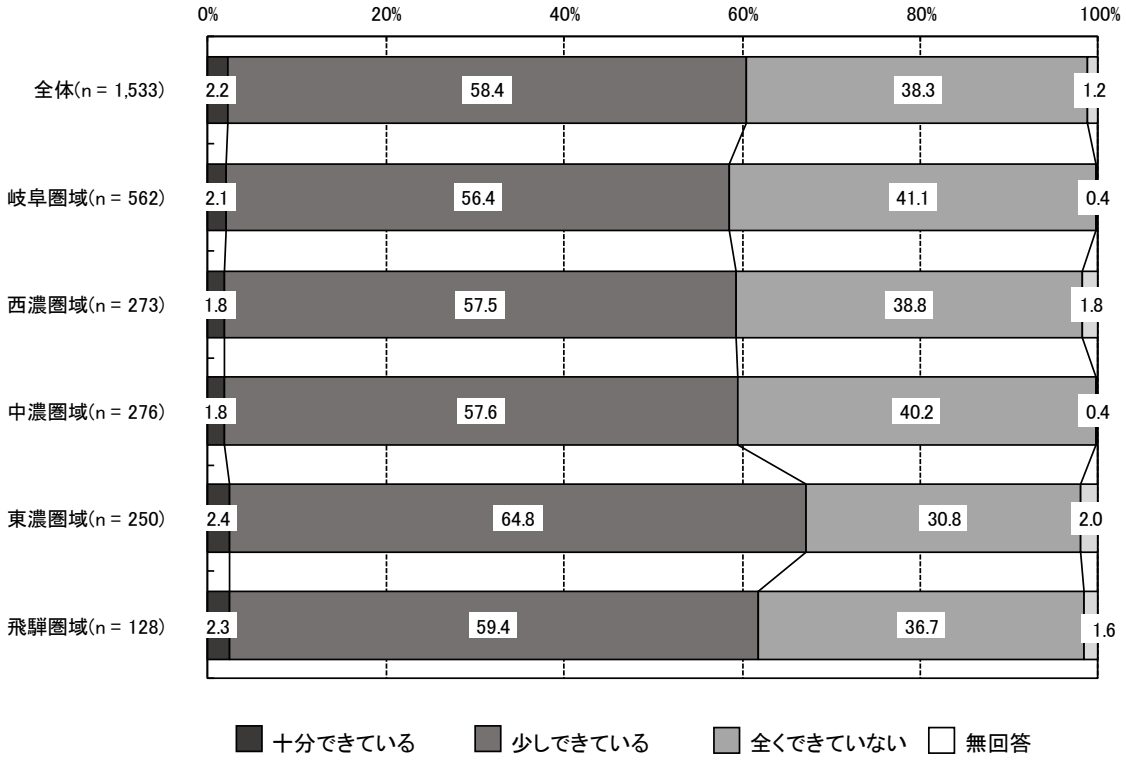
年代別（図 25-4）でみると、20 歳代を除くいずれの年代においても「少しできている」が最も高く、そのうち 60 歳代と 70 歳以上がともに 65.9%と最も高くなっている。20 歳代は「全くできていない」が 51.9%と最も高くなっている。

図 25-4【年代別】災害や緊急時の備え



居住圏域別（図 25-5）でみると、いずれの居住圏域においても「少しできている」が最も高く、そのうち東濃圏域が 64.8%と最も高くなっている。

図 25-5【居住圏域別】災害や緊急時の備え

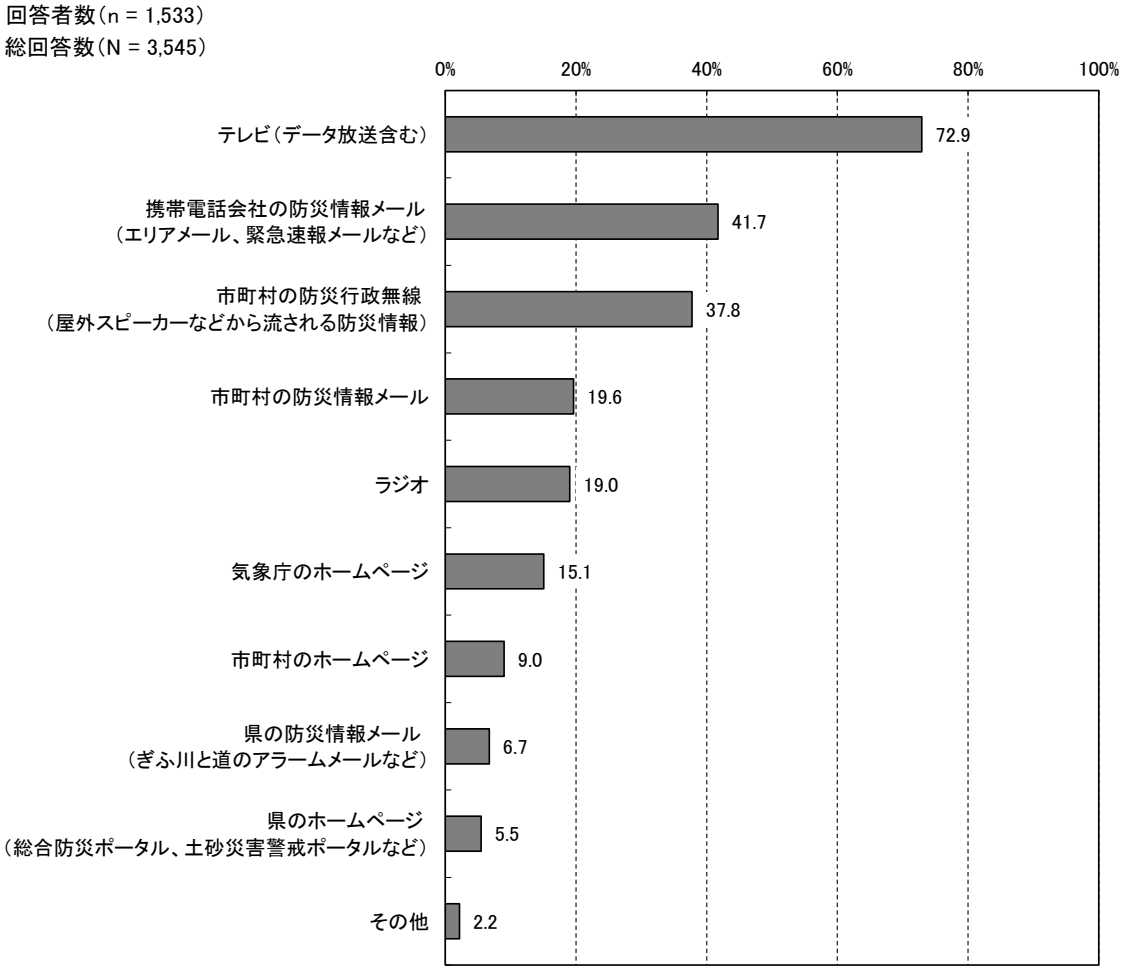


問２６　防災対策や避難行動の情報源

問２６　あなたは、台風や集中豪雨発生時に、防災対策や避難行動に役立つ情報を何によって知ることが多いですか。（いくつでも）

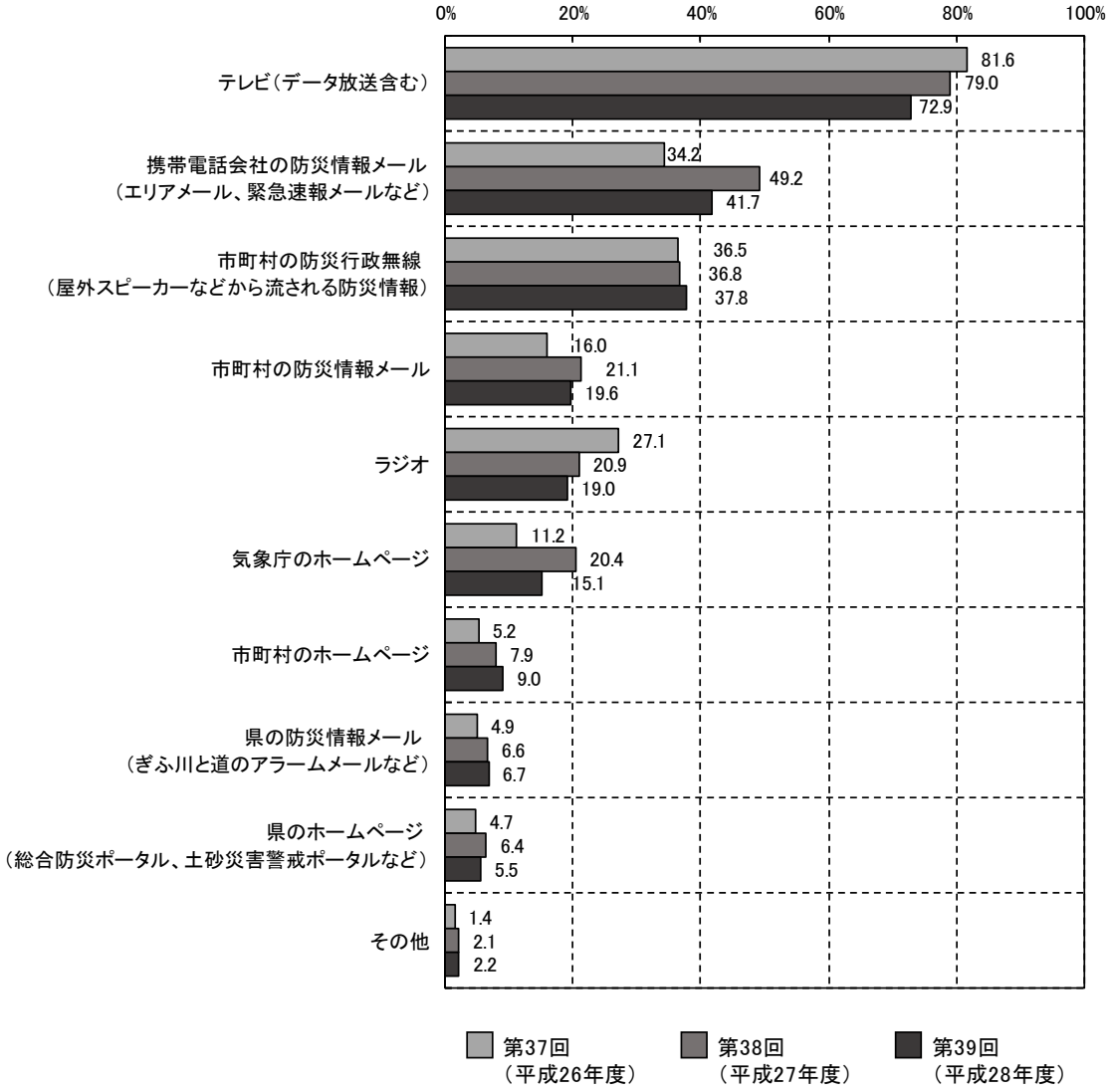
全体（図 26-1）でみると、「テレビ（データ放送含む）」が 72.9%と最も高く、次いで「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」（41.7%）、「市町村の防災行政無線（屋外スピーカーなどから流される防災情報）」（37.8%）の順となっている。

図 26-1　防災対策や避難行動の情報源



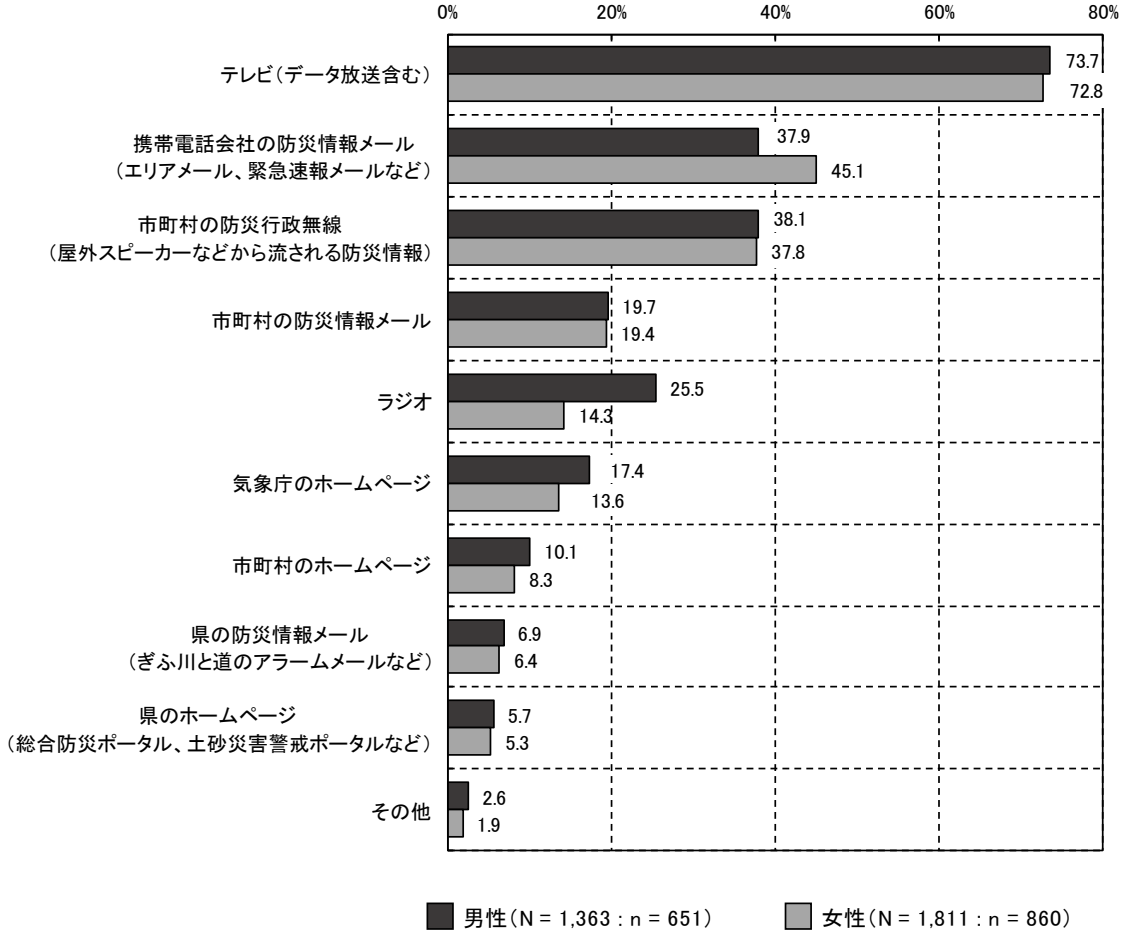
前々回・前回比較（図 26-2）でみると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送含む)」が最も高いが、前回と比較して 6.1 ポイント減少している。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど)」も、前回と比較して 7.5 ポイント減少している。

図 26-2 【前々回･前回比較】 防災対策や避難行動の情報源



性別（図 26-3）でみると、男女ともに「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、男性が 73.7%、女性が 72.8%となっている。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」では、女性が男性より 7.2 ポイント、「ラジオ」では、男性が女性より 11.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

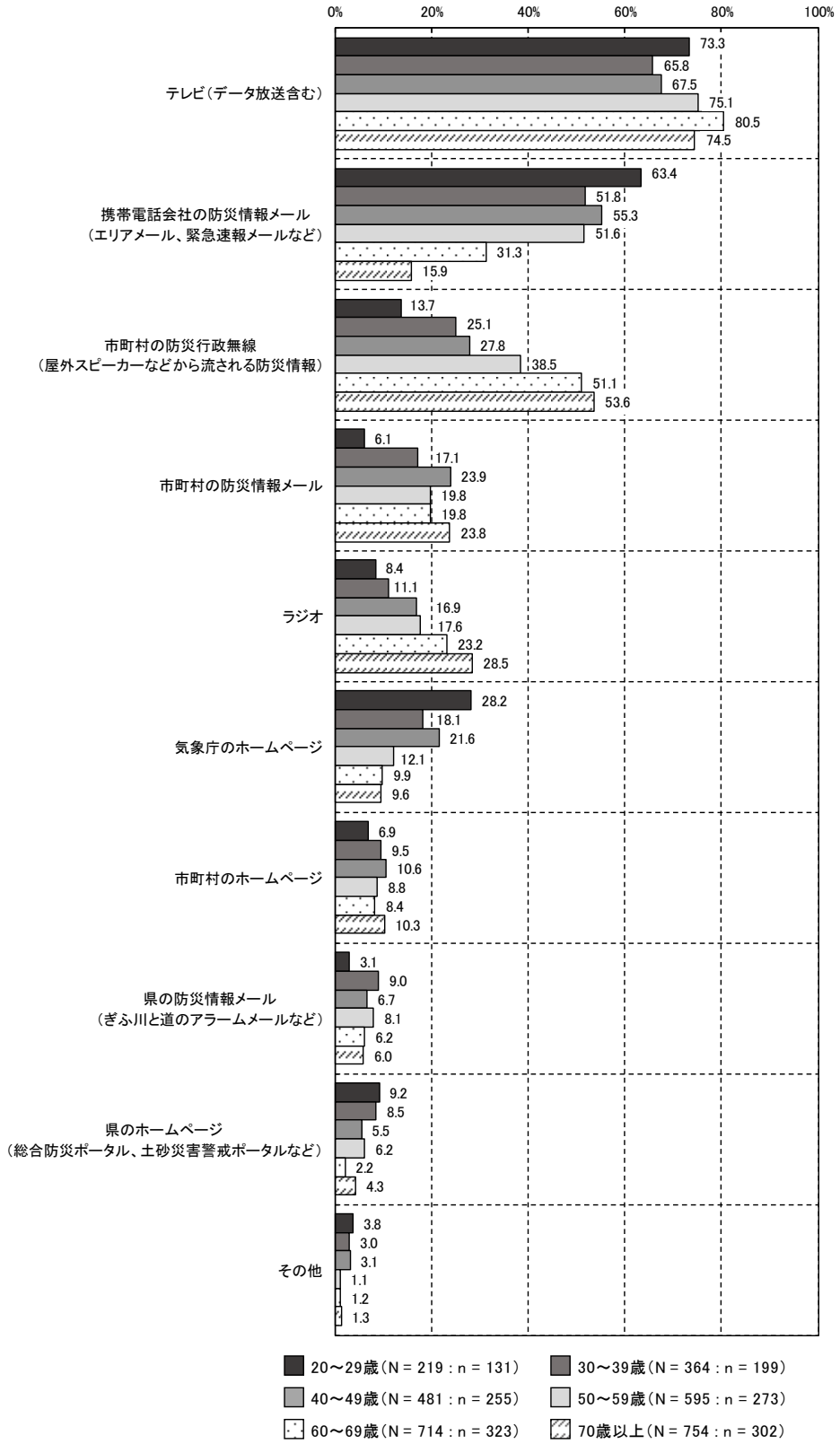
図 26-3【性別】防災対策や避難行動の情報源



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 26-4）でみると、いずれの年代においても「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、そのうち 60 歳代が 80.5%と最も高くなっている。

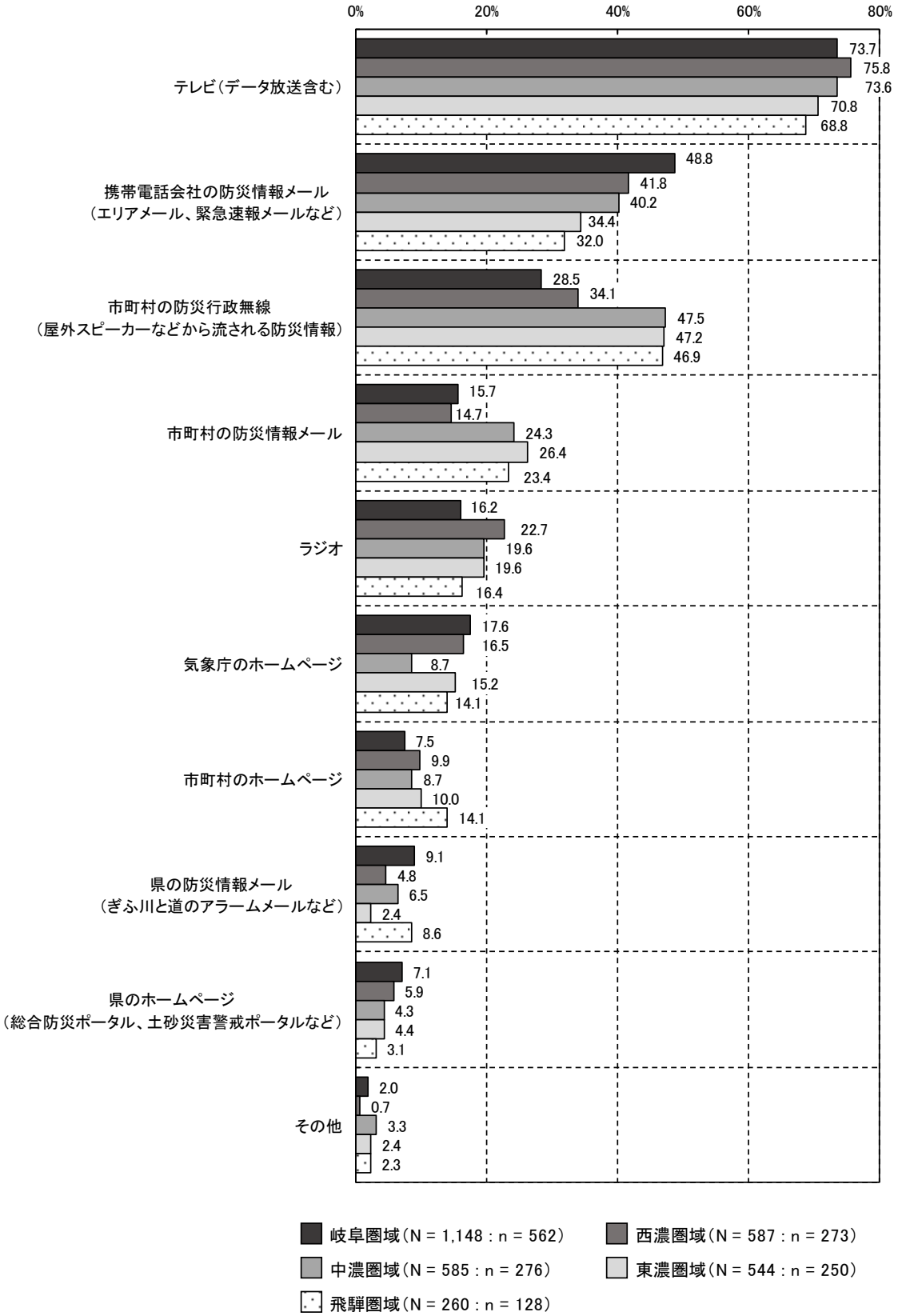
図 26-4【年代別】防災対策や避難行動の情報源



※ N＝総回答数 n＝回答者数

居住圏域別（図 26-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送含む)」が最も高く、そのうち西濃圏域が 75.8%と最も高くなっている。

図 26-5【居住圏域別】防災対策や避難行動の情報源



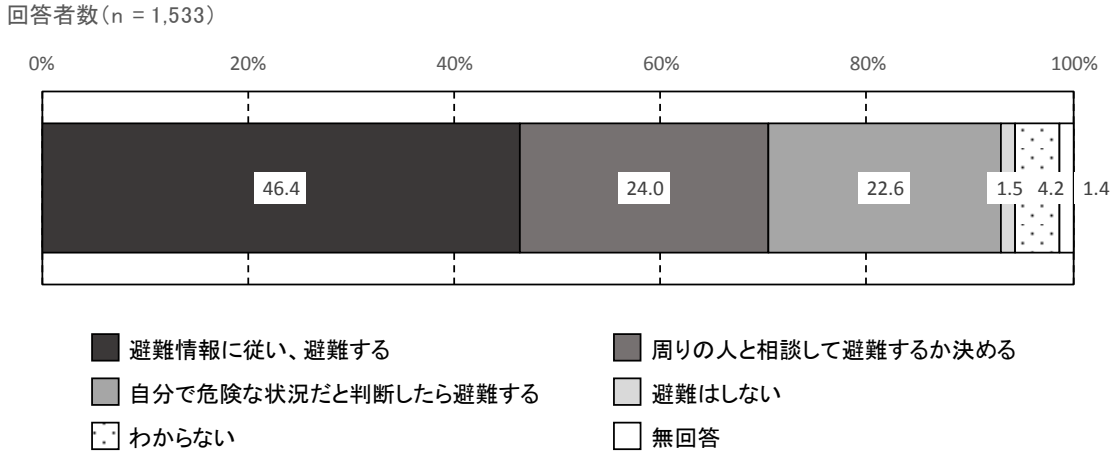
※ N＝総回答数 n＝回答者数

問２７　避難情報に対する行動について

問２７　あなたは、台風や集中豪雨発生時に市町村から「避難準備情報」や「避難勧告」などの避難情報が発令された場合、勧告等に従って行動しますか。（１つだけ）

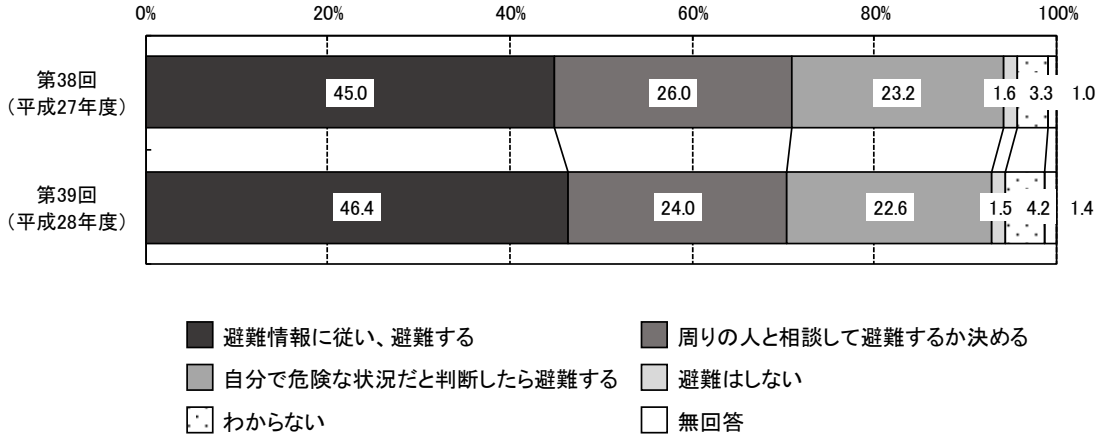
全体（図 27-1）でみると、「避難情報に従い、避難する」が 46.4%と最も高く、次いで「周りの人と相談して避難するか決める」(24.0%)、「自分で危険な状況だと判断したら避難する」(22.6%) の順となっている。

図 27-1　避難情報に対する行動について



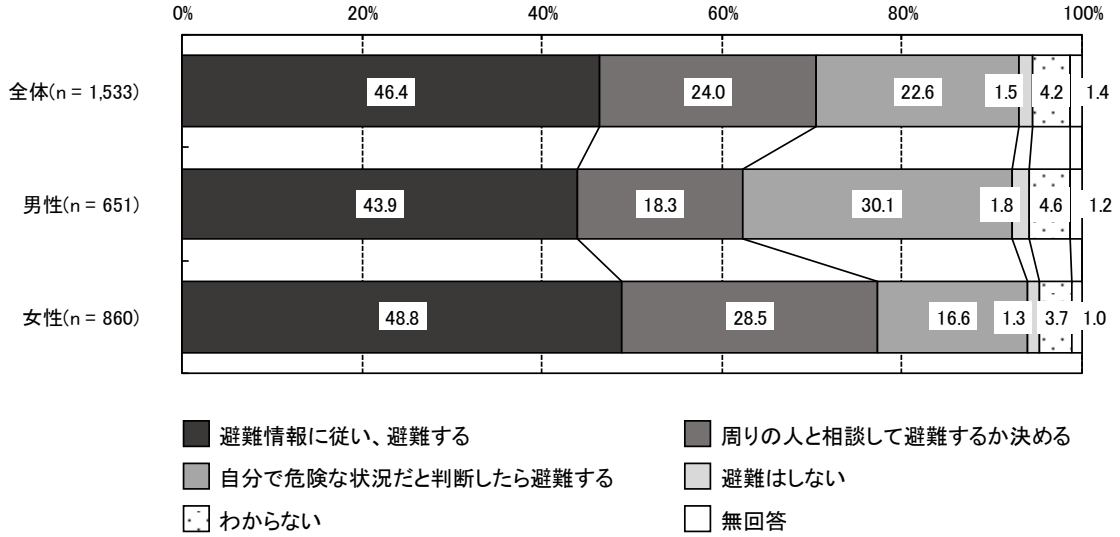
前回比較（図 27-2）でみると、前回と同様に「避難情報に従い、避難する」が最も高く、1.4 ポイント増加している。

図 27-2 【前回比較】 避難情報に対する行動について



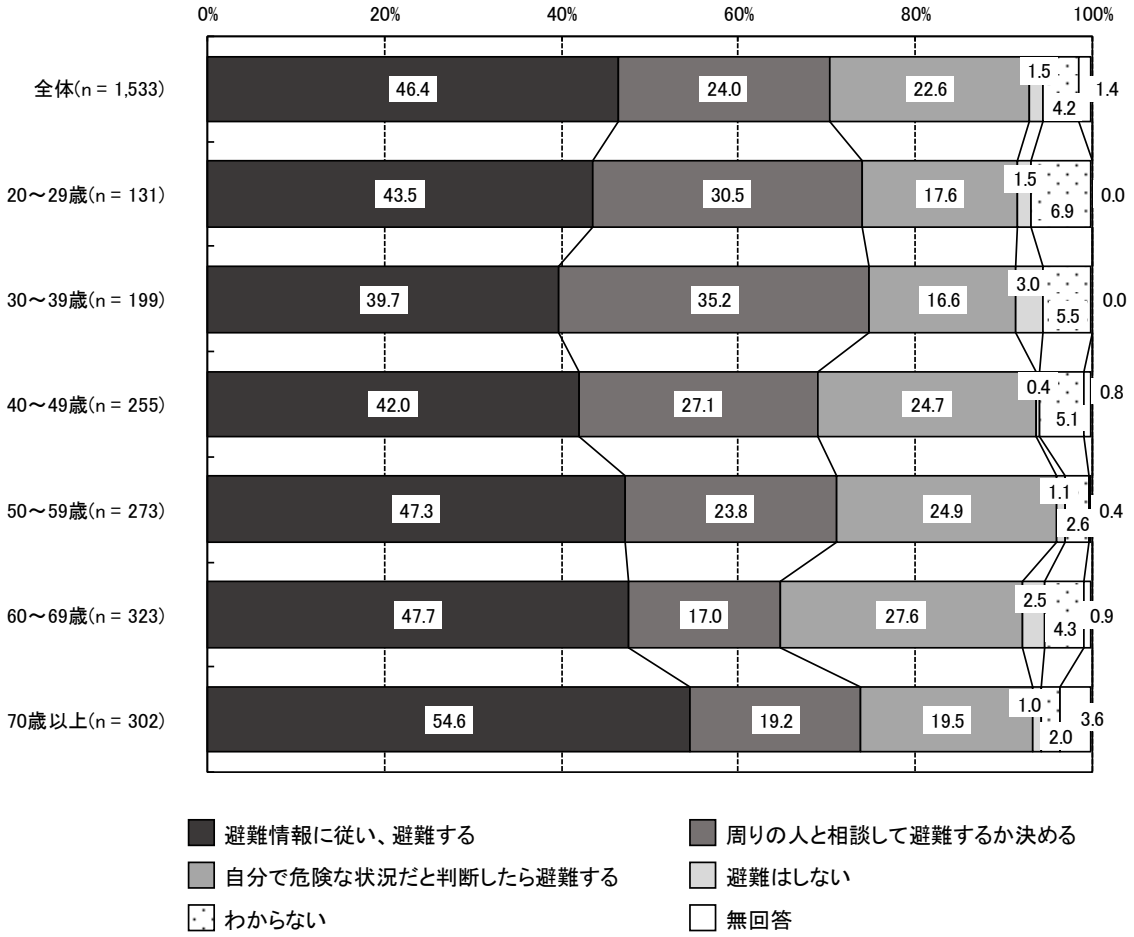
性別（図 27-3）でみると、男女ともに「避難情報に従い、避難する」が最も高く、男性が 43.9%、女性が 48.8%となっている。「周りの人と相談して避難するか決める」では、女性が男性より 10.2 ポイント、「自分で危険な状況だと判断したら避難する」では、男性が女性より 13.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

図 27-3 【性別】 避難情報に対する行動について



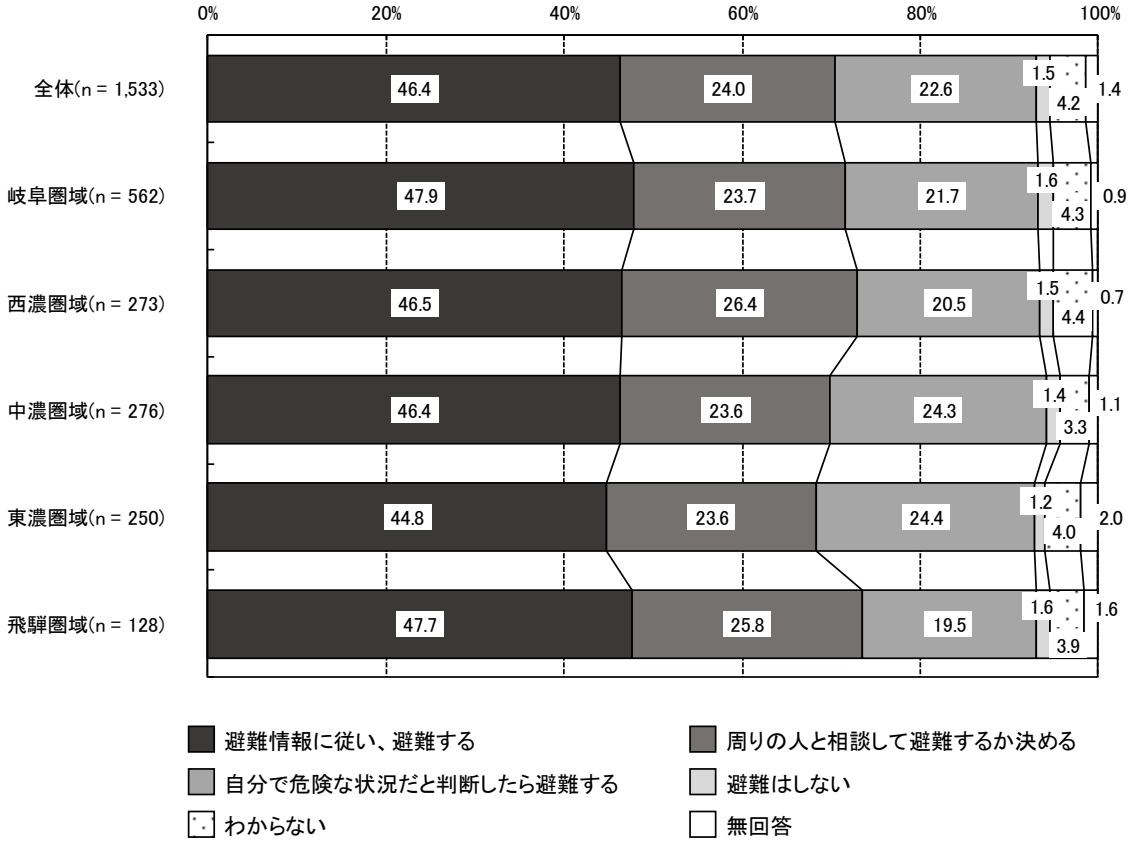
年代別（図 27-4）でみると、いずれの年代においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 54.6%と最も高くなっている。

図 27-4 【年代別】 避難情報に対する行動について



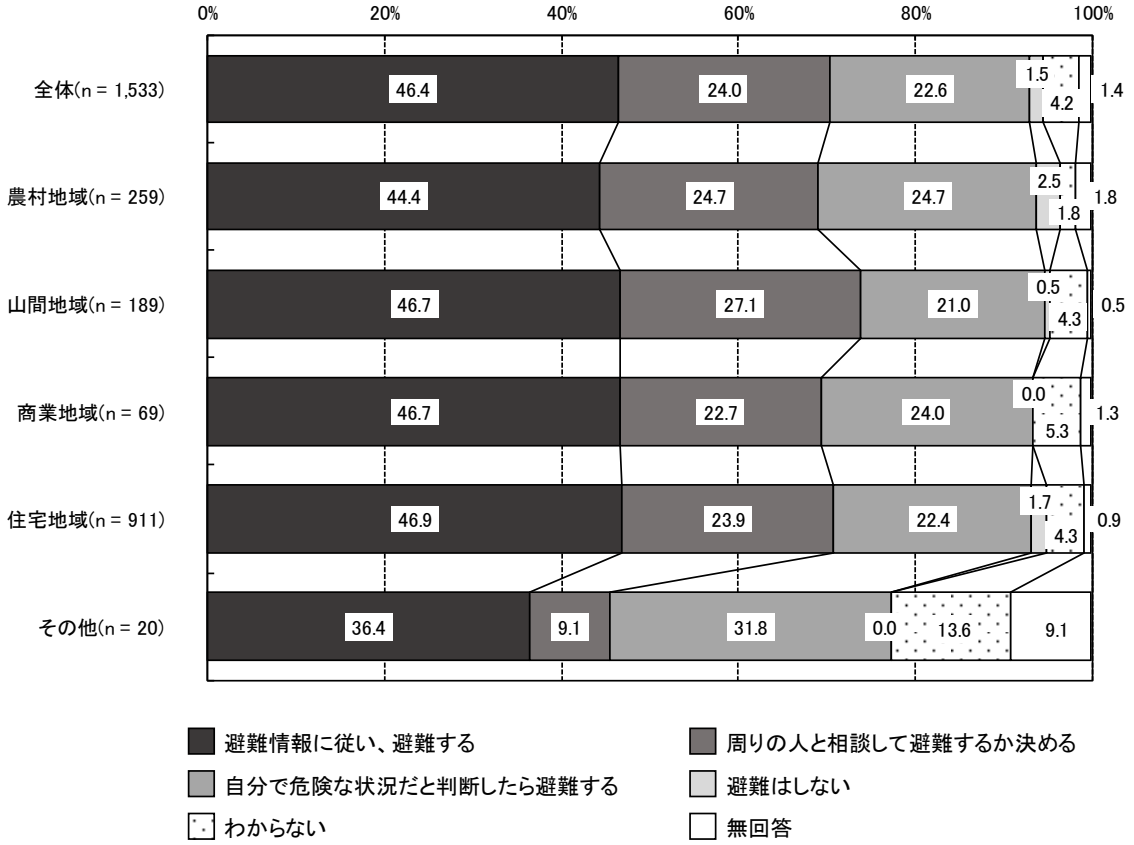
居住圏域別（図 27-5）でみると、いずれの居住圏域においても「避難情報に従い、避難する」が最も高くなっている。

図 27-5 【居住圏域別】 避難情報に対する行動について



居住環境別（図 27-6）でみると、いずれの居住環境においても「避難情報に従い、避難する」が最も高くなっている。

図 27-6 【居住環境別】 避難情報に対する行動について

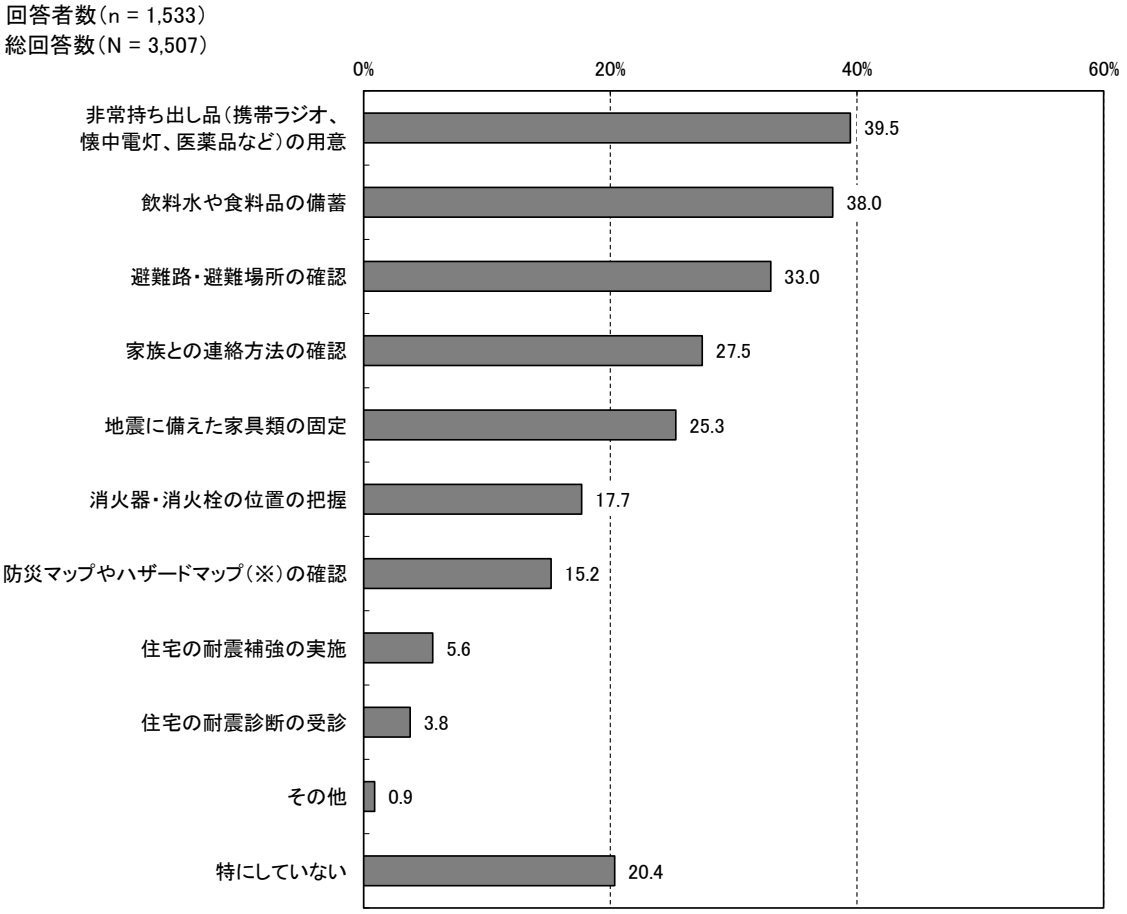


問２８　災害や緊急時の現在できている備え

問２８　あなたは、地震や台風などの災害や緊急時に備え、現在どのようなことをしていますか。（いくつでも）

全体（図 28-1）でみると、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が 39.5％と最も高く、次いで「飲料水や食料品の備蓄」（38.0％）、「避難路・避難場所の確認」（33.0％）の順となっている。

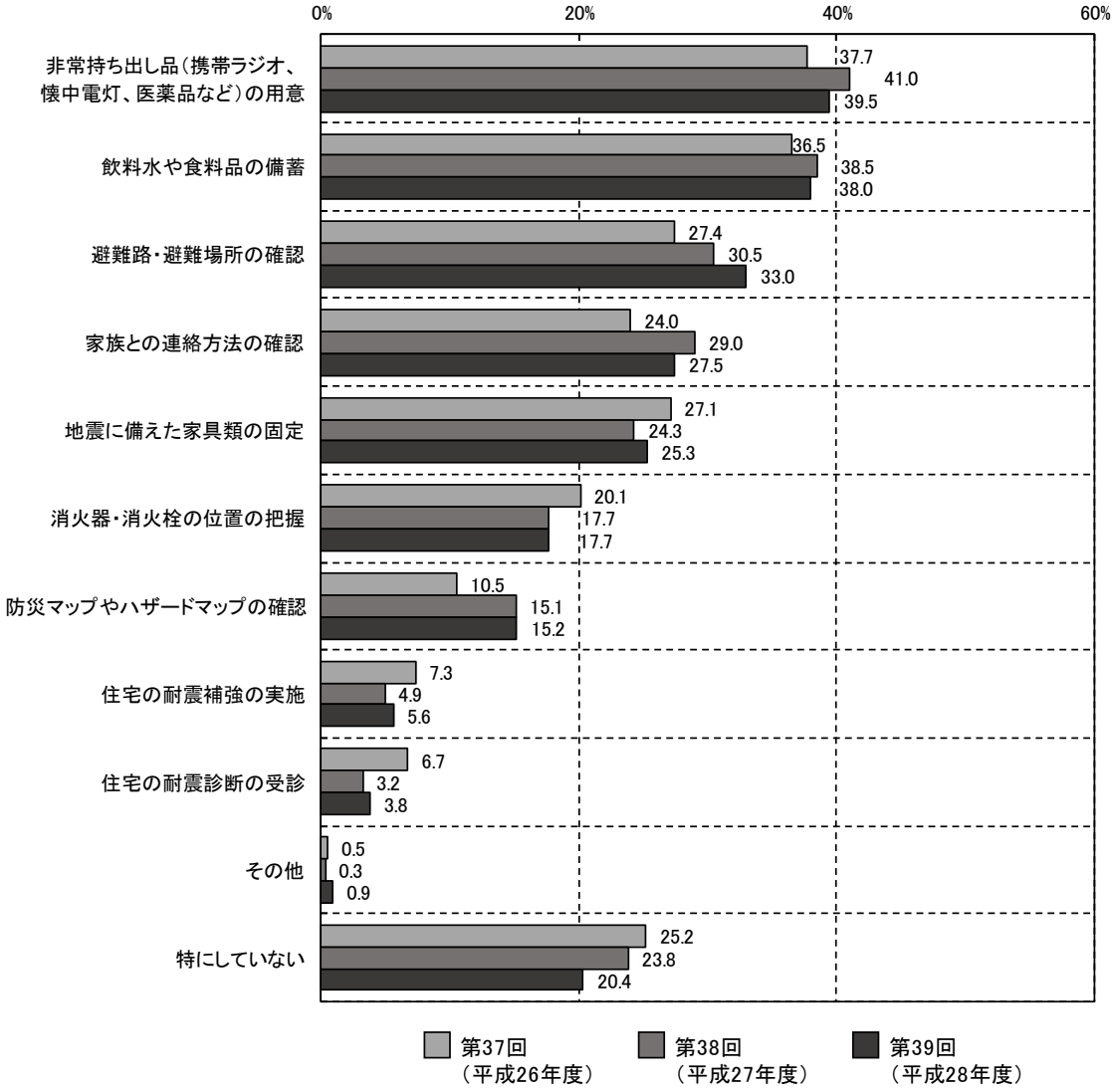
図 28-1　災害や緊急時の現在できている備え



※ ハザードマップ：自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図

前々回・前回比較（図 28-2）でみると、前々回、前回と同様に「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高くなっているが、前回と比べて 1.5 ポイント減少している。「避難路・避難場所の確認」では前回と比べて 2.5 ポイント増加している。

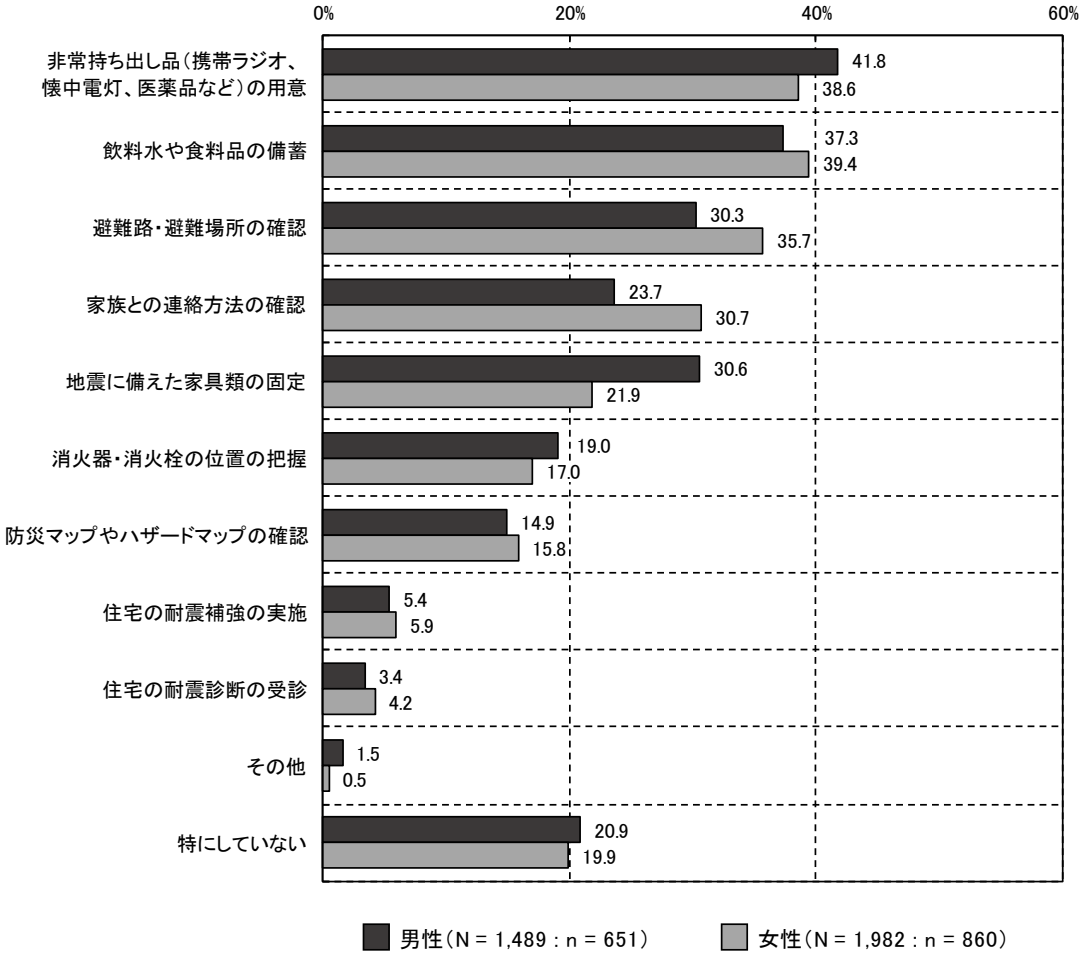
図 28-2 【前々回・前回比較】 災害や緊急時の現在できている備え



※ 選択肢、「地震に備えた家具類の固定」は、第 37 回調査では「家具類の固定」
※ 選択肢、「住宅の耐震診断の受診」は、第 37 回調査では「住宅の耐震チェック」
※ 選択肢、「住宅の耐震補強の実施」は、第 37 回調査では「住宅の耐震強化」

性別（図 28-3）でみると、男女ともに「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高く、男性が 41.8%、女性が 38.6%となっている。差が大きいのは「家族との連絡方法の確認」で女性が男性より 7.0 ポイント、「地震に備えた家具類の固定」で男性が女性より 8.7 ポイント、それぞれ高くなっている。

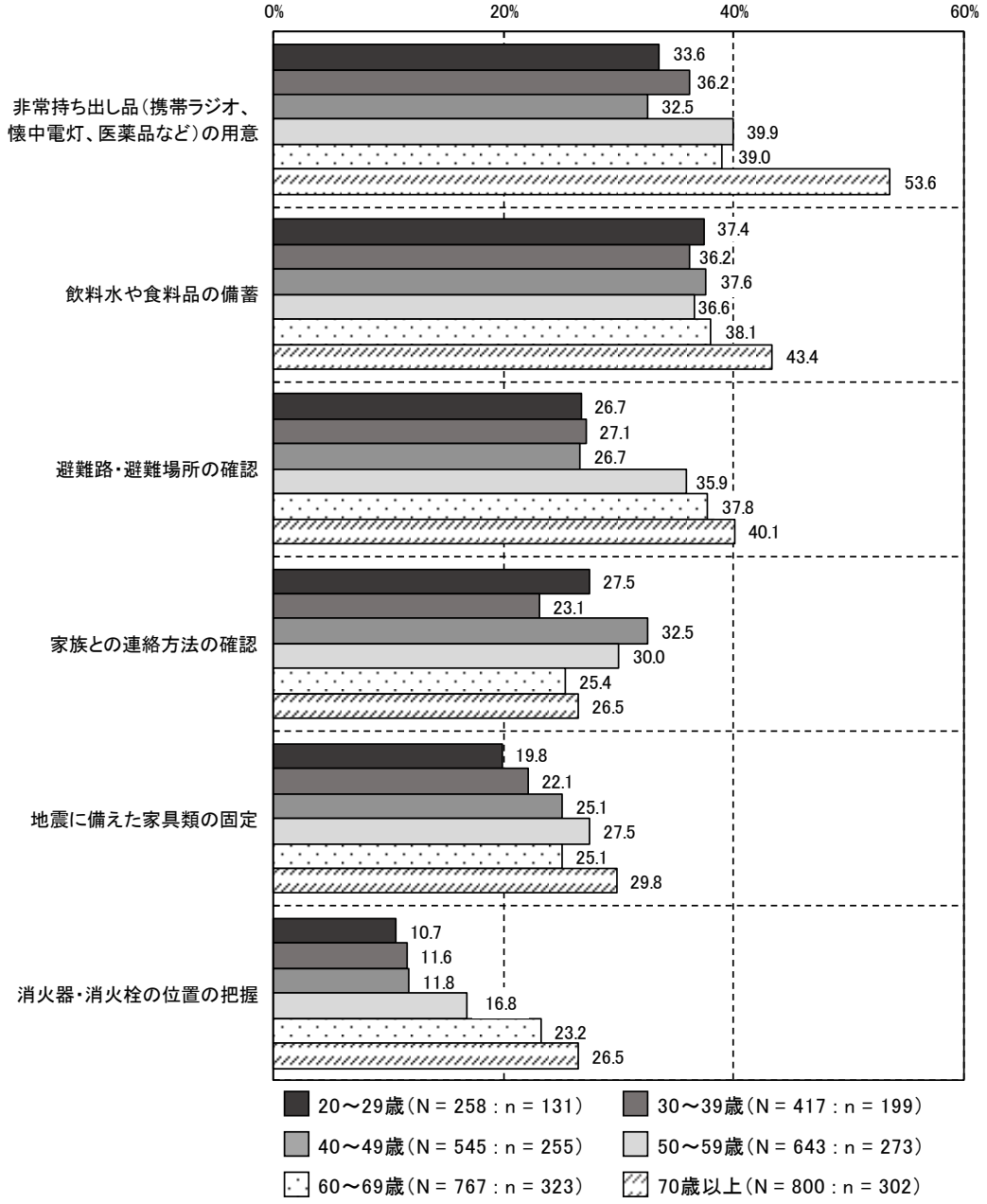
図 28-3 【性別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N＝総回答数 n＝回答者数

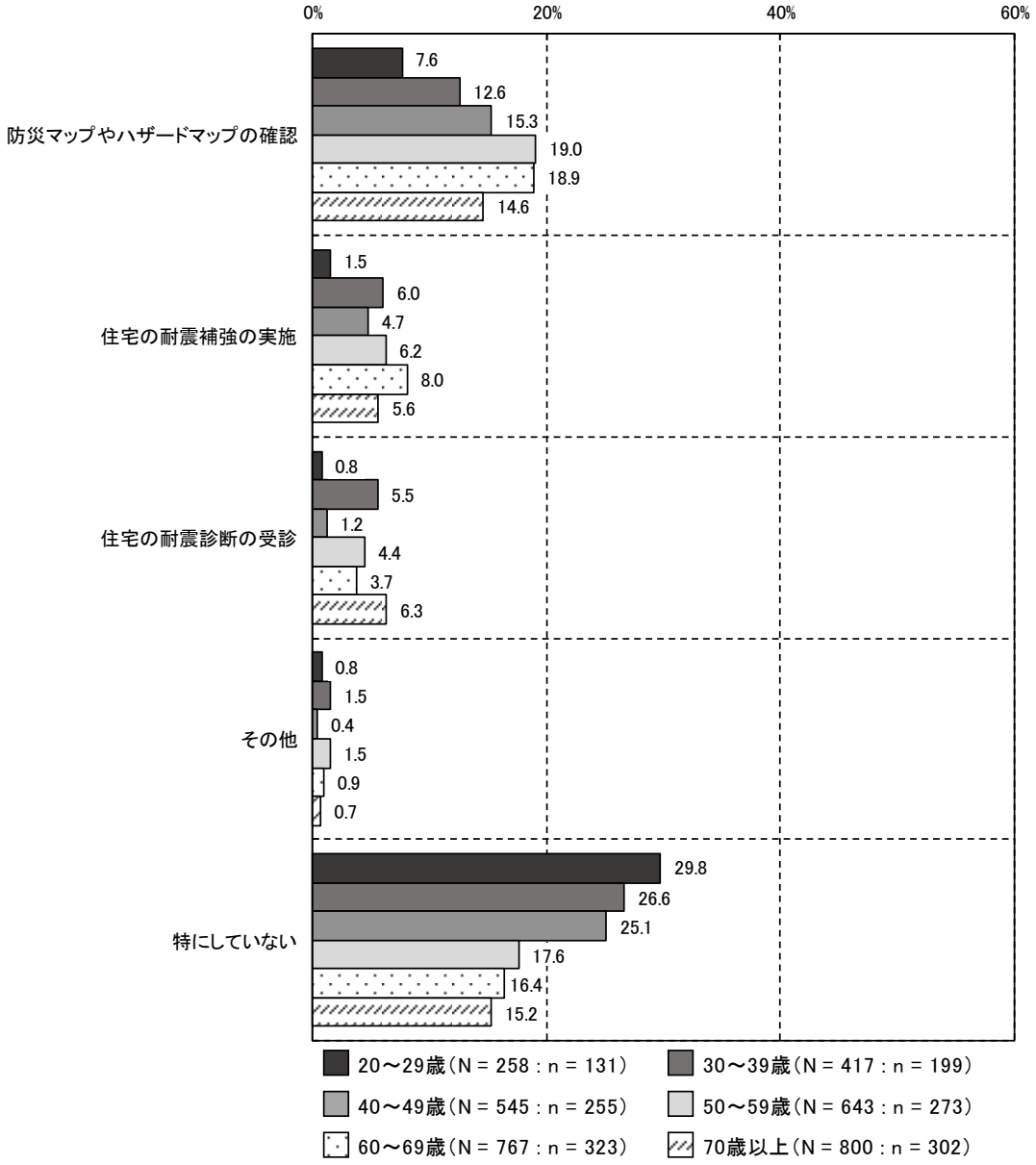
年代別（図 28-4）でみると、30 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 53.6%と最も高くなっている。20 歳代、40 歳代では「飲料水や食料品の備蓄」がそれぞれ 37.4%、37.6%と最も高くなっている。30 歳代では「飲料水や食料品の備蓄」と「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が 36.2%と最も高くなっている。

図 28-4 【年代別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N＝総回答数 n＝回答者数

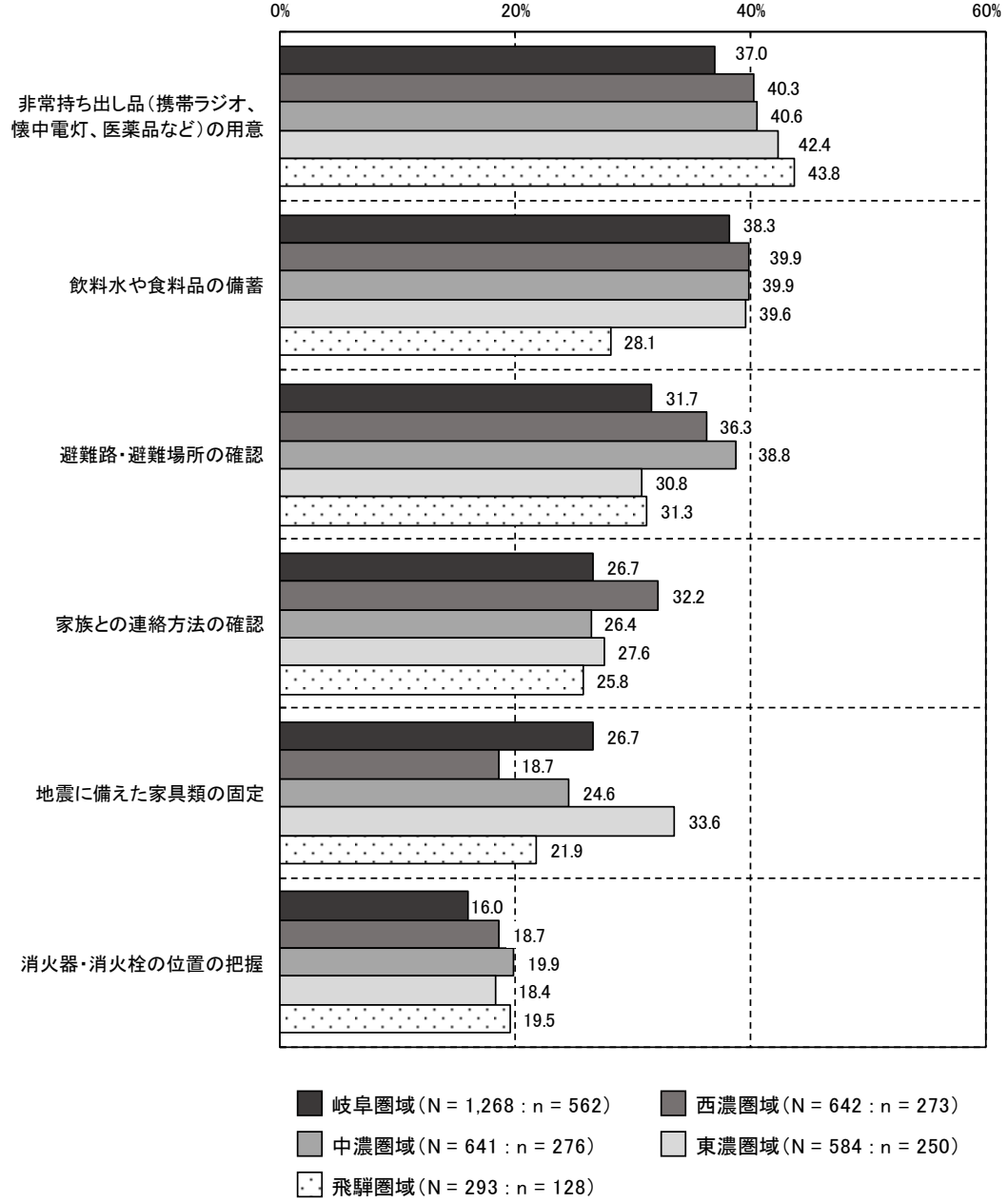
図 28-4 【年代別】 災害や緊急時の現在できている備え （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

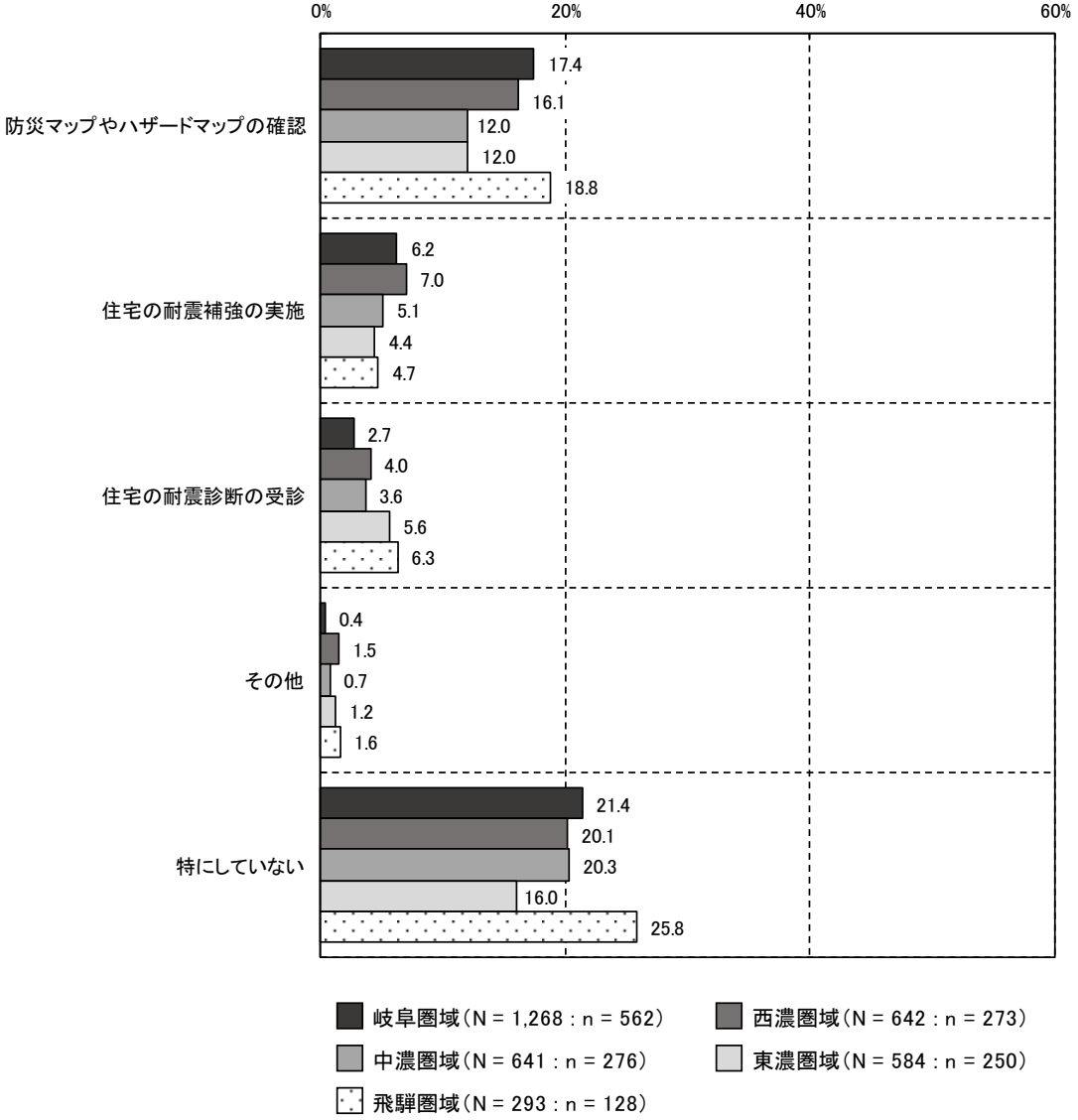
居住圏域別（図 28-5）でみると、岐阜圏域を除く、いずれの圏域においても「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高く、そのうち飛騨圏域が43.8%と最も高くなっている。岐阜圏域では「飲料水や食料品の備蓄」が 38.3%と最も高くなっている。

図 28-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 28-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え （続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数